
プリキュアオールスターズ 野球で真剣勝負！！ プリキュアドリームカップ

ピッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ 野球で真剣勝負！！ プリキュアドリームカップ

【Nコード】

N6226T

【作者名】

ピッキー

【あらすじ】

プリズムフラワー事件から数週間後。プリキュア達21人が作者に

より集められた。その内容は作者を含めた22人でチームに分かれての野球勝負。彼女たちは戸惑いながらも野球をすることになり練習を開始する。練習を重ねる一方で彼女たちと作者の想い、彼女たちの苦悩、

物語が進むにつれて明かされる作者の過去、彼女たちが見せる真剣

勝負の数々。

他の人気ゲームキャラもゲスト参戦。笑いあり、涙あり？のおもしろ小説お見逃しなく。

はじめに

注意事項

今までテレビで登場した21人だと均等にならないので、作者本人も加えることにしました。オリジナルキャラも自分では出せないかもしれません。

また、他のゲームのキャラクターや他のアニメの場面に出たシーンがあると思いますが、できるだけオリジナルに話の内容をまとめるのでご理解お願いします。

初めての投稿で未熟な部分もあると思います。また、更新が遅れるかもしれませんが応援よろしくお願いします。

次回から本格的に開始します。

プロローグ（前書き）

これはまだ本編ではありません。この小説を書く経緯及び、作者の意気込みです。

プロローグ

作者「よし、プリキュアのみんな集まりましたね。」

響「なんですか？急に呼び出して」作者ピッキーによってプリキュア21人が集められた。

ピッキー「今回新しく参加するに至ってプリキュア全員で野球をしたらこういう小説ができるのか

やってみたかったんですよ。」突然の提案に彼女たちは、

なぎさ「でも、なんで野球なの？」

かれん「今までワーグナーさんやリリカルショーバイさんの逃走中でもよかったんじゃないかしら？」

ピッキー「確かにそれも考えようと思ったけど、逃走中のアイデアは自分にとってはレベルが高くて

書けないと思ったし、野球小説ならおもしろい話ができると思ったし、新ジャンルを開拓できるかなと思って決めたんだよ。」

こまち「でも、新しい小説を作ろうということはいいことですね。」

つばみ「そうですね。努力は人を裏切らないです。」

ピッキー「皆さん、すいませんね。自分が書くこうとしてる小説に出演してもらってかたじけないです。」頭を下げる作者。

舞「いいですよ。そんなに気にしないでください。」

くるみ「そうよ。困っている時はお互い様でしよいい作品を書いて下さいよ。」

一同作者を励ます。

ピッキー「でも途中には少し笑いをいれたい所もあるんだよ。」

美希「というと？」

ピッキー「誰かボケてくれたりつつこんでくれる人がいてくれると助かるんだよ。」

のぞみ「笑いをとったりしていけばいいんですか？」

りん「じゃあ、突っ込み役は私かな？」

ゆり「私もツンデレキャラがはまってるから突っ込み役には向いてるわね。」一同頷く。

ピッキー「でもできれば、自分の希望としてはつばみさん、祈里さん、舞さんはボケてくれたらいいなとおもってるんだよ。」

つばみ 祈里 舞「どうしてです？」

ピッキー「アニメとギャップがあって親近感が出るかと思って。ほのか「それもいいですね。」

舞「えゝほのかさん？」

祈里「私、ボケたり笑いを取った事ほとんどないですよ。」（汗）つばみ「わたしもです。」（泣）

ピッキー「まあ絶対やってほしいという訳ではないからね。」

ひかり「つまり、自由でいいんですか？」

ピッキー「そうだね。そこはまかせますよ。プリキュアのみんなだから大丈夫さ。」

奏「でも、今回悪者が出現しないんですよね？」

咲「えー？そうなんですか。」

ピッキー「今のところ悪者はあまりあまり出さない方向で考えているけど変身する所は作る予定で

いるよ。でも全員変身するシーンはないかもしれないけど」

一同「ええー??」

ピッキー「シャラップ」（怒）

えりか「なんで英語でいったんだろ？」

いつき「自分でもボケてみたくなったのかな？」

かれん「突っ込んでほしかったのかしら？」

りん「でも結果的には滑ったんじゃないかな？」

うらら「そうですね。あんまりウケなかったですね。」「うららの一言で作者は失神した。

響「もおー、しっかりしてくださいよ。私も積極的に笑いを取っ

ていこうと思うので起きてくださいよ。」

ゆり「まだ話の続きよ。話が進まないわ。」

つぼみとほのかに支えられて作者復活。気絶の件はいらなかったかな？

奏「あとほかのゲームからゲストがでるんですよね？」

のぞみ「誰が出るんですか？たのしみだなー。」

ピッキー「でもまだ誰が出るかは明かせないんだ。なにしろ書き始めだからさ。任天堂キャラがメインになるかな？」

つぼみ「わー。共演がたのしみです。」

咲「でも味方とは限らないよね？」

せつな「そうかもしれないわね。敵で強い人がゲストで来ることもありえるわね。」

ラブ「うわー。どうしよう、勝てないかもー？」

ピッキー「大丈夫。話の内容は決めているし、みんなならんとかなるよ。伝説の戦士プリキュアでしょ？」

なぎさ「そうだね。みんなで、協力しあえば絶対乗り越えられるよ。」

なぎさの言葉に他のみんなも頷く。最年長のゆりさんも頷く。

ピッキー「じゃあ、みなさん頼みますよ。自分も頑張るんで完結目指してガンバローー！！」

一同「オー！！」

ピッキー「ふうー。ここまで打ち込むのリアルに疲れた。」

次回、プリキュアのメインキャラクターと作者の紹介、守備位置、野球を行うプリキュアと

作者の運動神経等を独自にまとめた紹介文です。お楽しみに。

ブログ（後書き）

ブログどうだったでしょうか？最初の割には長すぎた気が自分でもしましたが初心者なのでスイマセン。長めに連載していいと思いますのでよろしく
お願いします。

番外編 登場人物と守備位置 野球をやる上での彼女達と作者のプロフィール

小説に登場するプリキュア21人と作者の守備位置、プロフィール等です。

（あくまで作者独自の分析です。ご理解下さい。）

番外編 登場人物と守備位置 野球をやる上での彼女達と作者のプロフィール

美墨なぎさ（キュアブラック）ベローネ学院中等部の中学3年生。
ラクロス部所属。守備位置は

内野と外野手（ファースト、サード、）。スポーツ万能で正義感が強く今回も注目されそうだ。雪城ほのかとは同級生。今回の勝負では闘争心を出すこともある。打撃力はトップクラスで4番など上位打線が適しているか？足も速くスタミナも相当ありタフなプレーヤーとして活躍しそうだ。

口癖は「ありえな〜い」

雪城ほのか（キュアホワイト）ベローネ学院中等部の中学3年生。
科学部所属で成績はクラスの

トップ。守備位置は捕手と内野手（ファースト、サード）。頭が良くチームの中心人物にすれば確実な作戦を立て守りも固めてくる策士でチームの中心人物になるのは間違いなさそうだ。

優しい一面を見せる一面もあるが、厳しい一面もある。足が見た目より速いので、打順は下位打線でも活躍できるほか、的確に当てようとしてくるので粘り強いのも特徴だ。守備範囲も広いのでエラーは少なさそうだ。しかし、天然部分あり。

九条ひかり（シャイニールミナス）ベローネ学院中等部の中学1年生。元はクイーンの名命。

守備位置は投手と内野手（セカンド、ショート）。おとなしそうに見えるが真面目で芯が強く、一度決めたら最後まで貫くタイプでチームを第一に考えチーム内の信頼も高い。

足が速いという訳ではなくパワーも低い。守備範囲も平均並みなもので下位打線か？。投手としては、パワーピッチャーではなく変化球主体で攻め、ゴロを打たせて取るスタイルを得意とする。

時には年上のなぎ達に鋭い突っ込みをいれることもあるので油断はできない。

日向咲（キュアブルーム、キュアブライト）夕凧中学校2年生。ソフトボールのエースピッチャー。守備位置は投手と内野手（ファースト、サード）。前向きでチームのムードメーカー。

プリキュアの中でも強いという噂が強く能力は高い。唯一の経験者ともいえる彼女の存在は間違いなくチームに不可欠だ。パワーがあり、足も速い。彼女の身体能力と投球術に作者は何か別の能力を持っていると思い、後に凄い選手になると予想する。打撃力より凄いのは彼女の投球術だ。

主にストリートを使ってくるが、ストレートの速さは150キロを超えることも珍しくない。また今はまだ未完成だが、フォークとスライダーもストリートに迫る速さと技術をもっており、今後も成長していきそうだ。なぎと同じく闘争心をムキ出しにすることもあり熱くなりやすい性格だ。

口癖は「絶好調なりー」。

美翔舞（キュアイーグレット、キュアウィンディ）夕凧中学校2年生で美術部員。主な守備位置は捕手と外野手。夢中になると周りが見えなくなることもあるので注意。

咲のパートナーということもあり作者は捕手のポジションにしているが本職は外野手。足が速く、守備範囲も広範囲なのでファインプレイをすることも？打撃力にも定評があり、上位打線でも活躍できると見る。

作者とは守備の事で相談する事もある。ただ彼女も天然部分があります。

夢原のぞみ（キュアドリーム）サンクルミエール学園に通う中学2年生。明るく元気な性格で、

誰とでも仲良くできる。主な守備位置は内野手（ファースト、セカンド、ショート）。プリキュア5の中の中心人物で彼女の人気は未だ衰えないという。

作者も彼女の不思議な能力に驚くことになる。歴代プリキュアの中でも一番強いのでは？という

噂も。ただ、運動は苦手で守備範囲もそんなに広くない。打撃力もそんなに高くないが、うまく

なろうと必死に練習を続けていく。持ち前の明るさと笑顔でチームを一つにしてくれるのは間違いない。前評判は良くないが、作者は彼女の能力に大きな可能性を感じ後に大きな決断を迫られる。

彼女はドジな部分が多い所と超天然なので心配だ。

夏木りん（キュアルージュ）サンクルミエール学園に通う中学2年生。夢原のぞみの親友。

守備位置は捕手と外野手。運動神経抜群でフットサル部でもエースを担う。今回の小説でもチームの中心人物になりそうだ。のぞみやうららに鋭い突っ込みをいれる。（時には作者も？）

肩の力が強く、外野からレーザービームでアウトにできるほか、パワーもありクリーンアップに任せたら恐ろしい相手になることは間違いなさそうだ。

足も速く盗塁を狙ってくることもあり、足でかき回しそうだ。ただ、お化けやホラーが大の苦手。お化け相手だと弱さが際立つかも？

春日野うらら（キュアレモネード）サンクルミエール学園の中学1年生。学校に通いながらアイドルとしても活動中。守備位置は内野手（セカンド、ショート）。夢原のぞみとは仲が良く信頼している。ひかりと同じく守備範囲は平均クラスでパワーがあるわけではないが小技がうまく、次に繋げるようにしてることがある。大のカラー好きだがのぞみ同様、かなりの天然なので注意が必要。

秋元こまち（キュアミント）サンクルミエール学園の中学3年生。
図書委員で夢は小説家。

守備位置は捕手と内野手（ショート、サード）。体力があまり無く足は遅い。打撃力と守備力は平均並み。パワーがないので下位打線か？かれんとは親友でありお互いに相談し合う仲である。

食べ物に何でも羊羹ようかんを入れる癖があり、今回被害者が出るかも？

水無月かれん（キュアアクア）サンクルミエール学園の中学3年生。こまちの親友。生徒会長を務め、家は超大金持ち。守備位置は投手と外野手。スポーツ万能なので足の速さはトップクラス。

守備範囲は広くパワーも合わせ持つプレイヤーだ。投手だと変化球と速球を武器に打者を打ち取る万能キャラだ。負けず嫌いな性格で特にりんとは相性が悪く、トラブルになりやすい。

怒ると怖いので注意が必要だ。

美久野くるみ（ミルキローズ）サンクルミエール学園の転校生。その正体はココとナッツのお世話役ミルク。のぞみとはよく口ゲンカになるが実力を認め合っている。守備位置は投手と内野手（セカンド、サード）。口が悪く余計な事を言ってしまうこともあり今回も波乱を巻き起こしそうだ。

長打力があり、ホームラン量産マシンの呼び声も？守備範囲と足の速さは平均並み。

ピッチャーとしては、150キロ以上を連発する速球派で変化球はあまり使わないパワータイプのピッチャーである。

桃園ラブ（キュアピーチ）公立四つ葉中学の2年生。守備位置は内野と外野（ファースト、セカンド）。勉強と運動が苦手。守備範囲はあまり広くない。バッティング能力は、ホームランを打つこと

もあるが、あまりボールを見極めるのが苦手で来た球を全部振りがち。足も速くないため盗塁は期待しにくい。口癖は「幸せゲットだよ。」

キュアベリィ

蒼乃美希私立鳥越学園中等部の2年生。守備位置は捕手と外野手。おしゃれ好きでファッションモデルになるのが夢。運動神経が良く足が速く、守備範囲も広いのが特徴。

打撃のほうも安定していて左右に打ち分ける技術を持つ。球の見極め方もハイレベルのプレーヤーだ。負けず嫌いな性格で勝ちにこだわりの勝つために作戦を立てる頭脳派。口癖は「あたし、完璧。」

キュアバイン

山吹祈里私立白詰草女子学院中等部に通う中学2年生。おっとりしていて優しい性格。実家の動物病院を継いで獣医になるのが夢。

守備位置は内野手（セカンド、ショート、サード）。

足は速くないが守備は平均クラス。打撃力は的確に当てにくいスタイルで粘り強く三振は少ないほうだ。彼女も天然部分あり。口癖は「私、信じてる。」

東せつな（キュアパッション）ラブと同じ四つ葉中学に通う。元々はラビリンスの幹部イースだったが幸せの赤い鍵、アカルンに導かれキュアパッションとして生まれ変わる。守備位置は投手と外野手。プリキュアとしての能力が元々高いだけにフィールド上での能力も高い。強肩で外野からレーザービームでアウトにすることもある。ピッチャーの場合はストレートは150キロを超えることもあり変化球も多彩で打たせて取るピッチングもするので打ち崩すのは容易ではない。口癖は「精一杯がんばるわ。」天然部分があり、騙されやすい。

花咲つぼみ（キュアブロッサム）私立明道学園中等部の2年生。

守備範囲は内野と外野。（セカンド、ショート）えりかと知り合いファッションに入部。ことわざや四字熟語が得意。バッティングのほうは長打やホームランを打つこともあるが決してパワーがあるわけではない。スタミナがないのも弱点か？外野手の場合、ケガも恐れぬ覚悟でダイビングキャッチをすることもあり根性も合わせ持つプレーヤー。ただ暴走することもあるため作者の頭を悩ませることも。口癖は「私、堪忍袋の緒が切れました。」彼女も天然部分がある。史上最弱と呼ばれる彼女の活躍に期待。

来海えりか（キュアマリン）つばみと同じ中学に通う中学2年生。ファッション部部长。守備位置は内野手（セカンド、ショート）。足の速さは普通。バッティングも小技ありと可能性を持っているプレーヤー。守備も平均並み。背が低いことを悩みにもっているため、それを言われると落ち込むことも？

明堂院いつき（キュアサンシャイン）つばみ、えりかと同じ中学に通う中学2年生。守備位置は捕手と外野手。生徒会長を務めながらファッション部にも入部。かわいいものが大好き。祖父は明堂学園の理事長。守備範囲は広く足も速く、パワーもあり、全てでハイレベル。彼女を敵にしたら苦戦は間違いない？普段は男装していて作者とも気軽に話をしてくれるので作者的には助かります。

月影ゆり（キュアムーンライト）私立明堂院学園高等部の2年生。えりかの姉、ももかの友達。守備位置は投手と内野手（ファースト、サード）。プリキュア初の高校生キャラでプリキュア達の憧れの的でもある（特にブロッサム）。能力としてはパワーもあり、足も速く優れたプレーヤー。

投手としても、変化球のキレはバツグン。ストレートも速くバットを折る威力も合わせ持つ。

他のプリキュア達に突っ込みをいれることもある。（時には作者

にも?) 作者が困っている時には助けをくれることもあり、頼れる存在。(本作品では野球に詳しいキャラにします。)

キュアメモディー

北条響スポーツが大好きで明るい女の子。守備位置は投手と外野手。

正義感が強く曲がったことが大嫌い。甘い物が大好きでパートナーの奏の家のケーキが好物。スポーツ万能キャラなので足の速さはトップクラス。スタミナも豊富だ。パワーもありホームランも大量に打ちそうだ。投手としても球技経験があるのでチームのエースになる可能性も高い。作者は彼女的能力に高い可能性があると思いい始める。ストレートを武器に150キロ以上を連発するピッチャーで変化球も切れ味バツグンだ。決め台詞は「ここで決めなきゃ女がすたる。」

キュアリスム

南野奏勉強とお菓子作りが得意な中学2年生。守備位置は投手と内野手(サード、ショート)。将来はパティシエになって家のカップケーキショップを継ぐこと。頭の回転が速いので様々な作戦を使っている。守備範囲と打撃力は平均クラス。ピッチャーとしては変化球中心に打たせて取るピッチングを中心に組み立てるが負けず嫌いで熱くなることもあるので注意。

猫が大好きな「肉球マニア」。決め台詞は「気合のレシピ見せてあげる。」

作者ピッキー この作品の作者で野球勝負の提案者。プリキュアの小説を読んでいて自分も書きたいと思い、今回の企画を思いつきプリキュア達に提案し、自分も参加することになり気合いが入っている。守備位置は捕手と外野手。野球が好きで能力は高い。打撃力はトップクラス。的確に当てる技術も持っている。足も速く守備範囲も平均以上。だが作者には物語上人にあまり話したくない過去が

あり、プリキュア達にも話していない秘密を持つ。彼女たちの絆の強さにも興味をもつようになる。彼女達と練習を重ねる内に作者にも変化が？

次回に続く

番外編 登場人物と守備位置 野球をやる上での彼女達と作者のプロフィール

まあ、こんな感じでプロフィールをまとめてみました。オリジナル要素を加えましたがどうだったでしょうか？

感想をお待ちしています。できる限り返信していきたいです。次回から本編スタートです。

プリキュア集結（前書き）

今回からようやくスタートします。応援よろしくお願いします。

プリキュア集結

プリズムフラワー事件から数週間後、プリキュアオールスターズ21人が作者によってラブたちのホームクローバータウンに集結されようとしていた。最初に到着したのは、

響「ここがクローバータウンか。」 奏「そうね。ラブちゃん達の住んでる場所みたいね。」

最初にやってきたのは今年デビューのキュアメロディこと北条響とキュアリズムこと南野奏だ。

響「作者さん、この場所に呼び出して何をするのかな？」

奏「そうね。」 彼女達が現在いる場所は四つ葉スタジアム、通称クローバースタジアム（架空の設定です。）で現在の横浜スタジアムをモデルにした球場の前にいる。

集合時間は朝9時30分。現在の時刻は9時20分。2人は遅れることなく到着した。

響「プリズムフラワー事件以来久しぶりにみんなと会っね。」 奏

「みんなどうしてたかな？」

2人がベンチに座りながら話していると向こうから2人を呼ぶ声が。???「響さん、奏さん。」 奏「あの声は、」 響「つぼみ達だよ。」 2人は大きく手を

振りながら自分たちの方へ誘導する。つぼみ「2人ともおはようございます。」

えりか「オッハヨー！」 響「みんな元気そうだね。」 つぼみ「えりか、いつき、ゆりのハートキャッチ組が到着した。現在9時22分。いつき「2人とも早いね。」 響「まあ遅れる訳にはいかなからね。」 奏「そうそう。みんなと集まる時は遅刻したら申し訳ないからね。」 ゆり「ほかのみんなはまだ来てないみたいね。」 つぼみ「そうですね。」 えりか「地元のラブ達なんか一番に着いててもいいと思うけどな。」 いつき「それもそうだね。」 6にんが

他のプリキュアを待っている

???「おーい、みんな！」6人が声のする方向を見ると、響「あれは、、」つぼみ「なぎささんたちです。」向こうからなぎさ、ほのか、ひかりのマックスハート組と、咲、舞のスプラッシュスター組がやってきた。なぎさ「ふー。やっと着いたわ。」（疲）

ひかり「そうですね。」ほのか「自然が多い場所ね。」つぼみ「みなさん、今回は迷わなかったみたいですね。」なぎさ「当ったり前だよ。レインボージュエルの時は失敗したけど今回は大丈夫つと。」マックスハート、スプラッシュスター、プリキュア5、フレッシュ組はレインボージュエルの時に遅刻をした経験がある。

咲「ちよつとナレーター。余計なことじゃないでよ。」（怒）
スイマセン。

映画やDVDを見た人は知っていると思うが、、

舞「でも遅れずに来る事ができてよかったわ。」現在9時25分。
あと5分。

???「おーい」ひかり「あの声は？」全員が声のする方を見ると2つの影。ほのか「作者さんとあれは？」つぼみ「一人知らない人がいますね。」ゆり「誰かしら？」向こうから段ボール箱を持ってやってくる作者ことピッキーと1つの巨大な物体だった。

ピッキー「皆さんきてますね。」なぎさ「まだのぞみ達とラブ達がきていないけど。」いつき「後4分ぐらいだね。」舞「ところでピッキーさん。そちらの方は？」ピッキー「ああ、これは自分の手持ちポケモンのカイリキーだ。なにしろ荷物が多かったんで手伝わしてもらったんだ。ありがとな、カイリキー。」カイリキー「ウス。」つぼみ「筋肉ムキムキです。」えりか「すんごい力強そうだわ。」咲「腕相撲してもすぐ負けそう。」当たり前だと思う。

奏「さっそく他社のゲームのキャラを使ってきたね、響。」響「うん。でも走るのだったら勝てるかも。」趣旨が違うが、、ピッキー「さて、あと来てないのはのぞみさん達とラブさん達か。」約束の時間まであと3分。

そのとき向こうから走ってくる音が。それもすごい勢いで、
咲「あれは、のぞみちゃん達だ。」咲が指差す方向からゴーゴ
ー組が走ってくるのだった。

りん「のぞみ、早くしなさいよ。」のぞみ「りんちゃん、待つ
てよ。」くるみ「早くしなさいよ（怒）遅刻したら赤っ恥よ。」
かれん「まあまあ。」うらら「あそこに皆さんがいます。」

こまち「急ぎましょう。」6人は2分前に何とか着いた。りん「
危なかった。」

かれん、こまち「ハア、ハア。」うらら「疲れましたね。」くるみ
「ハア、ハア、のぞみが寝坊するからこうなるのよ？」のぞみ「だ
って」（泣）DSやって夜遅くまで起きてたんだもん。」

りん「それはアンタが悪い（怒）」りんはのぞみに軽いといび蹴り
を入れた。のぞみ「ふえ〜ん、りんちゃん蹴らないでよ。」（泣）

これで残りは地元フレッシュ組のみとなった。

時間まであと1分を切った。ほのか「いくらなんでも遅くない？」
うらら「そうですね。何かあったんでしょうか？」かれん「遅れた
ら2度目の遅刻ね。」全員が遅刻するだろうと思い始めた。その時、
空から空間が現れ、その中からフレッシュ組が現れた。しかし、高
い場所から現れたため、全員落下した。4人「キャー！！」ドスン
！！鈍い音が響いた。ラブ「イタタタ。」全員が4人の所へ集まる。
つぼみ「大丈夫ですか、ってアレ？」せつな「どうしたの？」
のぞみ「どうしたのじゃなくて、」ピッキー「下見てくださ
い。」（汗）

4人「????」4人が顔を下に向けるとその下には、4人「キ
ャー！！スイマセン。」（驚）

ピッキーの手持ちのカイリキーが下敷きになっていた。えりか「ち
よつと大丈夫？」

カイリキー「うう、不意打ちとはヒキヨウな、ガクッ」カイ
リキーは気絶した。ピッキーはカイリキーを手持ちに戻す。祈里「
スイマセンでした！！わざとじゃないって私信じてる。」（泣）

ひかり「わざとじゃないと思いますけど、」ゆり「でもなんで空から降ってきたの？」4人「それは、」4人以外「それは？」ラブ「すいません。私の寝坊です。」りん「ハア??（激怒）ラブも寝坊したの？」美希「他にもいたの？」いつき「のぞみが寝坊したけど時間前にはきたよ。」

のぞみ「エヘヘーそうなんだよね。」（笑）りん「コラッ。調子に乗るな。」（怒）りんはいつの間にか持っていたハリセンでのぞみの頭を叩いた。スパーン。音が周りに響き渡った。

のぞみ「りんちゃん痛いってば」（激泣）せつな「それで走ってたら間に合わないからアカルンを使ってきたのよ。」なぎさ「アカルンをそんなことに使うとは、」（呆）ラブ「まあ、遅刻しなくてよかったー。」くるみ「全く。」こまち「先が思いやられるわね。」ピッキー「ハアー。この先どうなるかなあ？」

次回へ続く

プリキュア集結（後書き）

第一話いかがでしたか？いきなりポケモンを使用してしまいました。もう少し有名なキャラを使えばよかったと反省しています。

また、りんがのぞみに突っ込むシーンを多く入れすぎたのもスイマセン。これからは気をつけます。次回「発表」をお楽しみください。

発表（前書き）

なんとか時間内に集まった21人に作者がルール等を発表します。

発表

21人無事？（1匹の被害者が出たが、）にクローバースタジアムに集結し、作者が本題について切り出す。

ピッキー「さてみなさん、今回集まってもらったのは、」
なぎさ「わかってますよ、ピッキーさん！！」

ピッキー「まだ何も言っていないけど？」 咲「野球をするために集めたんですね。」

ひかり「もうプロローグで語ってましたしね。」

かれん「それにあんまり体動がしてなかったし。」

響「全員初めから集まるつもりでしたよ。」ほのか「ええ。」

ピッキー「マジか、やっぱりプロローグ長かったな。」

つぼみ「ただ、試合の内容やルールは素人だからわからないですけど。」（汗）

せつな「精一杯頑張るつもりですよ。」 えりか「やるっしゅ。」

舞「ちゃんとルールは教えてくださいね。」

ゆり「あとどういう内容かもね。」

ピッキー「うう、皆さんアリガトウゴザイマス。」（激泣）

くるみ「涙もろい作者さんね。」 につき「ピッキーさん、そろそろ話を進めてもらえないですか？」

奏「そうですよ。」

ピッキーは励まされやつと話しはじめた。

ピッキー「そうだった。結論から言うと大会を開きたいですね。」

全員「大会？」

ピッキー「そう、まあ自分もそんなに上手なほうではないけど、みんなとやっていく内にうまくなると思います。」

ラブ「対戦チームは誰ですか？」

ピッキー「それはあなたちですよ。」 全員「エッ？」

祈里「どういうことですか？」ピッキー「他の人達を読んで試合を

しても問題は全くありません。

ただ、あなた達プリキュアは絆が強いほどそれ以上の能力を発揮すると聞いています。キツイかもしれませんがお互いに競い合った方がこれから強い敵が現れた時に互いを信頼し、より強くなれると考えたからだよ。」

のぞみ「絆……」

作者の話を聞いて全員がしばらく考えていたが一人が口を開いた。

ラブ「オモシロそうですね。みんなやってみようよ。」 美希「ラブ？」

くるみ「確かに納得はできるけど仲間内でやるのはあまり気が乗らないわね。」

ラブ「確かにそうだけど、この先強い奴がまだまだ現れるかもしれないしね。それにお互い傷つけあう訳ではないんだから。」

ラブの話を聞いて一同またしばらく黙りこんでしまったが、のぞみが「そうだね。みんな仲間だもん。お互いにやっていく内に絆も深まっていくし互いに強くなれるよ。」

なぎさ「そうだね。」 咲「うん。」 かれん「一理あるわね。」

祈里「お互いに絆が深まるって私、信じてる。」 つぼみ「わたしもです。」

響「ここで退いたら女がすたるでしょ。」 のぞみの一声で全員が一つになった。

ほのか「ピッキーさん、ぜひやらせてください。」

舞「みんなで野球をやりたいです。」 えりか「私達にまかせてくださいって！」

ピッキー「ありがとうございます。」

ピッキーは全員に頭を下げてお礼を言った。

ピッキー（のぞみさんの一声で全員が一つにまとまった。希望の光キュアドリーム、あの人は油断できないな。）心の中で作者はそう思った。

つぼみ（アレ？ピッキーさん何か今表情が違ったような気がしまし

ただ気のせいですかね？)

それを見ていたつばみは作者に言おうとしたが黙っておくことにした。

咲「もしかして賞品があるんですか？」

ピッキー「もちろん！優勝チームにはトロフィーと賞金100万円。」

全員「100万円！？」「奏「大金だね」 なぎさ「ありえない」

ピッキー「しかも副賞としてお菓子一年分がついてきます。」

ラブ、のぞみ「お菓子！？」「(大声) りん「ちよっと！！大声出さないでよ。」(怒)

くるみ「当然、チョコも入ってくるわね。」チョコ好きの妖精だ。

咲「パンとかあるかな？」実家が立派なパン屋だろ。

ピッキー「ルールは9回まででDH制ではなくピッチャーも打席に入ることです。」

えりか「何、DH制って？」

ゆり「DH制はピッチャーのかわりに打つ人で守備につかなくていい人の事よ。」

うらら「さすがゆりさん。詳しいですね。」

ゆり「こう見えても野球に詳しいのよ。」

本作品ではゆりさんは野球に詳しい設定にしています。

つばみ「あの一ついいですか？」ピッキー「なんですか？」

つばみ「私たちは学校に通う身ですけどどうしましょう？」

いつき「そうそう。」

ピッキー「それなら心配ないですよ。各学校には一か月休校措置にしてもらったから心配しないで野球に打ち込めますよ。」

りん「無茶苦茶やるなあ。」美希「確かに」

えりか「作者の権利をフル活用してるね。」

ピッキー「あと練習中のときは金属バット木のバットの二種類を使ってもいいけど試合の時は木のバットを使用してください。」ひかり「どうしてですか？」

ピッキー「金属バットは芯に当たらなくても当たれば飛距離が伸びる。それは長打が出やすいということになる。あまり力のないつばみさんでもヘタをすれば簡単にホームランを打つこともできるという訳。」

つばみ「どういう例えですか!!」（激怒）こまち「まあまあ。」
舞「わかりやすく説明しただけですよね。ピッキーさん?」

ピッキー「例えが悪かったかな?」つばみ「例え方が悪すぎです。」

!!」（激泣）

ピッキー「ゴメン、ゴメン、悪かったです。あと試合は1試合だけではないですから。」

うらら「どうしてです?」ピッキー「1試合だけで終わらせたらこの小説1か月くらいしか持たないですよ。」

咲「それもそうだね。」

かれん「1か月で終わったら元も子もないわ。」

ピッキー「これから3日後に自分たちの実力がどれくらいなのか模擬試合をして確認する予定です。まず3日間で基本的なルール、打撃練習、守備練習、投球練習、ポジション決めをしてから試合をする予定だよ。」

響「3日後ですか?早いな!。」奏「まあ急だからしょうがないわ。」

ピッキー「もう少し話すことがあるけどそれは次回にまた話します。」

せつな「どうしてですか?」

ピッキー「ここまで打ち込むの疲れたから。」

ドテッ!全員コケた。くるみ「なんですかー、それ。」（怒）
ほのか「まあまあ。」

つばみ「作者さんも大変なんですよ。」

ピッキー「そうだよ。話の内容考えて打ち込むのたいへんなんだから。」（疲）

次回へ続く

発表（後書き）

作者の都合で次回へ持ち越します。スイマセン。次回はどのようなことやら予想がつかないです。

ベースボールタワー（前書き）

作者がプリキュアに野球についての説明をする続きです。

ベースボールタワー

第2話で同じ事をまた繰り返すと長くなるので、試合中のルールを次のようにまとめました。

試合中のルール

- 1 DH制ではなくピッチャーも打席にはいること。
- 2 通常9回までだが、延長戦は決着がつくまで続く。（メジャースタイル）
- 3 試合中プリキュアに変身してはいけない。理由として変身すると能力が作者以外高すぎになり悲惨な状況になりかねない。（純粹に真剣勝負をするところを書きたいので）しかし、例外として敵が現れたり、誰かが妨害してきたら変身して追い払ってもよい。
- 4 金属バットは使用禁止。（練習中は使用してもよい）
- 5 控えの選手が守備交代や代打で変わる場合は交代できるが、出ている選手が交代した後もう一回試合に出る場合は、最低でも打順がひと回りしないと交代できない。守備位置の交代は自由に行える。
- 6 コールドゲームは採用しない。

ピッキー「この6つのルールを決めましたのでルールをしっかりと守るように。」

全員「ハイ。」

ピッキー「試合は模擬を除いて3試合やるけど最後の1試合が優勝を決める試合だから先に2勝したからといって優勝ということではないです。あくまで2試合は練習試合だから。」

なぎさ「チームに分かれた後そのチームで行動するんですか？」

ピッキー「それでもいいけど人数が少ないから練習するときは他のチームの人と練習しても構わないですよ。お互い上手くなるし。」
りん「そうですか。」　ピッキー「でも、チーム練習は大事だから試合2日前からは絶対チームの人だけと行ってください。練習中じゃなかったら別に会って話しても問題ないよ。」

つばみ「わかりました。」

ピッキー「3日後に行く模擬でチームを作って試合後に2つの練習試合と決勝戦をするチームをまた決めます。」

美希「エッ？このチームで決定じゃないんですか？」

ピッキー「最初のままだと他の人に飽きられてしまうかもしれないからな。」（汗）

こまち「それもそうね。」

ピッキー「あとこれから1か月間全員で同じ場所で生活してもらいます。」

えりか「エッ？」　ひかり「1か月ですか？」　いつき「長いな。」

ゆり「でもどこにそのような場所があるのかしら？」

ピッキー「アレです。」

作者が指差す方向に大きな建物があった。　ほのか「あれは、、、？」

ピッキー「あの建物はこの小説を成功させるために作られた施設、ベースボールタワーです。」

のぞみ「ベースボールタワー？」

ベースボールタワー

地上3階建て、雨が降っても練習できるグラウンドとドームがあり、室内練習場も完備している。

泊まる場所は3階の景色が一望できる絶景の場所になっている。食堂は最新式、豪華な大浴場、野球だけでなく息抜きにいろんな競技ができるコートが完備されている。パソコン部屋、ゲーム部屋、

トレーニングルーム、リフレッシュルームなどが自由に使えるまさに夢のタワーである。

つばみ「凄いです」。咲「できないことないね。」（喜）

ピッキー「明日から使えるようになるので明日の朝10時にタワー前集合で。」

のぞみ「ワァーイ楽しみだね。」なぎさ「よし、燃えてきたー！」

ラブ「みんなで幸せゲットだよー！」　ゆり「でも家族が心配しないかしら？」

ピッキー「それも大丈夫だよ。」祈里「エッ？！また作者の権利を活用したんですか？」

ピッキー「さすがですね、ご家族の方には事前に説明して外泊許可をもらってます。あとなにか用事があるときは連絡してもらって夜までに戻ってきてもらったり最悪帰って来れないときは連絡してもらえればいいですから。」

舞「計算されてますね。」（汗）

ピッキー「以上で説明を終わります。これから1か月間野球だらけの毎日になるけど頑張っていきましょうー！！」　全員「オーっ！！」

こうして全員がそれぞれの場所へ帰っていった。これから彼女達と作者を待ち受けているものはなんなのか？作者が描くシナリオ通りになるのか？目が離せなくなりそうだ。

次回　それぞれの想い　へ続く

ベースボールタワー（後書き）

何とかルールを考えました。1話考えるのにかなりかんがえさせられます。毎日考えていますがいろんなアイデアが出てきてその通りにいくか心配です。

次回はそれぞれの場所に帰って行った21人がそれぞれの想いを話します。

感想も受け付けています。お気軽に感想をお寄せください。皆さんの感想で元気になります。

それぞれの想い（前書き）

プリキュア21人はそれぞれ思っていることを語る話です。書いた自分でもビックリしています。

それぞれの想い

野球対決の説明を聞いた彼女達はそれぞれの場所に戻っていった。

マックスハート組

なぎさ「いやー、1か月は長いなー。」 タコカフェでたこ焼きを食べているなぎさ達。

ひかり「そうですね。でもやるからには勝ちたいです。」

ほのか「そうね。でも、、」なぎさ「でも？」

ほのか「私達3人が同じチームになるとは限らないのよ？」

なぎさ「わかってる。でも、敵になったとしても私は本気で2人と勝負したいんだ。」

ひかり「なぎささん、、」なぎさ「2人とも約束して！敵になったとしても全力で勝負するって。」なぎさの言葉に2人は少しの間を置いて

ほのか「わかったわ。もしそうになったら私は全力で勝ちに行くわ。」

ひかり「私もです！最後まで諦めずに全力を尽くします。」

なぎさ「それでこそ私のパートナーだよ。さあて、たこ焼き食べよっと。」

ほのか「なぎさったら。」（呆）

こうして3人はお互いを確かめ合い時を過ごしていった。

スプラッシュスター組

咲「早く明日にならないかなー？」 舞「咲ったらうかれすぎよ。」

ソフトボールのエースピッチャーなので自信がある様子の咲。

咲「私がピッチャーなら例えピッチャーさんでも三振にとってやるわ。」

舞「でも相手はあのピッキーさんよ。油断しない方がいいわ。」

咲「わかってるよ。、、舞、同じチームだといいね、、」

舞「ええ、できればそうなってほしいわ。でももし敵になったら私は咲、あなたに勝ちたい!!」

咲「私だって勝ち譲れないよ!そのときは勝負だよ、舞。」

2人も敵になる事を想定して互いの気持ちを確認した。

プリキュア5組

のぞみ達のホームナッツハウス。ここにのぞみ達が帰ってきた。

のぞみ「ただいまー!!ココー、今帰ったよ。」

くるみ「ココ様、ナッツ様、今帰りました。」

りん「いないのかな?」うらら「シロップもいませんね。」

ナッツハウスに着いたがここ、ナッツ、シロップの姿が見当たらない。

こまち「あら、これは何かしら?」かれん「メモのようね。」

かれん達はメモを発見し読んでみることにした。

のぞみ「ココとナッツ、シロップは急用のため出かけています。

夕方には戻るので心配しないでいいココ。ココより、だって。」

りん「ココ達出かけてるのか。」こまち「帰ってきたら今日の報告をしましょうね。」

うらら「そうですね。」くるみ「のぞみ、同じチームになったら足引つ張らないでよね?」

のぞみ「何よそれ!。(怒)まだわからないのに決めないでよ。」

くるみ「あなたの場合はエラー連発で大量失点になりかねないわ。」

かれん「まあまあ、セレブ堂のシュークリームでも食べましょう。」

のぞみ「ココたちの分も残しておかないとね。」

りん「全くのんきなんだから、のぞみは。」(呆)

うらら「そこがのぞみさんらしいですけどね。」(笑)

マイペースなプリキュア5組。だが後に彼女達の絆が打ち砕かれ

ようとは誰も思っていなかった。

フレッシュ組

地元のよくダンスレッスンをしている公園で4人は話し合っていた。

ラブ「いやー、遅刻しなくてよかったー。」 せつな「あれはほとんどアウトよ。」（呆）

美希「確かに、完璧じゃないわ。」 祈里「みんなに悪いことしてしまったわ。」

落ち込み気味のブッキー。ラブ「大丈夫だって。明日は絶対に遅刻しないから。」

美希「その自信が不安を増大させるのよ。」（怒）
祈里「それより野球をやるのはいいいけど問題はチームメンバーよね？」

せつな「そうね、全員が同じチームになる確率はかなり低いわ。」
美希「もしバラバラになったらどうしよう？」 3人が不安を募らせていたがラブは違った。

ラブ「みんな心配しすぎだよ。もしそうなくても私たちは仲間だよ？」

ラブは笑顔でみんなに言う。

美希「ラブッたちのんきすぎるわ！！（怒）私たちが敵味方になるかもしれないのよ？」

美希がラブに詰め寄るが、ラブは落ち着いて美希に語り始めた。

ラブ「美希たん、確かに私もそれは望みたくない。でもこういう危機は今までたくさんあったじゃん。その度に私たちは乗り越えてきたじゃない。今回もみんなで乗り越えてみせようよー！！」

せつな「ラブ、、、」 祈里「ラブちゃん、、、」

美希「、、、わかったわ、今回の野球対決も乗り越えてやるうじやない。完璧な私が勝つわ！」

ラブ「よかったー！！美希たんはそうでなくっちゃ。」

せつな「わたしも精一杯頑張るわ。」祈里「みんなで乗り越えられるって私信じてる!!」

ラブ「よし、みんなで幸せゲットだよ!!」

こちらも波乱はあったものの、全力で戦うことを誓いあったようだ。

ハートキャッチ組

つぼみの家の植物園に4人は集まっていた。

えりか「やるからには絶対勝ちにいくつしゅ!!」気合を入れるフアッション部部长。

いつき「でも同じチームになるとは限らないよ?えりか。」

生徒会長でもあるいつきが冷静に突っ込む。

えりか「わかってるよ。でもできたらいつきとは同じチームでやりたいな。」

ゆり「どうしてかしら?」

えりか「いつきは運動神経がいいから大事な場面で活躍してくれて勝ちがついてきそうだから。」(笑) いつき「えりかったら、自分でもがんばりなよ。」

えりか「アハハハ。まあ頑張ってみるよ。」

いつきとえりかが話している間つぼみはボーっとしていた。

ゆり「つぼみ、さっきからどうしたの?」

つぼみ「アツ、スイマセン。ちよっと考え事をしてまして、」
ゆり「あのピッキーさんさんの事かしら?」

つぼみ「、、そうです。少し気になるんです。のぞみさんの一声で全員が一つになった時、ピッキーさんの表情が少し違って見えたんです。」

ゆり「あなたもそう思ってたのね。」つぼみ「エッ?じゃあゆりさんも?」

ゆり「確かではないけどあの時表情がわずかながら違ったわ。ピッキーさん、何かを私たちに隠しているわ。」つぼみ「エッ?まさか、砂漠の使途とか?」

ゆり「それはないわ。あの人からは邪悪な気配が全くかんじられなかった。」

つぼみ「ピッキーさんに直接聞けばいいですけど、、」ゆり「そうね、、」

作者の表情の違いで何かあると感じたつぼみとゆり。果たして本当なのか？

スイート組

響の家に響と奏、そして2人の相棒メイジャーランドの妖精ハミイが話していた。

響「いやー、明日から大変だなー。疲れが蓄積しそうだよ。」

奏「何いってんのよ、スポーツ万能のクセに。」

確かに響はスポーツ万能でスポーツ万能でスタミナもある実力者である。

ハミイ「二人とも1か月頑張るニャー!!」

響「ありがとうハミイ。ところで奏、賞金100万円多分山分けになると思っけど何に使うの？」

賞金をもらったらという想定で奏に質問する。

奏「それはもちろん王子先輩にプレゼントをあげるのよ!!」

響「ハアー、（呆）奏はやっぱり王子先輩が好きなんだね。」

奏「何いってるのよ、（怒）王子先輩を悪く言わないでよ。王子先輩の事を考えただけで、、、」

キヤー!!」一人で勝手に妄想するパティシエ少女。

響「ちよつとー、奏？」 奏「キヤー!!王子先輩!!」

興奮して響を叩きまくる。

響「イタイ、イタイ、これじゃアニメと同じ展開だよー。最後の手段は、ハミイ!!」

ハミイ「わかったニャ」

二人は合図しあうと奏にこういった。

響「ホーラ奏、大好きな肉球だよー。」王子先輩の他に肉球が好き

なパティシエ少女。

奏、ハミィ「アアーシアワセー。」

響「何よー、このくだりは。」（激怒）

肉球のくだりで終わってしまったスイート組であった。

一方その頃作者は、ピッキー「フー、くれぐれもあの人と会うまではラブさんたちにみつかつてはいけないな。」なぜかクローバータウンにいた。

作者はいつたい誰に会おうとしているのか？

次回へ続く

それぞれの想い（後書き）

感想も受け付けているので気軽に送ってもらえると嬉しいです。

再会（前書き）

謎の行動を取る作者は誰と会うのか、今回明らかになります。

再会

カオル「今日も売れてるねー、オレツチのドーナツ。」

ドーナツ売りのカオルちゃんはラブたちの頼れる兄貴分である。

タルト「せやなあ兄弟、今日も絶好調やなー。」タルトはラブたちのパートナーでスウィーツ王国の王子で関西弁をしゃべる妖精である。そこへ一つの影が、

カオル「お前は、」ピッキー「久しぶりですね。カオル師匠。」

何と作者だ。

カオル「よお。後輩、久しぶりじゃねえか！」

ピッキー「師匠も相変わらずですね。」タルト「オッ！ピッキーさんやないか。」

ピッキー「タルト、元気だったか？」一応顔見知りの設定です。

カオル「アレ以来2か月ぶりか。」ピッキー「そうですね。あの時は師匠に世話になったしなにしろ今の自分があるのは師匠のおかげですから。」

作者とカオルの関係とは何か？それは後に明らかになるだろう、

カオル「後輩、ドーナツ食べてくか？」ピッキー「スイマセン、いただきます。」

作者は席に着きドーナツを食べ始める。

ピッキー「実は先輩、明日から、」

カオル「ホー、ラブちゃん達と野球かあ。」タルト「なんか楽しそうやなあ。」

3人が話していると一つの物体が、

シロップ「着いたロプ。」

ナッツハウスを留守にしていたココ、ナッツ、シロップだ。

ココ「待たせたココ。」ピッキー「自分もさつき着いた所さ。」

作者は3人に同じ話をした。ナッツ「へエーそれはおもしろそうナツ。」

ピッキー「だろ。今までこんな話はないからな。で、今日ここに来たのは師匠たちに頼みがあつてきました。」シロップ「何だロブ？」ピッキー「実は、、、」

作者はあることを頼みにきたみたいだ。

ココ「本当ココ？それはやりがいがあるココ。」

ナッツ「作者さんの頼みなら断るわけにもいかないナツ。」

シロップ「その話乗ったロブ。」タルト「ワイも乗ったでー、オモロイやないか！」

カオル「後輩の頼みだ、俺も乗ったぜ、グハツ。」

ピッキー「みなさん、人手不足なもんですいませんね。」

ココ「気にしないでほしいココ。」ピッキー「今日は俺のおごりだ。食べてつてくれ。」

4人の妖精におごる様だ。

ピッキー「師匠全部で何円ですか？」カオル「まいど、全部で100万円だ！グハツ。」

ピッキー「先輩！！そういうジョークはやめてほしいっていったじゃないですか。」（汗）

全員「アハハハハ。」こうして時は過ぎていき各自明日を待つのみとなった。

次回へ続く

次回予告

???「ココがクローバータウンか。なかなかいい所だな。???君も連れてきたかったけど野球下手くそだから足手まといになりそうだからな。作者さんにも秘密にしてのサプライズゲストだから驚かせてやろう、もちろんプリキュアのみんなもね。ウフフフ、、、」

「

野球生活の初日に突然現れた一つの青い影。果たして何者なのか？
次回 青い訪問者 お楽しみに

再会（後書き）

自分とカオルちゃんにオリジナルストーリーをつけてみましたがどうだったでしょうか？青いキャラは予想が簡単だったでしょうか？次回明らかにします。

青い訪問者（前書き）

いよいよ今日から野球生活が始まるが、あのキャラクターが飛び入り乱入？

青い訪問者

野球生活が今日からいよいよ始まる。21人の彼女たちは遅れることなくタワーに到着した。

響「ラブ、今日は遅刻しなかったねー。」

ラブ「バカにしないでよ、同じ失敗は2日連続できないよ。」ひかり「それもそうですね。」

各自荷物を部屋に置いてクローバースタジアムへ向かった。

スタジアムの前には作者が待っていた。ピッキー「みなさん来ましたね。各自控え室でユニフォームに着替えてから練習を始めますので。」のぞみ「ハイ。」なぎさ「いよいよ始まるね。」

ほのか「ええ、頑張りましょう。」

各自ユニフォームに着替えてグラウンドに集まった。

ピッキー「皆さんに初めに伝えることが2つあります。1つは自分分は中2の設定にしている事です。」なぎさ「エエーッ?ピッキーさんて1コマ?ありえない!!」

つぼみ「私と同年とは意外です。(設定上だけど)」

ほのか「でも作者さんだから年下でも敬語を使わないとね。」

全員は作者に対して敬語で統一することに決めたようだ。感謝です。

ピッキー「もう一つ、皆さんに紹介したい人たちがいます。どうぞ。」

「ピッキーの合図によりドアが開いた。その中からは、」

のぞみ「エエーッ?ココ?」りん「ナッツにシロップ?」ラブ「

カオルちゃんにタルトまで?」

ココ「作者さんに頼まれたココ。」ピッキー「カオルさんには今日はコーチとして、他の妖精たちはアシストとして呼びましたが試合の審判をカオルさんに、1塁をナッツ、2塁をシロップ、3塁の審判をココにやつてもらうことになりました。またタルトには実況をやってもらいます。」

のぞみ「エエーッ？ココー、教えてくれてもよかったのに。」（怒）

ココ「ゴメン、ゴメン、のぞみたちを驚かせたかったんだ。」

ラブ「カオルちゃんも頼まれたの？」

カオル「後輩の頼みじゃ断る理由はないぜ！グハッ。」祈里「知らなかったわ。」

タルト「みんな頑張つてや、わいらも全力でサポートするで。」

ナッツ「ジャツジは公平にするけどな。」シロップ「そうだな。」

ピッキー「じゃあそろそろ練習を、、」？？？「ぼくもいるよ。」

一同聞き慣れない声が聞こえたのでその方向を見た。奏「えっ？アレは、、」

いつき「あの手と足、、」うらら「あの青い体、、」舞「もしかして、、」

？？？「はじめまして、ぼくドラえもんです。」

国民的キャラクタードラえもん。まさかの参戦？

えりか「キヤー！！本物のドラちゃんよ！！」えりかはドラえもんに抱き付く。

ドラえもん「ワワッ？えりかちゃん、落ち着いて。」ゆり「そうよえりか、離れなさい。」

咲「サインほしいナリー。」うらら「私もですー。」せつな「あれが本物、、」

一躍人気者になる猫型ロボット。こまち「これも作者さんのサプライズですか？」

ピッキー「イヤ、俺は呼んだ覚えはないですけど。」かれん「じやあなんで？」

ドラえもん「実は昨日からタイムテレビで見ていたんだ。今回は手助けという形できたんだ。」

りん「どうしてなの？」ドラえもん「同じ朝日系列の人気アニメなんだから友情出演だよ。」

つぼみ「すごいです。(感激)」ドラえもん「僕からのプレゼントはこれ、バッテリーグマシーン2台とスเปアポケット。」「ほのか」「エッ?でもこれが無いと、、」

ドラえもん「いいよ、のび太君が持っていててもロクな使い方をしないから。1か月貸してあげるよ。」「美希「本当?ありがとう!ドラちゃん!」」

ドラえもん「お礼はいいよ。じゃあ僕はそろそろ帰るよ。」「ラブ「また来てね!」」

こうしてドラえもんはタケコプターで帰っていった。

くるみ「まさかドラえもんがくるとはね。(汗)」

響「サプライズだったね。」「せつな「他にいろんな人が来そうね。」「

ピッキー「じゃあそろそろ練習を始めようか?」「全員「オーっ!」」

ドラえもんによりテンションが上がった一同は練習に取り組み始めるのだった。

次回へ続く。

青い訪問者（後書き）

まさかのドラえもんどうだったでしょうか？ドラえもんは出す予定ではなかったのですが予定を変えて出演させました。これからいろいろな人を出す予定です。お楽しみに！！

練習開始（前書き）

いよいよこれから22人が練習を始めます。22人の野球の实力は？

練習開始

ドラえもんが帰っていき、ようやく練習が始まろうとしていた。
なぎさ「ねえみんな、ポジションどうする？」

咲「私は間違いなくピッチャーだと思いますね。」くるみ「私もピッチャーをやりたいわ。」

かれん「でも人数が限られているから一人最低でも2つのポジションはやる事にしましょう。」

いつき「そうですね。」響「じゃあ私はピッチャーと外野手。」

こまち「私は捕手とショートをやるわ。」各自ポジションをこのように決めていった。話が長くなるので各自のポジションが気になる方は各自のプロフィールをみてください。スイマセン。

各自ポジションが決まった所でカオルちゃんのノック練習が始まった。ちなみに4人の妖精はやる事がないので球拾いを手伝います。
カオル「よーし！最初は誰かな？」

なぎさ「私です、お願いします！」特攻隊長、なぎさがやる様だ。
カオル「手加減はしないぜ！オリヤ！！」カキン！！ボールがなぎさに向かってくる。

なぎさ「はっ！」軽快な動きで動きで無難にこなす。

のぞみ「さすがなぎささんだね。」ピッキー「動きに無駄がないですね。」

つぼみ「かつこいいです。」えりか「つぼみ、目がハートになってるよ。」

その後、各自もなんとかボールを追いかけて練習していった。

その中で一番の問題児が登場。

カオル「次、のぞみちゃん。」のぞみ「ハイ、お願いします。」

りん「大丈夫かな？」くるみ「エラーしそうですね。」ゆり「お手並み拝見ね。」

カオル「それっ！」ボールがのぞみに向かってくる。のぞみは取る

姿勢に入る。

が、予想通り？トンネルしてしまう。くるみ「何やってんのよー。

」(怒)

のぞみ「アレ？おかしいな。」ほのか「のぞみさん、焦らないで。」

のぞみ「よし、今度こそ。」カキン！！のぞみ「ウワッ！！」

やつぱり取れない。

かれん「やつぱりのぞみには難しいわね。」奏「時間が掛かりそうね。」

その後もミスを連発してしまう。カオル「よし、ラスト！！」

のぞみ「ハア、ハア、お願いします。」舞「かなり疲れてるわね。」

ひかり「のぞみさん！！ファイトです。」カキン！！ボールがサ

ードをすぎようとしたその時、

のぞみ「ウオオー！！」横っ飛びでボールをキャッチ。その際にサードベース顔面を強打する。

うらら「のぞみさん！！」こまち「大丈夫？」のぞみ「何とかだいじょうぶです。」

ピッキー「よく取ったなー今の。」せつな「今は凄かったわ。」

りん「全く無茶するんだから。」その後もノックは続き、最後に作者の番になった。

カオル「よし、後輩にはキツメで行くぞ！」ピッキー「ハイ！お願いします。」

カン！ボールがさつきより速く転がってくる。パシッ！作者は危なげなくさばく。

美希「何、今の？」祈里「速すぎて見えなかったわ。」いつき「プ口的選手みたいに取ったよ。」

カオル「イイぞ、もう一丁！」ボールがファーストとセカンドの間を抜けていく。

えりか「抜けちゃうよ？」作者は素早くボールに追いつき華麗に処理する。

なぎさ「速すぎだつて。」その後もミスなくさばいて午前の練習

は終わった。

全員でタワーに戻り豪華な昼食を食べる事にした。舞「あれ？ピッキーさんは？」

カオル「アイツなら多分走り込んでるよ。」咲「昼も食べずに大丈夫ですか？」

ひかり「少し心配です。」カオル「アイツは野球の事になると夢中になる性格でよく昼も食べずに練習に打ち込んでたんだよ。」祈里「うまくなろうと努力してるんですね。」響「それでああいうプレーが身に付くんだ。」つばみ「カオルさんはピッキーさんとういう関係なんですか？」

カオル「、、ただの先輩後輩みたいなもんさ。」つばみ（やっぱりピッキーさんには何かあります。）その頃、作者はタワー内のバッテリールームで打ち込んでいた。ピッキー「あの人達といると数か月前に戻った感じがするな、、」数か月前に何があつたのか？今後明かされる事になる。

次回はいよいよ模擬試合をするチーム決めが行われる。敵、味方に分かれるのか？それとも分かれずにすむのか？次回 運命のチーム決めお見逃しなく！！

練習開始（後書き）

次回はいよいよチーム分けです。どのような編成になるのか？試行錯誤で考える予定なので皆さん期待して待っていてください。

運命のチーム分け（前書き）

彼女達と作者の運命を決めるチーム決めがいよいよ行われる。果たしてどうなる？

運命のチーム分け

昼食を食べ終わり、再び練習が始まる。ひかり「大丈夫ですか？ 昼も食べずに練習して？」

ピッキー「なーに、大丈夫ですよ。」舞「あんまり無理しない方がいいですよ。」

午後からは外野練習が行われる予定だ。足の速い人が活躍しそうだ。

カオル「よし、最初は誰かな？」りん「じゃあ私からいくかな？」
のぞみ「りんちゃん、頑張つて！」カオル「それ！」ボールが
外野に飛んでいく。

えりか「うわーキツそう。」美希「相当体力削られそうね。」りん
「うわ、結構きついな。」

りんが懸命に追っていく。パシッ！！何とかキャッチに成功したようだ。

りん「これ、早く追いつかないとヤバイなー。目測を誤ると失点になりかねないな。」

その後も外野練習は続く。なぎさ「よっと。」舞「まだまだ！」つぼみ「ヒャア！」

うらら「取れてよかったー。」せつな「意外と簡単ね。」祈里「ハアハア。」響「もう一丁!」

こんな風に外野練習を繰り返して各自うまくなっていった。最初はエラー連発したのぞみも少しずつうまくなっていくみたいだ。のぞみ「やったー！！取れたよー。」ひかり「すごいです。」

こうして1日目の練習が終わった。この練習の後にいよいよあの瞬間が、

ピッキー「皆さんこれから2日後の模擬試合のチーム分けをしたいと思います。」

ラブ「いよいよかー。」奏「緊張するね。」咲「舞、舞、舞」

咲言ったでしょ？分かれても後悔しないって。「咲「うん、」」
のぞみ「できればピッキーさんと同じチームだいいな。」

りん「それはあんたがヘタがからでしょ？」（呆）こうして各自
の想いが交錯する中、チーム分けが行われる。つぼみ「どうい
う方で決めるんですか？」

ピッキー「この箱にA、Bのボールを11個ずつ入れ同じボール
を取った人が同じチームということになります。」かれん「完全
に運任せね。」ピッキー「最初はマックスハート組です。」

なぎさ「よし、いよいよだね。えーとこれだ！、、Aだ。」
ほのか「私は、、Aだ。」

なぎさ「あとはひかりが、、ひかり「えーと、Bです。」マッ
クスハートは分かれる結果となった。なぎさ「しょうがないよ。こ
れは、」ほのか「覚悟はしてたからね。」ひかり「二人とも、元氣
出してください。」次はスプラッシュ組。

咲「よし、引くぞー！！エイッ！！Bだ。」舞「私は、、B
だ！！」咲「やったー舞！！同じチームだよ。」舞「嘘じゃないの
ね？」（泣）周りそっちのけて大喜びの2人。

響「イイなあ。」奏「しょうがないわよ、運任せなんだから。」
のぞみ「次は私。えーとBだ。」

りん「Bです。」うらら「いきます。ハイ、Aです。」こまち「私
はAです。」かれん「Bよ。」

くるみ「Aよ。ハアー、かれんと一緒じゃない。」落ち込んだみ
たいだ。

ラブ「次はアタシだね。えーと、Aだ。」美希「私は、、Aよ。」
祈里「私は、、アツBです。」

せつな「Aよ」ピッキーだけが分かれる結果となった。祈里「ゴ
メン、みんな。」

ラブ「ピッキーは悪くないよ。」美希「そうよ、ただのクジよ。」
つぼみ「次は私です。エイッ！！Bです。」えりか「あたしはっ
と、Aだ。」いつき「僕は、、Bだ。」ゆり「私はAよ。」

ハートキャッチ組も分かれる結果となった。これで決まっていなのは残りスイート組と作者の3人。Aは後1人、Bは2人となった。響「私の結果次第で決まるかもしれないだね。」

奏「早く引いてよ。」響「よし！ここで引かなきゃ女がすたる。とりゃー！！Aです。」

奏「アッ」残り2人を残してチームが確定した。

Aチーム なぎさ ほのか うらら こまち くるみ ラブ 美
希 せつな えりか ゆり 響

Bチーム ひかり 咲 舞 のぞみ りん かれん 祈里 つぼ
み いつき 奏 作者

様々な思いが現れたチーム分けとなった。

次回へ続く

運命のチーム分け（後書き）

第1段階のチーム分けをなんとかすることができました。このチームにするにはかなり苦労しました。本戦のチーム分けも同じくらい苦労すると思いますが何とか頑張って書いていこうと思います。

自由時間（前書き）

チーム分け後、22人は自由時間となった。各自どう過ごすのか？

自由時間

22人にとって大きな意味を持つチーム分けが終わり、夕食も食べ終わり各自自由時間を過ごしていた。ひかり「すいません、私だけバラけて、、」ほのか「仕方ないわ。公平に決まったんだから。」なぎさ「分かれたからには手加減はしないよ！」ひかり「ハイ！こっちも全力で向かいます。」マックスハート組はこうした会話をしながら部屋に入っていた。

ちなみに部屋は現在各シリーズごとと作者の7つの部屋に分けられているが、模擬試合後のチーム分け後はチームごとの部屋になる。

作者の部屋では、、、

ピッキー「うーん、戦力的にはまずまずかなー。」どうやらチーム分析をしているようだ。そこへ

トントン、ドアをノックする音が。ピッキー「誰だ？」ドアを開けると咲と舞の姿が。

ピッキー「どうしたんですか？」舞「ピッキーさん、今暇ですか？」ピッキー「暇だけど？」

咲「私達今から自主練習しようと思ってたんですけど、ピッキーさんも誘おうと思って。」

ピッキー「どうして俺を？」舞「ピッキーさんは私と同じ外野とキャッチャーなので色々教えてもらいたいと思って。」ピッキー「それなら喜んで協力しますよ。練習してうまくなろうという事はいいことだから。」咲「ありがとうございます。」3人は室内練習所へ向かった。

大浴場では、、、

えりか「うわー、スッゴイひろいじゃん。温泉旅館みたいだ。」

かれん「まあまあかしら？」

こまち「かれんはお嬢様さまだから。」えりか、かれん、こまち、くるみ、ラブ、奏が温まっていた。くるみ「ハァー、生き返るわー。」「ラブ「オッサンか。」「アニメでは見せない突っ込みを入れる。奏「王子先輩がいたらきつと、、キヤー王子先輩ー！！」変な妄想をする人も。

ラブ「ド変態か。」再び突っ込むラブ。今回ラブは突っ込み役で終わった。

ラブ「何で私、こんな役なのー！？」（怒）ラブ以外「まあまあ。」スイマセン、書くことがたくさんあるので（汗）

リフレッシュルームにて、、

美希「私は何といつてもお肌の手入れよ。」祈里「美希ちゃんどこでも欠かさないんだね。」

美希は顔面パック、祈里はマッサージチェアでくつろいでいた。祈里「くつろげるわー。」すると居るはずのないラブの声が、、架空のラブの声「オッサンか。」「祈里「エッ？美希ちゃん、今ラブちゃんの声がしなかった？」「美希「エー？居るはずないよ。ラブは大浴場にいるんだから。空耳じゃないの？」「祈里「そうだね。ラブちゃんが私の悪口いう訳ないって私、信じてる。」

大浴場のラブの心の中の声では、、ラブの心の中の声「チっ！2人とも気づけよ。」「どこからそんな事ができるのか？ラブの執念は恐ろしい、、今度たくさん使ってあげるか。

ゆり「今日は疲れたから早く寝ましょう。」「ゆりは早めに寝るよ。うだ。

廊下にて

のぞみ「うー、私ヘタだからなー。」「響「のぞみだって練習すれ

ばうまくなるって。「響とのぞみが話しながらやってきた。そこへ、つばみ「自主練ですか？」いつき「あのピッキーさんと一緒だから足を引く張る訳にはいけないからね。僕もうまくなりたいし。」つばみといつきだ。どうやら自主連をするみたいだ。

響「アレ？つばみにいつき、どこ行くの？」つばみ「今から練習に行く所です。」のぞみ「私達も今から練習する所だったんだ。一緒に行くようよ。」いつき「うん、いいよ。」こうして7人が自主練をやることになった。

さてその頃りん、うらら、せつなの3人はどうしてたかというところ、

りん「うー、早く終わらせてよー（激怒）」うらら「待ってください（焦）、もう少しでクリアできそうなんです。」せつな「そのへやに入るんじゃない？」3人はゲームルームで懐かし？の任天堂の64ソフト「スーパーマリオ64」のお化け屋敷を遊んでいた。

りん「よりによって何でお化け屋敷なのよー（激怒）！！」

オチがあつた方が面白いので。次回へ続く

自由時間（後書き）

毎日話のネタを考えていますが、皆さんに面白いと思われるかわからないですが、頑張っておもしろい作品に仕上げていきたいとおもいます。

感想もどんどん送ってもらえるとありがたいです。

深夜の自主練習（前書き）

自主練習をすることになった7人はどのような練習をするのか？

深夜の自主練習

咲「よーしいくよ！」舞「いいよ、咲！」ピッキー「速そうだな。」
「咲に着いた咲、舞、作者の3人が自主練習を始めていた。咲が投げ、作者がキャッチャーとして受け、舞が打つようだ。」

咲「ハアッ！！」速いストレートが向かってくる。舞「速い！」
スピードに追い付けず空振り。

ピッキー「かー、速いな。さすがソフト部のエースだな。（冷汗）」
咲「ヨッシャー！ドンドンいくよ。」舞「次こそは！」ストレートが向かってくる。舞「来る！！」舞がバットを振る。カキン！！バットに当たったが、ファールのようだ。舞「当たった！咲のストレートに。」ピッキー「当たりましたね。タイミングさえ合えば十分ヒットになるよ。」咲「やるねー、次は当てさせないよ。」

そんな中、のぞみ、つぼみ、いつき、響の4人がやってきた。のぞみ「アレ？誰か練習してるね？」響「咲に舞、それにピッキーさんだね。練習熱心だね。」つぼみ「私も負けてられません！」

いつき「僕たちも混ぜてもらおう。」4人が3人の元へ向かう。のぞみ「私達も混ぜてー！」咲「うん。いいよ。」ピッキー「みんなで練習した方が楽しいからな。」こうして再び練習が始まった。ピッチャーには響が入り、バッターには咲、キャッチャーには舞、守備にはのぞみ、つぼみ、作者、いつきが守備位置に入る。

響「手加減はしないよ！！」咲「上等よ。かかってこんかー！！」
つぼみ「関西弁ですかー？」

ピッキー「飛ばしそうだな。」いつき「そうですね。」響「タアッ！！」響が投げた。球種はストレートだ。咲「もらったー！！」カキン！！咲がボールを捉えた。響「何！？」舞「ショート！」

ボールがのぞみの方へ。のぞみ「絶対取る！」のぞみが捕球態勢に入る。パシッ！！キャッチ成功のようだ。ファーストのつぼみへ。のぞみ「つぼみ！」つぼみ「わかりました！」つぼみにボールが送

られファーストベースを踏む。つぼみ「やりました！」咲「ボールは当たったんだけどなー、まだまだなり〜」のぞみ「少しずつうまくなってるかも？」響「危なかったー。ありがと、つぼみ。」

つぼみ「いえ、のぞみさんの守備のおかげです。」いつき「ピッキーさん、みんなで練習すると普段よりうまくなるんですね。」

ピッキー「ああ、声を掛け合うことでその人は普段以上の能力を発揮することもあり、絆が強まるもんですよ。」次の相手はつぼみ。

つぼみ「今回は敵です。絶対に打ちます！」響「打たせないよ！ここで退いたら女がすたる！」

ビュッ！ストレートが向かってくる。バシッ！！つぼみはバットを振ることなく立ちすくんだ。

つぼみ「は、はやいですー。」（泣）舞「さすが響さんね。」響「速いねー、自分でもビュクリだよ。」再び投げる。しかし真ん中の甘いコースに投げてしまう。

響「ヤバッ！コースが甘い！」つぼみ「これなら当たります！」つぼみが打ち返す。しかし、球威が強かったため打ち上げてしまう。つぼみ「くっ、打ち上げてしまいましたー。」落地点に入るいつき「いつき「当てたよつぼみ、でも響の球威が勝ってたみたいだね。」危なげなくキャッチする。

つぼみ「アアー、悔しいですー。」3人目はのぞみだ。のぞみ「よし、打つぞー！」響「簡単には打たせないよ。」響が投げる。ビュッ！！のぞみ「ウワッ！！」あまりの速さに空振り。

のぞみ「速すぎだつてー」（泣）響「のぞみにはまだ当てるのも難しいかもね。」2球目も空振りで追い込まれる。響「よし！追い込んだよ。次で三振ね。」のぞみ「三振はしたくない！まずバットに当てないと。」3球目を投げた。響「ヨシッ！三振決定だ。」のぞみはバットを振る。

のぞみ「たあっ！！」カキン！！ボールがバットの芯に当たった。のぞみ「ウソ！？」

響「何！？」ボールがピッキーの方へ。響「ピッキーさん！お願い

「！！」ピッキー「マジかい？当てたよ。結構飛んでくぞ。」ボールを追う作者だがフェンスに迫る。ピッキー「こうなったら賭けだなおりゃー！」ピッキーがジャンプしてボールをキャッチしようとする。しかし、ジャンプと同時にフェンスに激突する。いつき「ピッキーさん！」いつきが向かう。全員が心配そうに見ている。

舞「壁にぶつかりながら取ろうとするなんて・・・」のぞみ「大丈夫かな？」いつき「ピッキーさん、大丈夫ですか？」いつきが心配して様子を見るとその手にはボールがしっかりと握られていた。

ピッキー「ハア、ハア、何とか落とさなかったよ。落としてたら失点に繋がってたよ。」全員の元へ戻っていく。舞「凄いです！あのボールを取るなんて。」つばみ「大丈夫ですか？ふらついてますけど？」ピッキー「何、どうということはないですよ。外野手はこういうプレーが付き物ですし、こういうプレーをやることによって味方に流れが来るんですよ。」のぞみ「ゴメンナサイ！私のせいで」ピッキー「謝らなくていいですよ。あそこまで飛ばせるんだから大当ですか！よしもっとうまくなるぞ。」響「私ももっと技術を磨いてうたれないようにするぞ！」こうして深夜の練習は続いていた。

次回へ続く

深夜の自主練習（後書き）

深夜練習によりあまりうまくない人達がうまくなろうとする話を書きました。練習をすることでうまくなることを教えたかっただけです。次回緊急発表を行います。

模擬戦前日（前書き）

ラブ「ちょっと！！この小説で私、あまり活躍してないんじゃないの？」ラブのイメージは変わるのか？

模擬戦前日

明日が模擬試合。他のメンバーも気合いが入っていた。えりか「ウオリヤーー！！いいよ明日だね。」こまち「気合いが入ってるわね。」ゆり「たくさん寝たから体力が戻ったわ。」（喜）

なぎさ「今日もやってやるぞー！！」その一方で寝不足気味の人達が・・・

練習した7人「ファー」ひかり「どうしたんですか皆さん？あくびなんかして。」咲「昨日からずっと練習してて・・・」のぞみ「気が付いたら・・・」つばみ「夜10時から2時まで練習したから・・・」響「寝不足なのよ。ファー。」舞「私としたことが油断したわ。」いつき「ピッキー」「ごもつともです。」かれん「アララ・・・」ほのか「・・・でそちらの3人は？」

りん、うらら、せつなの3人はずっとゲームルームにいた。りん「私は最悪ですよー！！寝不足の上にうららとせつなが「スプラッターハウス」や「バイオハザード」などホラー系のゲームばかりやるのでうるさくて寝れないし、目を閉じると思い出して寝れないんですよー！！」（激怒）

3人の目にはクマができていた。うらら「オモシロかったですねせつなさん？」せつな「私にはもっと刺激があった方が・・・」りん「もう言うなー！！」（大激怒）りんがハリセンで突っ込む。

2人「痛いー！！」（泣）美希「全く・・・」くるみ「先が見えないわね。」

22人は朝食を食べ終わりスタジアムへ向かう。ラブ「ピッキーさん、この小説私の存在変じゃないですか？悪者みたいな感じがするんだけど？」ピッキー「ウツ、（冷汗）！！そんなことないよ。これから活躍するから。」ラブ「本当ですか？よし、活躍して幸せゲットだよー！！」

ピッキー「フー。どこかラブさんの活躍できる話を作るか・・・」

ラブが活躍する話近日公開？未定かもしれませんが・・・

練習前に作者が全員に話をした。ピッキー「皆さん！！今日は緊急発表があります。」

全員「????」ピッキー「試合は変身してはいけないことでしたが、感想の中に1試合はプリキュアに変身した試合が見たいという意見があつたので明日の試合は野球に慣れるという事もあり特別に変身して試合をしていいです!!」つぼみ「エッ？本当ですか？」かれん「これは凄いことね。」

なぎさ「派手な試合になりそうだなー。」奏「変身したら能力が高いいから凄い事になりそう。」

作者以外変身するのでハイレベルになりそうだ。発表が終わり練習が始まった。フリーバッティングでは投手を務める人がいろんな球を投げながら明日の試合に備える。もちろん打つ方も本気だ。

中でもこの対決が見たい人が多かったのではないだろうか？

咲「よーし！！今日も絶好調なりー!!」なぎさ「ホームラン狙うよ!」なぎさVS咲、ある意味夢の対決か？守備も一応入る。キャッチャーはこまちだ。こまち「咲さん！全力で来て!」咲「なぎささん！勝負だよ!」なぎさ「後輩には負けられない!」咲が投げた。140キロのストレートだ。

なぎさ「ハアッ!!」カキン!!ファールのようだ。なぎさ「打ち損じね。次は・・・」のぞみ「やっぱすごいなーなぎささん。」えりか「一回で当たったよ。」ほのか「やっぱ能力はトップクラスね・・・」咲「よし、次は・・・」咲が投げた次の球は・・・

なぎさ「アレ？さっきより遅い、そんなんじやアタシはうちとれないよ!」なぎさがバットを振る。しかし、ボールがバットの下を落ちていった。なぎさ「何!？」咲が投げたのはフォークだった。なぎさ「ウソー？咲ったらストレートしか投げないんじゃないの?ありえなくいい!」咲は昨日の練習でフォークを練習していたようだ。舞「さすがね。でも2種類の球種でなぎささんが抑えられるかしら?」なぎさ「次は絶対!」咲「こまちさん！次で決めます!」

こまち「咲さんに任せるわ！」咲の勝負の1球は・・・

咲「ハアーツ!!」ストレートだった。いつき「速い!!」響「昨日より速いよ?」なぎさ「何の!!」なぎさもバットを振る。バットの芯に当たった。咲「ウソ!?!」なぎさ「イケー!!」

ボールが外野の方へ。咲「ラブちゃん!!」レフトのラブが追う。ラブ「なぎささん、力強すぎだつて!」同じく外野のせつな、りんも、せつな「あの人、能力が高すぎる・・・」りん「やだな」明日あの人を敵に回すのは・・・」（冷汗）脅威の存在のようだ。ラブが必死に追う。

ラブ「もうちょっと・・・エツ?」ラブの前にフェンスが・・・そしてボールがフェンスを越える。

ポトツ!!レフトスタンドに入るホームランだった。咲「ハアーツ、やっぱりなぎささんは強いよ。完敗なり!」なぎさ「イヤー、まぐれだよ。自分でもビックリだよ。」祈里「やっぱりすごいですね、なぎささん。」ピッキー「そうですね。変身しなくてもホームランにする長打力、明日はかなり苦戦するな。」つぼみ「でも勝ちましよう!!」こうして各自の練習が続いていた。

次回いよいよ模擬戦

模擬戦前日（後書き）

次回からいよいよ最初の試合ですが4試合目の1試合でもう少しでノートを1冊使ってしまうですが、全体の5分の1にも話が進んでいません。この話は長くなります。ですが頑張っ続けていきます！

模擬戦直前（前書き）

いよいよ試合が始まります。試合の内容はどうか全くわからないです。

模擬戦直前

練習後の夜、各チームでミーティングが行われていた。Aチームはマックスハート組の部屋で行われていた。ほのか「いよいよ明日ね。」「せつな「やるからには勝ちたいわ!」くるみ「当り前よ。」「ゆり「キャプテンは誰にする?」話し合いが行われ、なぎさに決まった。

なぎさ「よし!気合い入れていくよー!!」美希「ただ、ひとつ気になりますけどね・・・」

ラブ「何が?」うらら「ピッキーさんの実力ですよね?」美希がうなずく。美希「守備はうまかったけど、打撃力も相当あると思うわ。変身しても苦戦するでしょうね・・・」くるみ「それだけじゃないわ。りん、かれん、いつき、咲といった実力者もいるわ。侮つたら危険よ!」こまち「他の人は?」なぎさ「この5人に気をつければ勝てるんじゃない?」ほのか「油断しない方がいいわ!油断したら負けるわ!」ラブ「そうですね。」「えりか「早いとこスタメンメンバーと打順、守備を決めましょー!!」マイペースなえりか。こんな調子でAチームは進んでいった。

Bチームは咲と舞の部屋にいた。ひかり「さて、決めていきますか!」ピッキー「問題は山ほどあるからな」。のぞみ「大丈夫!ピッキーさんがいれば勝てるよ。」「かれん「甘いわよ!のぞみ!」のぞみ「エッ?なんですか?」りん「のぞみはほんとにのんきなんだから、(呆)いくらピッキーさんでもアタシ達素人だし、ましてや変身して能力が普段より上がってるんだよ。」「つぼみ「それにピッキーさんは私達と違い超人的なプレーができないです・・・」のぞみ「アッ」(汗)りん「アンタはアホか!」のぞみ「アホじゃないよ」(泣)いつき「それになぎささん、くるみ、響、せつな

といった人もいるし実力的にはAが上かもしれないね。」「全員沈黙した。

ピッキー「確かにそうかもしれないですね。でもやる前から諦めてたら何も始まらないですよ。」「

舞「エッ?」「咲「何か秘策でも?」「ピッキー「イヤ、無いよ。」「ドテッ!!全員コケる。

祈里「何ですかーそれ!」「(泣)ピッキー「でも予想はできますよ。Aの先発は少なくとも響さんではないことが。」「つぼみ「エッ?どうしてわかるんですか?」「ピッキー「昨日の練習であんな能力の高い人が最初から出てきたら完全試合になりかねないからですよ。それじゃつまらないからですからね。おそらく先発は、この人でしょーう。。。」「作者はある人を指差す。ひかり「エッ?」「祈里「この人が先発?。。。」「ピッキー「あくまで予想ですけどね。さて、打順と守備をきつちり決めとかなないと勝てないですからね。勝ちに行きましょう!」「舞「わかりました。」「のぞみ「わたし、ピッキーさんを信じるよ!」「つぼみ「わたしもです!」「こうしてBチームも進めていった。

次の日の午後、22人は北海道にいた。決戦の地は札幌ドーム。日本でも有数の大きなドームだ。

ほのか「ここでやるのね。。。」「いつき「模擬でも規模が大きいよ。」「ドームにはたくさんの人達が詰めかけていた。中にはこんな姿も・・

ブンビー「プリキュア達が試合をするっていうから見に来たんだ。こんな事2度とないかもな。」「のぞみたちの元・敵のブンビーだ。デイディー「デイクシー!早く早く!」「デイクシー「デイディー落ち着いてよ。ファンだからって興奮しすぎよ」(呆)ちなみにデイディーはレモネードファンです。実況席にはタルトの姿が。タルト「皆さん!作者はんの考案で始まった今回の対決!今回の試合だけ

プリキュアでやる試合とあって大盛り上がりやでー！！ゲストも他のゲームから呼んどのでー、この人やー！！」

マルス「どうも！「ファイアーエムブレム」のマルスです。」ゲストに呼んだのはマルスだった。タルト「マルスはん！わざわざ北海道に来てくれてホンマアリガトウ！！」マルス「いや、僕もこの試合をみたかったから光栄だよ。」タルト「今回はここまでや！次回からスタートやー！」

模擬戦直前（後書き）

次回からいよいよスタート。どのような結果になるかはまだわかりませんが試合になるのは間違いないです。皆さん！！応援よろしくお願いします。

スタメン発表！！（前書き）

正直ここまで来るのにかなり苦労しましたが、まだまだ話は前半部分です。スタメンを考えるのも苦労しました。

スタメン発表！！

午後6時。いよいよ試合が始まるが、試合前にセレモニーが行われる。

タルト「皆さん！！待ちに待った夢の祭典、プリキュアドリームカップの本戦を占う模擬戦やー！！今回だけのプリキュアに変身しての野球対決！出場チームごとにベンチから登場するでー！」

観客「ワァーーーーーー！！」ちなみに作者以外は変身していません。スイマセン。

タルト「まずはAチーム、キャプテンキュアブラックー！！」ベンチからブラック登場ー！！

ブラック「オッシャーー！！」タルト「次はブラックのパートナー、キュアホワイトー！！」

ホワイト「どうもー。」タルト「Aの超天然、キュアレモネードー！！」

レモネード「何ですかー！その紹介ー！」（泣）タルト「怒らせると怖い、キュアミントー！」

ミント「怖いって・・・」タルト「口は悪いがパワーは強い、ミルキイローズー！」

ローズ「誰が口悪いのよ！」（怒）タルト「ワイの中では一番頼れるキュアピーチー！」

ピーチ「幸せゲットだよ！」タルト「夢はファッションモデル、キュアベリーー！」

ベリー「完璧に決めるわ。」タルト「この人も意外と天然、キュアパッションー！」

パッション「天然って・・・」タルト「背の事はあまりいじるな、キュアマリンー！」

マリン「チビって言うなー！！」タルト「初的高校生プリキュア、キュアムーンライトー！」

ムーンライト「全力で行くわ。」タルト「登場5か月で人気上昇中、キュアメロディー！」

メロディ「ここで決めなきゃ女がすたる……！」

タルト「次はBチーム。真面目で優しいシャイニールミナス！」
ルミナス「頑張ります！」

タルト「ソフト部のエース、キュアブルーム！」ブルーム「絶好調なりー！」

タルト「絵の上手さは？1、キュアイーグレット！」イーグレット「皆さん、ヨロシク！」

タルト「運動オンチ？1、キュアドリーム！」ドリーム「少しは上手くなってるよー！」（泣）

タルト「フットサルのエース、キュアルージュ！」ルージュ「やりますか！」

タルト「チームBのキャプテン、キュアアクア！」アクア「応援ヨロシク！」

タルト「スタミナ不足がどう出るか？キュアパイン！」パイン「その紹介はないわー。」（泣）

タルト「天然ではドリームに負けてない！キュアブロッサム！」
ブロッサム「天然じゃないですー」（泣）

タルト「普段は男装、実は女の子、キュアサンシャイン！」サンシャイン「私は女だー！」

タルト「王子先輩一筋！キュアリズム！」リズム「ちょっと！それは言わないで！」

顔を赤くするリズム。タルト「最後にこの人。この企画の発案者、作者ピッキー！」

ピッキー「皆さん！来てくれてアリガトー！」

タルト「以上でセレモニーを終わるで。いよいよ試合開始やー！」
大歓声が包み込む。

マリン「ウワツ！鼓膜が破れるよ。」ベリー「確かに……」両チームがベンチに戻る。

タルト「両チームのスタメンが今届いたで！・・・って何やこのスタメン？」
マルス「どれどれ。」

A		B	
1	ショート マリン	レフト	イーグレット
2	セカンド レモネード	ショート	ルミナス
3	レフト パッション	センター	ピッキー
4	サード ブラック	ライト	ルージュ
5	センター メロディ	セカンド	ブロッサム
6	ライト ベリー	キャッチャー	サンシャイン
7	ピッチャー ムーンライト	ファースト	ドリーム
8	ファースト ホワイト	ピッチャー	アクア
9	キャッチャー ミント	サード	リズム
控え	ローズ ピーチ	ブルーム	パイン

タルト「このスタメンが両チームにどう影響するかやな。」マルス「そうですね。」

このスタメンを見た両チームはどう思ったのか？

A ベンチ

ローズ「アクアが先発？ブルームじゃないの？」マリン「ブルームだと思ったよ。」

ラブ「でも油断できないね。」パッション「全力で頑張るわ！」

ブラック「みんな！この試合、楽しんで勝ちに行こう！」全員「オー！！！」

B ベンチ

ルージュ「先発・・・ムーンライト。」

ブロッサム「ピッキーさんの予想どおりでしたね。凄いです！！」

ピッキー「イヤ、予想が当たっただけで必ず勝てる保証はないですよ。」

アクア「なぜブルームを控えにしたんですか？」ピッキー「ブルームは切り札として最後に必要になると思ったからこのスタメンにしました。」

ブルーム「早く投げたいナリー！！」リズム「まあまあ。」

イーグレット「あとはどう攻略するかですね・・・」ドリーム「大丈夫！みんなでやればきつと勝てるよ。」ルージュ「全く、ドリームは。」（呆）パイン「そこがドリームらしいけど。」（笑）

アクア「みんな！勝ちにいくわよ！！」全員「オー！！！」

審判としてカオル、ナッツ、シロップ、ココが定位置につく。

次回へ続く。

スタメン発表！！（後書き）

次回からいよいよ試合スタート。試合内容は現在考案中！！
試合は予測不可能なので更新が遅れるかもしれませんが、皆さん期待して待っていてください。

札幌決戦！！（前書き）

今回からようやく試合が始まります。イヤー、長かったです。皆さん、楽しみにして読んでください。

札幌決戦！！

先攻はAチーム。Bチームが守備につく。外野ではイーグレット、ピッキー、ルージュがキャッチボールを、内野ではリズム、ルミナス、プロツサム、ドリームが守備確認、アクアが投球練習をしている。タルト「そろそろ始まるでー！先発はアクア、どんな投球をするか見ものやでー！」

マルス「いい試合になるといいですね。」

カオル「プレイボール！！グハッ！」グハッは要らない気が・・・

Aチーム1番はマリン。左打席へ。マリン「ヨッシャー！打つてやるぜ！！」

アクア「あらあら、どこにそんな自信があるのかしら？」アクアが投球態勢に入る。ブラック「どんな球投げるかな？」ホワイト「見てみないとわからないわ・・・」

注目の1球目！！アクア「ハアー！！」ズバッ！！カオル「ストライク！！」

マリン「何、今の！？ストレート速すぎでしょ！！」サンシャイン「ナイスボール！」アクアにボールを返す。2球目を投げる。マリ「今度は何？」バシッ！！またもストレートで2ストライク。

マリン（2球続けてストレート？アタシもナメられてるね、今度来たら絶対当てる！！）

サンシャインがサインを出しアクアもうなずく。3球目は・・・

アクア「ハアー！！」マリン「ストレートだ！予想通りね。これなら・・・」

しかしマリンが当てようとしたボールが急に右へ曲がった。マリ

「エッ？」

バシッ！ミットの中へボールが入った。カオル「ストライーク！バッターアウト！！」

マリン三振で1アウト。ベンチへ帰っていく。ミント「今の球は？」
マリン「ストレートだと思ったけど、いきなり曲がった。多分スライダーだと思う。他にもいろんな変化球を持ってるよ。」

パッション「厄介ね・・・」2番はレモネード。右打席へ。

レモネード「ここは塁に出ないと。」アクア「仲間だけど手加減はしないわ！！」

アクアの1球目は・・・レモネード（アレ？さっきより遅い。これなら私でも打てる！）

レモネードがバットを振る。カキン！！ボールに当たった。レモネード「当たった！これなら・・・」

しかしボールに勢いが無い。レモネード「そんな・・・」ボールはセンターへ。

ピッキー「オーライ！オーライ！」落点に入りボールをキャッチする。センターフライだった。

アクア（よし！！作戦どおり！）レモネード「あんな球を使うとは・・・これはキツイです。」

3番はパッション、右打席へ。パッション「簡単にはやられないわ！！」アクア「パッションね、気をつけないとね。」サンシャインがサインを出しアクアもうなずく。1球目は・・・

バシッ！！低めのストレートが決まる。パッション（思った以上に速い、これはなかなか手が出せないわね・・・）2球目はボール、3球目は・・・

パッション「これは・・・」バットを出そうとしたが止まった。

カオル「ボール。」

サンシャイン（へエーよく見たね）パッションをちらりと見てボールをアクアへ返す。次の1球は、

アクア「打ってみなさい!!」140キロのスライダーが襲う!
!パッション「スライダー?」

ストレートと予想していたパッションだが意表を突かれ中途半端な
スイングでボールに当たる。

ボールはショートへ。ルミナスが取りに行く。ルミナス「ドリー
ム!」ボールをドリームへ投げる。ドリーム「OK!!」パッショ
ン「ボールが来る前に・・・」パッションも全力で走るがボールの
方が速かった。ナッツ「アウト!!」ドリーム「よかったー!失敗
しなかったー!!」

アクア「ナイス!ルミナス。」ルミナス「ありがとうございます。」

「

Aチーム1回表三者凡退、パッションがベンチへ・・・

パッション「クソッ!!手が出なかった。」悔しさをにじませる。
ホワイト「手ごわそうね。」

ブラック「こつちも抑えに行くよ!!」Aチームが守備につく。

一方のBチームは・・・

アクア「何とか3人で抑えたわ。」パイン「次はブラックからね。」
ピッキー「一発には気をつけてくださいよ。」1回裏へ移る。1番
はイーグレット、左打席へ。

ムーンライト「お手並み拝見ね・・・」ムーンライトが投げたの
は・・・

イーグレット「これは!」フォークが決まった。ミント「ナイスボ
ール!」イーグレット「かなりの落差があつたわ。これはキツイわ
(汗)」ムーンライト(あなたには打てない!!)

ムーンライトの2球目は・・・

イーグレット「ストレートだ!!」バットを出す。カキン!!ボ
ールに当たりショートへ。

ムーンライト「マリナー!!」マリナーが取るうとするが・・・マリナー「ウー!!取れないよー!!」マリナーが飛び込むが抜けてセンターへ。ムーンライト「なかなかやるわね。」イーグレット(なんとか打てたけど、あの球、そう何本も連打できるものじゃないわ・・・)2番はルミナス、右打席へ。

ミント(送ってくるかしら?)ミントは警戒しながらサインを出す。ムーンライトも警戒する。ムーンライト「送らせないわ!!」投げたのはスライダー。ルミナス「来ました!でも逃げません!」バントの構えをする。ブラックとホワイトもカバーへ走る。コン!バントで送る。

ブラック「させない!」ブラックがボールを取りセカンドへ投げる。ブラック「レモネード!!」

レモネード「ハイ!!」レモネードにボールを送る。シロップ「アウト!」セカンドからファーストへ、ナッツ「アウト!」ダブルプレーに終わった。

ルミナス「ああ、バントは良かったけどブラックの守備に阻まれました・・・」

イーグレット「大丈夫!チャンスはあるわ。」メロディ「スゴイ!さすがブラック!!」

マリナー「でも・・・」ベリー「次はあの人か・・・」次は3番、作者ピッキー右打席へ。

ピッキー(ベンチで見る限り変化球のキレは凄い!狙い球をしつかり絞らないとな。)

ムーンライトが投げたのは・・・ピッキー「ストレート!!」バットを出し当てに行く。

カキン!ファールのようだ。メロディ「当てたよ、打撃力はやっぱりありそうだな・・・」

息をのむメロディ。ピッキー「打ち損じか、次こそは・・・」ミント「慎重に!」

ムーンライトの2球目は高めのストレートでボール。3球目は低め

のストレートを見送り2ストライク。ブロッサム「追い込まれました！」
「パイン」「ピッキーさんでも難しそうですね・・・」

「ムーンライト」「次で三振ね。」4球目は・・・

ピッキー「スライダー！右に来る！！」スライダーを読みバットの芯に当たる。ムーンライト「ウソ！？」ボールがセンターへ。メロディ「ウワ！こっちだよ。」メロディが追うが頭上の上を超える。その間にピッキーは2塁へ。メロディ「早く追いつかないと！」ピッキーがメロディの動きを見て、ピッキー「動きから見てサードまで行ける！」セカンドベースを蹴る。ベリー「メロディ！サードへ！！」メロディ「マジ！？ここで決めなきゃ女がすたる！！ハアーー！！」メロディがボールを取るとサードヘレーザービームを発動させる。ドリーム「ピッキーさん！滑り込んで！！」

ピッキー「何！？」メロディの肩の強さに気づかずサードまで行ってしまい、ブラックのグローブにボールが入りタッチアウトになる。ピッキーはベンチへ・・・

リズム「今の良く打てましたね！凄いです。」ヘルメットを取りながらピッキーが答える。ピッキー「でも、メロディがあんなに肩が強いとは想定外でしたね。あそこで止まっていれば・・・」ブルーム「大丈夫ですよ。気にしないでください。」ピッキー「あの変化球、切れ味バグンだから連打はそう打てないですよ。」アクア「投手戦になりそうね・・・」(汗)

次回へ続く

札幌決戦！！（後書き）

次回ブラックとアクアが対決！！どっちが勝つか見ものです。

主砲登場！！（前書き）

今年の交流戦、ソフトバンクのセリーグ全チームに勝ち越しての
圧勝。強すぎでした・・・この小説いつまで続くやら・・・

主砲登場！！

1回が終わり2回に移る。最初のバッターはブラック、ブラックは右打席へ。

ブラック「ホームラン狙うよー！！」プロツサム「迫力があります」アクア「絶対打たせないわー！！」サンシャイン（ここは慎重にいくべきね。）サンシャインがミットを構えアクアも投げる。

ブラック「ストレート！」バットに当てる。レフトボールの左をかすめてファール。イーグレット「危なかったわ！」（冷汗）ピッキー「今のは普通にヤバイって！！」アクア（ストレートを当ててきた。変化球で打ち取った方がいいみたいね。）2球目に投げたのは・・・

ブラック「スライダーー！！」意表を突かれストライク。ブラック「追い込まれた、でも諦めない！」サンシャイン（ヨシ！追い込んだ、次で勝負ね。）サインを出しアクアもうなずく。3球目に選んだのは・・・アクア・ブラック「勝負よー！！」ストレート勝負だった。

ブラックはバットを振りボールに当てる。ブラック「当たった！このまま押し通すー！！」ボールがセンター方向へ。ピッキー「ヤバ！長打コースか？」ピッキーが追う。ボールを追いかけていきジャンプするが、ピッキー「ウワー！！」ドカッ！！ジャンプと同時にフェンスに激突する。ルージュ「大丈夫ですかー！！」ルージュとイーグレットが向かう。シロップも向かいボールを確認する。

シロップ「これは・・・」ピッキーは手を上げてみせた。その中にはボールが握られていた。ルージュ「スゴイ！よくあれが取れましたね！」イーグレット「大丈夫ですか？」イーグレットが手を貸

す。ピッキー「なんとか取れてよかったよ。ブラックはやっぱり危ないですね。」ブラック（あれを取るなんて守備でも油断できないね・・・）ベンチへ戻ると、ムーンライト「力負けしたのよ、あのストレートとピッキーさんにね。」ブラック「そうだね、でも次こそは・・・」

5番メロディが右打席へ向かう。ドリーム「メロディも危険だね！」「リズム「注意しなきゃ！！」」Bチームはメロディも危険人物にしているようだ。アクアの1球目は高めのボールで様子を見る。サンシャインが返すと、メロディ「慎重になってるね、サンシャイン！」「サンシャインに話しかけるメロディ。サンシャイン「そりゃ危険だからね。」「メロディ「でも逃げてちゃ勝てないよ。」「2球目はストライク、3球目はボールで1ストライク2ボール。4球目は・・・」

メロディ「来た！ストレートだ！」「ストレートを狙っていた。アクア「しまった！！」ファーストの横を過ぎていく。ドリーム「ウワ！取れない！」「ドリームが飛び込むがライトへ抜けていきヒットになる。アクアの元へサンシャインが・・・」

アクア「ストレートを狙ってたみたいメロディにストレートは危険よ。」「サンシャイン「メロディには変化球で勝負しましょう！」「6番はベリー、左打席へ。」

ベリー（ここは・・・）アクアが投げる。アクア「エッ？」「ベリーはバントの構えをしていた。ベリー「手堅くいくわ！」「コン！ボールはセカンドへ。ブロッサムはダブルプレーを狙う。ブロッサム「させません！」「ボールを素早く取ってセカンドベースを踏み2アウト。ブロッサム「ドリーム！」「ブロッサムがドリームへボールを投げる。しかし、ベリーの足が勝り1塁はセーフ。ブロッサム「ベ

リー、足速いです。」「ベリー」「送りバント失敗、悔しいわ。」「タルト」「送りバント失敗やな、ベリーはん。」「マルス」「下位打線でどう繋ぐかですね。」「次は7番ムーンライト。内野陣が集まる。

ブロッサム「ムーンライトは能力が高いです。甘いコースなら長打になります。」「リズム」「ここは次のホワイト勝負が無難かと・・・」「ドリーム」「アクアに任せるよ。」「アクア」「まだ序盤戦だけど、次のホワイトで勝負するわ!」「全員戻っていく。ムーンライト」「どうする気かしら?」「サンシャインが立ち上がる。それを見たベンチは・・・

パッション「敬遠?」「マリン」「ホワイトと勝負するつもりだよ?」「ムーンライト」「これでいいの、サンシャイン?」「サンシャイン」「あなたの実力は脅威ですから、リスクは避けますよ。」「ムーンライト敬遠でランナー1塁、2塁でホワイトへ。ホワイト「ここで打てば先制できる!」「ホワイトが右打席へ。ホワイト(とにかく粘っていないと・・・)アクアの投げたのは・・・

ホワイト「もらったわ!」「ストレートに的を絞っていた。カキン!ボールがレフトの方へ。イーグレット「ヤバイ!落ちたら1点取られるわ!賭けただけどやるしかない!!」「イーグレットがダイビングキャッチを試みる。イーグレット「ハアー!」「パシッ!キャッチ成功のようだ。ホワイト「ウソー?狙いは当たってたのに!。」「Bベンチに戻っていく。ドリーム「ナイス!イーグレット!」「イーグレット「うまくいったよ!」

Aベンチでは　　ホワイト「ボールが甘くなる時があるけど。」「ミント「守備が固く1点が遠いわね。」「ローズ「チャンスがあれば打っていった方がいいわよ。」「

次回へ続く

主砲登場！！（後書き）

次回2回裏の攻撃。主砲ルージュのバットが文字通り火を噴くのか？次回も名勝負です。

ムーンライトVSプロッサム（前書き）

ハートキャッチ組の対決。プロッサムとサンシャインがムーンライトに挑む。どっちが勝つか？

ムーンライトVSブロッサム

2回裏の攻撃は4番ルージユから始まる。ルージユ「ホームラン打ちたいけど、ムーンライトからはキツイか…」右打席へ向かう。ムーンライト（ルージユね、気をつけないと。）

1球目はストレートを投げ空振り、2球目はボール、ミント（ルージユはストレートに絞ってるわね。）サインを出しムーンライトもうなずく。3球目は…

ルージユ「フォークだ！」フォークを読みバットを出し当てに行く。カキン！！ボールをレフト方向に上げてしまう。ルージユ「チツ！打ち上げたか」バットを投げ1塁へ走る。レフトのパッションが追う。パシッ！レフトフライに終わった。ルージユ「フォークにはあまり手を出さない方がいいかもね？」ブロッサムに伝える。ブロッサム「わかりました！」5番は仲間でもあるブロッサム。

ブロッサム「今日は敵です。ムーンライト！覚悟！！」右打席へ向かう。ムーンライト「あなたにはいろんな事を教えられたけど負けるわけにはいかないのよ！ハアー！！」ムーンライトが147キロのストレートを投げる。そのスピードに空振りしてしまう。ブロッサム（ウウ・速い、でも諦めません！！）2球目を投げる。ブロッサム「エツ？何ですかこのスピード感は？」さっきのストレートと違い、100キロのスローボールでタイミングを外される。ブルーム「あんなボールも使うの？」パイン「投げる動作が同じだからどっちが来るかわからないわ！」リズム「しかもスピードに差があるから打つタイミングがズレるわ。」ムーンライト「これで終わりよ！」140キロのストレートを投げる。ブロッサム「負けません！ハアー！！」フォームを崩しながらバットを振りボールを当てに行く。カキン！！ムーンライト「クッ！」ブロッサム「イツ

「ケエー！！」ボールがライトの頭上へ。ベリー「クツ！ブロッサム
のどこにあんなパワーがあるのよ？史上最弱のクセに。」ボールが
フェンスに当たる間にブロッサムは2塁へ。ベリー「行かせない！」
ベリーがフェンスに当たったボールを取りセカンドへ送る。ブロッ
サム「間に合えー！」ヘッドスライディングで飛び込む。

レモネード「させません！！」両者互角！どっちが先か？

シロップ「セーフ！！」ブロッサム「やりました！」ベンチから
は…

イーグレット「先制のチャンスよ！」ドリーム「イケー！サンシャ
イン！！」次はサンシャイン。バッテリーはどうするか？サンシャ
イン（ここで打てば先制できる！）右打席へ向かう。ムーンライト
「ここは絶対に打たせない！」1球目はボール、2球目はスライダ
ーで空振り、3球目はボール。サンシャイン「敬遠はしないみたい
ね！」ムーンライト「勝負よ！」ムーンライトが勝負に使う球は…

サンシャイン「もらったー！！」スライダーに的を絞り当てにい
った。カキン！ムーンライト「ベリー！！」ボールはライト方向へ。
ベリーの前に落ちそうだ。ベリー「絶対取る！！」ベリーがダイビ
ングキャッチを試みる。ベリー「クツ！しまった！」キャッチも及
ばずボールは後方へ。メロディがカバーへ向かう。その間にブロッ
サムがホームへ。ブロッサム「1点取りました！」大声援に包まれ
る。メロディの送球の間にサンシャインはサードを陥れる。メロデ
イ「クツ！1点取られたか。」ベリー「ゴメン！私が取れなかった
から…」ベリーが落ち込む。メロディ「気にしないで！取り返せば
いいのよ。」ミントがムーンライトの方へ。ムーンライト「スライ
ダーを狙ったわ。サンシャイン、危険な相手ね。」ミント「まだ2

回よ。頑張りましょう!!」7番ドリームが右打席へ。

ドリーム「よし！打つぞー!!」ミント（大丈夫！ドリームは打ち取れるわ。）サインを出しボールを投げる。ドリーム「ウワ!」ボール球を振ってしまう。ローズ「やっぱり大した事なさそうね。」ベンチからドリームの悪口を言うローズ。2球目もボール球を振ってしまう。ルージュ「やっぱり変身しても運動オンチは簡単には直らないか…」諦めムードが漂う。しかしこの人は…

ピッキー「まだアウトになってないじゃないですか。ドリームは何かやと思いますよ。」リズム「そうですね?」ドリーム「あう、打てないよー!」（泣）ムーンライト「これで終わりよ!」145キロのストレートが襲う。ドリーム「来た!振るしかない!」ドリームが一か八かでバットを振った。カキン!!ボールに当たった。ドリーム・ムーンライト「エッ!？」

ルージュ「ウツソ!?!」ボールがライトへ。ベリー「ウソでしょ?あのドリームが当てた?」誰もが驚いた。作者以外を除いて。ベリーが落点に入る。パシッ!アウトになったが犠牲フライには十分だった。キャッチと同時にサンシャインがスタートを切る。タン!カオル「ホームイン!」2点目を奪う。ムーンライト「打たれた?私がドリームに…?」ミントが向かい落ち着かせる。ドリームが帰ってくる。ドリーム「私当てたよー!見たー?」パイン「まさか当たるとは…」ピッキー「イヤ、練習をやり始めた頃は上手くなかったけど、絶対に打ちたいという気持ちが表われて打てたと思うよ。」冷静に語るピッキー。ドリーム（私、上手くなってるかも…）

8番アクアが右打席へ。アクア（ムーンライトは動揺をしているはず。この隙について大量得点よ!）ムーンライトの初球は…アクア「カーブ!」ストレートと予想して思わぬ変化球に動揺して手が出てしまう。アクア「屈辱だわ!」セカンドフライに終わった。

アクアが帰ってくる。イーグレット「2点取れたわ！このままいけばいいけど…」

ブロッサム「油断は禁物です！気を引き締めましょう！」ブルーム「そうだね、このまま終わる訳ないと思うしね。」

Aベンチでは… ムーンライト「クッ！私としたことが。油

断したわ！」ドリームに打たれた事がショックのようだ。ピーチ「大丈夫だよ。まだ2点なら追いつける。」ホワイト「このまま終わるわけないわ！」ミント「大丈夫。球の威力は落ちてないわ。まだいけるわ。」ムーンライト「そうね、ゴメン！私が乱しちゃダメよね？」ブラック「それでこそムーンライトよ！」マリリン「次の回反撃だよー！！」 次回へ続く

ムーンライトVSプロッサム（後書き）

遂に試合が動いた！！Aチームは追いつけるか？次回も目が離せません！！

同期対決アクアVSミント（前書き）

互いを良く知るミントとアクアが対決！軍配はどちらに？
意外な対決が発生する？

同期対決アクアVSミント

3回表Aチームの攻撃はミントから始まる。ミントは右打席へ。ミント（アクア！あなたから打つわ！）アクア（あなたと勝負するとはね、でも負けられない！）ムーンライト「頼むわ！ミント。」アクアの1球目は…

ミント「カーブ！」カーブを見送りストライク。ミント（初球からカーブ、次は何を…）2球目はスライダーを空振り、3、4球目はコースを見極め2ボール。

ミント・アクア「勝負よ！！」5球目は…

ミント「カーブ！捉えたわ！」カーブを打ちに行く。アクア「クッ！打たれたか！」アクアの頭上を越えセンター前に落ちる。アクア（ミント、あなたはやっぱり最高ね…）ミントを見ながらアクアが思った。打順は2巡目に入る。アクア「2巡目か、油断できないわね。」マリン「ヨッシャー！さっきはやられたけど今度こそ！」気合いを入れるマリン。サンシャイン（大丈夫！マリンには打たれないわ。）1球目は、マリン「フォークだ！」フォークが外れボールに。アクア「外れたわ。」マリン「危な！見極めるのもヤバかったよ！」アクアの2球目は…

135キロのスライダーを使う。マリン「左に来る！」右投げのアクアのスライダーは、左打席のマリンにとっては左に来る。マリン「もらったー！」スライダーを当てに行く。マリン「よし！当たった。」しかし、ボールはショートへ。マリン「イッツ？ダブルプレーコースじゃん！」マリンは全力で走る。ルミナスからブロッサムに渡り1アウト。ブロッサムがドリームへ素早く送りダブルプレ

「成立。マリン「アアー！もう！アタシ活躍できてないよー」（怒）ミント「まあまあ」アクア「ダブルプレー。私も運がいいわね。」レモネード「ここで私が出塁すればパッション、ブラックにつながる。絶対出ないと！」アクアはストレートを投げる。レモネード「ハアー！！」空振りになる。アクア「レモネード、そんな打ち方じゃ当たらないわ。」レモネード「諦めません！絶対出塁します！」2球目は…　　アクア「ハアー！！」フォークが迫る。レモネード「ヤアー！！」カキン！バットの芯に当たった。ドリーム「何！」「アクアの横を過ぎようとする。レモネード「行けえー！！」しかし…」

パシッ！！アクアが右手を軽く出しキャッチする。レモネード「アッ…」リズム「ナイスアクア！」アクア（あなたにはまだ早いわ出直してきなさい。）そんな目でレモネードを見るアクアがベンチへ戻っていく。レモネードは悔しさのあまり、レモネード「クソッ！当たったのに！」バットを投げ捨て感情を剥き出しにする。レモネードファンの方スイマセン。

パッション「今のは抜けたと思ったけどね…」メロディ「まあ、アクアは運動神経がいいから取られたんだよ。」ホワイト「元気出してレモネード！またチャンスはあるわ。」レモネード「…ハイ、分かっています…」そんな様子を見ていたメロディは…

メロディ「レモネード相当落ち込んでるね…」ムーンライト「無理もないわ。仲間のアクアに打ち取られたのにあんなに感情を剥き出しにするなんて初めて見たわ。」客席では…

ディディ「ウオーー！レモネードちゃん！！」ディクシー「ウルサイ！黙りなさい！！」ディクシーはディディを殴る。ディ

ディー「ふぎや！」　ディーディーは気絶した。

タルト「Aはチャンスは作るけどあと1本が出ないでー。」　マルス「守備に助けられる場面が何度かあるのでアクアは何とか0点に抑えてますね。」　タルト「次の回は打撃力が高い上位打線やから次の回が正念場かもしれないでー。」　次回へ続く

同期対決アクアVSミント（後書き）

アクアとレモネード勝負のやり取りを真剣勝負にアレンジしました。この先にも意外な人が真剣勝負を繰り広げるかもしれません。

上位打線との勝負（前書き）

2 巡目に入るBチーム打線。ムーンライトはどう切り抜けるのか？

上位打線との勝負

3回裏Bチームはリズムから始まる。リズム「やっと打順が回ってきたわ。この話読んでる人忘れてるんじゃないの？」スイマセン、書いてる自分が忘れそうでした。

ムーンライト「リズムを出したら上位打線に回る。絶対出してはいけない！」最初はカーブでボール、2球目はストライク、リズム（まだまだ球威はあるわね。）3、4球目はボールで1ストライク3ボールになる。ムーンライト「クソッ！ストライクが入らない。」ミント（ムーンライト落ちていて！）リズム（例えフォアボールでもいい！塁に出れば上位に回せる！）

ムーンライト・リズム「ハアー！！」ストレートが向かってくる。バシッ！！カオル「ボール、フォアボール。」リズム「やった！」ムーンライト「クソ！フォアボールにはしたくなかったわ。」2巡目に入り1番のイーグレットへ。イーグレット（初回に比べて制球力が無くなってきている。この回が勝負ね…）ムーンライトの初球はフォーク。しかしわずかに外れてボールになる。2球目はストライク。3球目は…イーグレット「ストレート！！」カキン！ムーンライト「アッ！」惜しくもファールのようだ。ムーンライト「危なかったわ。ストレートはやめましょう。」ミントがサインを出し勝負の4球目は…

ミント「マズイ！甘いコースよ！！」イーグレット「もらったわ！！」スライダーが甘く入る。ムーンライト「マズイ！」カキン！ボールがレフト前に落ちる。ノーアウト1、2塁で2番ルミナスに回る。ムーンライト「マズいわね。」ルミナス（ここは確実に次に回します。）ルミナスはバントの構えだ。ホワイ「確実に送る気ね。」内野陣もバントに備える。ムーンライト「送らせないわ！」

フォークを投げ1球見送りストライク。ルミナス「フォークはバントしにくいな。」2球目は何を投げるか…　　ルミナス「スライダー！」スライダーをバントしようとする。しかし、同時にリズムとイーグレットがスタートを切る。ブラック「エッ？」ホワイト「これは…」ピーチ「ダブルスチールよ！」ムーンライト「クッ！」ルミナスのボールはホワイトの方へ。ムーンライトがファーストのカバーに入り1アウト。ムーンライト「やられたわ！」ベリー「まさか走ってくるとは思わなかったわ。」Aチームは動揺を隠せない。1アウト2・3塁で、マリン「次はピッキーさんか。」パツシヨン「マズイ展開ね…」内野陣が集まる。

ブラック「次はピッキーさんね！」マリン「ホームラン打ちそうだよ。」ホワイト「そうなると致命的ね…」ミント「ここは敬遠しましょう。ルージュと勝負になるけどリスクは低くなるわ。」ムーンライト「屈辱だけだったわ。」全員が戻っていきピッキーが打席に入る。それを見てミントが立ち上がる。それを見ていたベンチでは…

ブロッサム「エッ？」ドリーム「敬遠!？」アクア「ルージュと勝負する気ね。」ルージュ「勝負してやろうじゃん!」ピッキー「残念ですね、ムーンライトは勝負すると思いましたがね。」ミント「勝負したかったけどリスクは避けます。」ピッキー「わかりました、それも作戦ですね…」勝負してもらえずピッキーはフォアボール。ルージュ「よし！燃えてきたよー!!」ムーンライト「もう1点もやらないわ!!」ムーンライトのストレートが決まる。ルージュ「速い！さっきよりスピードが上がった？」ムーンライト「ハアー!!」フォークが向かってくる。ルージュ「クッ！やっぱり速い!」手も出さず2ストライク。ドリーム「ルージュ…」アクア

「ルージュを信じましょう…」ムーンライト（追い込んだ。次で勝負よ！）サインを出しうなずく。ルージュ「勝負！！」3球目は・

ムーンライト「イケエー！！」152キロのストレートが襲う。ルージュ「負けないわ！！」負けじとバットを出す。ルージュ「ハアー！！」バキッ！！ボールがバットに当たりバットが折れる。ボールはレフト方向へ・・・ムーンライト「勝った…」パッションが追っていく。パッション「バットを折るなんて凄いわ、これならさすがのルージュも…ってエッ？」パッションが足をとめてしまった。ムーンライト「パッション？」ボールの方を追っていくとボールはレフトスタンドに入った。ムーンライト「なっ？」ブロッサム「やりました！！満塁ホームランです！！」ドリーム「スゴイよルージュ！！」ルージュがゆっくり走りながらムーンライトを見て、ルージュ（ムーンライト、あなたはやっぱりスゴイ。バットを折られるとは思ってなかったけどあそこまでの奇跡ですよ…）

打たれたムーンライトは、ムーンライト（バットを折りながらもスタンドまで持っていく、私の完敗ね…）ミントがタイムをして全員が集まる。

ブラック「ここまでよく頑張ったよ！」ミント「ここで交代ね…」ホワイト「大丈夫！もしかしたらまた投げる事になるかもしれないわ。」ムーンライト「ゴメンナサイ！先発でありながら3回も投げきれなかった…」ムーンライトの目には涙が…

パッション「気にしないで！必ず逆転するわ！！」メロディ「負けたら女がたる！！」みんなに励まされてムーンライト無念の降板。Aチームは一旦全員がベンチに戻りポジション変更を行うようだ。誰が登板するのか？次回明らかになる。

上位打線との勝負（後書き）

ムーンライトが降板！！点差は6点。この逆境を跳ね返すことはできるのか？また2番手は誰なのか？期待して待っていてください！！！！

反撃（前書き）

ムーンライトが降板して2番手ピッチャーが現れる。この展開を
打開できるか？

反撃

Bベンチに戻ったルージュー達は……ドリーム「スゴイよ！まさかホームランを打つとはね。」

当然ね！」6点差に気が緩む一同だが1人だけ気を抜かない人が……リズム「ピッキーさん、どうしたんですか？」ピッキー「イヤ、3回持たずにムーンライトが降板。次誰が登板するのか考えてたんですよ。」ドリーム「大丈夫ですよ！6点差なら勝てますよ。」ピッキー「油断した時に隙ができ、一気に逆転される、それが野球の怖い所ですよ。」そう言いバットの手入れを入念に行う作者。ブロッサム「ピッキーさん、ぬかりはないようですね。」アクア「そうですね、油断したら負けるわね……」ピッキーの一言で全員気を引き締め直した。

Aチームがベンチから出てくる。タルト「出てきたみたいや。誰が2番手かやな！」2番手はパッションのようだ。ムーンライトとミントがベンチに入りピーチがレフト、ブラックがファースト、ホワイトがキャッチャー、ローズがサードに入った。ブラック「頼んだよパッション！」パッション「全力で抑えるわ！」サンシャイン「どうやらパッションのようね……」ルミナス「手ごわそうですね。」ブロッサムが打席へ向かう。ブロッサム（甘く来たら狙っていきましょう。）初球は……

パッション「ハアー！」ブロッサムの手が止まる。ドリーム「エッ？」ストライクを取られる。アクア「変化球から来たわね。」ホワイト（次は左よ……）サインを出しパッションもそれに反応する。バシッ！！スライダーが決まり2ストライク。ブロッサム「パッションもレベルが高いです。手が出ないです」（汗）パッション「

勝負！！」3球目は…ブロッサム「何！？」バットを振るが落差のあるフォークが決まり空振りに終わった。パッション「チェックメイト！」パッション第2の決め台詞も決まった。ブロッサム（今のフォークは何ですか？あんな速いフォーク打てません。）サンシャインが打席に向かう。サンシャイン（ブロッサムを3球三振、遊び球は来そうもなさそうね…）パッション「ハアー！」サンシャイン「甘い！」ストレートを打つ。カキン！リズム「当たった！」しかし、サンシャイン「チッ！打ちあげたわ！」ボールはメロディの方へ。メロディ「OK！」メロディがキャッチして3アウト。4球で抑えられてしまった。サンシャインが帰ってくる。ピッキー「どうでした？今の球は。」サンシャインに話しかける作者。サンシャイン「甘いストレートを当てたと思ったけど簡単に打たされた。あの球、思った以上にクセ球ですよ…」ピッキー「なるほど…」

メロディ「スゴイ！たった4球で2アウトを取ったよ。」パッション「運が良かったのよ。」ブラック「この回反撃よ！！」4回表Aの攻撃は3番パッションから始まる。パッション「必ず打つ！」アクアの初球はスライダーでストライク、2球目はボール、3球目は、パッション「カーブ！」カーブを打つ。ボールはドリームの方へ、ドリーム「ウワ！」ドリームのミットを弾いて内野安打になる。ドリーム「ゴメンアクア！」アクア「気にしないで、打ち取れば関係ないわ。」次はブラック。ブラック「必ず打ってやるわ！！」アクアがスライダーを投げファール、カーブを見送りボール、ストレートを見送りストライク、カウントは2ストライク1ボール。アクア「ブラックは危険だから慎重にいかないと。」サンシャイン（ブラックは何を狙っているか読めないわ…）心理戦のようだ。アクア（次の1球で決める！）勝負の1球は…

ブラック「ハアー！」ストレートを捉えた。アクア「クッ！」ボールはライトへ。ルージュが追うが足を止める。ボールはライトスタンドへ入った。ブラック「ヨッシャー！！」ガッツポーズをしながらホームイン！ホワイト「やったわねブラック！」ピーチ「2点返したよ。」アクア（今のストレート、失投ではなかったわ、ブラックはやはり恐ろしい相手ね…）ブラックの怖さを痛感させられたアクアだった。次はメロディ。サンシャイン（さっきは打たれたけど今度は打たせないわ！）カーブのサインを出しアクアもうなずく。アクア「行くわよ！」カーブを投げる。しかし、

サンシャイン「真ん中高め！？」「カーブが甘く入ってしまう。メロディ「打たなきゃ女がすたる！トリヤー！！」アクア「アッ！」バットの芯に当たりボールはセンターへ。ピッキー「真ん中高めに入った。これはヤバイぞ！」懸命に追うがボールはスタンドに入り2者連続ホームランを許してしまう。アクア「今のは失投だったわ！屈辱ね…」メロディがホームイン！メロディ「あと3点！逆転も夢じゃないよ！」内野陣が集まる。

ルミナス「2者連続ホームランで3点取られました…」ブロッサム「これがピッキーさんの言っていた野球の怖さですか…」アクア「…大丈夫、ここから抑えるわ。」ドリーム（アクア、精神的に追い込まれてるわ…）アクアの表情を見てドリームが悟る。仲間だからこそ気持ちがわかるみたいだ。外野でも…イーグレット「アクア、精神的にマズイわ！」ルージュ「負けず嫌いだからなアクアは、ホームラン2発はさすがに応えてるとおもうな。」ピッキー「ここが正念場ですね…」

反撃（後書き）

Aチームの打線がアクアを捉え始める。アクアは耐えられるのか？次回も期待してください！

攻防戦（前書き）

精神的に追い詰められるアクアは下位打線を相手にどう切り抜けるのか？

攻防戦

4回表ノーアウトで6番ベリー。ベリー「アクアは動揺している、この回イけるわ！」アクア「絶対抑える！」アクアは気を引き締める。アクア「ハアー！」ストレートを投げるがボール。アクア「クッ！やっぱりキツイか。」その後もストライクが入らずフォアボールに。ベリー（フォアボールか、まあいいわ…）ノーアウト1塁で7番はムーンライトに代わりピーチが右打席へ向かう。

ピーチ「ここで打てば流れは完全にこっちに来る！」アクア（ここで崩れる訳にはいかない！）アクアはストレートを投げる。ピーチ「速い！」スピードが増し空振り。ピーチ「次こそは…」

アクア「ハアー！」バシッ！手も出ず2ストライク。ブラック「アクアの球威が上がったよ！」ミント「絶対打たせないつもりね。」アクア「勝負よピーチ！」ピーチ「上等…！」

アクア・ピーチ「ハアー…！」勝負の1球は…

ピーチ「クッ！」アクアはピーチにストレートを3球続けて投げ三振にした。ピーチが戻っていく。ピーチ「何て速さなの！」次はホワイト。ホワイト「1打席目よりも打ちにくそうね。」アクアの初球は… ホワイト「ストレート！？」147キロのストレートが決まる。ホワイト（何、このスピードは？）2球目も空振りになる。サンシャイン（今のアクアなら打ち取れるわ！）サンシャインが真ん中に構える。アクア「ハアー…！」ホワイト「何！？」「バシッ…！」

ホワイト手も出ず見逃しの三振に終わる。アクア「あと1人…」ローズ「どうしたの？あなたらしくないわね。」ホワイトに話すローズ。ホワイト「ローズ、油断しない方がいいわ！さっきまでのアクアとは別人よ…」ローズ「私がストレートで三振する訳ないでし

よ？」自信たっぷりのローズは右打席へ。

ローズ「勝負よアクア！！」アクア「上等よ！！絶対抑える！」
アクアは初球にストレートを投げローズが見送る。判定はストライク。ローズ（なるほどね、さっきより球威が上がってるわ。）アクア「ハアー！」ローズ「甘い！！」カキン！バットに当たるがサード横を僅かに左にいきファール。その後もファールとボールを繰り返しかウントは2ストライク3ボールに。ブラック「2人とも凄いね…」メロディ「熱気がこっちにも伝わってくるよ。」アクア・ローズ「ハアハア…」2人とも息が上がっている。ローズ「次の…」アクア「1球で…」ローズ・アクア「勝負！！」勝負の10球目は何を投げるか？アクア・ローズ「ハアー！！」判定は……

バシッ！！カオル「ストライク！バッターアウト！！」ローズは打つことができず三振に終わった。アクア「やったわ！！」サンシヤイン「ナイスアクア！！」ローズが帰りながら（何なの？私がストレートを打てなかった。まあいいわ、次の回には捉えてやるわ…）一方Bベンチでは…

アクアが座り込む。アクア「ハアハア、何とか抑えたわ。」ルージュ「お疲れ様！！」ルミナス「頑張りましたね！」ピッキー「おそらく次の回で交代した方がいいですね…」アクア「あと1回頑張るわ！」

4回裏7番ドリームが打席へ向かう。パッション(ドリームね、一応気をつけないと!)パッションの初球は、ドリーム「ウワ!」スライダーに空振り。2球目もストレートに空振り。パッション「追い込んだね。」ドリーム「絶対打つ!!」パッション・ドリーム「タァー!!」バシッ!!ドリームはボール球を振ってしまい三振ドリーム「ああー!!」ボール球振っちゃったよー!!」(泣)ルージユ「何やってんだか…」呆れ気味のルージユ。アクアが打席に向かうが疲労感が顔から出ている。アクア(……甘い球を狙うしかないわ!)パッションの初球は…

アクア「甘いわ!!」ストレートに狙いを絞った。カキン!バットに当たるがボールはショートへ。アクア「打たされたわ!」マリッ「ブラック!」マリッが軽快な動きでボールを送り2アウト。パッション(1球で打ち取れたわ。)アクア(まんまとパッションにしてやられたわ!)悔しさだけが残るアクアだった。

リズム「3人で終われない!!」気合いを入れるリズム。パッション(あなたに打たれるイメージが全く頭に浮かばないわ…)余裕の表情をするパッション。初球はスライダー、2球目もストレートで追い込まれる。リズム(やっぱり打ちにくい、とにかく当てないと…)パッション「行くわよホワイト!」ホワイト「エエ!!」勝負の1球は……

パッション「ハァー!!」リズム「なっ!?!」150キロのストレートにバットは空振り。パッション「チェックメイト!」ホワイト「ナイス、パッション!!」リズム「私としたことが三振、あのストレート速かったわ!!」パッションの前に1人もランナーを出せないBチーム。ブロッサム「1人もランナーを出せませんね…」(汗)イーグレット「力強い直球と多彩な変化球に手も出ないわね。」

「アクア「ルミナス、備えておいてくれない？万一の時にね…」
「ルミナス「わかりました！」サンシャイン「ブルーム、ルミナスの投
球練習頼むよ！」ブルーム「ヨッシャー！ワカッタナリー！」ドリ
ーム「パインはショートを頼むよ。」パイン「わかったわ！」ルミ
ナスはブルペンに入り投球練習を始める事に。これがどう出るか？
次回へ続く！！

攻防戦（後書き）

アカア「この回何としても抑えてやるわ!」ドリーム「頼んだよ、アカア!」ブラック「次もホームラン打ってやるわ!」

勝負を分ける戦い！（前書き）

アクアはこの回をしのぎ次につなげられるか？正念場です。

勝負を分ける戦い！

5 回表 A は 1 番 マリン から。マリン「3 打席目ね、そろそろ打たないとね。」マリンも慎重になっている。この回から ルミナス が ベンチに入り代わりに パイン が 2 番 ショート に入る。アクア「行くわよ！」ストレートで ストライク。マリン「まだ速いね、でも目は慣れてきてるよ！」サンシャイン（ハッターよアクア！）目で アイコンタクトをする バッテリー。2 球目は マリン「カーブ！」カーブに バットを出す。カキン！アクア「アッ！」打ったボールは レフトへ。マリン「ヤッター！初ヒット！」サンシャインが向かう。サンシャイン「ゴメン。マリンを侮ってたわ。」アクア「気にしないで！必ず 0 点に抑えるわ。」レモネード「さっきのリベンジ果たします！」
「試合が入るレモネード。アクア「絶対打たせないわ！」初球はフォークでボール、次はストレートをファール、3 球目もボール、レモネード（次は何が来るか…）サンシャイン（次はコレよ…）アクアもうなずく。アクア「タァー！」レモネード「来た！」カーブを打つ。アクア「パイン！」ボールはショートへ。パイン「取らなきゃ！」パインが取るうとダイビングキャッチを試みる。パイン「キャー！」しかしボールは抜けセンターへ。パイン「取れなかった、マジわ…」レモネード「やりました！」ガッツポーズをするレモネード。アクア「これじゃ前の回と同じじゃない！」ブロッサム（落ち着いてください、アクア！）ドリーム（まだ抑えられるわ！）ノーアウト 1、2 塁でヒットを打っているパッション。

マリン（よし！アクアは動揺しているはず！もつと揺さぶろうかなー。）パッション「打ってやる！」アクアは間合いを取りながらストレートを投げるがボール、サンシャイン（マリン揺さぶろうとしているけど、そうはさせないわ！）サンシャインがアクアに返

す。アクアもマリンを警戒する。ホワイト「マリン、リードが大きくない？」ローズ「牽制アウトにならなきゃいいけどね…」アクアが投球姿勢に入る。しかし、

アクア「調子に乗りすぎよ！」マリン「エエっ!？」アクアの牽制球にマリンがあわてて戻ろうとする。ブロッサム「往生際が悪いです！マリン!!」ボールはブロッサムに渡りマリンは戻れずタッチアウトになる。マリン「マジで!？」ブロッサム「やりました!」「ローズ「何やってんのよー」(激怒)マリン「だって」(泣)パッション(全くマリンは…集中力が欠けるわ。)アクア(一か八かこの球を投げてみるか…)アクアの言う球とは…

アクア「行くわよ!アクアストレート!!」パッション「アクアストレート!？」ドリーム「何それ!？」タルト「おーっと!アクアの新球種か?」マルス「どうでしょう?」

アクアストレートは水しぶきを出しながら向かってくるストレートです。(オリジナル球種です)

パッション「クッ!でもストレートなら…」カキン!バットに当たるが…パシッ!キャッチャーフライに終わった。サンシャイン(何だろ?普通のストレートなのに水しぶきで威力が増してる!この対決ならではの球種だね…)パッション「クソッ!油断したわ。」

次は前の打席でホームランのブラック。ブラック「アクアストレート、危険ね…」アクア(アクアストレートは切り札として使うわ。)初球はスライダーで様子を見る。ブラック「タァー!」カキン!ボールが打ちあがった。リズムが追う。リズム「アレを取ればチェンジになるわ!」懸命にボールを追うが…リズム「キャー!!」ボ-

ルを追っていき客席に突っ込む。アクア「リズム！大丈夫！？」「リズム」「平気、平気、気合のレシピア見せてあげないと！」「ボールは取れなかったが、大丈夫のようだ。ブラック「危なかったわ。（冷汗）仕切り直しね。」次はストレートが外れボール、3球目はフォークで空振り。4、5球目はスライダーが外れてフルカウントに。ブラック（そろそろ来る…）アクア（勝負よ！！）サンシャイン（アクアならやれるわ！）アクアが勝負に使ったのは…

アクア「アクアストレート！！」ブラック「来たね！タァー！」バットに当たる。アクア「何？」ボールはドリームの方へ。ドリーム「絶対取る！ウオーー！！」ライト方向に抜けると思われたボールをドリームがダイビングキャッチする。ブラック「なっ！？」「アクア「ドリーム！大丈夫！？」

ドリーム「エヘヘー、大丈夫だよ。アクアの為なら頑張れるよ。」アクア「全く、あなたは…」ドリームのファインプレーでピンチを逃れた。

ブラックはヘルメットを外しながら…ブラック（ドリームがあんなプレーをするとは…油断も隙もないね…）そう思うブラックだった。Bベンチでは…

イーグレット「凄かったわ！アクアストレート！」アクア「自分の特徴を入れただけのストレートよ。」ルージュ「でも0点に抑えたわ！」ルミナス「まだ抑えれそうですね！」アクア「本当はこの回で降りる予定だったけどまだイケそうね。」ブロッサム「当然です！！私たちが体を張って守ります。！」パイン「そうよ！私たちが信じて！」ピッキー「最後までやってやりましょう！」アクア「

みんな……」アクアはみんなの励ましで涙ぐむ。ドリーム「泣かないでアクア！アクアに涙は似合わないって！」サンシャイン「そうだよ。泣くなら勝ってからにしてよね！」こうしてアクアは立ち直りつつあった。次回へ続く

勝負を分ける戦い！（後書き）

ルミナス「私の出番はもう少し延びそうですね。」リズム「まあいいじゃない！アクアが復活しそうじゃない。」ドリーム「このままリードを守るよ。ケッテイー！」

バッシヨンの投球術（前書き）

小笠原諸島と平泉の文化遺産が世界遺産に登録されました。中でも平泉は、私の地元岩手なので地震で被害を受けた東北に元氣を与えてくれる明るい起爆剤になってくれることを願っています。この小説も皆さんに支えられています。ありがとうございます！！

パッションの投球術

5回裏Bチームはイーグレットから。イーグレット（パッションからヒットを打つにはどうしたら…）そう考えながら打席へ。ホワイト（イーグレットね、ここは用心して…）ホワイトは慎重に入る様だ。パッションはカーブから入りボール。その後もファールとボールを繰り返しフルカウントまで粘る。ドリーム「粘ってるね、イーグレット。」ルージュ「絶対に出塁したいみたいね。」

イーグレット（ハアハア、なんとかフルカウントまできたわ。）パッション（ここまできてフォアボールには絶対できない！！）勝負の球は…パッション「勝負よイーグレット！」イーグレット「上等！！」パッションのストレートは…

バシッ！！カオル「ストライク！バッターアウト！！」イーグレット三振。パッション（ハアハア、何とか打ち取った。）イーグレット（クソ！打てなかったわ。）悔しさが残るイーグレットに、ピッキー「今のストレート速かったですね。」ピッキーが話しかける。イーグレット「ピッキーさんなら打てますよ。パッションから打ってくださいね！」ピッキー「打てるかわからないけど何とかやってみますよ。」

次はルミナスの代わりに守備から入っているパイン。フレッシュ対決の実現だ！！

パイン「パッション、あなたとは初対決ね！」パッション「そうね、でも例え仲間とはいえ今はただ目の前の相手を抑えるのみよ！！」

パッションの初球は、パイン「速い！」ストレートに手が出ずストライク。パイン（やっぱりパッションからヒットを打つのは難しいけどどこかにスキはあるはずよ。）パッション（パイン、あなたには打てないわ、）心の中で互いの想いが交錯する。パッション「ハアー！！」スライダーがパインに迫る。パイン「速くてもバットに当たれば！」

パインはバントの構えをする。メロディ「バント！？」「ブラック「隙をつかれた！？」内野陣は混乱する。パッション（無駄よ！）カキン！パイン「アッ！！」ボールは上空に上がった。ホワイト「絶対取るわ！」ホワイトはボールを追っていきダイビングキャッチを試みる。ホワイト「キャー！！」ホワイトはフェンスにぶつかる。パッション「ホワイト！！」ホワイトは手を上げてグローブを見せる。手にはボールが握られていた。パッション「ホワイト大丈夫！？」ホワイト「ハアハア、何とか取れたわ。」パイン「バットに当たっても上に上げちゃ意味がないわ。」作戦失敗のようだ。

パッションに代わってから1人もランナーを出せないBチーム。リズム「ここまでパッションの前に……」アクア「誰も塁に出ていないわ……」リードしているとはいえ空気は重い。

ドリーム「残るはピッキーさんとルージュだけだよ。」ブロッサム「頑張ってください！！」ピッキー「粘っていくしかないか。」ピッキーが打席へ。パッション（この次はルージュ。絶対抑えないと……）パッションの初球はフォークでストライク。次の球は、パッション「ハアー！」ストレートを投げる。ピッキー（外角コースか……）ピッキーはコースを見極めボール。次もボール。それを見たホワイトは、ホワイト（コースを見極めてるわ。やっぱり簡単に抑えれそうもないわ！）パッションも冷静さを失いつつあった。パッ

ション（クツ！絶対抑える。）しかし気持ちとは逆に4球目もボールで1ストライク3ボールに。ドリーム「あのパッションが乱れる！？」「パイン「表情が明らかに変わったわ！」「パッション「ハアー！」「バシッ！ストレートを投げるが高めに外れフォアボール。パッション「ランナーを出してしまっただわ！マズイわね。」「ルージュ「よし！私も続くぞ！」「ピッキー（パッションは初めてランナーを背負うから動揺しているはずだな…）ピッキーは何を狙うか？

ルージュ「打ってやる！」「パッションは投げようとした。それと同時に…ブラック「アッ！」「ブロッサム「盗塁です！」「ホワイト「ウソ！？」「パッションのスキについてピッキーセカンドへ盗塁を狙う。ルージュも予想していなかった。ルージュ「ウソ！？マジで！」「パッションはストレートでストライクを取り、ホワイトはすぐにセカンドへ送る。ホワイト「レモネード！」「しかしセカンドに送られる前に盗塁を成功させる。レモネード「速いです！」「ホワイト（私の肩じゃ盗塁阻止は難しい…）ルージュ（ピッキーさん、アクアを少しでも楽しみにしようとしている。私も続かなきゃ！）パッション（ここで悪い流れを断ち切るわ！）パッションは何を投げるか？

パッション「ハアー！」「フォークを投げる。ルージュ「フォークか、でも負けないわ！ハアー！」「カキン！」「パッション（ウソ！）リズム「いけるわ！」「ボールはピーチの方へ。ピーチ「アレを取れなかったら致命的になる。なんとしと…」「ピーチが全力で追う。ピーチ「ハアー！」「フェンスにぶつかりながらボールをキャッチする。パッション「ピーチ！大丈夫！？」「ピーチ「大丈夫だよ！これで幸せゲットだよ！」「一方ルージュは…ルージュ「ピーチに取られたか…」悔しさが残るルージュだった。

前半を終わり10分間のグラウンド整備に入る。スコアは3対6でBがリードしている。それぞれのベンチでは…ムーンライト「3点リードされてるわね…」マリン「3点差ならまだ大丈夫だよ！」ブラック「まだパッションはヒットを打たれてないしね！」パッション「でも油断はしないほうがいいわね。」

Bベンチでは…アクア「何とか5回まで投げれたわ…」サンシャイン「ここからは継投策がいいかもね。」ドリーム「ルミナスも控えているしね！」リズム「このまま勝つわ!!」

次回へ続く

バッシヨンの投球術（後書き）

かなり模擬戦で長引いていますが何とか5回まで書けました。な
んとか早めに模擬戦を完結できたらいいなと思います。

投手戦（前書き）

メロディ「ここで打たなきゃ女がすたる！」アクア「2打席も打たれるものですか！」今回も真剣勝負です。

投手戦

6回表、Aは5番メロディから。メロディ「またホームラン狙っていかー！」アクア「これ以上は打たれる訳にはいかないわ！」アクの初球は…

メロディ「甘いスライダーだ！イケる！」カキン！メロディ「うわ！サード正面のゴロじゃん。」リズム「メロディの割には打ち損じね。」リズムがボールを素早く取りドリームへ送り1アウト。メロディ「クソー！1球で終わったー！」ベリー「メロディったらバカね。甘い球だからって単純すぎるわ。完璧に打つには慎重にいかないと。」ベリーへの初球は、アクア「ハアー！」ベリー「もらったわ！」カキン！ベリー「エエッ！？今度はショート正面？屈辱だわ。」パインも危なげなくキャッチしてドリームに送り2アウト。ベリー「……」メロディの事が言えないベリーだった。メロディ（ベリーだって1球で打ち取られてるじゃない。人の事いえないじゃん！）（怒）アクア「あと1アウト。」ピーチ「ここは3人で終われない！」気合が入るピーチだったが、ピーチ「だあー！やられたー！」ピーチ3球三振で打ち取られる。ローズ「ボール球に手を出しすぎよ！」（激怒）ピーチ「トホホ、2三振か…」アクアこの回を5球で終わらせる。アクア「5球で終わらせたわ！」サンシャイン「頼むよブロッサム！」ブロッサム「わかりました！」パッション「攻撃が短いわ。全然休めないじゃない！」愚痴を言いながらマウンドに上がるパッション。

ブロッサム（出塁できれば慌てるハズ…）初球はカーブを見送りボール。2、3球目はスライダーを空振り。ブロッサム「なんとかあてないと！」パッション「終わりよ！」パッションの勝負球は…

ブロッサム「カーブが甘い！チャンスです！」カーブが甘く入る。パッション「ブラック！」ブラックが取るうとしたが、ブラック「うわ！抜かれたー！」グローブの先をかすめてライト前ヒットになる。ブロッサム3打数2安打。パッション「クッ！ブロッサムに打たれるとは…」サンシャイン「コントロールが甘くなってきたわ。この回が勝負ね！」ホワイト「マズいわね。」ローズ（疲れが出てきてるみたいね…）初球はストレートが外れボール。パッション（とにかくストライクをとらないと。）2球目はスライダー。サンシャイン「ハアー！」ストライクを取りにいった所を狙われライト前ヒット。ホワイト（ストライクを取りにいった所を狙われてるわ！）次はドリーム。

ブラック（大丈夫！ドリームには打たれない…）しかし、ドリーム「イタッ！！」パッション「アッ！ゴメン！」ドリームに痛恨のデッドボール。ドリーム「変身してなかったら骨折してたかも」ブラック「そんな大げさな。」ノーアウト満塁になり内野陣が集まる。マリナー「どうしたの？この回急に打ち込まれてるよ。」レモネード「疲れが出てきてますね。」パッション「大丈夫！自分で招いたピンチは自分で切り抜けるわ。必ず抑えるわ！」ブラック「わかった！信じるよ。」アクア「そろそろ限界が近いようね。」ホワイト（アクアも長打力があるから気を付けなと！）

ホワイトはフォークのサインを出す。しかしパッションは首を振る。ホワイト（エッ！？じゃあカーブ？）またも首を振る。ホワイト（まさか！？……わかったわ！あなたを信じるわ！）パッション（ありがとう！ここから先はストレートしか投げないわ！）アクア「何で来るかしら？」パッション「ハアー！」ストレートを投げ込む。しかし、アクア「甘いコースね！」バットに当たり

外野に抜けようとしたが……マリン「ウォリヤー!!」マリンが気迫の横っ飛びでキャッチする。サンシャイン「危なかったー!ダブルプレーになるとこだったよ。」(冷汗)アクア(マリン、どこにあんなプレーができるの?)リズム「絶対に打つ!!」パッション「あと2人……」

パッションは宣言通りストレートを投げストライク。2球目もストライク。リズム(3球続けてストレート?全部ストレート勝負のつもり?)リズムがバッテリーの心理を読む。

パッション「ハアー!」リズム(予想通りストレート!これなら……)バシッ!

リズム「なっ!」?」ストレートだったがリズムのバットに当たらず空振り三振。ホワイト「ナイスパッション!」リズム(ストレートが来るってわかってたのに打てなかった!どうして?……)リズムが帰ろうとした時、イーグレット「どうだった?今の球。」リズム「予想だけどパッションはストレートしか投げてこないと思うわ。」

気迫がさつきと違うわ。」イーグレット「……わかったわ。ありがとう。」パッション「イーグレット、一番の山かもね。」ローズ「頼むわよ!」パッション「行くわよ!」ストレートを投げる。イーグレット「ストレート!」バットを当てファールに。2・3球目もストレートを投げ2ボールになる。イーグレット(どうやらストレート勝負のようね。)パッション「ウォー!!」イーグレット「タアー!」真ん中のストレートを当てる。ボールはライトボールのわずか右をかすめた。ベリー「危なかったわ。(冷汗)」メロディ「意外と飛ばすね……」イーグレット(あなたのストレートは見極めたわ!)パッション(マズイわね、こうなったら初めて投げるあの球で勝負するしかないわね……)あの球とは…?

パッション「勝負よ！ハリケーンストレート！！」イーグレット
「エッ！？」パッションが足を高く上げ腕を振りおろしながらスト
レートを投げ込んだ。そのスピードは増していた。イーグレット「
速い！！」バシッ！！カオル「ストライク！バッターアウト！！」
パッション「やったわ！」ブラック「スゴイよパッション！」その
横で……イーグレット（クソ！またしても打てなかった。それにし
ても今のストレート、ピッキーさんでも打てないかもしれないわ…
…）

ピーチ「スゴイよ！ノーアウト満塁をしのいだよ。」パッション
「みんなが信じてくれたからよ。」メロディ「次の回点を取りにい
くよ！」

Bベンチでは……イーグレット「クソ！」ヘルメットを取りなが
ら怒りをあらわにする。ブロッサム「落ち着いてください、イーグ
レット（汗）」ドリーム「まだ勝ってるんだよ。」イーグレット「
でもストレートが来るとわかって打てなかった！これまでにない
屈辱だわ！」ブルーム「気持ちはわかるけど冷静にならないと負け
ちゃうわ。」ピッキー「そうですよ。冷静なあなたらしくないです
よ。大丈夫！次は打てますって。」ブルームとピッキーが落ち着か
せる。イーグレット「……そうね、ゴメンナサイ！私としたことが
「ルミナス」大丈夫です。気にしないでください。ここからは私が
抑えます！」アクア「頼んだよルミナス！」

投手戦（後書き）

ルミナス「ルージユ、キャッチャー頼みますね!」ルージユ「任せときなつて!このままリードを守るよ。」

ルミナス出陣！！（前書き）

2番手としてルミナスが登場！！しかし、勝負はこの回左右すること？

ルミナス出陣！！

7回表、Aは9番ローズから始まるが、始まる前に円陣を組んだ。ブラック「みんな！！この回なんとしても点を取るのよ！」全員「オー！！」Bはルミナスがマウンドに上がり、アクアがベンチへ。キャッチャーにルージユ、ライトにサンシャインが入る。

なおここで1つお知らせがあります。パインとブルームにサードを追加しました。（理由、リズムを登板させるとサードがいなくなる事に気づきました。なのでこうしました。すいませんでした！）プロフィールでも変えたので気になる方はどうぞ！お知らせを終わります。続きをどうぞ！！

イーグレットはウィンディに変わり守備を固める。ルミナスの投球練習を見てルージユは、ルージユ（スピードや球威はそんなにないけど、コントロールは悪くない。ゴロを打たせて行くか…）

ローズが打席へ。ローズ（チェツ！アクアと勝負したかったわ！……でもいいわ。ここで打てば少しは気が楽になるわ。）心の中でそんな事をいうローズだった。ルミナス「行きます！」注目の初球は……ローズ「何よコレ？」ストレートだったが、130キロだったので拍子抜けした。ブラック「アクアに比べたら速くないね。ベリー「これなら打てるわ！」ホワイト（何かしら？確かに速くないけどコントロールはアクアより上だね。）1ストライクで2球目。ルミナス「ハァー！」やはりアクアよりスピードが上がらない。ローズ（呆れたわ。これじゃあ簡単に打てるわ。一発狙うか！）133キロのストレートを打つ。カキン！！ローズ「よし！いったあー！！」メロディ「ナイスローズ！」しかしボールに勢いが無い。

ローズ「アラ？」（冷汗）ボールはセンターへ。パシッ！ピツキーがキャッチして1アウト。ミント「難しい球じゃなかったわね。」マリン「アタシだって負けられないよ！」マリンへの1球目……

マリン「速くないスライダーだね。コレなら！」当てに行くマリン。カキン！！マリン「よし！……」ってエエー！？「打ったボールはバウンドしてショートへ。マリン（ちゃんと当たったってばー！！）パイン「ドリーム！！」マリンも全力で走るがショートゴロに終わる。ベリー「ちゃんと当たっているのにどうして！？」レモネード「このまま終われません！」気合を入れるレモネード。ルージュ（大丈夫！落ち着いて投げな。）初球はスライダーでボール、次はストレートを空振り。3球目はファールで追い込まれる。ルミナス「追い込みました！」ルージュ（イイよ！次で終わりだ！）勝負球は……ルージュ（ヨシ！狙い通りストレートで三振……）

レモネード「ヤアー！！」ストレートを当てるレモネード。ルージュ「何！？」ボールがワンバウンドでライトへ抜けようとするが、ブロッサム「タアー！！取りました！」ブロッサムが横っ飛びでキャッチする。ワンバウンドの為、ファーストに送らないとアウトにならない。ブロッサム「ドリーム！」レモネード「絶対セーフになる！」レモネードも全力で走る。どっちが先か？

ナッツ「……セーフ！！」レモネードの足が勝り内野安打。レモネード「ハアハア、やりました！」次はパッション。パッション「甘く来たら打ってやる！」ルミナス「パッションか……」初球は、パッション「ストレートを打つ！！」ストレートに狙いを定め打つ。ボールはライトへ。サンシャイン「何としても取る！ハアー！！」

サンシャインがダイビングキャッチをする。サンシャイン「クツ！失敗したわ！」決死のプレーも実らず、ボールが後方へ転がる。ピツキーも向かう。ピツキー「抜かれたか。」その間にレモネードはサードを回りホームイン！！ピツキー「ブロッサム！」外野からブロッサムに渡るが、パッションはセカンドを陥れる。ルミナス「アア、打たれました…」落ち込むルミナス。ピツキー「大丈夫ですか？」サンシャインに手を貸す。サンシャイン「エエ、大丈夫です！これで2点差ですね。」ピツキー「このまま終わるかだな。」次は4番ブラック。

ブラック「ルミナス！仲間だからって手加減しないよ！」ルミナス「モチロンです！全力でお相手します！」マックスハート対決実現！！ルージュがブラックを見て、ルージュ（1番危険なバッターだからな……何で攻める？）サインを出す首を振る。ルミナス（ブラックと全力で勝負すると約束しました！この勝負に変化球は使いません！！）ルージュ（……わかった！その賭け乗ったよ！）ストレートのみで勝負をするようだ。

ルミナス「いきます！」宣言通りストレート。ブラック「そう来なくっちゃ！！」バットを出し当てるがファール。その後7球連続でファールになる。ブラック「ハアハア、やるね。」ルミナス「ハアハア、ブラックこそ……」9球目。ブラック、ルミナス「ハア――！！」「ズドン――！！」

ブラック「……アッ！」カオル「ストライク！バッターアウト！！」「ルミナス「ヨシ！」ブラック粘るが三振でこの回は1点のみに

終わった。マリン「1点止まりかー！」メロディ「大丈夫！あと2回で逆転できるって！」ホワイト「次の回しっかり守るわよー！」

ルミナス出陣！！（後書き）

継投策に出たBだが2点差に。このまま逃げ切れるか！？

意外な落とし穴（前書き）

2点差になりますます熱戦を演じる両チーム！しかし、意外な落とし穴が！？

意外な落とし穴

Bチームベンチでは……ルージユ「まさか1点取られるとはね……」変わったばかりのルミナスが1失点に動揺を隠せないルージユ。ルミナス「すみません、私が未熟なばかりに（汗）」

ブロッサム「そんな事ないです！反撃を1点に抑えたんですから。」
「ドリーム」このまま勝ちに行こうよ！「その一方で……アクア」この流れイヤな感じがしてきたわ。「ウィンディ」アクアもそう思う？私も胸騒ぎがしてしょうがないわ。「アクア、ウィンディ、リズム、ピッキー、サンシャイン、ブルームが相談をしていた。リズム「コントロールは良かったけど、打たれない保証はないわ。」サンシャイン「次の失点が大きく試合を動かすね。」ピッキー「リズム、ルミナスが失点したら登板できますか？」リズム「大丈夫です！早く投げたいですもん。」ブルーム「あー、私は……」アクア「ブルームは切り札って言ったじゃない。多分4番手になるわ。」ピッキー「もしもの時には必ずマウンドに上げますよ。」ブルーム「ヨシ！私も気合い入れてくか！」Bチーム7回裏は2番パインからパイン「今度こそ！」2度目の勝負はどちらが勝つか？

パッション「ハアー！」パイン「クツ！」パイン、パッションの前に3球三振に抑えられる。パイン「ハアー、打てなかった。でもピッキーさんなら打つて私信じてる！」次は作者ピッキーが打席へ。ピッキー「悪い流れを止める！」パッション「絶対打ち取る！」ホワイト（まずは外角低めで……）サインを出しうなずく。パッション「タアー！」低めのスライダーだが、ピッキー（低い！ボールだ。）慎重にコースを見極めボール。パッション「やはり厳しいか。」2球目にストレートを投げる。ピッキー「ストライクコースだ！」バットを出し当てに行く。ピーチ「アッ！？」ボールはレ

フットボールの横をかすめる。マリン「危な！やっぱりピツキーさんは危険だって！」ホワイト（打ち取るにはアレしかない……）パツシヨン（そうね、温存したかったけど使うしかない！）

ピツキー「アレが来る前に打ちたかったが……」

パツシヨン「ハアー！！」ドリーム「ハリケーンストレートだ！」ピツキー「クツ！」バットを出すのが空振り。ピツキー「やはりキツイナ。ベンチで見るより威力が違うな。」2ストライクで追い込まれる。ウィンディ「ピツキーさんでも打てないの!?」パツシヨン「次で決めるわ！」勝負球としてハリケーンを投げる。ピツキー「ハアー！！」バキン！！ハリケーンストレートに当たるがファールに。パツシヨン（当てた!?やはりスゴイ人だわ。）ピツキー（久しぶりだな、バットを折られるとは……）次もハリケーンを使うがまたファールになるが、バキッ！！ピツキー「クツ！またか！」ブロッサム「2本バットを折りました！」リズム「私には無理だわ（冷汗）」

ピツキー（ハアハア、どうやってたらあんな球続けれるんだ!?）パツシヨン（ハアハア、次で決める!）ピツキーとパツシヨン、勝つのは……パツシヨン「ハアー！」ハリケーンを真ん中低めに投げ込む。ピツキー「見切った！」カキン！！ドリーム「当たった！！」

しかし、バキッ！！アクア「3球続けて!?」ピツキー「クツ！」ボールはセンターへ。

メロディ「取ったー！」ピツキーセンターフライに終わる。パツシヨン（ピツキーさん、敵ながらアツパレだわ!）ベンチへ帰ってい

くピツキー。ブロッサム「惜しかったですね。」ピツキー「バットを3本折られてセンターフライ。あれはキツイですね……」ルミナス「ピツキーさんでも打てないなんて……」重い空気が包む。ルージュ「私に打てるの、アレが？」パッション「全力で行く！ハアー！」カーブが決まりストライク。ルージュ（ハリケーンを使われる前に打つしかない！）

パッション「ハアー！」スライダーを投げる。カキン！！ルージュ「クソ！サードゴロか！」ローズが取りに行きファーストへ送り3アウト。ルージュ「クツ！私とした事が焦ったわ！」

Aベンチでは、マリ「スゴイよ！上位を3人で抑えたよ！」パッション「なんとか抑えたわ！」ムーンライト「この流れ、いけるわ！」8回表はメロディから。メロディ「しっかり狙っていこう！」ドリーム（1発には気を付けてね。）しかし、ルミナス（マズイ！甘いコースに！）

メロディ「ヤアー！」ボールはレフトの上を越えフェンスにぶつかる。メロディ「2塁を狙う！」ウィンディがボールを取りセカンドへ送球。ウィンディ「させない！」レフトからレーザービームでアウトを狙う。パシッ！シロップ「……セーフ！」メロディ「よっしゃー！！」ブロッサム「間に合いませんでした！」ルミナス「マズイです。」（汗）次はベリー。ベリー「1点を取りに行くわ！」

コン！スライダーをバントする。ルージュ「ドリーム！ルミナスへ！」ドリーム「わかった！！」ドリームが取って、ルミナスがカバーに入りファーストベースを踏み1アウト。1アウト3塁。ベリー「頼むわよピーチ！！」ピーチ「打って幸せゲットだよ！！」ピ

ツキー（マズイかもしれないな。）

初球はカーブでボール。次はストレートを空振り。ルミナス（ゴロで打ち取る！）134キロのカーブを投げる。ピーチ「いける！カキン！！ルージュ「何！？」ボールはライトへ。

サンシャイン「メロディをアウトに！」キャッチと同時にメロディがスタート！メロディ「ウォー！！」サンシャイン「ハアー！！」ライトからレーザービームが返ってくる。ルージュ「絶対止める！！」メロディ「ここで決めなきゃ女がすたる！」スライディングでホームベースを狙う。ルージュ「させないよ！」どっちが先か？……

ドカッ！！メロディとボールがほぼ同時に来た。カオル「セーフ！セーフ！」ブロッサム「何？」メロディ「ヨッシャー！！あと1点！！」ルージュ「何て激しいプレーをするのよメロディは！」

A5点、B6点で1点差にする。Bはタイムをかけ全員が集まる。アクア「1点差ね……ルミナスには悪いけどここで交代ね。」ドリム「そんな！まだ2回も投げてないよ！」ルミナス「いいんです。私にはまだ早すぎたんです。でもいい経験ができました。」ブルーム「……ルミナス、お疲れ様！」Bは守備交代をするためベンチに戻る。

意外な落とし穴（後書き）

Aの反撃により苦戦するBチーム。この展開をどう切り抜ける？
感想も受け付けています。皆さんの感想をお待ちしています。

リズム緊急登板！（前書き）

ルミナス降板によりリズムが登板！抑えることができるのか！？

リズム緊急登板！

タルト「6点差あつたが1点差に縮まったでー！！」マルス「Bは継投策に出ましたが裏目に出てますね。」タルト「オッ！Bチームが出てきたで！」3番手はリズム。ルミナスがベンチに下がり、ブルームが8番サード。キャッチャーにピッキー、センターにルージユが入る。Aは2アウトでホワイト。リズムとピッキーがマウンド上で話をする。リズム「ブルペンで投げてないけどどうでしょう？」ピッキー「打たせていきましよう。最悪打たれてもしょうがないです。」キャッチャーマスクをつけ定位置に。ホワイト（この回なんとしても！）

リズムの初球は……バシッ！130キロのスライダーを見送りストライク。ホワイト（変化球で来たか、でも打てない球じゃない！）リズム「ハアー！」ストレートが迫る。ホワイト「もらったー！」ストレートに手を出す、ホワイト「クッ！サードゴロか。」タイミングが外れサードに。ブライト「OK！ドリーム！」ブライトが軽快な動きでボールをドリームへ。ドリーム「よし！これで3アウト……」ドリームがボールをキャッチしたと思われたが、まさかのボール落球。

リズム「アッ！」ドリームのエラーで1塁。ドリーム（ウー！やっちゃったよー！）ローズ「フン！ドリームやっとなゴロが出たわね！」ローズが打席へ。

リズム「大丈夫！さっきのは偶然よ。」リズムは140キロのストレートを投げる。ローズ「ハアー！」初球から手を出す、ローズ「クッ！セカンドゴロか！」ボールはセカンドへ。ブロッサム「

任せて下……」ブロッサムがグローブを下にやり取ろうとしたがグラブの下を抜けまさかのトンネル。ブロッサム「エエー！そんなー！」ドリームに続きブロッサムもエラー。ブロッサム（ウウ、心が折れます）。（泣）リズム「まずいわ。」ピンチが広がり1番マリリン。マリリン「ヨッシャー！逆転するチャンスだよ！」リズム「打たれる訳にはいかない！」リズムが気を引き締めるが、

カオル「ボール、フォアボール。」マリリン「チェツ！ヒーローになり損ねたよ。」コントロールを乱してフォアボール。2アウト満塁のピンチを背負い内野陣が集まる。パイン「満塁か……」ブルーム「マズイね……」ブロッサム「スミマセン！私がエラーしたばかりに。」ドリーム「私が元の原因だよ！ブロッサムのせいじゃないよ！」リズム「大丈夫！ここは絶対に打たせないわ。気合の投球を見せてあげる！」ピッキー「レシピじゃないんですね。」リズム「今料理してないですから。」レモネード「ここで終わりにしてあげますよ！リズム！」レモネードが打席へ。

リズム「行くわよ！」135キロのスライダーだがレモネードは見送りボール。ピッキー（見てくるか、次はインコース低めで……）サインを出しうなずく。リズムが137キロのストレートを投げる。カキン！リズム「エッ！？」レモネード（さっきのヒットで目が覚めました！）ボールはライトへ。サンシャインが追う。サンシャイン「抜けたら確実に逆転される！何としてでも取る！」ライト前に落ちかけるボールをダイビングキャッチで取ろうと試みる。サンシャイン「キャー！！」ダイビングキャッチをしたが、激しく倒れ込む。判定は……

サンシャイン「取っ……たわ……」サンシャインがゆっくり手を上げグラブを見せる。その中にはボールが入っていた。ドリーム「やったー！！凄いよサンシャイン！」リズム「助かったわ！ありがとう！」サンシャイン「イタタ、取れてよかったわ。本格的に外野手になるのかな？」

Aベンチでは、ミント「逆転できなかったわね。」ローズ「逆転しなかったわね。」レモネード「スイマセン！打てなくて！」ピーチ「気にしないで！ファインプレイに阻まれたんだからしょうがないよ。」ベリー「次の回も頼むよパッション！」パッション「エエ、負けないわ！」

リズム緊急登板！（後書き）

何とかしのいだリズム。次回試合を左右する重要な対戦が！？

ドリームVSパッション 1点を巡る戦い（前書き）

ドリーム「エラーした失敗を絶対取り返す!!」
パッション「そうはさせない!!」

ドリームVSパッション 1点を巡る戦い

8回裏、Bの攻撃は5番ブロッサムから。ブロッサム「さっきのミスを帳消しに見せます！」この回からレモネードがベンチに入り、ミントがショートに入りマリンがセカンドに入る。3回途中から投げているパッションにも疲れの表情が。パッション（ここまで来て負けられない！）

初球は、ブロッサム「ストレート！」ブロッサムが振るが空振り。ホワイト（今の振り方じゃ当たらない。大丈夫そうね。）心の中でそう思うホワイト。ブロッサム（空振りです、でも最初よりスピードが落ちている……）パッション（ゴロを打たせていくか。）冷静に分析するパッション。ホワイト（スライダーでインコースよ。）パッションもうなずく。パッション「ハアー！」スライダーが低めに来る。ブロッサム「負けません！」スライダーに手を出す。カキン！ホワイト「打たれた！？」ボールはショートへ。マリン「取ってやる！ヤアー！」マリンが横つ飛びでボールを取りファーストへ送る。しかし、ブロッサム「気合いです！根性ですー！！」ブロッサムがヘッドスライディングで滑り込みセーフ。マリン「かー、やるねー！」パッション「クッ！ブロッサムに打たれるとは……」

次はサンシャイン。サンシャイン「1点差。打てくはないがダブルプレーの可能性もある。ここは……」パッションが140キロのストレートを投げる。サンシャイン「確実に送り次のドリームに繋げる事よ！」サンシャインはバントの構えだ。ローズ「バント！」「ベリー」「サンシャインが！？」メロディ「クッ！絶対1点を取

るつもりね！」「ボールはローズの方へ。ローズ「セカンドは……間に合わないか！」「間に合わないと判断し、ファーストへ送り1アウト。ブラック「まさかサンシャインがバントとは……」「ミント「予想してなかったわ！」「サンシャイン「頼んだよドリーム！」「ドリーム「サンシャインの気持ち無駄にしないよ！」「気合いを入れるドリーム。

ホホワイトが向かう。ホホワイト「1アウト2塁ね。ドリームだけど油断できないわ。」「パッション「大丈夫よ！必ず抑える。ハリケーンを使うまでもないわ！」「ホホワイト「そう、わかったわ。でも油断は禁物よ。」「ドリームが打席に。ドリーム「パッション！あなたから打つ！」「パッション「上等よ！！必ず抑える！」「ストレートを投げる。ドリーム「タアッ！」「当てたがファール。ドリーム（当たった！？もしかしたら……）パッション「少しはやるわね。」「2球目もストレートでストライク。Bベンチでは、アクア「ストレート勝負かしら？」「ルージュー「ドリームに打てるかな？」

パッション「これで終わりよ！」「145キロのストレートで勝負。その時ドリームは目を閉じて、ドリーム（振るだけじゃダメだ！目を閉じ音で感じて……打つ！）ドリームの手元にボールが来た。ドリーム「感じた。今しかない！ハアー！」「ストレートにボールが当たる。パッション「何！？」「ルミナス「当たった！」「ボールがパッションの方へ。ドカッ！パッション「グッ！」「ホホワイト「パッション！」「ボールがパッションのグローブを弾いてマリリンがカバーするが、マリリン「アッ……」その間にドリームが全力で走って内野安打。ドリーム（打てた！あのパッションから……）パッション「私が打たれた！ブロッサムだけじゃなくドリームにも！？」激しく動揺するパッション。8番ブルームが向かう。ブルーム「皆さん！いいい

よ私の出番ですよ！必ず打つからね。」ウィンディ「パッションは動揺してる。この回いけるわ！」ピッキー「イヤ、まだわからないですね。」ルミナス「エッ！？どうしてです？」ピッキー「打たれないと思っていたブロッサム、ドリームに打たれる。この事でパッションの勝負魂に火をつけなきゃいいですけど……」

ブルーム「ヨッシャー！打ってやるー！」パッション「打つって？笑わせないで！」ブルーム「エッ！？パッション！？パッション！私から打つ？なめるなー！！」ピーチ「パッション！？パッション！ウオオー！」ブルーム「何！？バシッ！ホワイト！何！？さっきと全然違う！」ストレートは150キロを表示していた。ブルーム「ウソでしょ！？」パッション「私から打つ事はできない！ハアー！」スライダーが襲う。ブルーム「何の！」バットが捉える。しかし、バキッ！ブルーム「アッ！」バットが折れボールはレフトへ。ピーチ「オーライ。」ピーチが取って2アウト。パッション「ナイスピーチ！」ピーチが手を振るが、ピーチ（何だろ？まるでイースの時みたい……）

リズムが向かう。リズム（冗談でしょ！？あんなの打てない！）パッション「ハアー！」リズム「クッ！」パッションの前に1度もバットを振れず三振。パッション「チエックメイトよ！」リズム（何なの、あんなパッションから打つなんてムリよ！）ベンチに戻るリズム。ルミナス「1アウト1、3塁で0点とは……」アクア「ピッキーさんの心配していた通りになったわ！」ピッキー「マズいですね。次の回追いつかれるとあのパッションとまた勝負になる。」ブロッサム「そうなると勝ち目は低くなりますね。」リズム「なんとしても抑えてみせる！」

一方Aは、ピーチ「パッション大丈夫！？イスみたいだったけど。」パッション「大丈夫よ！ああしないと抑えれなかったから気合いを入れたのよ。」ピーチ「でも無理はしないでね。」パッション「わかってる！」その話を聞いていた他のメンバーは、ブラック「パッションも追い込まれてるね……」ベリー「そうね、ローズ！あなたも準備しといた方がいいわよ。ローズ」……「そうね、ベリー！打順が来るまで受けてくれない？」うなづくベリー。試合はいよいよ9回へ。

ドリームVSパッション 1点を巡る戦い（後書き）

リズム「メロディ！あなたを打ち取って勝つ！」メロディ「そのセリフ一部変えてそのまま返すわ！」

メロディVSリズム負けない戦い（前書き）

勝負も9回へ。この回で決着が……

メロディVSリズム負けられない戦い

タルト「試合も9回大詰めやー！」マルス「1点差ですからまだ油断できないですね。」

ブラック「みんな！この回逆転してプリキュアの底力見せるわよ！」全員「オーー！！」Bでも…

アクア「みんな！この回抑えて勝ちましょう！」全員「ハイ！」ブルーム「フー、パッションからヒットは放つけど…」ウインディ「結局1点も奪えなかったわ。」ブロッサム「でも、この回抑えれば負けずに済みます。」ピッキー「最後も頼みましたよ、リズム！」リズム「任せて下さい！この回こそビシッと抑えて気合いの投球見せてあげます！」パイン「レシピじゃないんだね。」リズム「パイン！前の話でも使ったネタよ！」パイン「だって」（泣）プロローグでピッキーさんが笑いを取ってほしっていったから」。ルミナス「でもスベりましたよ。多分。」パイン「ウッ！ルミナスヒドイ。」試合中のあまりおもしろくないくだり申し訳ございません。

Aチームは3番パッション。パッション「何でもいい！ブラック、メロディに繋がれば…」ブラックは1安打だがホームラン。5番メロディは4打数3安打で油断できない。リズム「さっきの借りを返すわ！」パッション「返り討ちよ！」サインを確認して1球目はパッション「ストレート！甘いわ！」カキン！しかしファール。ピツキー（ストレートは危険か…次は…）リズムの2球目はスライダーでボール。3球目はカーブでストライク。ピッキー（追い込んだ！次はコレで決めましょう！）リズム（わかりました！）4球目は、リズム「ハアー！」ビュッ！パッション「ストレートは通じないわ！」しかし、ガクン！パッション「何！？」ストレートの速さ

から急に落ちるフォークで空振り。リズム「やったわ！あと2つよ！」「パッション」「ゴメン！甘く見てたわ。」「ブラックに謝るパッション。ブラック「絶対このまま終わるなんてありえない！」

ピッキーがリズムの元へ。ピッキー「どうします？4打数1安打だがホームランを打たれたら同点です。かといって敬遠したら次はメロディと勝負になる。」「リズム「ブラックと勝負しましょう。大丈夫！ピッキーさんの指示通りに投げます。」「戻って投球の構えに入る。ブラック（敬遠はなさそうね！必ず打つ！）リズムの初球は、リズム「ハアー！」フォークで空振り。ストレートの速さで落ちるのでタイミングがつかめない。2球目もカーブでファール。ピッキー（ブラックにストレートはマズい。変化球で攻めましょう。）リズムもうなずいて3球目。リズム「ハアー！」スライダーを投げるがピッキー「マズイ！高めの甘いコース！」「ブラック「打つしかないしょ！」「カキン！リズムの投げたボールをセンターへ打ち返す。ルージュ「うわ、打ったよ！早くいかないと！」「ボールはフェンスに当たる。その間にブラックはセカンドへ。リズム「失投ね。」「ブラック「頼んだよメロディ！」「メロディ「ヒーローになってやる！」リズム「メロディ！あなたを必ず押さえて私たちが勝つ！」「メロディ「ここで決めなきゃ女がすたる！」「ピッキー（メロディ…1番危険かも、用心して1球外すか…）」

リズムもうなずきカーブを投げるが、ブラック「今だ！」「投げたと同時にブラックが盗塁。リズム「なっ！？」「ブルーム「スキを突かれた！」「ボールでピッキーも投げるが間に合わずセーフ。リズム「クッ！内野ゴロでも1点取られるかもしれない。」「プレッシャーが襲う。タイムをかけリズムの元へ。ピッキー「すいません、用

心して入ったつもりが盗塁を許しました。「リズム」「謝らないで下さい。まだ点を取られてないです。ここからです。」ピッキー「あと一つ。もしかしたらと思いますけど……」リズム「何ですか?」ピッキーが話すことは……

ピッキーが戻っていく。ドリーム（何を話してたんだろう?）ブロッサム（気になります……）

メロディ（リズムは動揺してる。スキを突ければ……）ブラック（賭けだけどやるしかない!）リズムがストレートを投げる。同時にブラックが走り出す。ブルーム「何!?」メロディはバントの構えだ。メロディ「もらったよ!」アクア「スクイズよ!」リズム「かったわね!」

メロディ「何!?」ストレートかと思ったが、スライダーだった。バットに当たらずストライクになりブラックが足を止める。ブラック「しまった!ワナだったわ!」ブラックが挟まれ慌てて戻るが、ピッキー「ブルーム!」ブルームにボールを送りサードに戻る前にタッチアウト。ブラック「アア!」やられた!「ブルーム「あと1アウトよ!」ブラック「クソ!盗塁までは良かったのに……」ベリー「スクイズを読まれてたわ……」パッション（おそらくピッキーさんの策ね……）

話はブラックが盗塁をした時に戻る。リズム「エッ!?ストレートに見せかけてスライダー?」ピッキー「相手はブラックとメロディ。どちらも熱くなりやすく焦りやすい性格です。どうしても同点に追いつきたいはず、スクイズも考えられる。スライダーで外して走ってくれば挟む事ができます。」リズム「賭けですね……わかり

ました！ピッキーさんを信じます。ピッキー「すいませんね、アホみたいな作戦で……」

リズム（スゴイ！……ここまで計算してるなんて。これなら勝てる！）メロディ「2アウト、絶対終われない！」次もカーブでストライクを取り追い込まれる。

ブロッサム、ドリーム、パイン、ブルーム、ルージユ、ウィンディ、サンシャイン（あと1球……）ピッキー（勝負です！リズム！ミットを構えるピッキー。リズム「勝負よ！メロディ！あなたを抑える！」メロディ「このまま終われない！でないとみんなに申し訳ないよ！」リズム「ハァー！」150キロのストレートを投げる。メロディ「ウオォー！！」

メロディとリズム、勝敗の行方は……気になります但今回はここまでです。

メロディVSリズム負けない戦い（後書き）

熱戦も大詰め！バッテリーが勝つか？メロディが勝つか？誰も予想できない試合の結末を見逃さないで下さい。

気合いの投球！（前書き）

リズムが打ち取るのか？メロディが打って追いつくのか？

気合いの投球！

リズム「気合いのストリート見せてあげる！」150キロのストリートが迫る。メロディ「ここで打たなきゃ女がすたる！」負けじとメロディも打つがファール。リズム「ハアー！」メロディ「まだまだ！」カキン！カキン！その後もファールで粘るメロディ。リズム「ハアハア……やるじゃないメロディ！」メロディ「当り前じゃない！パートナーに負けられないわ……」10球ファールで粘る。ピッキー（何なんだこの2人は？これがプリキュアの力なのか？）そう思う作者。リズム「タアー！」しかし、投げ疲れたのか甘く入る。ピッキー「マズイ！高めた！」メロディ「トリヤー！」リズム「しまった！」ストリートを打ち返しボールはライト頭上を越える。サンシャイン「プロツサム！」投球の間にメロディは2塁へ。リズム「悔しいわ！あと1球だったのに！」メロディ「何とか繋いだ。頼んだよベリー！」ベリー「私が決めて追いつく！」

リズム「2人続けて打たれるものか！ハアー！」スライダーを投げる。しかし、ピッキー「真ん中高め！？」ベリー「見極めたわ！」当てにいった。ボールはレフト前へ落ちる。メロディ「同点に追いつく！」サードを回りホームへ。ウィンディ「バカね！暴走だわ。」ウィンディがレーザービームでホームに送る。ピッキーの元へ送られキャッチする。ピッキー「これで終わりですよ！」

メロディ「まだまだ！ここで決めなきゃ女がすたる！ウオー！！」メロディがスライディングで突っ込む。ピッキー「何！？ウワツ！！」メロディのスライディングで作者が飛ばされ叩きつけられる。

カオル「セーフ！セーフ！」リズム「なっ！？ピッキーさんでも止められなかった！メロディはやっぱりスポーツバカね……」メロディ「危なかったー！さすがピッキーさん。あのスライディングでボールを落とさないのはさすがですね。でも、ノータッチでしたけど。」メロディがベンチに戻っていくのを見て、ピッキー（何て激しいプレーをするんだあの人は。あんなプレー普通ピッチャーのするプレイじゃないぞ……）リズム「ピッキーさん大丈夫ですか！？」ピッキー「エッ？ああ、大丈夫。同点になったか、すいません。あそこを防いでいれば……」リズム「謝らないでください。体を張って守ったんですから。この後サヨナラで決めればいいんですよ。」2アウト2塁でピッチへ。

ピッチ「私が打って逆転よ！」リズム「負けない！タアー！！」ピッチ「何の！」140キロのフォークを打ち返しボールはセンターへ。ルージュ「キャー！！」ボールを追っていったルージュがフェンスに激突して取れない。ベリー「逆転よ！」その間にベリーがホームイン。ピッチ「タアー！」送球の間にピッチはサードまで進む。ピッチ「やったあ！遂に逆転だよ！」ミント「2アウトから逆転なんて奇跡ね。」ブラック「イヤ、みんなが諦めなかったからこそできた事で奇跡じゃないよ！」

リズム「あと1アウトなのに……」ドリーム「逆転された……」ブロッサム「そんな……」ピッキーが向かう。ピッキー「……すいません、自分があそこで止めていれば……」リズム「そんな、ピッキーさんのせいじゃないわ。悔しいけどブルームに任せます。」ピッキー「仕方ないですね、切り札を使うしかない。」リズム勝利目

前で交代。ブルームがマウンドに上がり、リズムはサードへ。ピッキー「変な所で登板ですいませんね。」ブルーム「いいですよ。私はピンチであればあるほど燃えるんですよ！」ホワイト「ブルームね、1番強いかも……」ブルーム「いくよ！」ブルームの初球は、ブルーム「トリヤー！」ホワイト「!!!!」バシッ!!152キロのストレートでストライク。ホワイト「今の何!?速すぎよ!」ピッキー（何だこのスピードは?今まで見た事ないぞ。）

ブルーム「ハアー!!」2球目もストライクで追い込む。ブラック「この前より速いね。」マリン「確かに……あんなの当たらないよ。」ホワイト（追加点を取るにはこのチャンスしかない!）ブルーム「ヨッシャー!イケー!」勝負球もストレート。ホワイト「負けない!」バシッ!ホワイトのバットは当たらなかった。ブルーム「やったー!3球三振!絶好調なりー!!」ドリーム「ナイスブルーム!」

ホワイト「クッ!打てなかったわ。」メロディ「速かったね、あんなの打てなかったよ。」ローズ「まあいいわ。逆転したから抑えるだけよ!」その頃Bでは……ピッキー「クッ!」ピッキーがベンチに座り込む。ルミナス「ピッキーさん……」

気合いの投球！（後書き）

あと1人という所で逆転を許したBチーム！！さらに作者の動揺。
Bチームどうなる！？

追い詰められる作者（前書き）

精神的に追い詰められる作者にあの人が立ち上がる。

追い詰められる作者

ブロッサム「大丈夫ですか！？ピッキーさん。」ウィンディ「まだ試合は終わってません！」

ピッキー「皆さん……自分があそこで抑えられなかったせいで逆転されたんです！野球をやってきた自分がミスするようじゃダメです。メロディを止められなかったあのプレイそのものがそもそもの敗因です……」ドリーム「ピッキーさん……」

9回裏Bは1番ウィンディから。マウンドではパッションが。ウィンディ「このまま終われない！」パッション「終わりにしてあげるわ！ハアー！」ウィンディ「クツ！私には打てないの！？」ウィンディ、パッションの前に三振。ウィンディ「クツ！無理だった……」パイン「私が出てピッキーさんに繋げる！」パッション「させないわ！」そう言うパッションはハリケーンを使う。パッション「タアー！」パイン「ハアー！」しかし、ハリケーンの前にパインも三振。パッション「チェックメイト……」パイン「アッ……打てなかった……」パインが引き上げる。ホワイト（素晴らしいわ！今のパッションなら勝てる！例えピッキーさんでも打てないわ。）

パイン「ゴメン！打てなかった……」空気が重くなるBベンチ。アクア「クツ！ダメだわ！今頃フォアボールを期待できる相手じゃない……」ドリーム「そんな！ダメだよアクア！そんな事言わないで！」アクア「ムリよ！あんなストレート打てる訳ないわ！」ブロッサム「まだです！まだ残っているじゃないですか！頼れる人が……」

……」プロツサムが作者の方を向く。しかし、

ピッキー「イヤ、この勝負負けました……」プロツサム「……！！何言ってるんですか！ピッキーさん！」ルージュ「そうですね！」ドリーム「1番打てる人じゃないですか！」ピッキー「……自信がないんですよ。自分のミスでみんなに迷惑を掛け自分が三振してチームが負ける。そんなイメージしか頭に浮かばないんですよ。」ウインディ「ピッキーさん……」ピッキー「フフ、皆さんすいませんね、自分のせいで負けてしまって……」

ドリーム「しっかりして下さい！ピッキーさん！！」ドリームがピッキーの肩を掴む。ピッキー「ドリーム……」ドリーム「ピッキーさんがそんな事言うなんてダメだよ！私はピッキーさんのおかげで上手くなってきたんだよ。みんなだってそう思ってる。そんなピッキーさんらしくない！」プロツサム「そうです！私だって下手でした。でもそんな私をピッキーさんは一緒に練習してくれて上手くなってきたんです！そんな発言は失礼です！」ピッキー「プロツサム……」

リズム「私だって助けられたし……」ウインディ「守備の仕方も教えてもらったし……」サンシャイン「みんな感謝してんですよ！」ピッキーを全員が励ます。ピッキー「でも自分には……」ドリーム「大丈夫！絶対打てます。」ピッキー「でも自分ももしアウトになったら……」プロツサム「その時は仕方ないです。ピッキーさんで打てなかったらしょうがないですよ。どうと言うことはないです。」ウインディ「大丈夫です！誰もピッキーさんを責めませんよ。」全員がうなずく。ドリーム「私達、ピッキーさんを信じてる！」そう言うのとドリームは作者の背中を押すが、作者の背中は小さく見え

た。

パッション「最後にこの人と勝負できるとは……運が良いわね。」
ホワイト（勝負よ、パッション！）パッション「わかった！ハアー！」「ハリケーンを使うがピッキーは見送りストライク。次もハリケーンを見送り2ストライク。パッション「追い込んだ！」「マリン「勝てる！勝てるよ！」「メロディ「長かったなあー。」「ピッキーが考えながらドリームをふと見てこう思った。

ピッキー（あの人はバカか？普通ならミスした人は責められるのになぜあの人はしない？この状態が怖くないのか？）ホワイト（打てないハリケーンは捨てたのかな？勝負よパッション！）パッションもうなずく。ピッキー（こんな自分をドリーム、イヤ、あの人達が信じてくれている……）

パッション「ゲームセットよ！ハアー！」「153キロのハリケーンストリートが。ドリーム（ピッキーさんお願い！）目を閉じて祈るドリーム。ピッキー（そんな人たちを自分は……裏切る事はできない！）目を開けバットを出す。ピッキー「見切った！」「パッション・ホワイト「エッ！？」バットの芯で捉えた。ホワイト「メロディ！」「メロディ「ここで取らなきゃ女がすたる！」「メロディが追う。ピッキー「はいれー！」「メロディ「ウオオー！」「メロディがジャンプしてボールを……

ガコンー！メロディ「アッ……」メロディのジャンプも届かずボールはバックスクリーンへ。パッション「なっ……」ドリーム「やつ……やったあー！」プロツサム「スゴイです！会心のホームランです！」「ピッキーを見ながらパッションは……パッション（打たれたか、私もまだまだね……）その表情は悔しさより穏やかな表情だった。内野陣が集まる。ブラック「限界のようね。ここまで良く頑張ったよ！」「マリン「お疲れ！」「ミント「あとはローズに任せてゆっくり休んで。」「ローズ「全く！あと1人だったんだから抑えなさいよ！」「パッション「クッ！」「ブラック「ローズ！」「ホワイト「気にしないで。ゆっくり休んでちょうだい。」「パッション「……わかったわ。」

一方Bベンチでは全員が出迎える。ドリーム「やったよ！ピッキーさん！」「ドリームが抱き付く。ピッキー「痛い痛い！」「ドリーム今変身してるから力が強いって！離してください！」

ドリーム「エエー！私そんな力強くないですよー！大げさですってー！」「ルミナス「ハイタッチにしましょうよ。」「ルージュ「そうそう。」「アクア「これで追いついたわ！」「プロツサム「この勢いで勝ちましょう！」

追い詰められる作者（後書き）

同点に追いついたBチーム。このままサヨナラか？

ルージュVSローズ（前書き）

パッション降板しローズがマウンドに。ローズ「絶対打たれないわよー!」

ルージュVSローズ

好投したパッションも降板して、3番手にローズ。サードにムーンライト、キャッチャーにベリー、ライトにブラック、ファーストにホワイトが入る。ルージュ「この勢いでサヨナラよ！」

ローズ「ルージュか、気をつけないと。」

ブロッサム「でも、さっきは手が出なかったハリケーンをなぜ打つ事ができたんですか？」ピッキー「それはわからないけどみんなが勇気づけてくれた事と、自然に体が反応したんだ。」

ドリーム「スゴいね！さすがピッキーさん！」ピッキー「ドリームのおかげで打てたよ。ありがとう！」ドリーム「そんな、私大した事してないですよ。」

ウィンディ「アクア。ピッキーさんは本当に自然に打つ事ができたのかな？」アクア「私が思うには、パッションはピッキーさんに対してハリケーンを前の回から7球続けて使った。同じ球を使い続ければ自然と特徴がわかるし目も慣れてくるから嫌でも反応できる。これが打てた秘密と考えた方がいいと思う。」パイン「すごい！確かに納得できるかも……」ウィンディ（すごい、私もピッキーさんみたいに上手になりたい。）

話をしている間にカウントはフルカウントに。ルージュ（ローズも手強い！甘く来たら……）ローズ（次で決めるわ！）勝負の6球目。ローズ「ハアー！」スライダーで三振を狙う。ルージュ「これで終わりよ！」見事打ち返す。ローズ「アッ！」ボールはレフトへ。

ピーチ「サヨナラになっちゃう！」追うがボールはフェンスにぶつかる。ルージュ「チッ！ホームランじゃないか。」ルージュはセカンドで止まる。ローズ「危なかったわ！次はきつと……」

ブロッサム「必ず決めます！」ブロッサムが打席へ。ローズ「ブロッサムに打たれるもんか！」スライダーを投げる。ブロッサム「ウツ！」初球からぶつけてしまい1、2塁。ローズ「チッ！避けなさいよ！」ぶつけたのに暴言を吐くローズ。ブロッサム「イタタ、でもチャンスが広がりました！」サンシャインが向かう。ローズ「サヨナラだけはゴメンよ！」フォークを投げる。

サンシャイン「ハッ！」カキン！ローズ「クツ！」ボールはライトへ。ブラック「オーライ、オーライ。」パシッ！ライトフライに終わった。サンシャイン「打ち上げたわ。次は必ず……」

ローズ「全く！危なく敗戦投手になるとこだったわ。さつさと点取って勝ちましょう！」

レモネード「でも……」ベリー「あのブルームと、」ピーチ「ピッキーさんのバッテリーから点を取れるの？」ホワイト「少なくとも連打はしにくいわ。」メロディ「でも諦めない！絶対勝つ！」

ルージュVSローズ（後書き）

同点のまま延長戦へ。模擬戦はどこまで続くのか？活動報告も更新中です。

高まる緊張感（前書き）

同点で延長戦に突入。ブルームは抑えることができるか？

高まる緊張感

タルト「9回では決着が7対7で延長戦やー！」マルス「どっちが勝つかわかりませんね。」

10回表Aは9番ローズから。ローズ「一振りで勝ち越しよ！」マウンド上はブルーム。ピッキーがマウンドに行く。ピッキー「この回抑えれば勝ちも見えてくる。頼みますよ。」ブルーム「わかっていますよ。エースとして負けられない！」

1球目はフォークでストライク。ローズ（フォークのキレはそんなに良くない……）フォークを打つのか？ブルーム「タァー！」ローズ「ストレート！」ストレートを打つ。ブルーム「ウィンディ！」ウィンディが追うがボール際をかすめファール。ウィンディ「危なかったわ。」ローズ「アア！惜しかったわ！」ブルーム「ローズも手ごわい、燃えてきたー！」3球目は一体何で……

ローズ「勝負ー！」ブルーム「タァー！」151キロの直球勝負！ー！ローズ「もらったー！ー！」

バシッー！ローズ「アッ……」ローズを3球三振。ブルーム「ヨシ！」ローズ「くー！ストレートを打てなかったか。」マリンが向かう。マリン「私が決めてヒーローよー！」ブルームはどう攻めるか？ブルーム「よしっ！この球で……」マリンとブルーム勝つのは？

ブルーム「タァー!!」マリリン「なんだ。こんなの簡単に……」
投げたのは98キロの超スローボール。カキン!!マリリン「ウソー!? タイミングがズレたかー!」ボールはパインが取りドリムへ送り2アウト。マリリン「速い球だけじゃないか……」ルージューブルーム調子いいね。」

ミント「とにかく粘って出るのみ!」ブルーム「3人で終わらせる!ハァー!!」ストレートを見送りボール。ミント（結構速いわね、粘って慣れるしかないわ……）ミントは作戦通り粘っていく事に。ブルーム「ウオリヤー!!」ミント（ボールだわ……）ボールとファールを繰り返し15球粘る。ブルーム「ハァハァ、ミント意外とやるな!」ミント（ハァハァ……後は甘く来た所を打つ!）作戦成功か?ブルーム「根性だ!イクよピッキーさん!全力でいくわ!」ピッキーもうなずく。ブルーム「ハァー!!」ストレートが迫る。ミント「ウソ!?あれだけ投げさせたのに?」

ズバッ!!ミント「クツ!」ミントが粘るが、154キロの速球にやられる。ブルーム「ヨッシャー!!絶好調なりー!!」ピッキー「ナイスブルーム!」このボールを見ていたカオルは……
カオル（ブルームが投げていたストレート速かったな……これはもしかして……）

ミント「残念。甘い球が来なかったわ。」メロディ「ドンマイ!次上位打線で絶対に打つわ!」ブラック「そうそう!このまま後輩に抑えられるなんてありえない!」マリリン「ローズ!打たれちゃダメだよ!」ローズ「わかってるわ!1点もやれないわ。」

高まる緊張感（後書き）

ブルームの速球に手が出ないA。次回も激戦が？

ライバル対決（前書き）

ブンビー「夢にまで見たドリームとローズの対決！プリキュアファン必見だぞ！」

ライバル対決

10回裏Bは7番ドリームから。ローズ「ドリーム……一番打たれたくない相手……」

ドリーム「ローズ、手ごわいけど頑張る！」タルト「これは好勝負が見れるでー！」マルス「お互いよく知っている相手ですからね。」

ローズ「ドリーム！あなたに打たれるつもりはない！ドリーム「負けず嫌いね！こつちも同じよ！」ピッキー「どっちが勝ちますかね？」ウインディ「わからないけどドリームが勝ってもらいたいです。」

ローズ「いくわよ！」速球を出す。ドリーム「ウワッ！」空振りするドリーム。ドリーム「速い！」ローズ「ハアー！」次も空振りで追い込まれる。ローズ「ドリーム！あなたには10年かかっても打てないわ！」ドリームを挑発するローズ。ドリーム「そんな事ない！」ローズ「なら当ててみなさい！」スライダーを投げる。

カキン！！ローズ「！！！！」当てたがファール。ドリーム「ハアハ……私は……諦めない！」ローズ「往生際が悪いわ！」ドリーム「なんの！」その後も2人の勝負が……

カキン！カキン！……ローズ「ハアハア……いい加減三振しなさいよ……」ドリーム「ハアハア……私は諦めが悪いのよ！」フルカウントで勝負の13球目。ローズ「三振よ！」ドリーム「負けない！」

バシッ！ローズ渾身のストレートもわずかに外れボール。ドリーム「……よし……」ローズ「13球使ってフォアボール。気分が悪いわ！」ブルーム「この回で決める！」気合い十分のブルーム。ローズ「ゴロを打たせてやるわ！」ローズはスライダーを使うが、ブルーム「見切ってるよ！ハアー！」ローズの裏を突いて打ちサードの横を過ぎる。ムーンライト「クッ！速くて追いつけない。」ムーンライトも反応できずにレフトに転がる。ブルーム「ヨッシャー！初ヒット！」ローズ「打たれたわ。投げるだけじゃなさそうね……」

ノーアウト1、2塁で本日ノーヒットのリズム。リズム「これまでの汚名を返上するために回ってきたチャンスね！」ローズ「1本も打ってない人に打たれる訳ないわ！」1球見てボール。リズム「慎重に。」ベリー（慎重に見極めるつもりね……）サインを出しうなずく。ローズの投げたのは……

リズム「ストレートなら打てるわ！」カキン！リズム「エエー！？」「当てたまではよかったが、ボールはムーンライトの手前へ。ムーンライト「トリプルプレーね。」サードベースを踏み1アウト。続いてセカンド、ファーストにも送って最悪のトリプルプレー。ローズ「やっぱり打てなかったわね！」リズム（アアー！打てないのも悔しいけど、ローズの一言がさらにムカツク）怒りのあまりバットを真っ二つにするリズム。怖いです……

ピッキ「次の回が勝負ですね。」プロテクターをつけながら話す作者。ブルーム「よし！ここからはブライトで上位打線と勝負します！」ウインディ「頼むよ！ブルーム！」

ライバル対決（後書き）

ノーマウトでチャンスを作るも無得点。決着が近づきつつあります。感想も受け付けています。気軽に送ってもらえると助かります。

ブライトVS上位打線（前書き）

ブライト「ブラック！この前みたいに打たれない！」
ブラック「上等！返り討ちよ！」

ブライトVS上位打線

11回表Aは3番ムーンライトから始まる上位打線。ウィンディ「全員ホームラン狙える人たちね。」（汗）ブロッサム「ホームラン1本でも致命傷です。」この回からブルームはブライトにチェンジ。

ブライト「さーて、3人できっちり打ち取るか！」ムーンライト「みんなで追いついたのよ。絶対打つわ！」ピッキー（この回ムーンライト、ブラック、メロディの3人。甘くいったらホームランか……）慎重にサインを出す。初球は高めのボール。次も外角低めを狙うがボール。ブライト（クッ！ストライクが入らない……）ピッキー（内角を攻めるか……）ブライト「ハアー！」ストレートを投げるが、ムーンライト「待ってたわ！」ストライクを取りにいつて狙い打たれる。ブライト「打たれた！？」ボールはセンター前に落ちる。サンシャイン「初ヒットね。連打されなきゃいいけど。」ムーンライト「狙いが当たってよかったわ。」ブライト「うわー！ヤバいかもー？」

次は4番ブラック。ブラック「この前みたいにホームランよ！」ドリーム「ブライト頑張れー！」ブライト「この人には絶対負けない！」ブラック「来な！ブライト！持てる力を持って私に挑みなさい！！」ブライト「上等ですよ！ハアー！」ストレートを投げ込む。ブラック「ウリヤー！」カキン！リズム「当てた！？」しかしファール。ブライト「ブラック！この打席で私は直球のみで勝負します！」ブラック「ヘエー、手の内を明かすとは。面白いねブライト！」

ブライト「あなたは直球で三振を取りたいんですよ！」「ブラック「上等！かかってきなさい！」「ブライト「ハアー！」」
ブラック「何の！」「その後も2人の攻防が続く。

ブンビー「これは凄いな、私の戦いよりレベルが高すぎる。」「2人の勝負を見てこう思う。それはグラウンドでも……ブロッサム「凄すぎですー！」（汗）ルージュ「あの2人はバケモノか？」「2人の勝負は20球目でフルカウント。ブラック・ブライト「次で決めてやる！」「勝負の時……」

ブラック・ブライト「ハアー！」

……バシッ！！カオル「ストライク！バッターアウト！！」「ブラック「クソー！打てなかったー！」ブライト「絶対調ナリー！」ウィンディ「スゴイ！あのブラックを……」ブラック「気をつけなあのストレート強いよ！」メロディ「絶対負けない！」メロディVSブライトこれもある意味見たい対決だ。

ブライト「絶対抑えるよ！メロディ「上等！やってみなさい！」」ブライト「ハアー！150キロのストレートを打たせファール。メロディ「手がシビれるね。こりや打つのもひと苦労だね。」「（汗）ブライト「次はコレよ！」メロディ「何だ。また直球じゃ……」メロディがバットを出す、ボールは下を通りグラブに。メロディ「フォーク！？ストレートの速さと変わらないじゃん！」ピッキー「追い込んだ！最後はコレだな……」サインを出しブライトもうなく。メロディ「絶対打つ！」ブライトの投げたのは……

メロディ「なっ！？」さっきの速さと違い100キロのスローボールで打つタイミングがズレる。メロディ「しまった！ゴロだよ！最悪だー！」パインがブロッサムに送りドリームにも送られ3アウト。メロディ「アアー！直球ばかりに気を配ってたなー。完敗だー！」ブライト「フー。1安打許したけど何とか乗り切ったー！」アキラ「お疲れ！」ルミナス「次はこつちも上位ですね。」リズム「ピッキーさんとルージュに回せばチャンスはあるわね。」パイン「次で勝てるって私信じてる！」

ブライトVS上位打線（後書き）

次回上位打線から始まるBは試合を決めることができるのか？

ウィンディの気迫（前書き）

ウィンディ「ローズ！あなたの思い通りにはさせない！！」この
ウィンディの気迫が奇跡を？

ウィンディの気迫

ブロッサム「どうしましたピッキーさん？」ピッキー「イヤ、ブライトのあの球を受け続けてたら肉刺^{マヌ}が潰れたんですよ。」ここま
でブライト、ブルームの球を50球受けているが、全て全力投球な
ので作者の手は肉刺が潰れていた。ブライト「大丈夫ですか！？血
も付いてるじゃないですか！」ピッキー「こっちは気にしな
くていいから次も頼みますよ。」ブライト「ハ、ハイ！」ピッキー
がそう言っ
てベンチに座るがその顔は明らかに苦しい表情だ。それ
を横でウィンディが見ていた。ウィンディ（無理もないわ。ブルー
ム、ブライト、さらにリズムの球をずっと取っていてボロボロにな
るのは当たり前だわ。これ以上ピッキーさんを苦しめたくない！こ
の回で決める！）心の中で決心するウィンディ。果たして……

11回裏ウィンディが打席へ。ローズ「軽くやつつけてあげるわ
！」1球見てストライク。ウィンディ（コレじゃない！）その後も
ファールとボールを繰り返しフルカウントに。ウィンディ「ハアー
！」またファールで粘る。アクア（気のせいかしら？この回ウィン
ディはさっきと比べて表情が違うわ。）

ローズ「あなたもドリームと同じでしつこいわ！」ウィンディ「
しつこくて結構！絶対負けない！」ローズ「フン！」ローズの10
球目。ベリー（マズイ！甘く入っている！）ウィンディ「待ってた
わ！ハアー！」カーブに狙いを定め外野へ運ぶ。ローズ「何！？ピ
ーチ！」ピーチが追うが、ピーチ「ウワ！フェンスに当たった！」
その間にウィンディはセカンドを狙う。ピーチ「させない！」素早
くボールをマリンに送る。ウィンディ「タアー！」気迫のスライデ

イングでセーフ！マリン「やばいなー！」次は2番パイン。パイン「私に打てるかな？イヤ！絶対ここで決める！」

ローズ「パインに打たれるほど弱くないわ！」またしても暴言を吐くローズ。ベリー（絶対パインは打ち取らないといけないわ！）ローズが投げる。パイン「キャッ！」体近くにストレートを投げ込む。ローズ（少しビビらせて打てなくしてやるわ！）パイン（精神的に揺さぶる気ね。でも絶対負けない！ここで決める！）ローズ「あなたには打てないわ！」スライダーを投げるが、パイン「ヤアー！」ローズ「何！？」ボールはサード横をわずかに切れファール。パイン「惜しかった、でも打てるわ！」ローズ（落ち着け！今のは偶然だわ。絶対打ち取る！）自分に言い聞かせるローズ。その後も粘りフルカウントまで持ち込む。パイン「ハアハア、絶対勝つ！」ローズ「オカシイわ。パインならとくに三振していてもおかしくないのに。」

勝負の10球目。ローズ「勝負よ！」153キロのストレート。パイン「負けない！」ストレートを打つ。ローズ「メロディ！」ボールはセンター前に落ちる。ウィンディ「このチャンスしか点は取れない！」ウィンディはサードを回りホームを狙う。ピーチ「ホームよ！」メロディ「ここで抑えなきゃ女がすたる！オリヤー！」メロディがレーザービームを発動。ベリー「絶対阻止する！」ウィンディ「てやあー！」ほぼ互角。どちらが先に……

バシッ！！カオル「……………セーフ！セーフ！」ホワイト「ウソ！？」ボールとウィンディは互角だった。だが、スライディングに

よりベリーのグローブからボールがこぼれタッチアウトにできなかった。ウィンディ「勝った……勝ったわー！」ドリーム「やったー！本当に勝ったんだよね？」ブロッサム「ハイ！ウソじゃないです！」パイン「ウソ……私が打ったの？信じられない……」放心状態のパイン。こちらにも放心した人が。

ローズ「……ハア、まさかパインに打たれるとは……」ブラック「人に暴言吐くからだよ。もう少し素直になりなつて。」ホワイト「悔しいけどしょうがないわね。」ベリー「そうね。次もし対戦するなら次こそ勝つ！」こうして長い模擬戦は終わった。

試合後……ブンビー「なかなかいい勝負だったな。私も負けてられないな！明日からまた頑張るかー！」ブンビーが帰っていった。帰るときにポケットから何かが床に落ちた。そしてそれを拾う人物が。この人物が後にプリキュア達に波乱を招く……

ウィンディの気迫（後書き）

やっと試合が終わりましたが、こんな試合をあと3試合やります。かなり長くなると思います。その中で皆さんの感想や意見もできる限り反映しようと思うので気軽に送ってください。

空港にて 前編（前書き）

メロディ「クソー！リズムに負けたー！」リズム「どうよ！私の
実力！」ブロッサム「あー、リズムは思ったより活躍してないで
す。」リズム「なんですってー！」（激怒）ブロッサム「ヒイー！
怖いですー！」（泣）

空港にて 前編

翌日プリキユア御一行は北海道の空港にいた。えりか「昨日の疲れがまだあるよ。」ゆり「ムリもないわね。」まだ疲れがあるようだ。ほのか「マルスさんはこれからどうするんですか？」

マルス「僕はしばらく日本にいるよ。いろいろやりたい事があるから。」つばみ「そうですか。また来てくださいね。」マルス「君たちも野球頑張ってるね。」こうしてマルスは飛び立っていった。

チケット売り場にやってきた。手続きをしてあとは飛行機に乗るだけだ。ピッキー「離陸まで時間があるから自由でいいですよ。」なぎさ「やったー！咲ー！塩ラーメン食べに行こうよー！」咲「味噌ラーメンがいいんじゃないですか？」ラブ「北海道ならしょうゆでしょ！しょうゆ！」こうして各自自由時間となった。

お土産売り場ではうらら、祈里、こまち、いつき、奏がお土産を買っていた。祈里「コレコレ！生キャラメル食べてみたかったの。」カゴいっぱいいれる祈里。うらら「私はまりもっこりがほしいですー。」各自いろいろ買っていくがそんな中、奏「王子先輩には何がいいかなー？もしかしたら……キャー！王子先輩ー！！」1人で妄想する奏。いつき「ちょー！ちょーと奏。他の人に迷惑だよ。」こまち「ちょっと落ち着いて。」そこにあのキャラが。ディディー「あっ！あれはうららちゃん？よーしサインもらうぞー！」ディディーが接近。ディディー「あーすいません。よろしければサインをください。」うらら「あなたはドンキーコングの相棒のディディーさんでしたね。私でよければ……」うららはサインを書いて渡した。ディディー「あっ、ありがとうございますー！」うらら「じゃあねデ

「ディイーさん。」ディディイー「マジかよ！本当にサインもらっちゃったよ！」興奮のあまりディディイー失神。ディクシー「全く。ディディイーったらこんな所で気絶しないでよ！」（怒）ディディイーを引きずりながらディクシーが文句を言う。ディクシー「早くコング島に帰るわよ。」2匹のサルも帰っていった。

なぎさ「あつたここだ！」目当てのラーメン店を見つけたようだ。ラブ「よいしょっと！」店に来たのはなぎさ、咲、ラブ、くるみの4人。なぎさ「あーお腹空いたー！」くるみ「店の人呼んでよ。」ラブ「すいませーん！注文したいんですけどー？」???「オー！今いくぜー！」咲「何？このオレ様的な声？」くるみ「この声、どこかで聞いた事あるような……」???「ガッハッハー！よく来たなー！」4人「ええー！？」くるみ「ちよつと！何であんたがいるのよ？」奥から出てきたのはなんとワリオだった。ワリオ「オツ！くるみとプリキュア歴代主役達か！」ラブ「何でここにいるんですか？」ワリオ「リリカルショーバイさんに許可をもらって出演権をもらったぜー！」ワリオとくるみはリリカルショーバイさんの逃走中遊園地編で同じ逃走者として出場しました。なぎさ「私達は初対面だけど？」ワリオ「俺とくるみの仲だ。俺が年上だがタメ口で構わんぞ！」ラブ「じゃー早速だけど、私はしょうゆラーメンを！」なぎさ「私は塩ラーメン！」咲「味噌ラーメンナリー！」くるみ「私はとんこつね。」ワリオ「ガッハッハー！腕になるぜー！15分ほど待ってくれ。」ワリオは奥に戻っていった。咲「ああー！ビツクリした！」ラブ「何でワリオが出てくるのよ？」くるみ「私に聞かないでよ。」（怒）

15分後ワリオが戻ってくる。ワリオ「注文通り作ってたぜー！」ラブ「ワアー！おいしそう！」

なぎさ「クンクン、アレ、なんか匂わない？」咲「そういえば……」
くるみ「ワリオ、この匂い何？」ワリオ「それはな、オレ様の力の
源ニンニクがたっぷり入っているからだー！」4人「エエー!?」
なぎさ「ちよっと！塩ラーメンにニンニクなんてありえない！」
（怒）ラブ「私も絶対合わないって！不幸せだー！」咲「私は……
一応セーフかな。」くるみ「とんこつに絶対合わないわ！」ワリオ
「遠慮せず食べてってくれー！」4人「そんなー！」4人はニンニ
クたっぷりラーメンを食べる事になった。

空港にて 前編（後書き）

今回久しぶりに楽しい話を書けました。しばらくこういう話が続きます。次回は他の人の様子を書いてみます。

空港にて 後編（前書き）

他の人がどう過ごすかの続きです。

空港にて 後編

りん「かれんさん！エアホッケーでもしません？」かれん「いいわよ。負けたらグレープジュースよ！」りん「上等ですよ。」2人はエアホッケーをすることに。それをひかり、えりか、ゆり、美希、せつなが見学していた。

りん「それ！」かれん「何の！」えりか「2人とも凄いねー！」ひかり「そうですね。」せつな「ただの負けず嫌いなだけだわ。」ゆり「毒を吐かなくても……」美希「かれんさん！頑張れー！」

ロビーにて……ほのか「あと30分ほどね。」ほのかが待っていた。するとそこに、舞「ほのかさん！お土産買いませんか？」ほのか「ええ、今行くわ！」そこにはつぼみ、響、のぞみ、作者の姿も。つぼみ「いやー、買い込んでしまいました。」響「本当だよー！コレめっちゃおいしそうだー！」ピッキー「みんなお土産買いすぎだって。」（汗）両腕にはたくさん紙袋を持つ作者。のぞみ「しようがないじゃないですか。ジャンケンで負けたんですから。」ピッキー「クー。自分が情けない。」ほのか・舞「まあまあ。」こうして各自自由時間を過ごし飛行機に乗り込む。

ひかり「やっと帰れますね。美希「そうね。……って何この臭い！？」ラブ「アアー！口の中が臭いー！」えりか「ちよつと！何でニンニク臭いのよー！」咲「かくかくしかじかで……」なぎさ「もう最悪だったんだから！」ほのか「大変だったわね。」

別の席では……奏「クー、王子先輩……」響「奏ったら夢の中ま

で王子先輩かい！」つぼみ・うらら「まあまあ。」ピッキー「のぞみさん、1つ聞いていかな？」のぞみ「何ですか？」ピッキー「あの時なんでああいう風に言ってくれたんですか？」のぞみ「あつまピッキーさんを見てる事はできなかったからかな。」ピッキー「でも、あの一言で打てたようなもんですからね。」のぞみ「ピッキーさんも仲間ですから！」ピッキー「仲間？」のぞみ「ピッキーさんも絆で繋がっているしみんなの笑顔のために打ったんですよ。」ピッキー「絆と笑顔……ねえ……」そう言つと目を閉じ深い眠りに入った。のぞみ「ピッキーさん？」舞「疲れてるから寝かせてあげましょう。」作者に毛布を掛ける舞。こうして一行は帰っていった。

同じ頃、宇宙から1人の人物が向かっていた。???「明後日に備えて地球で調整するか！プリキュアが野球をやるらしいから少し技を教えてやるか。」

空港にて 後編（後書き）

次回プリキュアと作者の前に頼れる人が登場！お楽しみに！

音速レーサー登場（前書き）

ラブ「なでしこジャパンが世界一だよ！」りん「フットサルや
てる私にとっては元気になるニュースだよ。」響「なでしこジャ
パンの皆さんおめでとつございます！」

音速レーサー登場

北海道から戻った次の日、練習が再開された。咲「ヨッシャー！今日も気合い入れてくぜー！」咲は早速フリーバッティングに登板。こまち「絶対打つわ！」

外野では……ピッキー「うわー！肩痛ってー！」なぎさ「どうしたのピッキーさん？」ピッキー「レーザービームを覚えたくて練習してたけどうまくいなくて。」響「なんだ！それなら私が……」響が投げるが、響「ダー！いったーい！」なぎさ「響もできないか。じゃあ私がお手本を……」なぎさが投げるが、なぎさ「ウワー！肩痛い！ありえないーい！」つぼみ「どうしてできないんでしょう！？」ピッキー「理由は簡単ですよ。響さん達はあの時変身していたから能力が高かったからレーザービームもできたけど今は普通なんだからまだできる状態ではないです。自分もだけど。」美希「困ったわね。」外野のポジションはなぎさ、舞、りん、かれん、作者、ラブ、美希、せつな、つぼみ、いつき、響の１１人。半数が外野に関わるのでこれは問題。ラブ「ピッキーさんにもできない事があるとは……」ピッキー「同じ人間だから。」

外野陣が困っているものの凄い爆音が。ブオン！ブオン！えりか「ウワ！何この音！？」ほのか「外の方よ！」全員が球場の外へ。ひかり「何ですか！？この青いマシンは？」せつな「７つて書いてあるわね。」りん「車かな？でもタイヤがないね。」その時マシンが開いた。？？？「ここか、クローバータウンは。」いつき「エッ！？あなたはもしかして……」のぞみ「ファルコンさん！？」

ＦＩＺＥＲＯレーサーキャプテンファルコン出現。ファルコン「君たちがプリキュアか。俺はキャプテンファルコン！ＦＩＺＥＲＯレーサーだ。」ゆり「ＦＩＺＥＲＯってあのレースゲームの？」つ

ぼみ「スマブラにも出てますね。」祈里「そのファルコンさんがどうしてここに？」ファルコン「君たちが野球対決をしているのはFIZEROLレースの合間に見てたぜ。レーザービームが出来なくて困っているみたいだな。俺が教えてやるぜ。」美希「エッ!? 本当に?」つぼみ「ありがとうございます!」ファルコン「明後日のレースの調整で来たんだ。気にするな。」

ファルコンの指導の下、外野陣はレーザービームができるようになった。つぼみ「やりましたー!これで外野の守備もバッチリです!かれん「ありがとうファルコンさん!」ファルコン「なーに、タメ口でいいぜ。」プリキュアとファルコンが話しているとまたしても爆音が。くるみ「また誰か来たの?」そこには1台のマシンが。ファルコン「クッ、よりによってお前が来るとはな!」

音速レーザー登場（後書き）

ファルコンも息を呑む相手とは？次回衝撃の展開にプリキュアが揺れる。

F I Z E R O レースに挑め!! (前書き)

1台のマシンが現れ、このマシンがプリキュアに波乱を招く!!

ＦＩＺＥＲＯレースに挑め！！

なぎさ「何！？これもＦＩＺＥＲＯマシン？」舞「ファルコンさん、どうしました？」ファルコン「よりによってお前が来るとはな……」マシンのドアが開いて出てきたのは……

???「ハツハツハ！！久しぶりだなファルコン！！」つばみ「ファルコンさん！この人は！？」ファルコン「サムライゴローだ！宇宙盗賊団のボスでもある悪い奴だ。」ゴロー「へっ！余計な事言わなくていいんだよ天下のファルコンさんよ！」ファルコン「お前何故ここに！？何を企んでいる？」ゴロー「俺が用があるのは作者さん！お前だ！」ピツキー「エッ！？何で俺？」ゴロー「アンタに俺の武勇伝小説を書いてもらいてえ！」美希「何ですって！？」ゴロー「こんな小説より俺の武勇伝小説の方がアクセス数もうなぎ上りだー！」祈里「そんな、ヒドイ！」のぞみ「ピツキーさんは今まで1か月以上もこの小説を書いてくれたんだよ！」なぎさ「そんなのありえない！」ゴロー「ああそう、それなら……これだー！」

くるみ「キヤー！！」いつき「くるみ！！」ゴロー「くるみを捕まえる。くるみ「ちよつと！放してよ！」ファルコン「くるみを放せー！」ゴロー「うるせえー！」ゴローはファルコンを殴り飛ばしファルコンは壁に叩きつけられる。ファルコン「ウツ……」つばみ「大丈夫ですか！？」ラブ「あなた！よくも……」ゴロー「おつと！近づいてみな。大事な仲間が危ないぜ？」ゴローは日本刀をくるみに近づける。くるみ「クツ……」かれん「くるみ！！」せつな「卑怯よ！」ゴロー「これが俺のやり方だ！さあどうする作者さんよ？」ピツキー「わかった！書くからくるみを放せ！」のぞみ「そん

な！ダメだよピッキーさん！」つぼみ「そうです！今までの苦労が台無しです！」くるみ「ちよっと！私はどうなってもいいわけ！？」りん「くるみ！待ってな！今助けるから！」ゴロー「ほー、俺から助けようとするってか？おもしろい事言うな。気に入った！作者さんよー、1つレースをしないか？」響「レース？」ゴロー「二日後にFIEROレースが開かれる。それに出場して優勝したらこいつは返してやる。小説もなかった事にしてやる！」えりか「本当に！？」ファルコン「待て！素人には危険すぎる。俺と勝負しろ！」ゴロー「お前とはもう何回もやって飽きた。こういうのもおもしろいんでな。ただし、もし勝てなかったらこの小説はすぐ廃止して俺の武勇伝小説を書いてもらう。こいつも人質として預かったままだ！」ほのか「そんな！」うらら「ヒドイです！」舞「ピッキーさん別の方法を考えましょう！」ピッキー「この勝負……やりますよ！全員「エッ！？」ファルコン「待て！FIEROを甘く見る！下手をすれば死ぬぞ！」つぼみ「死ぬ！？そんなに過酷なんですか！？」ファルコン「大きな事故もあってけが人も出ている危険なレースだ。」奏「そんな！」ゴロー「ハッハッハ！返事をしてしまつたからもう後戻りできないぜ！それまでこいつは預かってくぜ！せいぜい腕を磨くんだな！」くるみ「みんなー！！」のぞみ「くるみー！！！」

ゴローによりくるみは連れて行かれた。ゆり「大変な事になったわ……」こまち「どうして出るって言ったんですか！？」ピッキー「みなさんを危険にさらさないためですよ……」響「でもピッキーさんを失いたくないよ！」ピッキー「許して下さい……くるみを助けるにはこれしかなかったんです……」ファルコン「こうしちゃいられないな！みんなすぐ出発するぞ！」なぎさ「えっ？どこに？」ファルコン「FIEROが開かれるミュートシティだ。」咲「ミ

ユートシティ……」ファルコン「カモン！ファルコンフライヤー！」
ファルコンが指を鳴らすとファルコンフライヤーが登場。祈里「ウ
ワ！大きいー！」ファルコン「みんな乗ってくれ！すぐに出発する
！」全員「ハ、ハイ！」ファルコンフライヤーで地球を飛び立った
プリキュアと作者。果たしてくるみを助けだせるか？

FIZERレースに挑め！！（後書き）

野球勝負から意外な方向へ。しかし次回さらなる波乱が？

ミュートシティで猛練習（前書き）

くるみを助けるため、作者は練習を始める。

ミュートシティで猛練習

地球を出発した一行はミュートシティへ向けて移動中。のぞみ「くるみ！絶対助けるから！」ひかり「ピッキーさん！絶対くるみさんを助けて下さい！」ピッキー「そのつもりだよ。」ファルコン「見えた！あれがミュートシティだ。」ほのか「すごい都会ね。」せつな「ラビリンスみたい。」一同は降りて街へ。

ファルコン「作者さん！今から練習しないとヤバいぜ！今から特訓だ！本番ではブルーファルコンを使い。」ピッキー「ありがとう！早速始めるか。」作者の特訓が始まった。ファルコン「違う！そこでブーストを使い！ピッキー「クツ！難しいな……」悪戦苦闘のようだ。舞「ウソ！？あんなに速いの！？」ゆり「マッハ越えも珍しくないわ。」せつな「あれじゃ体が持たないわ！」のぞみ「ピッキーさん……」練習は苦労が続いたがなんとか扱えるようになったみたいだ。ピッキー「ハアハア。」つぼみ「ピッキーさん！はい水です。」ピッキー「ああ、すいません。」ファルコン「なんとかレースには出れるところまで上達した。明日は頼むぜ！」練習と移動で1日使ったのでレースは明日。ファルコン「レースは2コースで優勝者には500万円出るそうだ。」えりか「すごい大金だね。」（汗）ファルコン「今日は休んで明日に備えるか。」全員一致で市内のホテルへ向かう。

その頃くるみは……　ゴロー「抵抗しても無駄だ！さあ入れ！」くるみ「キャーー！！」くるみは牢屋に入れられていた。くるみ「絶対ピッキーさんが勝つに決まってるわ！あんなにかボッコボコよ！」ゴロー「どうかな？」レースに出るのは俺だけじゃない！500

万目当てでいろんな奴らがレースに出る。そいつらも全員叩きのめして俺が勝ってやるぜ！」くるみ（エッ！？他にもいるの？ピッキーさんが危ない！）

ホテルでは……ファルコンと一同が話し合っていた。ファルコン「明日7時に出発してすぐ会場に入りエントリーしてレースに挑むみんなは応援を頼む！」全員「ハイ！」一同解散して部屋へ。のぞみ「ピッキーさん！」ピッキー「のぞみさん……」のぞみ「必ず優勝してくるみを助け出して下さい！！」舞「私からもお願いします！生きて帰ってきてください！」ピッキー「舞さん……わかりました。必ず勝ちます。みんなの笑顔のために。」なぎさ「信じて待っています！」ピッキー「わかりました。」こうして1日が終わった。

しかしレース参加者が続々集結していた。？？？「このレースで優勝してその賞金でガンブラを買うのであります！」？？？「アホか！（怒）それを侵略予算に使わんか！」？？？「機動六課の名に懸けて絶対勝つ！」？？？「俺が勝ってさらなるレベルアップだぜ！」

ミュートシティで猛練習（後書き）

レースに参加するのは一体誰が？次回明らかに……

賞金を狙う者達（前書き）

ひかり「あなたはまさか……」
「えりか「エッ!? 何で?」
プリ
キュアに動揺が広がる。

賞金を狙う者達

次の日プリキュア達は受付会場にいた。ほのか「たくさん人が来てるわね。」「いつき「迷子になりそうだね。」「ファルコン「受付に行くか。」「一同は受付に向かう。ピツキー「すみません。レースに参加します。」「???「アレ、えりかじゃない?」「えりか「ちよつと!何でも姉がいるの!」「受付にいたのはえりかの姉でゆりの友人来海ももかであった。ももか「いやー、私意外とF・I・Z・E・R・O・M・A・N・I・Aなんだよね。どうしても見たくて来ちゃった!」「ゆり「ももか、意外と大胆ね……」

受付を済ませて一同は歩いていると、ドン!つぼみ「イタツ!スイマセン!」「つぼみが誰かとぶつかる。???「アア?どこ見て歩いてんだ!」「つぼみ「エッ!?ファルコンさん!」「???「俺はファルコンじゃねえ!」「なぎさ「どうしたのつぼみ?……」ってファルコン!」「ファルコン「俺はここにいるぞ!」「ファルコンがやってくる。のぞみ「エエー!?ファルコンさんが2人!?どうなってるの?」「ファルコン「お前はブラッドファルコン!」「ブラッド「よおー!ファルコン!お前もいたか。」「美希「ファルコンさんこの人は!?」「ファルコン「こいつはブラッドファルコン!俺のDNAから作られたクローン人間だ。」「舞「クローン人間!?」「せつな「ファルコンさんにそっくりね!」「ブラッド「聞いたぜ!作者が出るみたいらしいな。ハハハ!勝てないとわかって出るのか。」「りん「そんな事ないわ!必ず優勝してくれるわ!」「ブラッド「へっ!優勝は俺様だ!邪魔者は叩き潰してやるぜ!じゃあな!」「ファルコン「ブラッドファルコンも出る気か……」ラブ「そんなに強いんですか?」「ファルコン「ああ、実力は俺と同じくらい速い。」

「??? ひかり? ひかりじゃない!」誰かが話しかけてきた。ひかり「エッ!? あなたはスバルさん!」スバル「久しぶり! ゆりさん、響、奏、せつなもいるね。」スバル・ナカジマ登場。ゆり「どうしてあなたが?」スバル「私は武者修行でこのレースに出るためにきました。初めましてプリキュアの皆さん!」祈里「イエ、こちらこそ。」スバル「逃走中以来だね。ひかりはなぜここに?」ひかり「それが……」事情を話すひかり。スバル「なるほど、くるみがさらわれてピッキーさんが助ける為にこのレースに。くるみいろいろやかしてくれるわね。」(呆)のぞみ「そんな言い方しないでください!」奏「落ち着いてのぞみ!」響「リリカルさんの逃走中でいろいろくるみが問題起こしたからムリもないよ。」スバルは事情を話した。のぞみ「スイマセン! くるみがそんな事言っていたとは知らなくて。」スバル「気にしないでいいよ。勝たせてあげたいけどそうもいかないね。機動六課の名に懸けて! ピッキーさん! 互いにベストを尽くしましょう!」ピッキー「ハイ! こちらこそ!」スバルと作者は握手をして健闘を誓い合った。

咲「あつ! あれつてもしかして……」咲が見つけたのは……ケロロ「必ずや勝つてケロロ小隊の実力をアピールするであります!」ギロロ「当然だ! ペコポン侵略が懸っている。絶対勝つぞ!」ケロロ軍曹とギロロ伍長も参加するみたいだ。せつな「ケロロにギロロか……手強そうね……」

こまち「あら? あれつてまさか?」こまちが見たのは……ドラえもん「優勝したらどら焼き買いまくるぞー!」美希「ドラちゃん!

何でいるの？」「ドラえもん」「どら焼き欲しいからー！」「つぼみ「隣の方は？」「シロえもん「俺はシロえもん。野球をやっている者だ。」「ラブ「シロえもんってあのドラベースの？」「ドラえもん「僕の知り合いで彼はさらなる修行の為F-ZEROに出るんだ。」「シロえもん「出るからには負けないぜ！」「2体のロボットは向こうへ行つた。

うらら「ドラちゃんまで……」ほのか「ピッキーさん！絶対勝ってください！」「ピッキー「わかりました。では行つて……」のぞみ「待つて！」「のぞみが呼び止める。のぞみ「ピッキーさん！これを持っていつて。」「手渡したのはリストバンド。せつな「これにはみんながそれぞれメッセージを書きました。」「祈里「私達だと思つて付けてください。」「ピッキー「ありがとうございます！」「りん「全く！危なく渡せない所だったよ。のぞみはアホなんだから！」「のぞみ「そんなー！アホじゃないよー！」「（泣）ひかり「じゃあ天然ですネ。」「のぞみ「ひかりまで。」「全員が笑う。ピッキー「じゃあ行ってきます！」「つぼみ「頑張つて下さい！」「いつき「ゴローには気をつけて下さい！」「

賞金を狙う者達（後書き）

いよいよ決戦！この後待ち受けるのは？

FIZEROLレースのルールと参加者プロフィールとマシン紹介（前書き）

FIZEROLに関するルールと参加者のプロフィール、使うマシンを紹介します。

FIZEROLレースのルールと参加者プロフィールとマシン紹介

FIZEROLレースはコースを3周して順位を競う。マシンにはボディ、ブースト、グリップの3大要素がありA〜Eにランクされている。(Aが一番良くてEが悪い。)

ボディは他のマシンなどにぶつかった時に対する衝撃の耐久性で耐久性がいいほどエネルギーが減りにくい。

ブースト 2周目から使えるブースターを使った時にスピードが一時的にアップするがこの性能がいいほどよりスピードがアップする。

グリップ この評価がいいほど急カーブや曲面での安定性が高く、コースアウトしにくくなる。

FIZEROLのルール 2つのコースでポイントを競う。2周目からブーストが使えるが使いすぎるとエネルギーが無くなりリタイアになる可能性が高い。

1位10点、2位8点、3位6点、4位5点、5位4点、6位3点、7位2点、8位1点となっているがリタイアした場合0点になる。

レース参加者とマシン紹介	名前	マシン名	番号	重さ	ボ
--------------	----	------	----	----	---

デイ ブースト グリップの性能

ピッキー ブルーファルコン 7番 1,260? ボデイB
ブーストC グリップB

この小説の作者でくるみを助ける為参戦。初レースでどういう走りができるかが注目される。ブルーファルコンはファルコンから借りた。ボデイとグリップは平均以上だが、ブーストにやや問題が?プリキュアの為に負けられない!

スバル・ナカジマ アストロロビン 14番 1050? ボデイB
ブーストD グリップA

リリカルなのはシリーズより参戦。武者修行の為このレースに挑む。リリカルショーバイさんの逃走中ではあと一步の所で捕まっている。夏木りんや北条響をライバル視している。アストロロビンは曲がりやすいがブーストに問題あり。使い過ぎに注意!

シロえもん ホワイトキャット 5番 1150? ボデイC
ブーストC グリップA

ドラベースより参戦。クロえもん最大のライバル。いろんな球種を使ってクロえもんを苦しめた。今回賞金目的ではなく修行の為に参戦している。ダークホース的存在だ。ホワイトキャットはグリップの高さが魅力で扱いやすい。

ドラえもん スペースアングラー 19番 910? ボデイC
ブーストC グリップA

国民的キャラクターがまさかの参戦。目的は賞金でドラ焼きを大人買いする事みたいだ。走りが注目される。スペースアングラーもホ

ワイトキャットと同じ能力でコースアウトしにくいマシン。

サムライゴロー ファイアステイングレイ 5番 1960？

ボディA ブーストD グリッブB

キャプテンファルコンをライバル視していてグランプリに参加している常連で今回の優勝候補。くるみをさらって自分の小説を書いてもらう事を狙っている。ファイアステイングレイはブースト以外平均以上で安定した走りができる。

ブラッドファルコン ブラッドホーク 25番 1170？ ボ
ディB ブーストA グリッブE

キャプテンファルコンのDNAから作られたクローン人間。ブラッ
クシャドーの命令に絶対服従している。今回は彼単独の参戦だが卑
怯な手を使いそうだ。ブラッドホークはボディ、ブーストも平均以
上だがグリッブの低さが気になる。スピニアタックで落とせばリタ
イアも可能か？

ケロロ軍曹 マイティータيفون 27番 950？ ボディ
C ブーストA グリッブD

地球侵略を狙う宇宙人。しかし日向家の捕虜になって以来侵略が遅
れている。日向夏美が大の苦手。今回はガンプラを買いたい理由で
参戦。目的達成なるか？マイティータيفونもグリッブ頼みか？
コースアウトに注意。

ギロロ伍長 レッドガゼル 1番 1330？ ボディE ブー
ストA グリッブC

ケロロと同じケロロ小隊の一員。武器の扱いは一流で戦闘になると本気になる。賞金で地球侵略を進めたいが賞金の一部で日向夏美にプレゼントを買おうとしている。レッドガゼルはボディの低さが弱点。混戦を抜ければ上位を狙える。

F-ZEROレースのルールと参加者プロフィールとマシン紹介（後書き）

プロフィールはこのようにまとめました。次回いよいよレーススタート！！応援メッセージも受付中です。

ミュートシティ戦 前編（前書き）

いよいよレースが。誰が上位に来るか？

ミューンシティ戦 前編

各自スタンバイが完了しスタートを待つ。アイリス「いよいよレ
ースが始まるよー！実況はポケモンシリーズのアイリスです！今
回はいろんなキャラクターが参加してます。作者さんの走りが注目
されます。」1番前にはドラえもん、後ろから順にゴロー、ブラッ
ド、シロえもん、ギロロ、作者、スバル、ケロロのマシンがスタン
バイ。

なぎさ「ピッキーさんは6番か……」咲「後ろの方ですね。」え
りか「前にあの2人かー。」ゆり「妨害してきそうね。」ドラえも
ん「どら焼きー！」ゴロー「小説デビューだぜ！」ブラッド「50
0万もらうぜ！」シロえもん「1位だぜ！」ピッキー「みんなの為
に……」スバル「負けられない！」ケロロ「ガンプラー！」各自の
想いが交錯する。コースはF-ZEROのミューンシティ。90度
コーナーだらけのコースでジャンププレートはどう使うかで勝敗を
分ける。穴が多いので注意。アイリス「いよいよスタートです。
3、2、1……GO!!」観客「ワアー!!」まず最初に抜けた
したのは……

ギロロ「先攻逃げ切りだ！」ギロロが抜け出す。追うのはゴロー、
ブラッド、シロえもん。ドラえもん「うわー目が回る！」ドラえも
んジグザグに走り最下位に。ラブ「ドラちゃんいきなり最下位かー。
」いつき「ピッキーさんは!？」つばみ「5位ですね。」ひかり「
後ろにスバルさんです。」後ろに作者、スバル、ケロロが追う。ジ
ヤンププレートが迫る。ギロロ「俺は危険な事はしない!」そのま
ま進む。ゴロー「素人が!」ブラッド「常連は全員使うんだよ!」

ゴロー、ブラッドがジャンプしてショートカット!! ギロロ「何!?」ギロロ3位に。シロえもん「俺もやるぜ!」ピッキー「賭けだけどやるしかない!」スバル「負けられない!」3人もジャンプしてショートカット。ギロロ「一気に6位か……」

ケロロ「よし! 吾輩も!」ケロロもジャンプ。しかし、ケロロ「ゲロゲロゲロ! 軽量だから遠くに飛んでい……」のぞみ「ケロロが一位よ!」ほのか「待つて! よく見て!」ケロロ「イヤア! !! 飛びすぎてコースから外れた!」ケロロジャンプを誤りコース外に落下し炎上! アイリス「ケロロ軍曹リタイア! 残りは7台で! す!」せつな「落ちたらああなるの! ?」舞「ピッキーさん……」メンバーに不安が。ギロロ「ケロロ……俺が必ず!」ギロロの闘志に火がついた。

先頭はゴロー。ブラッドが追う。ドラえもんは最下位。ギロロが追い上げて3位に。後ろではシロえもん、作者、スバルが追う。作者とスバルが激しくぶつかる。ピッキー「やりますね。」スバル「ピッキーさんこそ!」レースは2周目に。ゴロー「オイブラッド! 手を組まないか? 上手くいったらお前も書いてもらえるぜ?」ブラッド「フン! まあいい。邪魔者は消すだけだ!」悪の2人が手を組んだ。ゴロー「じゃあこういうので……」ブラッド「わかった!」そう言いブラッドが前へ。

ゆり「ブラッドが前へ出たわね。」りん「ピッキーさんはスバルさんと5位争いね。」こまち「苦戦してるわ。」ギロロが上位に迫る。ギロロ「ウォー! どけえー!」ゴロー「フン! 来たか! 悪いが消えてもらっ。」ゴローはスピードを緩める。ギロロ「チャンス!」

ギロロが抜こうとしたが、ゴロー「終わりだー！」スピニアタックを仕掛けギロロに直撃！ギロロ「何！？ウワー！」ボディが弱いのでコース外へ飛ばされる。ギロロ「夏美ー！！」ドカーン！！ゴロー「へっ！ど素人が！」アイリス「ギロロリタイア！残りは6台です！」祈里「そんな！ヒドイ……」ファルコン「これがFEEZER Oだ。文句は言えない。」つぼみ「これがFEEZER O……」プリキュアがFEEZER Oの怖さを思い知る。

後ろでは作者とスバルがゴローに迫る。シロえもん「抜かれたか。」スバルが抜け出す。スバル「絶対勝つてなのはさんにおごるわ！」スバルが3位、作者が4位に。スバルがゴローに迫る。スバル「あなた何て事を！」ゴロー「ウルセエ！これがFEEZER Oだ。別に卑怯な真似はしてないぜ？」スバル「真剣勝負をして勝てばいいじゃない！」ゴロー「あいにく俺はそういうのは嫌いだな！」ゴローはサイドアタックを仕掛ける。スバル「キヤー！！」マシンが激しく揺れる。うらら「スバルさんが！」えりか「また犠牲者を出す気！？」ゴロー「終わりだー！」体当たりでスバルが押されコース外に一直線。スバル「ここまでなの？」

ミュートシティ戦 前編（後書き）

スバルピンチ！ゴローの攻撃をどう防ぐ？次回ファーストレース
終了。

ミュートシティ戦 後編（前書き）

2台がリタイアして6台に。今回も犠牲者が！？

ミュートシティ戦 後編

ゴロー「終わりだー！」スバル「キャー！！」スバルが押し出される。

スバル「ここまでなの？……」スバルが諦めかけたその時。??？「危ない！！」後ろからブーストを使い追いつくマシンが。スバルが押し出される所をマシンが壁になり防いだ。

スバル「アレ？助かつてる……」本人も気づいていなかった。助けたのは……

かれん「ピッキーさんがスバルを助けた！？」ラブ「どうして？ライバルなのに。」助けたのは作者だった。スバルも動揺していた。スバル「どうして助けたの！？私は敵よ！？」ピッキー「今はレースですよ。話は後で……」そう言うで行ってしまった。スバル「クツ……負けられない！」スバルも追う。その頃先頭では……

ブラッド「このまま1位だ！勝てばいいんだ！」ブラッドの前に……ドラえもん「うわー！ビリだなー。」（汗）まだ1周目のドラえもんが。ブラッド「邪魔だー！青ダヌキー！」その一言を聞いて、ドラえもん「ア、オ、ダ、ヌ、キ？ウオオー！誰に言ってるんだー！」ドラえもんブチ切れ！！

ブラッド「青ダヌキーじゃねえか！」ドラえもん「侮辱的発言に堪忍袋の尾が切れたー！！」（激怒）えりか「ドラちゃん、つぼみのセリフパクツたよ。」つぼみ「ちよつと心外ですー！」

ブラッド「へっ！どけ！」ブラッドが押そうとしたが、ドラえもん「スピニアタック！」スピニアタックが直撃！ブラッド「何！？ハッ！」今の攻撃でブラッドホークが炎上！コース外へ。ブラッ

ド「バカな！？俺が青ダヌキにー！！」コース外に落ち炎上！アイリス「ブラッドリタイア！あと5台でーす！」ドラえもん「チエツクメイト……」せつな「私のセリフまで……」ほのか「でも凄いわ！」のぞみ「後はゴローだけね。」

現在1位はゴロー。2位は作者。3位にスバル。4位にシロえもんだ。レースは3周目に。

ゴロー「このまま俺の勝ちだー！」作者は再びスバルと2位争いをスバル「負けられない！」スバルが2位に。ピッキー「ブーストは最後に使うか。終盤の逆転を狙う。スバルがゴローに接近。ゴロー「へっ！また来たか。」スバル「あなたは絶対に許さない！」スバルの怒りが爆発。

スバルのサイドアタックが直撃。ゴロー「そんなの痛くな……」スバル「前を見なさい！」ゴローのマシンはジャンプ台に乗る。ゴロー「何！？バカな！？スバル「終わりよ！」マシンはコース外へ。ゴロー「次は絶対やつつけてやるー！！」ドカーン！！マシン炎上！！ピッキー「やるなスバルさん！ここからだ！」宣言通りブースト連発で迫る。シロえもん「俺だって！」シロえもんも続く。

スバルは最終コーナーへ。スバル「ここまで来たら！」しかし後ろから……

ピッキー・シロえもん「負けられない！」作者とシロえもんが追うスバル「やはりそう簡単に勝てないか……」必死に逃げる。アイリス「いよいよゴールするわー！誰が1位だー！？」

のぞみ「ピッキーさーん！！」なぎさ「ゴールはそこよー！」咲「負けないでー！」プリキュアも必死に応援。ピッキー「みんなが

応援している……負けられない！」

ラストスパートを賭けブースト連発で2位に。シロえもん「クッ！速い！」シロえもん3位に後退。ピッキーがスバルに追いつく。ピッキー「この勝負負けられないんですよ！」スバル「それはこっちですよ！」両者デッドヒート！！ピッキー・スバル「ハァー！」そのままゴールへ流れ込む。アイリス「ゴール！両者並んでゴール！！3位はシロえもん、4位はドラえもんです！1位は写真判定になります。」

それを見ていたプリキュアは……美希「接戦だったわ！」えりか「どっちが1位!?」せつな「わからないわ。」アイリス「写真判定の結果が出ました。これは……」勝敗は……

アイリス「1位は…… スバルさんです！！」スバル「ヨッシャー！！」のぞみ「そんな……」つぼみ「ピッキーさんが負けた……」写真判定で僅かにスバルが先だった。ピッキー「負けたか……次こそは。」シロえもん「3位か……」

順位	1位スバル	2位作者	3位シロえもん	4位ドラえもん
リタイア	ケロロ	ギロロ	ブラッド	ゴロー

いつき「後がないわね。」舞（私はピッキーさんを信じてる！）つぼみ「このまま終わるはずありません！」ほのか「そうね。信じましょう！」

ミュートシティ戦 後編（後書き）

スバルが1位で作者は2位の結果に。次のレースで全てが決まる
！！

セカンドステージ直前（前書き）

各参加者が想いを語る。

セカンドステージ直前

次のレースの会場移動まで2時間。各自移動中に休憩をする。シロえもん・ドラえもんは……
シロえもん「3位か……優勝はまだ狙えるな……」ドラえもん「僕も最後まで頑張るぞ！」

ケロロ組は……ケロロ「くー、自分のミスで負けたであります！だが次のコースは……」
ギロロ「俺たちにとってはホームかもな。」2人にとってのホームとは？……

ブラッド・ゴロー組……ブラッド「クソ！何で俺が！」ゴロー「落ち着け、次こそは絶対に奴らをリタイアに追い込んでやる！」
ブラッド「そうだな。」ゴロー（フン！その後お前も負かしてやる！）裏切りを狙う。

スバル・ナカジマは……スバル「どうして！？ピッキーさんはどうして私を助けたの！？私は敵なはずなのにどうして……」助けられた理由がわからず苦しむスバル・ナカジマ。

プリキュア組は……のぞみ「ピッキーさん！！」のぞみが抱き付く。のぞみ「よかった！生きてて！」ピッキー「泣かないでくださいよ。まだ勝負をしてないのに終われないですから。」せつな「ピ

ツキーさん、1つ聞いていい？」ゆり「なぜスバルを助けたの？」
美希「あそこでリタイアしていたらピツキーさんが1位だったかも
しれないのに。」ピツキー「正義の味方がそんな事言ったらダメで
すよ。」ラブ「どうしてです！？」ピツキー「自分はおくみを助け
るだけです。その為にムダな犠牲は出さなくなかったですよ。」
くるみ「でもくるみが……」ピツキー「大丈夫！次のレースは必ず
1位を取りますよ。」なぎさ「わかりました！」咲「私達が人の不
幸を望んだらダメだよ。」りん「勝てばいいわけじゃないね。」
つぼみ（ピツキーさん優しいです……）作者の思いやりに心が揺れ
るつぼみ。

ファルコン「見えてきたぜ！あれが次のレース場だ。」かれん「
スゴイ！水の惑星ね！」次のコースはビッグブルー。地表面積の9
9パーセントが海で覆われている惑星。コースはチューブの内面を
走るパイプコースでパイプを出る時に誤って海に落ちないようにし
たい。スバル「ここでも勝って優勝よ！」

セカンドステージ直前（後書き）

次回レースの優勝者が！？

ビッグブルー最終レース（前書き）

このレースで1位が決まる！！

ビッグブルー最終レース

アイリス「いよいよこのレースで優勝が決まります！誰が優勝するか目が離せません！」

スタート順は前のレースが遅い順に並ぶのでケロロ、ギロロ、ブラッド、ゴロー、ドラえもん、シロえもん、作者、スバルの順になる。スバル「ピッキーさんには悪いけど勝つわ！」ピッキー「今回は勝ってくるみを助ける！」思惑が交錯する。

アイリス「スタート3秒前です！3、2、1、GO！！」各マシンがスタートする。ひかり「遂に始まりましたね。」響「そうだね」「こまち「これで決まるのね……」のぞみ「信じよう！」プリキュア達は作者に運命を懸ける。ケロロとギロロがトップに。ケロロ「ここは海。いうならば我らのホーム！」ギロロ「水があれば俺達は強い！」ゴロー、ブラッドが追う。ゴロー・ブラッド「待ちやがれー！」ドラえもん「うわー！目が回る！」ドラえもん、今回も最下位のようにだ。

上位4人を作者、スバル、シロえもんが追う。スバル・作者・シロえもん「負けられない！」アイリス「まもなくトップがパイプから出てきます！誰が先頭か！？」つばみ「出てきました！あれは……」ケロロ「ゲロゲロゲロ！ワガハイが初めて……」しかし一瞬の油断が……

ケロロ「イヤアー！！海に落ちるでありますー！」さらに、ギロロ「うわー！目が回って俺も落ちるー！」ケロロ小隊2名仲良く海

へ落下。アイリス「ケロロ、ギロロリタイヤ！残り6台です！」

ほか「残り6台……」いつき「ピッキーさんよ！」作者は3位で2周目に。ピッキー「このままいけば優勝……」スバル「絶対勝つ！」後ろの2人も追う。先頭の2人は……

ゴロー「ブラッド！このままいけば勝てるな。」ブラッド「アア……しかしお前の負けだ！」ブラッドはスパンアタックを仕掛ける。ゴロー「何しやがる！？」ブラッド「お前が裏切ろうとしてたのはバレてんだよ！」スパンアタックが直撃する。ゴローのマシンが炎上を始める。ゴロー「くそ！お前も道連れだー！」炎上しながらスパンアタック！ブラッド「ぐわ！」ブラッドも炎上する。ブラッド「組むんじゃなかったー！」ゴロー「こっちのセリフだー！」2台炎上！！

なぎさ「見て！ゴローとブラッドのマシンが炎上してるわ！」祈里「このままいけばピッキーさんの勝ちだわ！」レースは残り1周。ピッキー「勝つ！」スバル「負けない！」シロえもん「負けないぜ！」3台が並んで最終コーナーに。ピッキー「ここが勝負どころだ！」ブースターを使う。

スバル「そう来ると思いましたよ！」シロえもん「負けねえ！」2人もブースターを使い離れない。かれん「3台とも互角ね……」ひかり「誰が勝ってもおかしくないですね。」舞「ピッキーさん……」ピッキー「2人ともやりますね！」シロえもん「ここまで来て負けられねえ！」スバル「同じく！」ピッキー「あなた達は最高です、ねこのレースに参加して良かったですよ。」3台はほぼ互角でゴールした。

アイリス「3台ほぼ並んでゴール！！1位！3位は写真判定です！」その後ドラえもんもゴールして4位が確定。ゆり「今回も接戦ね……」りん「これでくるみの運命が決まるのか……」のぞみ「ピツキーさんお願い！」全員モニターに釘付け。アイリス「結果が出ました！今回のレースの1位は……ピツキーさんです！！」つぼみ「やりました！1位です！」えりか「ヨッシャー！」咲「勝ったんだよね。ウソじゃないよね！？」舞「ええ！うそじゃないわ！」2位はシロえもん、3位はスバルだった。シロえもん「2位か……まあ久しぶりに面白かったぜ！」スバル「ピツキーさん、あなたこそチャンピオンにふさわしいわ。またいつか勝負したいですね。」

最終順位 1位作者 2位スバル 3位シロえもん 4位ドラえもん
同率5位ゴロー、ブラッド
ケロロ ギロロ

ビッグブルー―最終レース（後書き）

次回くるみ救出！！

賞金の使い道（前書き）

つぼみ「やりました！これでくるみさんを助けられます！」 えりか
「早く助けに行こう！」

賞金の使い道

その後表彰式が行われ、チャンピオンカップと500万円が贈られた。

舞「ピッキーさん！」舞が走ってきて作者を抱きしめる。ピッキー「舞さん！？どうしたんですか！？」舞「嬉しいんですよ！生きて帰ってきたんですから！」（泣）ピッキー「泣かないで下さいよこれであるのを助けます。」のぞみ「よし！くるみを助けるぞー！けてーい！」

その後ゴローを見つけ出してくるのを助け出す。くるみ「みんなー！！」かれん「ケガはない！？」なぎさ「無事なようだね。」ゴロー「今回は負けたがいつかりベンジしてやるからな！」えりか「もう来なくていいって……（呆）」

ピッキー「悪いなファルコン。マシン貸してくれて。修理代どのくらい掛かる？」ファルコン「これだと400万円かな？」ピッキー「じゃあ500万の内400万使って直してやってくれ。」作者は400万渡した。うらら「残り100万円どう使いましょう？」咲「打ち上げに使うよ。」

奏「いいわねそれ。」ピッキー「皆さん、ちよつと提案があるんだけど……」美希「何ですか？」作者の提案とは？

ケロロ「レースも終わったから帰るであります。」ギロロ「何の為にわたしたち俺達は？」疲れだけが残るケロロ達。そこへ、なぎさ「ちよつと待ちなさい！」ケロロ「ゲロ？伝説の戦士達が何の用

でありますか？」やってきたのはマックスハート組とフレッシュ組。ラブ「ハアハア、ピッキーさんがこれを渡してほしいって。」ラブが渡したのは一枚の封筒。ケロロ「何でありますかな？ゴソゴソ……これは10万円！？」ほのか「ピッキーさんが日向家の人に使うてほしいって渡したのよ。」せつな「でも侵略予算に回すなっ言っただわ。」ひかり「私達はこれで……」

プリキュア達が去っていくと、ギロロ「オイ、ケロロ！それでガンプリは絶対買うなよ！夏美達の役立つ事に使うぞ！」ケロロ（作者さん、何て優しい方でありますか……）

ドラえもん達……ドラえもん「さーて、僕達も帰るか。」シロえもん「向こうから誰か来るぞ。」のぞみ「ドラちゃん！待ってー！」やってきたのはGOGO組とスプラッシュ組。咲「疲れたなりー。」ドラえもん「どうしたの慌てて？」かれん「ピッキーさんがこれを……」封筒を渡した。その中には20万円が入っていた。シロえもん「これは！？」りん「2人で分けて使ってほしいって。」舞「また来てくださいね。それじゃあ。」帰った後、シロえもん「この10万円で温泉に行くか……」ドラえもん「僕もどら焼きに使うのやめようかな……」

スバル「さて私も帰るかな……」つばみ「待つてくださいーい！」やってきたのはハートキャッチ組とスイート組。スバル「何の用？」いつき「スバルさんに渡してほしいってピッキーさんから……」そう言い20万円を渡す。スバル「1つ聞いていい？ピッキーさんはなぜ助けたの？」響「それは……」説明する響。それを聞いたスバルは……スバル「あの人メツチャ優しい人だよ！（泣）」

ゆり「それで機動六課のみんなにお土産買ってあげなさい。」つばみ達は帰っていった。スバル「決めた！絶対ピッキーさんに会いに行くわ！」

プリキュア一行はファルコンフライヤーに乗り地球を目指していた。その中では……

咲「ピッキーさー……」美希「シー！静かに！！」奏「どうしたの？」のぞみ「ピッキーさんが起きちゃうって！」作者はのぞみのひざ枕で眠っていた。舞「さっきまで起きてたんだけど疲れて眠ってしまったわ。」なぎさ「頑張ったからね。」いつき「ヒーローだからね。」くるみ「でもよくのぞみのひざで眠れるわね。」のぞみ「どういう意味よ！（怒）」ほのか「シー！起きちゃうわ！」

つばみ「地球に着くまで寝かせてあげましょう。」こうしてプリキュア一行は帰っていった。

しかし、この時また新たな影が近づいていた。???「プリキュアのせいで僕のストレスが溜まる一方だ！次回仕返しにいつてやる！」

賞金の使い道（後書き）

次回Nの逆襲！！このNとは誰か？後に明らかになる……

Nの逆襲!! (前書き)

ほのか「ねえ、このNってなぎさの事？」なぎさ「ウッソー!?!?
ありえない!」

Nの逆襲！！

地球に戻った一行は作者の祝勝会を奏の家で行っていた。全員「カンパーイ！！」奏の家はカップケーキショップ。今日は店が休みで貸し切りだ。奏介「ゆつくりしてってくださいね皆さん。」奏の父奏介が話す。のぞみ「ハーイ！遠慮しませーん！」りん「全くのぞみは……」美空「たくさん食べてってくださいね。」奏の母美空が作者と話す。ピツキー「いえ、突然来てすいません。」美空「いいんですよ。奏の大切な友人がこんなに来てくれてるんですから。」そう言つて奥に入つていった。

えりか「甘い！これ甘いねー！」祈里「太らないか心配……」各自楽しんでいると……

ピンポン！チャイムが鳴る。奏「ハーイ！」奏がドアを開ける。ブンビー「これはこれはプリキュアと作者の皆さん。」現れたのはブンビー。くるみ「ちよつと！何でアンタがここに！？」こまち「邪魔しに来たの！？」つぼみ「だったら容赦しませんよ！」全員臨戦態勢。ブンビー「違う違う！君たちに聞きたいことがあつて……」なぎさ「何よ！今パーティやつてるんだから！」ブンビー「私のホシイナーを見なかったか？」ホシイナーはエターナル時代使つていた怪物だ。かれん「あんな物騒なものどうする気！？また悪巧みでも……」ブンビー「だから違う！もう使わないから処分しようとしたんだが、君たちの試合を見に行った後からなくなつてしまったんだ。」りん「あんなもんなくさないでよ！困るでしょ！」いつき「でも暴れている様子はないみたいだね。」ブンビー「そこで君達にも探してほしいと思つて来たんだ。」くるみ「自分で探さないよー！」

その時空が急に暗くなり始める。ほのか「何！？急に暗くなったわ！」ゆり「外に行ってみましょう！」全員外へ向かう。するとマントをつけた1人の男が立っていた。つぼみ「あなたは誰ですか！？」咲「何か言ったらどうなの！？」؟؟「フフフ、プリキュアだな。四次元ポケットを渡してもらおうか。」のぞみ「何言ってるの！？渡せるはずないよ！」ラブ「ドラちゃんから預かってるんだから！」???「なら仕方ない……正体を見せてやろう！」マントを取り素顔を見せる。響「あ、あんたは……」

現れたのは、ドラえもんが世話をしているのび太だった。しかし様子がおかしい。ゆり「待って！様子がおかしいわ！」ピッキー「ちょっと待ってくださいね。これで調べてみます。」作者は何故かポケモンのアイテム「シルフスコープ」でのび太を調べる。ピッキー「わかりました！確かにのび太だけど嫉妬と四次元ポケットがないストレスに包まれて悪のび太になっています。」かれん「要するに取りつかれているのね！」悪のび「フフフ、どうしても渡さないなら……」

のび太はポケットから何かを取り出す。うらら「それはホシイナー！？」「ブンビー」お前か！盗んだのは！「悪のび」「人聞きの悪い事いうな。アンタが勝手に落として僕は拾っただけさ。」ブンビー「エッそうなの？」本当です。詳しくは模擬戦最終話で。

悪のび「これを使って四次元ポケットを返してもらおう！」のび太

はメガネをホシイナーに取り付けメガネホシイナーが襲う。ホシイナー「四次元ポケットホシイナー！」ブンビー「あわわわ、私は知らないぞー！」ブンビー逃亡。えりか「あー！逃げた！」なぎさ「さーて！みんなでやつつけ……」ほのか「待って！奏さんの家族がいるのにここで変身はマズイわ！」全員「アッ！」悪のび「ハハハ！どうしたかかってこいよ。」ホシイナーが暴れまわる。奏「私の家で暴れないでよ！」りん「小4のくせに生意気ね！」プリキュアに変身できずに絶体絶命！！その時！

「……」俺の出番のようだな。「こまち「誰！？どこにいるの！？」つばみ「あそこで聞こえました！」指差したのは段ボール箱。くるみ「誰よこんな所に置いたの？」そのとき段ボールが勝手に動き始める。りん「ヒイ！段ボールが勝手に動いた！？」かれん「出てきなさい！」かれんが段ボールを持ち上げる。中には1人の男が……

いつき「あなたはもしかして……」舞「間違いないわ！メタルギアのスネークさん！」のぞみ「エー！？コナミからも出ちゃうの！？」スネーク「話は聞いたぜ。ここは俺に任せてもら……」
「……」僕も混ぜてもらおうかな？「1人の剣士が……」

ひかり「あなたは……リンクさん！」ゼルダシリーズの主人公リンク参戦！！リンク「カップケーキを買いに来たけど面倒な事になったね。ここは僕たちに任せてもらうよ。」咲「あ、ありがとう。」スネーク「フツ、久しぶりだなリンク。」リンク「スネークも。スマブラX以来かな。」スネーク「行くぞリンク！ショータイムだ！」

Nの逆襲!!（後書き）

突然現れたスネークとリンク。ホシイナーを倒してプリキュアを守れ！

リンク&スネークVSホシイナー（前書き）

ラブ「まさかスネークさん達が来るとは……」美希「でも助かるわ。」

リンク&スネークVSホシイナ―

突然現れた助っ人にのび太は動揺する。悪のび「くそ！邪魔しやがって！やれホシイナ―！」ホシイナ―がスネークに迫る。祈里「危ない！」スネーク「バカめ！」スネークはボタンを押す。

ドカーン！！せつな「キャー！！」ホシイナ―の足元にC4爆弾を設置していた。なぎさ「いつの間に……」スネーク「俺にとって簡単なミツシヨンだ。」リンク「今度は僕だ！回転斬りー！」ホシイナ―を切り刻む。悪のび「押されている！」スネーク「そろそろお開きだな！」

スネークはサイファーに？まって上空へ。つぼみ「飛んだ！」悪のび「どこへ行った！？」スネークを見失う。スネーク「とどめだ！」上空からグレネードランチャーを連射する。りん「危な！？」つぼみ「物騒ですー！」スネークによりホシイナ―消滅。悪のび「くそー！次回こそ取り返してやるからな！覚えてろー！」のび太退却。スネーク「逃がしたか！俺は帰る。いずれまた会おう！」スネークは帰っていった。リンク「さて僕も帰るよ。ゼルダ姫に怒られてしまうから。」カップケーキを買って帰っていった。

ゆり「嵐のように去っていったわね……」ひかり「でも助かりました。のぞみ「そうだ！ドラちゃんに連絡しないと！」ドラえもんに連絡する。ここからは電話でのやりとりです。

ドラえもん「そう……のび太君がそんな事を……」ラブ「大変だったんだから！」ドラえもん「わかった！こつちも全力で探すよ。何としても捕まえないと！みんなも気を付けてね。」ドラえもんも
のび太を探す事になった。響「全く！のび太めドラちゃんに迷惑かけんじゃないわよ！」うらら「また狙ってくるでしようね……」なぎさ「今度来たら次こそ捕まえてやるわ！」えりか「そして2度と悪さできないようにしないとね。」

リンク&スネークVSホシイナ―（後書き）

次回はまた普通の話に戻ります。

久しぶりの野球生活（前書き）

こまち「最近いろいろあったわね。」 美希「そうですね。いろんなキャラが出てきましたから。」

久しぶりの野球生活

翌日朝5時、ある人物が練習に励んでいた。ピツキー「ハアハア……」作者がタワー近くの道をランニングしていた。その時後ろから声が……

???「ピツキーさん！」追ってきたのは美希、いつき、かれん、響の4人。いつき「やっと追いついたー！」美希「私達も一緒に走っていいですか？」ピツキー「別に構わないですよ。」

響「見えない所で努力をしてるんですね。私も見習わないと。」5人のランニングが始まった。その頃タワー内では……のぞみ「もう食べられない……」くるみ「パインに打たれた。」残りのメンバーは夢の中だ。

ピツキー「いつきさんは朝早くに稽古してますよね。」いつき「そうですね。だから早く起きるのは慣れてます。」響「私は苦手だなー。」かれん「早起きは三文の得って言うじゃない。」美希「そうですね。」こんな話をしながら空が明るくなる。ランニングを終えてタワー内に戻り室内練習場で練習する。かれん「投球フォームを確認ね。」美希「私が相手になりますよ。」かれんが投げ美希が打つ。美希「とりゃ！」カキン！飛ばしまくる美希。美希「今日も完璧！」かれん「本調子ではないわね。」外野では残った3人がキャッチボールをしていた。響「あーあ、こないだ私投げれなかったんだよなー！」いつき「まさかあんな形になるとは。」ピツキー「今度は投げれますよ。」朝早くの練習が終わった。かれん「朝早くの練習もいいもんね。」響「ピツキーさんは毎日してるんですか？」ピツキー「早く起きた時だけですよ。」こんな会話をしながら

食堂へ向かう。

朝7時30分朝食の時間で全員が起きてくる。のぞみ「ファー！よく寝たなー！」うらら「ヨダレが出てますよ（汗）」つぼみ「みなさん早いですね。」美希「ちよつと朝練を……」なぎさ「早いなー！私もやるのかなー？」ひかり「なぎささん起きれないんじゃないんですか？」毒を吐くひかり。

なぎさ（たまに毒吐くんだよなーひかりは……）朝食は鮭か梅の入ったおにぎりを食べる。響「何かなー？パクツ！梅だー！スツパ―イ！」ほのか「私は鮭ね。」のぞみ「私も梅だー！目が覚めたー！」各自朝食を食べ終わり練習を始める。

くるみ「のぞみ！投げるから打席に立ってよ！」のぞみ「いいよ。打ってやるんだから！」くるみが投球態勢に入る。キャッチャーはりん。くるみ「ターー！」ストレートが向かう。バシッ！りん「スライクだよのぞみ！」のぞみ「えー！うそー！ボールじゃないー！？」りん「いや、思いつきスライクだよ（呆）」こんな調子で午前の練習が終わり昼食を食べていると……

響「ピッキーさんちよつといい？」響と奏が作者の元へ。ピッキ―「どうしました？」奏「午後から用事があるんですけど来てくれませんか？」ピッキ―「何の用ですか？」響「奏が大好きな王子先輩に今度の試合見に来て下さいっていいたいんですって。」つぼみ「私も行きますー！王子さんを見てみたいですー！」せつな「私も乗ったわ。」何人か一緒に来る事に。響「ピッキ―さんにもう1つお願いが……」ピッキ―「まだあるの？」響「それは……」

久しぶりの野球生活（後書き）

響のお願いとは？次回王子先輩を直撃する。

王子先輩に思いを伝える！（前書き）

奏が王子先輩に思いを伝える。果たして結果は？

王子先輩に思いを伝える！

この日の午後響と奏のホーム加音町にメンバーの一部がいた。響「奏ー！本当に王子先輩来るのー？」奏「ええ！私は王子先輩の事を調べ通してるのよ。必ず王子先輩はここを通るわ！」

せつな「ストーカーね……（汗）」のぞみ「早く来ないかなー？」ピッキー「あの一何で自分はこんな恰好なの？……」作者は何故か猫の着ぐるみを着ている。響「奏は暴走すると何するかわからないから猫がいないと……」舞「ハミイはどうしたの？」響「今日に限っていいんだよ。（汗）」

のぞみ「ピッキーさん可愛いー！」つぼみ「ホントです！私、ガマンできませーん！」

作者を抱きしめるつぼみ。ピッキー「ウワ！苦しい！」つぼみ「モコモコして暖かいですー！」

せつな「つぼみやめなさい！ピッキーさんが苦しんでるわ！」その時、響「来た！王子先輩だ。」一同「エッ！」木の裏に隠れ様子を見ると向こうから王子正宗登場！のぞみ「確かにカツコイかも。」奏「でしょー！王子先輩を見たら……キャー！！」暴走する妄想少女。舞「奏さん！？」

響「ただだよ。（呆）ピッキーさん手を貸して。」言われた通り手を出す。

響「ホーラ奏！大好きな肉球だよ。」のぞみ「着ぐるみの肉球でそんな……」奏「ハアー！幸せー！」つぼみ「肉球なら何でもいいんですかー？」一応そういう設定にしています。奏「ハアゝ幸せゝ！」ピッキー「ハアー幸せー……ってなるかー！！」のぞみ「オオ

ッ！ピッキーさんがノリツツコミをしたよ！」せつな「でもスベつたと思うわ。」響「多分日本国民で1番スベるノリツツコミだね。」ピッキー「ニャー！」2人の一言で作者失神。つぼみ「キヤー！ピッキーさんがー！」奏「マズイ！王子先輩が行っちゃうー！」響「ヤバい！舞、ピッキーさんをお願い！」舞「ええ、分かったわ。みんなは王子さんに会いに行つて。」つぼみ「スミマセン！ピッキーさんをお願いします！」作者と舞を残し5人は行ってしまった。

奏「王子センパイー！」王子「やあ北条さん南野さんとそちらは？」のぞみ「私達はプリ……」

つぼみ「ああー！私達は響さん達の友人ですー！」せつな「あなた本当にアホね！」のぞみ「アホじゃないつてー！」王子「僕に何か用かい？」奏「じ、じ、実は、私達野球の試合をやるので見に来てもらえませんか？」王子「フーン、いいよ。皆さんの活躍楽しみにしてるよ。」奏「あ、ありがとうございます！」王子「それじゃあ僕はこれで……」王子先輩は帰っていった。奏「キヤー！王子先輩来ちゃうわー！絶対負けられないわー！」つぼみ「奏さんから炎が！」響「ハイハイ、みんなピッキーさんと舞の所に戻るよー！」その頃作者と舞は……

ガシャン！！舞は自動販売機で飲み物を買っていた。舞「ピッキーさんまだ眠ってるわ。よいしょっと！」舞は着ぐるみを着たままの作者を膝の上に乗せる。舞「ピッキーさんの寝顔は見えていると癒されるわ。」ポカ리를飲みながら舞が待つ。舞「ピッキーさん起きるかな？」舞がもう1つのポカ리를顔に当てる。ピッキー「ニャー！作者復活！舞「あ！ごめんなさい起こしてしまつて！」

ピッキー「結構寝たな。アッ！」作者が舞の膝枕に気づく。ピッキー「すいません今まで気づかなくて！」舞「いいんですよ。もう少し休んでください。」作者がもう一度膝枕の上で目を閉じると舞「ピッキーさん、手大丈夫ですか？」ピッキー「大丈夫ですよ。これぐらいは慣れてるので。」

舞「いよいよ明日日本戦の抽選ですね。」ピッキー「そうですね。どんな人に巡り逢うかはわかりませんが。」舞「もしかしたら敵になるかも知れないですね……」ピッキー「その時はお手柔らかに頼みますよ。」舞（できればピッキーさんと同じチームだといいな……）

その後響達も合流する。響「さーて帰りますか！」のぞみ「夕食は何かなー？」せつな「のんきね。」つぼみ「いよいよ明日が抽選です！楽しみですー！」

王子先輩に思いを伝える！（後書き）

次回本戦チーム分け！どんなチームができるのか？

本戦チーム分け！（前書き）

いよいよ本戦を戦うチーム分けが行われる。

本戦チーム分け！

翌日、横浜スタジアムに22人が集結！いよいよ本戦チーム分けが行われる。タルト「皆さん！今日はいよいよプリキュアドリームカップ本戦のチーム分けやー！この抽選は全世界に生中継やでー！」こまち「凄い盛り上がりね。」のぞみ「そうですね。」

抽選前、模擬試合を共に戦ったチームが控え室に集まり語り合っていた。Aチーム……

なぎさ「今日でこのチームも解散か……」ほのか「さみしいわね。」えりか「短い間だったけどね！」せつな「これからは敵、味方になるのね……」美希「でも遠慮はしないわ！」くるみ「望む所よ！」

Bチームでは…… かれん「できればこのチームでやりたかったわ……」ひかり「まとまってたんですね。」奏「このチーム悪い部分ないもん。」りん「くるみがいたらかき回されてたよ。」のぞみ「ピッキーさんがいてくれたからよかったんだよ。」ピッキー「大した事やってないですけどね。」咲「敵、味方になってもベストを尽くそう！約束ですよ。」こうして会場入りする。

ゆり「どうやって分けるの？」ピッキー「前と同じで同じボールを取った人が同じチームです。順番はBから引いていきます。」つぼみ「なるほど！」タルト「いよいよ抽選が始まるでー！最初はひかりはんやー！」各自の想いは……奏（ピッキーさんいい人だもん

！絶対同じチームに……）

せつな（くるみは口が悪い。できれば離れたいわ！）のぞみ（ピッキーさんと一緒にいい！負ける気がしない……）くるみ（かれんと一緒にいいわ……）

つぼみ（絶対ピッキーさんがいた方がプラスです！）ほとんどの人が作者と同じチームを望む。果たして……

ひかり「いきます！」チームは……

ひかり「……Bです！」こまち「何とも言えないわね。」いつき「1人だけですから。」次は咲。

咲「ヨッシャー！」咲は……

咲「オリヤー！……Bです！」咲もB。せつな「ここまで同じね。」次は……

舞（絶対ピッキーさんと同じチームになりたい！お願い！）結果は……

舞「Aです！」咲と舞は分かれる結果に。咲「舞……真剣勝負が出来そうね……」気合いを入れる咲。のぞみ「よーし！私は……」のぞみの結果は……

のぞみ「……Aです！」ラブ「Aか。」りん「私は……Bです！」りんはB。のぞみ「りんちゃんアツチか。」今の所Bが優勢か？かれん「私は……Aよ！」次々とクジを引いていく。

祈里「私は……Aだ！」つぼみ「エイ！……Aです！」いつき「僕は……Bです！」奏「……Bよ。」ここまでA5人、B5人バラ

バラに分けられる。1番注目される場面が。

タルト「次はピッキーさんクジを引いてやー！」全員が注目する。
舞（お願いします！）

のぞみ（A、A、A……）つぼみ（Aに来てください！）咲（B来てー！）響（緊張するなー！）結果は……

ピッキー「いきます。……Aです！」この結果に会場がどよめく。
なぎさ「咲とピッキーさん分かれたか……」美希「おもしろくなるわね。」舞（よかった！Aに来てくれる……）のぞみ（やったー！ピッキーさんAだー！）つぼみ（ピッキーさん優しいから安心です！）いつき「うわー！ピッキーさんAか。」りん「ヤバいかも……」

次はAチームがクジを引く。なぎさ「女は気合いだー！……Bです！」のぞみ「なぎささんBか。」ほのか「私は……Aです！」なぎさとほのかも分かれた。奏「これも初めてね。」うらら「いきます！……Aです！」こまち「Bです。」1番の問題児くるみは……

くるみ「Aを狙ってやる！……B……」またしてもかれんと分かれる。くるみ「くそ！何でかれんと同じになれないの！」なぎさ「日頃の行いが悪いからよ。」ラブ「私は……Bか。」美希「Bです。」せつな「私は……Aです。」残り3人でA2人、B1人。えりか「あたしで決まるかもー！」

ゆり「早く引きなさい。」えりか「ヨッシャー！引いたー！……Bです！」これにより新チームが確定した。

Aチーム ほのか 舞 のぞみ うらら かれん 祈里 せつな
つぼみ ゆり 響 作者

Bチーム なぎさ ひかり 咲 りん こまち くるみ ラブ
美希 えりか いつき 奏

タルト「以上で抽選会を終わるでー！試合楽しみに待っててやー！」
波乱もあつた抽選会が終わつた。

本戦チーム分け！（後書き）

新チームが決定！！次回横浜市内で新チームが食事会を！

新チームの意気込み！（前書き）

新チームが食事会を開き話し合う話です。

新チームの意気込み！

その日の夜、各チームは横浜市内の店で食事会をしていた。Bチームは……

えりか「ウマーイ！春巻ウマーイ！」中華街の店で食事会のようだ。なぎさ「新チーム結成ね。」

ラブ「そうですね。さあ食べまくるぞー！」美希「のんきなんだから。」その中でひかり、咲、りん、いつき、奏は黙っていた。くるみ「どうしたの？元気ないじゃない。」りん（こっちはくるみと組みたくなかったのよ……）ひかり、咲、いつき、奏も同じ考えだ。

ひかり（ピッキーさんと同じがよかったな……）奏（ああー！ツイてないわー！）いつき（本当に勝てるかな？）咲（ピッキーさんと勝負できるからいいか。でもくるみかあ……）くるみはマイナスイメージが強いようだ。

こまち「チーム名でも決めない？」なぎさ「そうだね。チーム名でも決めようか！」話し合った結果オレンジナックルズ（通称ナックルズ）に決定した。

Aチームはラーメン店で食事会をしていた。のぞみ「しょうゆラーメン美味しい！」

ピッキー「本当ですね。」話が進むがほのか、うらら、せつな、ゆり、響は緊張していた。

かれん「緊張しなくていいのよ。」つぼみ「私達こんなですから。2人の一言でようやく話し始めた。ゆり「……このチーム仲がいいわね。」祈里「Aはどうだったんですか？」響「うーん、悪くなかったけどくるみが暴言を吐くから。」せつな「居心地は良くなかったわね。」うらら「それに比べてこっちは楽しいですー！」ほのか「いいチームになってるのも納得ね。」ピッキー「前のチームは悪口言う人いなかったから。」ゆり「このチームでよかったわ。」舞「チーム名どうしましょう？」チーム名を話し合った結果、パールドリームズ（通称ドリームズ）に決まった。

のぞみ「ドリームズ……」つぼみ「いい名前ですね。」かれん「ベースは紫ね。」響「これからが楽しみだなー！」両チーム新たな一歩を踏み出した。しかしまた新たな敵が近づいていた……

新チームの意気込み！（後書き）

次回新たな敵がプリキュアに迫る！！

新たな敵（前書き）

新チームが決まりそれぞれ練習を始める。しかし新たな敵が現れる！！

新たな敵

翌日、次の試合に向けて練習が始まった。チームが決まっても試合2日前までは違うチームのメンバーとも練習ができる。ブルペンでは……咲「タアー！」バシッ！咲が投球練習をしていた。ピッキー「ナイスボール！」咲「今日も絶好調なりー！」ひかり「私も足を引っ張れません。」

こまち「がんばりましょう。」バツティングの方では……

なぎさ「ウリヤー！」ほのか「タアー！」なぎさ、ほのか、りん、ラブ、いつきが打撃練習をしていた。ラブ「もつと長打力つけないとな！」りん「あたしも打ち損じ多かったから。」いつき「確実に打てるようにしないと。」

グラウンドでは……かれん「投手だけじゃダメだから外野も練習しないと。」くるみ「のぞみ！エラーしないでよ！（怒）」のぞみ「くるみが悪送球するからだよ！」つぼみ「まあまあ、（汗）ケンカしないでください。」奏（くるみ、やつぱり口が悪そう……）不信に思う奏。えりか「あらよっと！」華麗にさばくえりか。うらら「私も負けられません！」

タワーの外では響、せつな、美希、ゆり、祈里がランニングを行っていた。祈里「ハアハア……疲れた。」せつな「頑張ってブッキ

「！」「ゆり」「もう少しよ。」「美希」「響、負けないわよ！」「響」「こつちだつて！」「なぜか競争する2人。せつな「全く！困った2人ね。」「ゆり」「元気すぎね。」「祈里」「体力分けてほしい……」「こんな感じで午前の練習が終わった。

昼食中に、ピッキー「ちょっと午後から用事で出かけてきますので、みなさんで練習してて下さい。」「つぼみ「わかりました。」「ピッキーは外出していった。それを見ていた1つの影が……
???」「フッフ、伝説の戦士プリキュア！楽しみで仕方ないぞ。」「

なぎさ「さーて、練習始めよつか！」「ゆり「そうね。」「のぞみ「ピッキーさんがいない間に上手くなないと。」「その時空が暗くなる。ほのか「何！？」「響「また悪のび！？」「えりか「ヨッシャー！今度こそ……」「かれん「待つて！少し変よ。」「向こうから謎の人物が……

つぼみ「誰ですか！？」「???」「お前たちプリキュアだな？私と戦え……」「ラブ「名を名乗りなさい！」「???」「それはお前達が変わ身してからだ。」「なぎさ「みんないくよ！」「響「軽くやつつけてやるわ！」「全員変身態勢に入る。

なぎさとほのかが手を繋ぐ。なぎさ・ほのか「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」「それぞれ変身する。

ひかり「ルミナス！シャイニング・ストリーム！」「

咲・舞「デュアル・スピリチュアルパワー！」

のぞみ・りん・うらら・こまち・かれん「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

くるみ「スカイローズ・トランスレイト！」

ラブ・美希・祈里・せつな「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

つばみ・えりか・いつき・ゆり「プリキュア！オープンマイ・ハート！」

響・奏「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

ブラック「光の使者キュアブラック！」 ホワイト「光の使者キュアホワイト！」

ルミナス「輝く命、シャイニールミナス！」 ブルーム「輝く金の花、キュアブルーム！」

イーグレット「きらめく銀の翼キュアイーグレット！」

ドリーム「大いなる希望の力キュアドリーム！」 ルージュ「情熱の赤い炎、キュアルージュ！」

レモネード「弾けるレモンの香り、キュアレモネード！」

ミント「安らぎの緑の大地、キュアミント！」 アクア「知性の青き泉、キュアアクア！」

ローズ「青いバラは秘密のしるし、ミルキイローズ！」

ピーチ「もぎたてフレッシュ、キュアピーチ！ ベリー「摘みたてフレッシュ、キュアベリー！」

パイン「とれたてフレッシュ、キュアパイン！」

パッション「熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

ブロッサム「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリン「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

メロディ「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

一同「全員集合！プリキュアオールスターズ！！」

ブラック「プリズムフラワー以来かな？決めゼリフありでいったの。」ホワイト「そんな事言ってる場合じゃないわ！」？？？「フフ、たくさんいるな……倒し甲斐がありそうだ。」

ブロッサム「あなたは何者ですか！？」？？？「フフフ、聞きたいか？」マリン「当たり前でしょ！」？？？「だが今回はここまでだ。お前達変身に尺（時間）を使い過ぎだ。」ドテツ！！

プリキュアコケる。メロディ「何よこのくだりー！！」（怒）「

新たな敵（後書き）

すいません。変身で尺を使いすぎました。次回敵の正体が明らかに……この小説展開が予想できません。

恐怖のゴーストバンカー！！（前書き）

「???」待たせたな。私の正体を教えてやろう。「この人物がブリキユアの脅威になる。」

恐怖のゴーストバンカー！！

前回までのあらすじ　新チームが練習を開始。作者が用事で出かけた後に謎の敵が出現！プリキュアが変身し対決が始まるうとしている。この敵はあるアニメから出てきました。知っている人は懐かしいと思います。

ピーチ「あなた何が目的なの！？」???「それはお前達プリキュアを倒し野球大会を妨害するためだ。」パイン「何ですって！？」ドリーム「ピッキーさんが今まで計画してくれたのよ！そんな事させないわ！」ブロッサム「そうです！絶対にそんな事させません！」アクア「それが目的ね。名を名乗りなさい！」???「フフフ、いいだろう……私の名はゴーストバンカー霞のポタージュだ。」ブラツク「ゴーストバンカー！？」ムーンライト「確かアニメ「コロツケ！」で登場したサラミッドに出てくるゴーストバンカーのはずなのに何故ここに！？」ポタージュ「細かいことは気にするな。伝説の戦士プリキュア、私と戦え！」マリン「アンター人なんか簡単に倒してやるわよ！」

ポタージュ「ホウ、私も見下されているな、だがお前たちが思っているほど簡単には倒せないぞ。信じなさい！」パイン「私のセリフに似ている！？」ブラツク「いいわ。私が相手に……」

ポタージュ「まあ待て。対戦相手は私が決める。」メロディ「何よそれ？」ポタージュ「私が相手を決めるがそれはお前達自身でもある。信じなさい！」ホワイト「何を言ってるの！？」

ポタージュ「そのピンク、お前を相手にしよう。」指差したのはピーチ。ピーチ「OK！簡単に倒してやるわ！」ポタージュ「私がお前たちの知らない世界へいざなってやろう！信じなさい！」

ピーチ「タァー！」ピーチがポタージュにパンチを浴びせる。ポタージュ「グオッ！」不意をつかれ怯む。ピーチ「アンタなんかにやられないわ！アンタみたいな奴と戦ってきたんだから！」攻撃を緩めないピーチにポタージュは防戦一方。マリン「やれー！ピーチ！ベリー」さっさと倒しちゃいなさい！「ピーチ「わかったわ！」しかし一方で……ホワイト（変だわ！相手は攻撃してくる様子がない……）ブロッサム（本当にゴーストバンカーの实力はこんなものでしょうか？）

ムーンライト（オカシイ！何か必殺技があるはず……）

ピーチ「オリヤー！」ポタージュ「ウオッ！」キックで吹っ飛ばされるポタージュ。ピーチ「さーて、そろそろ決めよっかな！」ポタージュ「フフフ。」ピーチ「何を笑ってるの！？」

ポタージュ「これは失礼、プリキュアの实力はこんなものかと思つて。もつと本気で来てくれないと困る……」ピーチ「何ですって！？」ポタージュ「私は本気の1割も出していない。もつと私を楽しませてくれ……」ピーチ「ふざけないで！本気でかかってきなさい！」ポタージュ「いいのか？私が本気を出したら5分も体が持たないぞ？」メロディ「そんな事あるわけないじゃん！」ブラック「こっちは強い敵には慣れてるのよ！」ドリーム「絶対に負けないわ！本気でやりなさい！」

ポタージュ「フフフ、いいだろう！ゴーストバンカーの中でもゴースト中のゴーストと恐れられたポタージュ様の恐怖を味わうがよい！」すると周りに霞が立ち込める。ミント「何！？」ポタージュ「さっきの言葉後悔するなよ……ゴーストポーズション

「！」

するとポタージュが消えてしまう。レモネード「消えた!?!」
「サンシャイン」「どこにいるの!?!出てきなさい!?!」ピーチも見失う。
ピーチ（何をしてくる気?……）するとベリーがピーチに近づく。
パイン「ベリー?」ベリー「ハア―!」いきなりベリーがピーチに
パンチを浴びせる。

ピーチ「キャー!?!」突然の出来事に全員目を疑った。ルミナス「
ベリー!?!」ルージュ「何をしてくるの!?!やめなさい!」ピーチも動
揺する。ピーチ「ウウ、ベリー?……」尚も攻撃するベリー。
ブロッサム「ベリーやめてください!」ブラック「どうしたのよベ
リー!?!」ベリー「フッフ、こういう事だ!」

ベリーが顔を上げるとポタージュの顔になっていた。ピーチ「ポ
タージュ!?!」

イーグレット「どういう事!?!」ポタージュ「フッフ、私は他の者
の体に移り簡単に操る事ができる。私を倒したければこいつを
攻撃してみる。」ブルーム「そんな!」ローズ「操られてるって
いの!?!」ベリー「助けて!体が勝手に!」ピーチ「ベリー!」ポ
タージュ「フッフ!抵抗しなければ楽になれるぞ、信じなさい!」
再び攻撃するベリー。ピーチ「やめて!私はベリーと戦いたくない
!」ベリポタ「ハハハ!さっきまでの勢いはどうした?かかってこ
い!」ピーチ「キャー!」ベリポタのキックに飛ばされるピーチ。
ピーチ「どうすれば……」

その時ベリーが倒れ込む。ピーチ「ベリー大丈夫!?」ベリーが気が付く。ベリー「ゴメン……あたしの体があいつに操られて……」

ピーチ「元に戻ったんだね!でもポタージュは?……」
ポタージュ「フフフ、休む暇はないぞ!」今度はパインに乗り移る。ピーチ「パイン!」

パイポタ「ハハハ!仲間と戦う気分はどうだ!?」パイン「助けて!体がいう事を聞かない!」ブラック「パイン!」パイポタの攻撃にピーチは苦戦する。ピーチ「ガッ!」地面に叩きつけられる。

パイン「ウツ……」パインも倒れる。ポタージュ「今度はこいつだ!」ドリーム「タァー!」ドリームが襲ってくる。ピーチ「ドリームまで!」ドリームのパンチを防御するピーチ。

ブラック「卑怯よ!」アクア「正々堂々と勝負しなさい!」ドリポタ「私はこのやり方で今まで多くのバンカーを倒してきた。本気でやれと言ったのはそちらではないか。」ローズ「やり方が汚いのよ!」ドリポタ「ハハハ!何度でも言え!私を倒す事はできない。信じなさい!」ドリーム「ヤダ!そんなの信じない!」ピーチ「ドリーム!」ドリームが一瞬元に戻るが……

ポタージュ「ホウ、抵抗するのか。だがいつまで耐えられるかな?」ムーンライト「ドリームの精神力がポタージュと戦ってるんだわ!」マリン「もしかしたら元に!」ホワイト「でもあのポタージュ、とてつもなく強いわ。簡単にはいかないわ!」サンシャイン「頑張れドリーム!」

ドリーム「ウウ、もうダメ……ピーチ……逃げて……」ピーチ「ドリーム！」ドリポタ「ハハハ！思ったより抵抗したな！だが諦めろ！そろそろ倒してやろう。プリキュアシューティングスター！」
ドリポタが必殺技を使う。ピーチ「キャー！」技が当たる。ベリー「ピーチ！」パイン「ひどい！」パッション「汚すぎるわ！」ピーチとドリームが倒れ込む。2人を慌てて助けに行く。

ポタージュ「どうした？なぜ攻撃しない？私を倒したいのだろう。もうよい、その黒い奴お前と遊んでやろう。」指名を受けるブラック。ブラック「そんな……みんなと戦うなんてできないよ！」怯えるブラック。ポタージュ「今回はここまでだ。次回も苦しめてやるぞ。信じなさい！」

恐怖のゴーストバンカー！！（後書き）

ポタージュの攻撃に苦戦するオールスターズ！次回も見逃せない。

絶望するオールスターズ ポタージユの恐怖！（前書き）

ポタージユに指名されるブラック。果たして？……

絶望するオールスターズ ポタージュの恐怖！

ポタージュにプリキュアが苦戦している頃作者はつぼみの家の植物園にいた。薰子「ではお願いします。これをつぼみ達に……」作者に何かを渡す薰子。薰子がつぼみの祖母で昔はキュアフラワーとして活躍した。ピッキー「はっ！必ずやつぼみさん達に届けます。」薰子「昔のしゃべり方じゃなくていいのよ。」「戦国無双」のやり過ぎね。」「その頃プリキュアは……」

ブラック「ウー！」ブラックはポタージュに苦戦！ポタージュはブルームに乗り移る。

ブルポタ「ハハハ！どうした？かかってこい！」ブラック「コノオー！！」ブラックがブルポタを攻撃しようとする。ブロッサム「ブラックやめてください！」ブルポタ「あらよっと！」ブルームから抜けるポタージュ。ブルーム「キャー！！」ブラック「ブルーム！」ブラックのパンチでブルームがダメージを負う。パッション「クツ！攻撃すれば仲間に当たるわ！」メロディ「乗り移らないで戦いなさい！」ポタージュ「ハハハ！これが私のやり方だ。信じなさい！」リズム「クツ！これがゴーストバンカーの実力なの？……」ポタージュの力に戦意が失われていく。ポタージュ「フッフ、今度はコイツだ！ゴーストポゼッション！」

ブラック「どこにいったの！？」ポタージュ「ハハハ！ここだ！」

ホワイトに乗り移る。

ブラック「ホワイト！目を覚まして！」ホワポタ「こいつはもうホワイトではない。信じなさい！」ホワイト「逃げてブラック！私には止められないわ！」ブラック「クツ！力づくでも止めてやる！」ホワポタ「おもしろいかかってこい！」ブラック「ウオー！！」ホワポタ「イイぞ！もつと楽しませろ！」2人の戦いを他のプリキュアが見守る。ルージュ「ブラック本気ね……」ドリーム「頑張っ
てーブラック！」ミント「ドリーム無理しないで。」メロディ「アイツ強すぎるわ。」リズム「歯が立たない……」

ブラック「ウワー！」ホワポタに踏みつけられるブラック。ブラック「クツ、ホワイト……」

パイン「やめて！傷つけないで！」ホワポタ「伝説の戦士プリキュア、バンカーに比べたら全然大した事ないぞ！」

ブロッサム「クツ！強いです！」ローズ「エターナルより強いかも……」ホワポタ「ハハハ！諦めて降参しろ！降参すれば楽になるぞ。信じなさい！」ドリーム「イヤだ！ピッキーさんと約束したのよ！」メロディ「絶対ピッキーさんと試合やるんだから！」ピーチ「そうよ！絶対諦めない！」ホワポタ「フフフ、まだ抗うか。そろそろトドメをさしてやろう！」ブラックを投げ飛ばす。ブラック「キャー！」地面に叩きつけられる。

ブラック「ホワイト……」イーグレット「ここまでなの？……」全員が諦めかけたその時！

????「逆境の中にも必ず勝機はありますよ！」

絶望するオールスターズ ポタージュの恐怖！（後書き）

突然の声に驚く一同。次回決着か！？

謎のメッセージ（前書き）

謎の声の主が救世主になる。

謎のメッセージ

ホワポタ「誰だ！？」声の主に全員がその方向を見る。ベリー「あれは……」

ブロッサム「ピッキーさん！！」作者外出から帰ってくる。ピッキー「ピッキーこれよりプリキュアの助太刀に入ります。」ホワポタ「フン！作者のお前から片づけてやる！」ホワポタが作者に迫る。ブロッサム「ピッキーさん逃げてください！」ピッキー「早速これが役に立つな……」

作者が紙袋から取り出したのは……ピッキー「ミラクルライト！ミラクルライトをホワポタに向ける。ホワポタ「ぐわー！何だこの光は！？」ミラクルライトでホワポタが怯みホワイトからポタージュが抜け出す。ブラック「ホワイト！」ブラックが助けに行く。ブラック「ホワイト大丈夫！？」

ホワイト「……エエ、大丈夫！ポタージュは？」マリン「ピッキーさんが追い出してくれたよ。」

ポタージュ「くっ……私としたことが……」ムーンライト「何でもミラクルライトを？」ピッキー「薰子さんここで預かってきました。邪悪な気配がするっていうんで。」サンシャイン「スゴイな薰子さん……」ピッキー「あとこれ。薰子さんがこれをブロッサムに……」作者が手渡したのは……

ブロッサム「これはハートキャッチミラージュ！！」マリン「ヨ

ッシャー！これなら勝てるよ！」

ブロッサム「皆さんあいつに一撃を食らわせましょう！」

マリン・サンシャイン・ムーンライト「エエ！」ポタージュ「何だ！？」

ハートキャッチ組スーパーシルエットの構えに入る。

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト「鏡よ鏡、プリキュアに力を。」

メロディ「いけるわ！」

ハートキャッチ組「世界に輝く一面の花、ハートキャッチプリキュアスーパーシルエット！」

ポタージュ「何！？」

ハートキャッチ組「花よ咲きほこれ！プリキュアハートキャッチオーケストラ！！」

ポタージュ「こんなもの！」ポタージュが防御する。

ムーンライト「フン！」サンシャイン「ハアッ！」マリン「タアー！」ブロッサム「ハアー！！」

ポタージュ「バカな！？」ハートキャッチ組「ハアアアー！！」

ポタージュ「私が負けるというのか！？ぐわああー！！」ハートキャッチオーケストラによってポタージュが地面に叩きつけられる。

ブラック「勝負ありね！」ブルーム「ヨッシャー！」ポタージュ「フッフ、これがプリキュアの力か……」メロディ「どんなもんよ！」ポタージュ「強い者と戦えて私も満足だ……お前達己の道を進むがいい。だが、この先はもっと過酷だ。」マリン「負け惜しみの

つもり？」ポタージュ「フッフ、一つ教えてやろうこの先に起こる事を。この先野球をやっていく中でお前達の中の1人が仲間を傷つけ仲間を苦しめ他の者は仲間を憎む事になるだろう……」ドリーム「私たちが!？」

ポタージュ「そうだ……しかも自らの意志でそれを招くことになるだろう……」

ローズ「そんなのデタラメよ!」ベリー「私たちがそれを望むワケないわ!」ブロッサム「私達の絆は堅いです!」ポタージュ「その言葉後悔するなよ……ぐわああー!!」

ポタージュは消えていった。ブラック「フン!最後にデタラメ言うんじゃないわよ!」
ルージュ「ホントに!誰がそんな事するのよ!」一同に笑顔が戻るが……

ホワイト（何さっきの意味は?……）イーグレット（仲間を傷つけ……）

ミント（仲間を苦しめ……）ブロッサム（仲間を憎む?……）ムー
ンライト（どういう事?……）

ポタージュの残した言葉……後にこれが彼女達と作者を苦しめる事になるとは誰も予想しなかった。

謎のメッセージ（後書き）

ポタージユを倒したが謎の言葉の意味とは？皆さんも覚えておいて下さい。後に重要なカギを握ります。

休息（前書き）

ポタージュとの戦いでプリキュアたちが疲れを取る。

休息

ポタージュを倒しそれぞれ変身を解除する。なぎさ「かー！疲れ
たー！」ラブ「こつちもです。」ピッキー「皆さんすいませんね。
もう少し早く戻っていれば……」つばみ「そんな、ピッキーさんの
せいじゃないですよ。」いつき「ピッキーさんがミラージュ持って
きてくれたので助かりました。」

のぞみ「私もう歩けな～い！」りん「全くのぞみは！」ピッキー「
のぞみさん乗ってください。タワーまで運びますよ。」作者がおぶ
つていくようだ。のぞみ「ありがとうございます～！」のぞみが作
者の背中に乗る。

ピッキー「ウツ！……」のぞみ「エッ！？私重いですか！？」ピ
ツキー「下手したら50？以上あ……」のぞみ「エエー！？そんな
ー！私そんなに……」ピッキー「冗談ですよ。軽いですから大丈夫
ですよ。（笑）」のぞみ「もうビツクリさせないでくださいよ。（
泣）」

舞（ピッキーさん優しいな……）作者に好印象のようだ。つばみ（
ピッキーさん優しいです……本当にいい人です……）響（野球上手
いだけじゃなくメツチャ優しいじゃんピッキーさん！）

のぞみ（ピッキーさんイヤな顔せず運んでくれるなんていい人だな。
こんな人そういないよ……）
この3人も好印象のようだ。

新チーム結成後は各チームごとの部屋になる。ドリームズの部屋

では……ピッキー「着きましたよ。」作者がのぞみを背負って部屋に到着。のぞみ「ありがとうピッキーさん！」ピッキー「なに、これもトレーニングの一部と考えればいいんですよ。」汗だくで語る作者。つぼみ「ピッキーさんこれ使ってください。」タオルを手渡すつぼみ。ピッキー「すいませんね。いやー今日午前中しか練習できませんでしたね。」舞「明日から練習すれば問題ですよ。」祈里「そうだね。今日は早めに休みましょう。」

ナツクルズ部屋……なぎさ「あー肩痛いー！」ポタージュとの戦いで疲れる一同。美希「大丈夫ラブ？」ラブ「何とか大丈夫。」くるみ「ポタージュ、2度と見たくないわね。」ひかり「早めに休みましょう。」「こちら早めに休むようだ。」

その夜ドリームズ部屋では……響「うん……」響が起きる。ちなみに2列構成で左の奥からつぼみ、響、作者、のぞみ、舞、ほか。右の奥から祈里、うらら、せつな、ゆり、かれんの順になっている。響「アレ？ピッキーさんいないな。」作者を探しに行く響。パソコンルームに行くと作者発見。響「ピッキーさんいた！何してるんだろう？」作者は気づいてない様子。響「よし！後ろから驚かしてやろう！」ヒックリさせるようだ。響「ピッキーさん！」ピッキー「ウー！ビックリした！」響が後ろから抱き付く。響「何やってたんですか？こんな遅くに。」ピッキー「今この小説の編集をしてたんですよ。野球の他にこつちもしくちゃいけないんで。」響「大変ですね。寝れないんじゃないですか？」ピッキー「確かにあまり寝れないですね。でも響さん達とこつやって野球するのもお

しろいから疲れも感じませんよ。響「そろそろ戻りましょう。明日もあるんで。」ピッキー「わかりました。今行きます。」2人で部屋に戻りベッドに入る。

響「ねえピッキーさん。」ピッキー「何ですか？」響「今度から私とバッテリー組んでくれませんか？」ピッキー「どうしてですか？」響「こないだの試合見ててピッキーさんとバッテリー組んだらおもしろい野球ができると思ったから！ダメですか？」ピッキー「……わかりました。いいですよ。」響「本当ですか！？ありがとうございます。」ピッキー「ただ咲さんの球をもうちよつと学ぶ必要がありますね。」響「そうですね。明日から対策立てなきゃいけませんね。」響が作者の方を向くが……

ピッキー「クー……」眠ったようだ。響「早！！さっきまで起きてたのに。でも寝顔がカワイイな。」こうして響と作者のバッテリーが誕生した。

休息（後書き）

次回は練習がメインの話になります。

咲の投球を学べ！（前書き）

響「咲のストレートに負けないストレートを目指すわ！」

咲の投球を学べ！

ポタージュ戦から翌日練習を行う一行。ラブ「よし！やってやるぞー！」こまち「あら美希さんは？」ピッキー「美希さんならパリに行ってます。気分を変えて走ってくるといったました。」

つばみ「パリって……」のぞみ「いいなあ〜。」その頃パリでは……

美希「ハアハア……」パリ市内を走っているのは美希、かれん、奏、えりか、なぎさの5人。

えりか「ねえー休もうよー！」美希「まだ10分しか走ってないわよ！」奏「ファイトよ！絶対王子先輩にいい所をみせなくちゃ！」かれん「燃えてるわね。」なぎさ「絶対ピッキーさんに勝ちたいなー！」

日本では……ひかり「ハアハア……」いつき「ナイスボール！」各自練習をしていた。

舞「のぞみさんいったわ！」のぞみ「わかった！」キャッチボールをするのぞみと舞。舞「ねえのぞみさん！ピッキーさん優しいよね。」のぞみ「わかるわかる！昨日もおぶってくれたもん！すごい優しいよねー！」舞「うん。あんな人が同じチームなら負ける気がしないわ。」

ピッキー「ハックション！」響「どうしたのピッキーさん？」ピッキー「誰かウワサしたかな？悪い事はしてないけどな。」響「た

だのウワサですよ。それより咲の所に行きましょう。あのストレートを超えてみせる！」2人は咲の元へ。

咲「オリヤー！」ほのか「ナイス咲さん！」ブルペンで投げ込む咲。そこへ……

響「たのもー！道場破りに来たわー！」ピッキー「道場破りって……」2人が到着。

響「咲！打席に立つから投げてよ。」咲「いいよ！ピッキーさんキヤッチャーやってくれますか？」ピッキー「いいですよ。」準備が整い咲が投げ込んでいる。この間に他のメンバーも集まる。

くるみ「響打てるかな？」りん「分からないわね。」せつな「響としてはこの前のリベンジをしたいでしょうね。」フランスから5人も帰ってくる。なぎさ「ただいまー！」こまち「お帰りなさい。」えりか「お土産買って来たよー！」うらら「わあー！お菓子ですー！」美希「ランニング中にいい店があって買ってきちゃった！」奏で「響頑張れー！」プロテクターをつけ作者が咲の元へ。ピッキー「響さんは咲さんのストレートを学びたいんでストレートだけで。」咲「わかりました。」

咲がストレートを投げ込む。バシッ！響「速いなー！」ほのか「今の球は？」祈里「計測では140キロです。」咲「タアー！」響「何の！」カキン！打つがファール。咲「やるねー！」響「当り前だよ。このままじゃ女がすたる！」その後も2人の攻防が。カキン！カキン！30球投げお互い疲れる。咲・響「勝負！」ストレートを投げ込む。響「タアー！」

バシッ！！響「アッ……」三振に終わる。響「うわー！また打てなかった！でもいい勉強になったよ。」咲「私も！また勝負してよ。」2人は握手する。ほのか「おやつでも食べましょう。」のぞみ「ワ～イ！」くるみ「子供ね……」のぞみ「立派な14歳だもん！」全員でおやつを食べこの日は終わった。

咲の投球を学べ！（後書き）

次回咲のストレートにあの人が助言をする。皆さんのアドバイスや感想も待っています。気軽に送ってもらえると助かります！！

咲のストレート（前書き）

咲「私のストレート速いなりー！」このストレートが今回のカギを握る。

咲のストレート

翌日チームごとに活動していた。ナックルズは……くるみ「タアー！」なぎさ「うわー！やられたあー！」くるみ「よしっ！こんなもんね。」くるみはストレートとある変化球を練習していた。いつき「ナイスくるみ！決まってるね。」くるみ「この変化球疲れるけどかなり使えるわ！」

この変化球とは？後に明らかになりドリムズを苦しめる事になるがそれは後にやります。

なぎさ「よし、カオルちゃんとここで休もうー！」ラブ「賛成ー！」ナックルズはカオルちゃんの所へ。カオル「今日も大忙し！グハッ！」ラブ「カオルちゃんーん！」カオル「オッ！大人数で来てくれたか。嬉しいねえー。」美希「カオルちゃんドーナツ！」カオル「あいよー！」全員で休んで話をする。

えりか「今度の試合勝ちたいな！」美希「当り前よ！全力で勝ちにいくわ。」こまち「こつちがパワー打線でいけばあつちは守備重視のチームね。」咲「私が絶対抑えるなりー！」一同話していると……カオル「みんなちよつといいかな？」カオルが話しかけてくる。ラブ「何カオルちゃん？」

カオル「こないだ咲ちゃんの投げた球ただの球じゃないと思うんだ。」一同「エッ！？」予想外の言葉に驚く一同。なぎさ「どういう事！？」カオル「確実ではないがその可能性が高いんだ。咲ちゃんの投げたのは……」

カオルが全員に話す。咲「スゴイ、そんな球に……」りん「すごいよ！これならピッチャーさんでも打てないよ。えりか「勝ちに近づいた感じねー！」カオル「この事はあつちには内緒にしててくんないかな？」奏「どうしてです？」カオル「後輩達がどういう作戦で勝負するか見たいんだ！試合前日にこの球の事は後輩には言うからわずかな時間でどう対応するか見てみたい。」くるみ「わかったわ！これは言わないでおくわ。」なぎさ「咲頑張つてよ！このチームはあなたの投球に懸かっているわ！」咲「わかりました！試合までに強化できるようにします。」

咲のストレート（後書き）

咲の球に何が！？後に明らかにします。次回ドリームズの練習を見えます。

つぼみ大暴走！！（前書き）

つぼみ「私キレましたー！」 祈里「つぼみちゃんコワイー！」
つぼみに何が！？

つぼみ大暴走！！

カオルとナツクルズと一緒にいた頃……響「あゝあゝ！また打てなかつたな。」

ほのか「チャンスはあるわよ。」タワー内で練習するドリームズ。ピッキー「祈里さんパス！」

祈里「ハイ！」作者と祈里はキャッチボール。のぞみ「エイっ！」舞「ハアー！」

つぼみ「ヤアー！」3人はバッティング練習。せつなとかれんもキャッチボールを行う。

かれん「ナツクルズ打線は強力打線ね。ほとんどがパワータイプね。」せつな「そうね。私も抑えられるか心配ね。」こんな会話をしながら休憩タイム。この休み時間に事件は起こる……

それは響の一言だった。響「ねえつぼみ。何かダジャレ言ってよー！」つぼみ「エエーッ!？」

のぞみ「何でもいいから！」ピッキー「つぼみさん笑いを取るチャンスですよ。」ゆり「つぼみ腕の見せ所よ。」リクエストが殺到する。つぼみ「うう……わかりました！花咲つぼみ！渾身のダジャレを言います！」祈里「頑張ってつぼみちゃん！」つぼみ渾身のダジャレは……

つぼみ「いきます！ふとんが吹っ飛んだー！！」

シーン……低レベルのダジャレに凍りつく。つぼみ「どうでした！？おもしろいですよね？」

のぞみ「エー？まだあるよ。吹っ飛んだからのー？」響「からのー？」無茶ぶりを要求。

つぼみ「ええー！？わ、わかりました！えーと……アルミ缶の上にあるミカン！」

ピッキー「からのー？」かれん「からのー？」周りから全然ウケてない様子。その時！

ブチッ！ほのか「何！？今の音？」せつな「見て！つぼみが！」

つぼみが180度変わる。

つぼみ「皆さんがやってほしいって言うからダジャレを言ったらスベラされる始末。しかも2回！これを何人の日本国民が見ているのか？たくさんの人の前でスベラされる屈辱に私、堪忍袋の緒が切れましたー！！」一同「エエーッ！？」祈里「つぼみちゃんがキレたー！？」響「シブレ何とかしてよ！」シブレ「ムリですー！つぼみが暴走したらだれにも止められないですー！」つぼみ「皆さん！覚悟しなさい！全員成敗ですー！」のぞみ「みんなー！逃げろー！！」全員逃亡！！

つぼみ「私から逃げられないですよー！」

つばみ大暴走！！（後書き）

スベラされたつばみに10人はどう出る！？つばみファンの人ス
イマセン。

うさぎの着ぐるみとブロッサム（前書き）

ブロッサム「絶対全員捕まえます！」ブロッサムが迫る中究極の作戦が！？

うさぎの着ぐるみとブロッサム

スベラされたつぼみがブロッサムになりチームメイトを探す。

ブロッサム「皆さん！今出てくれば罪は軽いですよ！出てこないとピッキーさんなら私が抱きしめて骨を折りますよ！残りの皆さんは何にしようかな？」これを聞いていた人が……

うらら「これはマズイです……皆さんに知らせないと！」うららが知らせに行く。

着ぐるみルーム……うらら「……というワケなんです。」全員が隠れていた。

響「ったくやばいなー！これじゃ軽い逃走中！！だよ。」せつな「ハンターはブロッサムね。」中でも1番ビビっている人が……

のぞみ「ピッキーさん大丈夫！？」ピッキー「だつて見つかったら骨折られるもん。絶対イヤだよ！」舞「落ち着いてください。もしもの時は私達を守ります！」ほのか「そうね。だから安心してください。」ピッキー「そういえば前にこんな事が……」作者が着ぐるみの件を思い出す。

かれん「もしかしたらブロッサムを止められるかも？」ゆり「どいう事？」

かれん「誰かが着ぐるみを着てブロッサムに謝る。機嫌が直るかもしれないわ。」

ほのか「なるほど！誰が着る？」響「前みたいにピッキーさんが……」

……」
のぞみ「ダメだよ！ピッキーさんが行ったら無事で済まないよ！私はピッキーさんにケガしてもらいたくない！」せつな「じゃあ公平にジャンケンで……」ジャンケンで行く人を決める。一体誰が……

ブロッサム「皆さん！そろそろ出てきてもいいと思いますよ！」
ブロッサムが探し続ける。その近くを近づく人が……

ピッキー「うわー！メツチャ怖いって！何されるかわかんないって！」ジャンケンで負けたのは作者だった。ピッキー「運無いな！何で負けるかなー？」ビビりながらも進む。ちなみにうさぎの着ぐるみを着ています。その時！ガシッ！誰かが作者を捕まえる。

ブロッサム「見ーっけーまーしーたーよー！」ブロッサム登場
！！

ピッキー「わー！ブロッサム！さっきはスイマセンでした！他の皆さんも謝っているからお許しをー！」作者が頭を下げ謝る。すると……

ブロッサム「う……やつと会えましたー！！」ピッキー「えっ？」
ブロッサム「だって探しても誰もいないんですもん！途中で寂しくなってきましたよー！（泣）」

ピッキー「じゃあ全員許してくれるんですか？」ブロッサム「モチ

ロンですよー！でもピッキーさんは本当に優しいですよー！」

そう言うつとブロッサムは作者を抱く。ピッキー「ちょっ！？ブロッサム！？」

ブロッサム「ピッキーさん！私の胸に飛び込んで下さいー！」ブロッサムは作者を自分の胸に近づけようとする。ピッキー「ちょ！？いいですつてブロッサム！離してくださいー！」

ブロッサム「遠慮しないでくださいー！飛び込むまで離しません！」ピッキー「ギャー！！折れるー！！誰か助けてー！！」その頃着ぐるみルームでは……

のぞみ「ピッキーさん遅いね。」うらら「そうですね。」響「まさかボッコボコにされて……」

舞「そんな事ないわ！ピッキーさんは約束を守る人よ。」祈里「私もピッキーさんを信じてる！」

響「……そうだね。ごめん心配させて……」かれん「そのうち戻ってくるわ。」

この後作者は何とか脱出に成功しブロッサムの機嫌も直ったが、作者は夕方まで寝込む事になるのは言うまでもなかった。

うさぎの着ぐるみとフロッサム（後書き）

変なオチですいません。次回は私も復活します。

夕食（前書き）

長い1日が終わり夕食を食べる話です。

夕食

ピッキー「ハッ！ここは……？」のぞみ「ピッキーさん良かったー！」

ピッキー「のぞみさんここは？」せつな「ブロッサムから何とか逃げてきて着ぐるみ部屋まで来たのはよかったけどその後倒れちゃったんですよ。」舞「でも無事でよかったです。」

つぼみ「すみません！私のせいでピッキーさんを危険な目に遭わせてしまつて……」

ゆり「つぼみ、暴走して変なスイッチ入れないように。」かれん「みんな食堂に行きましょう。」

全員食堂に移動する。

― 応好きな物を食べれる設定です。なぎさ「私はキツネそばだ！」

なぎさの近くには作者、のぞみ、つぼみ、奏、いつきが座る。ピッキー「自分は麻婆春雨にご飯がピツタリ！」いつき「オオーツ！おいしそうですね。」いつきは餃子定食。

のぞみ「いただきます！」つぼみ「オイシイです！」この2人はピザを食べています。

奏「私はハンバーガーだけど中には何とキムチ！」美希「ウツ！奏大丈夫？」

奏「大丈夫よ！気合のレシピを元に自分で作つたのよ！」くるみ（絶対美味しくないわ。）

響「私はチャーハン！味塩胡椒をたっぷりかけて。」りん「私はざるそば！クーツ！ワサビが効くー！」こんな調子で夕食のくだ

り終了！

夕食後作者からある提案が。ピッキー「まだ残り3試合やる球場決まってるので明日各球場皆さんでバラバラに見に行きませんか？」ほのか「そうですね。じゃあクジで誰がどこに行くか決めましょう。」全国12か所の球場を下見することに。12か所なので誰か1人の下見が2か所になる。

全員「せーの！」全員クジを引く。こまち「私はここね！」りん「ここかあー！」

くるみ「1人で下見！？」咲「私も1人だー！」こうして場所と組み合わせが決まった。それは次回明らかにします。

その夜ドリームズ部屋では……ピッキー「あー、今日は違う筋肉使ったー！」作者もさすがにお疲れのようだ。ゆり「大変な1日だったわ。」つぼみ「本当にスイマセン！ピッキーさん嫌いにならないで下さい！」ピッキー「気にしないでください（汗）水に流しますから。」のぞみ「明日楽しみだなー！」

ナックルズ部屋では……くるみ「よりによって私は1人かい！」ひかり「まあまあ。」

咲「私もだよー！」こまち「クジだからしょうがないわ。」ラブ「早めに寝よつと。」

夕食（後書き）

次回プリキュアと作者が全国12ヶ所に飛びます。誰がどこへ行くか？

全国の球場を下見へ（前書き）

えりか「ここ人工芝だー！……ってほとんど人工芝か。
美希「ここもいい球場ね。」

全国の球場を下見へ

翌日22人はどこでもドアで全国に飛んだ。ちなみに作者がスペアポケットを持っていて各地から連絡が来たら迎えに行く事になっている。ちなみに札幌ドームは除きます。

クリネックススタジアム宮城では

ひかり「ここがKスタですか。意外と広いですね。」

かれん「そうね。試合をやる分には問題なさそうね。」評価はなかなかのようだ。

西武ドーム 舞「広いですね。」

なぎさ「外野が広いな。まあドームだからしょうがないか。」

舞「雨は心配ないですね。」

QVCマリンフィールド

えりか「いいねこの球場！何しろ名前にマリンって書いてるからテーションション上がる！」

美希「単純すぎるアホの子ね。」えりか「いいじゃんもう！」

東京ドーム

ほのか「決勝戦はやっぱり東京ドームかしら？」

ピッキー「できれば甲子園かドームでやりたいですけど、東京ドー

ムだとドームの割にホームランが出やすいんですね。」「ほのか」「打たれないようにしないといけないですね。」「

明治神宮球場

奏「ここは大学野球の聖地と呼ばれる球場ね。」「
せつな「そうね。ここは人工芝で外野もそれなりに広い……か。」「

横浜スタジアム

くるみ「ああーもう！タワーからあまり離れてないのよ！しかも1人だし！これじゃ留守番じゃない！」くるみが下見を終えて歩いているとクッキー売りの店を発見する。

店員「お嬢さん！クッキー買ってかないかい？」くるみ「おいしそう。動物クッキーと、ウツ！デザトリアンクッキー？まあでもいいつか。買ってこつと！」動物クッキー2セットとデザトリアンクッキー1セットをお買い上げ。くるみ「後でみんなで食べよつと。」「

ナゴヤドーム

のぞみ「うわー！札幌ドーム並みに広いなー！」
いつき「でもその分外野は大変そう……（汗）」
のぞみ「ここでやつてもいいかなー！」

京セラドーム大阪

うらら「うーんやつぱりたこ焼きが美味しいですー！さすが本場ですー！」
ラブ「そうだね！何個食べても飽きないよ！」この2人は下見後にたこ焼きを食べていた。

うすら「ナレーターさんも食べます？」
お言葉に甘えて……オイシー！
ラブ「本当オイシー！」

ほっともつとフィールド神戸
咲「うわー広いなりー！ホームランは打たれにくそうだな。けど…
…広いから余計に寂しさが際立つー！」咲は1人で下見を終える。

阪神甲子園球場

ゆり「さすが甲子園……雰囲気にもこまれそうだわ。」
こまち「さすが高校野球の聖地ですね。ここで試合をしたいわ。」

マツダスタジアム

つぼみ「ここは2年前に出来た球場ですね。外野はファインプレイ
ができるかもしれないです。」
祈里「そうね。内野の芝はボールのバウンドが変化するみたい。」
内野の芝を確認する。

福岡YAHOO!JAPANDOOM

りん「何よこれ！メツチャ広いじゃん！」
響「ホントだ！外野はキツイなー！ホームランは出にくいかな？」
こうして下見が終わり全員戻ってくる。

なぎさ「どうだった？」かれん「Kスタは問題なさそうね。」「美希「千葉はちよつとキツイかな？」のぞみ「ナゴヤドームは広がったよー！」「こうして意見が出されていった。

ほのか「後日決めましょう。」「奏「そうですね。」「くるみ「ねえ！後でクッキー食べようよ。買ってきたのよ。」「なぎさ「オッ！いいねえ。」「咲「やったなりー！」

しかしこのクッキーが波乱を招く。店員「クッククック、次こそあいつらから……」

全国の球場を下見へ（後書き）

謎の笑みを浮かべる店員。この正体は！？

皆さんにお願いです。野球の試合をするときに使う球場を募集します！！

1 試合目は決まっているので使ってほしい球場（屋外とドーム球場を1つずつ）計2か所募集します。投票は1人2回とします。送り方は感想欄か直接私のページに送ってもらえると助かります。皆さんの投票お待ちしています。

悪夢のクッキー（前書き）

くるみが買ってきたクッキーがプリキュアに波乱を招く！

悪夢のクッキー

球場の下見を終えた一行は練習を再開する。響「ヤアー！」響は作者を座らせて投げていた。

響「どうピッキーさん私のストレートは？」ピッキー「うーん、悪くはないんですけど咲さんのストレートに比べたらスピードが劣っているんですね。」

響「エー！？ショックー！」ピッキー「もう少しキレを意識して投げてみるといいと思います。」

響「分かりました！」外野練習をするのはつぼみ、いつき、舞の3人。

つぼみ「ハアー、何とか取れました。」

いつき「つぼみは公式戦では外野やってないからね。」

舞「でも慣れてくるわ。」

つぼみ「ハイ！頑張ります！」そんな感じでおやつの時間。最初に来たのは……

えりか「これだな。うーんアタシはデザトリアンクッキーを。」
そう言い2つ食べる。

祈里「あーお腹空いたー！」祈里、ラブ、うらら、奏がやって来る。
ラブ「これだね。」うらら「いただきます！」奏「おいしーい！」
4人もそれぞれクッキーを食べる。その後も次々とやって来る。

のぞみ「いただきますーす！オイシイー！」なぎさ「うわー！おいしーい！」

かれん「これうさぎのクッキーね。」こまち「今年はうさぎ年だから？」

せつな「ピヨーン！」りん「せつなが壊れた！」作者、いつき、響、

つぼみ、舞以外がクッキーを食べる。最後に来たのは……

響「これかくるみの言つてたクッキー。」

いつき「そうだね。ピッキーさんと舞のは残しとこつ。」

つぼみ「おいしいです〜！」作者と舞は……

ピッキー「すいませんね。バツティング練習遅くなってしまつて。

舞「いえ、私もしたかつたんで。」2人が向かう。

舞（ピッキーさんの近くで練習できてよかったな……）

その時！！

???「キヤー！！」ピッキー「今の声は!？」舞「つぼみさんの声だわ！」急いで向かう2人。

ピッキー「どうしました!？」

舞「……つてエエー!？誰!？」響「ピッキーさんに舞ー！助けてー！」響が作者に抱き付く。

ピッキー「わー！うさぎが抱き付いてきたー！」響「違います！響ですー！」

つぼみ「私はつぼみですー！」舞「何で顔だけうさぎなの!？」混乱する2人。

いつき「それがくるみを買ってきたクッキーを食べた後ちよつとしたら……」

つぼみ「こんな顔に……（泣）」作者がクッキーを見る。

ピッキー「これは！！」いつき「何かわかったんですか！？」

ピッキー「これはドラえもんのみつ道具「動物変身バスケット」です。食べた動物に変身するクッキーです！」つぼみ「エエー！一生このままですか！？」

ピッキー「それはないですよ。1個食べたら大体5分くらいで元に戻りますよ。」

響「よかった！でも誰が！？」

ピッキー「そりゃ悪のびじゃないですか。おそらくどこかに隠れてスピアポケットを狙ってますね。」

つぼみ「そんな事させません！」

舞「その顔で言われても迫力がないわ。」つぼみ「うっ……」

いつき「おそらく他の人も食べてるでしょうね。」響「よし！手分けして探そう！」

こうして5人は悪のびと他のメンバーを探す事に。

響「悪のび絶対許さん！」ピッキー「何個食べました？」

響「えーと……確か4個。すると約20分か。」

ピッキー「悪のび……余計な事しやがって……」

悪夢のクッキー（後書き）

次回悪のびを見つけられるか？

悪のびの悪行（前書き）

つぼみ「絶対見つけて成敗です!」 つぼみの願いは叶うか!?

悪のびの悪行

悪のびが仕掛けたとされるクッキーによりうさぎの顔に変えられたつぼみ達。2手に分かれ探す。

いつきと舞

いつき「僕とした事が油断して3個も食べちゃったよ。」舞「早く見つけないと!」

2人の前に……ひかり「舞さん!いつきさん!」舞「ひかりさんも食べたのね!」

ひかり「はい。あのうさぎのクッキーを食べたらこんな顔に。」

いつき「でも害はないんだって。他の人は?」

ひかり「向こうにゆりさん、りんさん、なぎささん、こまちさんがいます。」

作者、響、つぼみの3人

ピッキー「絶対どこかにいます!油断しないで行きましょう。」つぼみ「あつ!元に戻りました!」

つぼみ復活!その時!

???「ピッキーさん!つぼみ!助けてー!」前からデザトリアンが。

つぼみ「ピッキーさん下がって下さい!ここは私が!」ブロッサムに変身。

???「ちよっ!?!つぼみ!?!」

ブロッサム「ピッキーさんに近づこうとは無礼です!覚悟しなさい!」デザトリアンに対して……

ブロッサム「おしりパンチ!」

???「ギャー!」ブロッサム「フー、スツキリしました。」

響「ちよつと!これえりかじゃない!?!」ピッキー「ホントだ!えりかさんですね。」

ブロッサム「エエーッ!?!本当ですか!?!」

えりか「イタタ、もうヒドイよ!デザトリアンじゃないって!」

響「いや、思いっきりデザトリアンだよ。」えりか「エエーッ!?!本当だ!」

ピッキー「多分あのクッキーですね。」つぼみが変身を解除する。

つぼみ「デザトリアンクッキーですね!」するとそこに、

???「あー!みんな!」響「その声はのぞみ!?!」ピッキー「姿がデザトリアンか……」

のぞみ、うらら、祈里がデザトリアンの姿で登場!作者が事情を話す。

うらら「またあの人ですか!」響「その可能性が高いのよ。」祈里「このままなの!?!」

つぼみ「元に戻す方法は必ずあります。探しましょう!」

その後全員合流してうさぎクッキーの効果が切れ元に戻る。

ゆり「良かった元に戻ったわ!」奏「本当だわ!」しかしデザトリアンクッキーを食べた人は戻らない。なぎさ「のぞみ、うらら、祈

里、ラブ、えりか、咲の6人が戻ってないか。」

くるみ「クツ！私のせいだわ。まんまと罠にかかったわ！」

響「落ちて着いてくるみ！方法は必ずあるはずよ！」その時！

悪のび「ハハハ！みつともない姿ですね！」悪のびが外に出現！横にはプリム軍団とスパー軍団がいた。なぎさ「みんな行くよ！」全員外へ。

悪のび「デザトリアンクッキーは僕が作った物だ。元に戻すにはこの薬が必要だ！」

りん「その薬を渡しなさい！」悪のび「あげてもいいがスペアポケットと引き換えだ！」

かれん「何ですって！？」

悪のび「変身したその時には薬を割ってやる。そして2度と元には戻らない！」

美希「そんな！」

ピッキー「わかった！渡すから待ってる！」

のぞみ「ピッキーさんダメだよ！あいつの思うツボだよ！」

ピッキー「みなさんの将来が懸かっているんです。」作者はスペアポケットを手に悪のびに接近。

悪のび「スペアポケットをそこに置いて下がれ。」いう通りにする作者。

悪のび「フフフ、やっと手元に戻ってきたよ。」ピッキー「約束通

り薬を渡せ！」

悪のび「あーそうだった！はい！上げた！」いつき「何よそれ！上に上げただけじゃない！」

悪のび「最初にいったじゃんあげるって！」こまち「騙したのね！」ピッキー「こいつ！」作者が悪のびに接近！

悪のび「やれスパー！」スパーが作者に電撃攻撃！

ピッキー「うわー！」舞「ピッキーさん！」作者が倒れ込む。響が助けに行く。

響「ピッキーさん大丈夫！？」

ピッキー「う……自分とした事が。あんな奴に騙されるとは……」気を失う。

響「ピッキーさんゆっくり休んで。」そう言い響は自分の膝の上に寝かせる。

祈里「こんな事するなんてヒドイ！」ほのか「ピッキーさんには何の罪も無いのに！」

つぼみ「私堪忍袋の緒が切れました！」

悪のび「言っただはずだ。変身してみろ。薬を叩き割るぞ！」

せつな「クッ！手が出せない。」悪のび「仕上げといくか。やれプリム！」

プリムが襲ってくる。なぎさ「ここまでなの？」全員が諦めかけたその時……

???「タアー……！」誰かがプリムを攻撃してプリムが怯む。

悪のび「おのれ誰だ!？」

???「来てみたけど過去の私より悪い奴ね!」

悪のびの悪行（後書き）

次回あの人が緊急参戦！！

キュアビート緊急参戦!! (前書き)

何と話題のキュアビートが緊急ゲストで参戦!

キュアビート緊急参戦!!

悪のびの攻撃で作者が倒れプリム軍団が襲う寸前に誰かが攻撃する。

くるみ「あれは……」響・奏「エレン！」

元々響と奏の敵だったセイレーン。ある事をキツカケに黒川エレンとして生まれ変わり響・奏と共にマイナーランドと戦っている。そんなエレンが緊急参戦!!

のぞみ「エエー!? 今話題のエレンだよ!」響「どうしてここに!?!」

エレン「他の人の作品では出演しているのよ。しかも私の場合は作者さんの誕生日にテレビに本格的に出たのよ。ここは私に任せて!」悪のび「クッ! またしても邪魔者が来たか。やれプリム! スパー!」プリムとスパーがエレンに迫る。

エレン「ピッキーさんとみんなを苦しませない! レッツプレイ! プリキュア・モジュレーション!」

エレンが変身する。ビート「爪弾くは魂の調べ! キュアビート!」

悪のび「何!?」なぎさ「キュアビート……」咲「強そうなりー!」悪のび「えーい! やれー!」

ビート「フン! ザコで私は倒せないわ! 心のビートはもう止められないわ! ビートバリア!」

ビートバリアで攻撃を防ぐ。悪のび「防御だけじゃ勝てないぞ!」ビート「攻撃だってできるわ!」ビートはラブギターロッドを引い

て光の音符を出現させる。

ビート「ビートソニック！」光の音符が矢の形に変わりプリム達に命中！

ゆり「スゴイ！」舞「さすが新しいプリキュアね。」

ビートの活躍で残りは悪のび1人。

悪のび「フン！だが薬はこっちにある！お前達に手は出せないぞ！」

いつき「クツ！まだ手が出せないわ！」奏「あれピッキーさんは！？」

響「えっ！？私の膝の上で寝かせてたけど……」

悪のび「フン！スペアポケットは確かに頂いた！じゃあな！」

悪のびが逃げようとした時、ピッキー「トリヤー！」悪のび「何！？」

作者のスライディングが悪のびにヒットしてスペアポケットと薬が浮く。のぞみ「薬が！」

パシッ！作者が両方キャッチする。

ピッキー「確かに返してもらったぜ。悪のびさんよ！」つぼみ「さすがです！」

悪のび「クー！また失敗したか！次回こそ！」悪のび撤退。

薬でデザトリアン状態解除。響「助かったよ。ありがとうエレン！」

エレン「みんな助かってよかったわ。私はこれで……」奏「行っち

やうの？」

エレン「私はただのゲストよ。また来るわ。」

ピッキー「次回もし書く事があれば絶対参加させますので。」エレン「わかりました。」

こうしてエレンは帰っていった。

ラブ「まさかエレンに助けられるとは……」えりか「でも助かったー！」

響「ピッキーさんムリしないで下さい！」

ピッキー「何、自分だけ寝てる訳にはいかないんでね。」

のぞみ「ダメですよ！ムリしないで下さい！」

キュアビート緊急参戦!!（後書き）

エレンはゲストで登場させました。また登場するかもしれません。

おやつでパニック！（前書き）

今回もおやつ絡みの話ですが悪者は出ません。

おやつでパニック！

翌日練習を行う一行。奏「私も変化球覚えようかなー？ピッキーさんあっちにいるからな……」
奏は変化球を覚えるようだ。

ラブ「ねえピッキーさん！今日のおやつ私が作ってあげますよ。」
祈里「ラブちゃんのお菓子はおいしいんですよ。」
ピッキー「それは楽しみです。期待してますよ。」
舞（私もお菓子作り得意だったらな……）のぞみ（私お菓子作り自信ある！）

この2人もお菓子を作るみたいだ。

ピッキー「あの咲さんのストレート簡単に打てるかなー？」

なぎさ「ピッキーさんなら打てるんじゃないですか？」

ピッキー「無理言わないでくださいよ。」

Kスタでは……ひかり「フー、仙台で練習も悪くないですね。」
いつき「そうだね。ほらひかり投げてきな！」

QVCマリンフィールド

かれん「とりゃ！」ほのか「ナイスよかれんさん！」
かれん「みんなに知られずに練習するのも悪くないわ。今度はりんを三振にしてやるわ！」

おやつの時間……ピッキー「先に行ってますね。」つぼみ「私達も後で行きます。」

食堂に向かう作者。ピッキー「フー、ラブさんのお菓子はつと、あつこれかな？」

ケーキが置いてあった。ピッキー「いただきまーす！パクパク……おいしい。ん？何か変な感触が……ギヤーー！何だこれー！？」作者が食べたケーキの中には羊羹ようかんが入っていた。この羊羹ようかんで作者気絶。

しばらくして……ピッキー「うーん。」作者が目覚める。

つぼみ「あ！起きましたねピッキーさん！」ピッキー「つぼみさん

……あつ！」

作者が気絶している間につぼみは膝枕をしていた。だが作者の頭にはこないだのつぼみ暴走事件が頭を過ぎる。つぼみ「あー！逃げないで下さい！こないだみたいに暴走しませんからこのままでいて下さい。」言われた通りにする作者。

つぼみ「ピッキーさんはこまちさんの作った羊羹ようかんケーキを食べて気絶してたんですよ。」ピッキー「そうかどおりで……」

つぼみ「今舞さん、のぞみさん、ラブさんがお菓子作ってるんで待っていて下さい。」

その頃3人は……ラブ「よし！こんなもんかな。」のぞみ

「できたー！」舞「できたわ！」

3人がそれぞれ持っていく。

ラブ「ピッキーさんお待ちせー！」

ピッキー「これ皆さんが作ったんですか？おいしそうですね。」
のぞみ「頑張って作りました。」舞「みんなで食べましょう。」

ラブが作ったのはクッキー。ピッキー「クッキーを見たらこないだ
を思い出しそう。」

つぼみ「悪のびをさつさと捕まえないといけませんね。」クッキー
ーを食べる一同。

ピッキー「あつ美味しいです！」ラブ「でしょー！これ食べて幸
せゲットだよ！」

のぞみが作ったのはホットケーキ。つぼみ「のぞみさんホットケー
キ作ったんですね。」

のぞみ「シロップに教わったから味は保障できますよ。」一口食べ
てみる。

ピッキー「あつ！美味しい！これ本当にのぞみさん作ったんですか
？」

のぞみ「言っただじゃないですか。おいしいうて！」

完食する作者を横で舞が不安な表情をする。

舞（私の喜んでもらえるかな？……）

舞はチーズケーキ。つぼみ「おいしそうですねー！」

ピッキー「これは舞さんが作ったんですか。いただきます。」一口
食べる。

舞「どう……ですか？」

ピッキー「このチーズケーキ美味しいですよ！店に並んでもおかし

くない味ですね。」

舞「本当ですか!？」のぞみ「本当だ!すごくオイシー!」ラブ「甘い!」

つぼみ「美味しいです!」他の3人も好評価。

舞は感動して泣いてしまう。ピッキー「泣かないでくださいよ。おいしかったですよ。」

舞「初めて作ってこんなに好評価とは思ってなかったんです。(泣)

「のぞみ「うそは言っていないよ。正直な感想だよ。」ラブ「そうそう!自信持つてよ。」

ちよつとした感動があつたおやつ時間だった。

その頃……奏「よし!これで大丈夫ね。」変化球を覚えた奏。どんな変化球かは後に明らかに……

おやつでパニック！（後書き）

皆さんにお知らせです！！

この前発表した球場アンケートですが1人3回（1回の投票につきドームと屋外球場1か所ずつの2か所）に変更します。1回送った人はあと2回バラバラに投票できます。これで皆さんの球場選びが難しくなる事アップです。尚1回目の投票とはばらせるようにして下さい。

皆さん投票お待ちしています。

ミスター任天堂（前書き）

今回あの有名キャラがプリキュアと夢のコラボ！一体どうなる？

ミスター任天堂

おやつを食べ終わり練習を再開する一行。かれん「エッ!? ピッキーさんこまちのケーキ食べたんですか?」ピッキー「知らずに食べたんですよ。中に羊羹が……」

りん「こまちさんは何でも羊羹を入れるから…… (激汗)」

こまち「あらー、羊羹おいしいのよ。」

なぎさ「確かに美味しいけど何にでも入れるのは……」

ゆり「こまち、羊羹は自粛しなさい。」ゆりがツツコミをいれる。

それから1時間後、1台の車がやってくる。宅配便のようだ。

???「お届け物です!」作者、響、奏、ゆり、せつなが対応する。

響「ご苦労さまで……」

作者以外の4人「アー!!」ピッキー「どうしました!?

???「あ! お前達! ?」4人は攻撃的になる。

響「みんなピッキーさんを守るわよ!」せつな「ピッキーさん離れて!」

そう言いせつなは作者を抱きしめ作者は息が出来なくなる。

ピッキー「ギャー!! 苦しいせつなさん……」急に抱きしめられ作者気絶。

この騒ぎに全員集結。ほのか「どうしたの! ?」「うらら」敵ですか! ?」

えりか「ヨッシャー! 倒してやるー!」つぼみ「……ってあれ?」

のぞみ「この人マリオさんじゃないの!？」美希「本当だわ!」
現れたのは任天堂の顔マリオ。世界的ゲームキャラまさかの登場!

マリオ「オイ!この4人何とかしろよ!さつきからこの状態だ。」
くるみ「ウルサイ!この裏切り者!」響はみんなに説明する。マリオはリリカルショーバイさんの逃走中遊園地編でプリキュア6人全員に恨まれている。のぞみ「ひどいよ!そんな事しちゃ!」
つばみ「悪さをするなら暴力をしますよ!」

マリオ「待て待てーい!俺はある物を届けにきたんだ。作者はどこにいる?」
奏「それなら……ってええー!？」作者はせつなにより気絶していた。

美希「ピッキーさんしつかり!」のぞみ「ひどいよせつな!」
せつな「あっあっごめんなさい!つい慌てて……」

10分後目を覚ましマリオと話し始める。ピッキー「何の目的でここに来た?」

マリオ「理由は2つ。1つは発注していたユニホームを届けに来た事。もう1つはそろそろ試合をやるみたいだな。その試合をキノコ王国でやってほしい。」

全員「エッ!？」咲「キノコ王国って……」マリオ「俺達の住んでる国だ。」

なぎさ「何か企んでるんじゃないわよね?」

マリオ「疑うな!ただ試合をやって欲しいだけだ。」ピッキー「どうします皆さん?」

ラブ「いいじゃないですか。行きましょう!」

のぞみ「そうだね！日本以外でやるのも悪くないね。」
響「悪い事したら許さないわよ！」一応全員賛成した。

マリオ「OKみたいだな。このワープ土管を通ればいつでも来れる。使ってくれ。じゃあ待ってるからな！」こうしてマリオは帰っていった。くるみ「キノコ王国ってどんな場所かしら？」
祈里「キノコばかりの国？」のぞみ「それよりユニホーム見てみようよ。」箱を開け確認する。

響「本当に紫色だよ。」ひかり「オレンジですね。」各チーム番号を決める。

ドリームズ

ナック

ルズ

1 響
2 ほのか
3 のぞみ
4 作者
5 つばみ
6 舞
7 せつな
8 祈里
9 うらら
10 かれん
11 ゆり

1 咲
2 ラブ
3 なぎさ
4 美希
5 りん
6 奏
7 くるみ
8 えりか
9 いつき
10 こまち
11 ひかり

響「やっぱりエースナンバーは1でしょ!」咲「そうそう!この番号はエースの証!」

テンションが上がる2人。ゆり「数字にはこだわらないわ。」「こうしてキノコ王国行きが決定した。

ミスター任天堂（後書き）

次回の試合はキノコ王国で開催決定！この先どうなる？

キノコ王国へGO!! (前書き)

試合会場のあるキノコ王国へ22人が出発する。

キノコ王国へGO!!

次の日2人はワープ土管を通ってキノコ王国に到着。試合まで2日なので練習はチームごとになる。まず全員で王国を探索する。つばみ「きれいな所ですね。私は好きです。」

えりか「あたしより小さいのがいっぱい歩いてるよ。背が高くなつた気分!」

奏「あれはキノピオよ。いっぱいいるわ。」全員でピーチ城へ向かいピーチ姫達に挨拶をしに行く。

ピーチ城に着きピーチ姫と話をする。

ピーチ「これはこれはプリキュアの皆さんとピッキーさんようこそキノコ王国へ。」

くるみ「あのヒゲ親父が勝手に来たのよ。」さっそく毒を吐くくるみ。

りん「くるみ!ピーチ姫の前で余計な事言わないでよ!」

咲「大きい城なりー!」奏「いつか王子先輩とこんな場所で……キヤー!!!」

いつき「奏!妄想しないで!」いつきがハリセンで奏を突っ込む。

ピーチ「随分にぎやかな人達ね。王国にいる時はこの城で休んでくださいね。2日後の試合楽しみにしてますよ。」ピーチは行ってしまふ。

城内をウロウロしていると……舞「マリオさんとあの緑の人は……」

……
うちら「えーと……誰でしたっけ?」

ルイージ「君達！有名な緑の人気者のルイージの名前を忘れる訳ないでしょ！」

祈里「まあまあ、笑いのフリでは当たり前ですから。」

ルイージ「プリキュアにバカにされる僕って……」落ち込むルイージ。

マリオ「気にするな。これから球場へ案内してやる。ついてきな。」
マリオに案内される2人。

ヨッシー「あつ！マリオさん！」マリオ「ヨッシー久しぶりだな！」

えりか「キャー！ヨッシーに乗りたーい！」うらら「私もですー！」
ヨッシー大人気。

ゆり「お子様ね。」

なぎさ「そんな事言っておきながらゆりさん！ヨッシーと2ショット写真撮ってるじゃないですか。」ゆり「……いいのよ。私だって女子高生なんだから。」

ピッキー「どういう理由ですか。」ゆり「何か言いました。（怒）」
ピッキー「何でもありません！（激汗）」マリオに案内され試合会場へ。

マリオ「着いたぜ。ここが試合会場だ。」舞「きれいな庭ね。」

試合場所はピーチガーデン。ピーチ城内に作られたスタジアムで噴水があるのが特徴。上空には隠しブロックが浮いておりボールが当たると落ちたりバウンドしてホームランになる事も。

マリオ「今日は遅いから明日各自のチームで練習しな。」

夕食時間……のぞみ「おいしーい！いっぱい食べれちゃうよー！」
ラブ「本当！」

響「いっぱい食べなきゃ女がすたる！」美希「あの3人はアホね。」
ひかり「まあ楽しくていいじゃないですか。」

お風呂にも入り寝る準備をする。こまち「すぐくさっぱりしたわ。」
くるみ「明かり消すわよ！」

ドリームズ部屋でも……つぼみ「いいお湯でした。」せつな「いい場所ね。」

かれん「明日の練習も頑張りましょう！」

キノコ王国へGO!!（後書き）

投票締め切りは1試合目が終わったら締め切ります。
まだ3回投票していない方はお早めに!!

ビーチガーデンで前日練習（前書き）

試合会場でそれぞれ練習し明日の試合に備える。

ピーチガーデンで前日練習

試合を明日に控え各チームスタジアムで練習する。ナックルズから練習を始める。

咲「タアー！」りん「速いな！咲のストレート打ち込まれないよね。何しろあのボールなんだから！」咲「今日も絶好調！」

強力打線陣もバッティング練習。なぎさ「タアー！」いつき「はっ！」美希「ハアー！」

当たりはいいが変身している時と比べたら飛距離が落ちる。しかもこの球場特有の仕掛けも……

なぎさ「アー！またブロックに当たった！」

いつき「キツイな。しかも広いしセンターはピーチ城の壁だからホームランはほぼ不可能ね。」

美希「ホームランはレフトかライト方向にしか打つしかないわ。」

えりか「って事はブロックを利用すればホームランも夢じゃない！くるみ「必ず勝ってエースの座に座ってやる！」こまち「みんな頑張りましたよ。」

ひかり「私も頑張ります。」

この後ドリームズも練習する。響「ハアー！」

ピッキー「ナイスです。この前より変化球のキレは上がってます。」

響「よし！頑張るぞ！」

作者はせつなの球を受ける。

せつな「まさかホームラン打たれたピッキーさんとバッテリー組んでもらえるとは。」

せつなと響のバッテリーを組む作者。ピッキー「運命ですかね。まあ頑張らしましょう。」

打撃陣は……のぞみ「ウリヤ！」つばみ「ヤァー！」気合いを入れて打っているが空振りが目立つ。のぞみ「ああー打てないよ！」つばみ「私もあまり打てません。（泣）」
その2人より好調なのが……舞「ハァー！」ほのか「まだまだ！」「カキン！」

ほのか、舞の2人は的確に当てている。
のぞみ「いいなあー！何で打てるんですか？」

舞「私とほのかさんはピッキーさんと一緒にバッティング練習していく内に上手くなったのよ。」

ほのか「努力すれば結果は出るわ。」つばみ「今からピッキーさんの所へ行きましょう！」

のぞみ「うん！足は引つ張れないよ。」急いで向かう2人。

ほのか「本当に勝てるかしら？強力打線のナックルズに対して戦力的にはこちらが不利だね。」

舞「確かに戦力としてはこちらが不利です。でも最初から諦めたら勝てないです。勝つための練習と努力はしてきました。必ず勝てます！リーダーのほのかさんがそんな事言わないで下さい！」

ほのか「……そうね。私もなぎさに勝ちたい！全力で戦うわ！」

舞（咲！私も本気で勝ちにいくわ！）

その夜チームごとにミーティングを行う。ナックルズ部屋……ラブ「よし、スタメン、打順、守備も決まったわ。」えりか「明日は勝つぞー!」

咲「絶対勝つなりー!」なぎさ「全くあの子らは……」美希「のんきね。」

彼女達をよそに心配する人が。奏（ピッキーさんとはいいバッテリー組んでたのに今は響か……）

りん（ゆりさん、あの人から打てるかな？全く読めない……）

いつき（一番危ないのは絶対ピッキーさんね。）作者と元チームの3人は警戒する。

ドリームズ部屋……打ち合わせを終え部屋にいるのは作者、うらら、せつな、響、舞、のぞみ、祈里、つぼみの

8人。祈里「いよいよ明日か。頑張ろう!」上級生組は入浴中。

せつな「ええ、それに比べて……」せつなが目を向けた先にベッドで寝言を言うのぞみ。

のぞみ「うーん、チョコがいつぱい……」

せつな「全くのぞみはのんきなんだから!明日が試合なのに気を引き締めなさいよ!」

せつなが起こそうとする。うらら「まあいいじゃないですか。」

せつな「あなたとのぞみは天然なのよ!」

ピッキー「まあまあ、せつなさん落ち着いてください。のぞみさんは天然な部分があるけどやる時にはやると思います。のぞみさんは自分達とは違う物を見ているんですよ。」作者がボールをキャッチしながら説得する。

せつな「ピッキーさんがそう言うなら。」響「何でわかるんですか？」

ピッキー「確かではないですけどのぞみさんはみんなを元気にしてくれて個人の能力を引き上げてくれるんじゃないかと思うんです。1回自分も助けられてるんで。」

その時作者の電話が鳴り部屋を出る。つばみ「ピッキーさんが言うなら間違いないです。明日勝ちましょう！」舞「そうね。」せつな「わかったわ。」

廊下では……ピッキー「もしもし、あっ！師匠！咲さんの球？はい、はい、昔師匠が話してましたね。えっ！？咲さんがそれを？はい……分かりました。咲さんが出たら話せばいいんですね。了解です。」電話を切った。

ピッキー「昔聞いた事があるけどまさか咲さんが投げてた球が……これは負けるな。」

ビーチガーデンで前日練習（後書き）

次回はいよいよスタメンが明かされる。果たしてどんなメンバーが？

試合直前練習（前書き）

試合直前で練習する話です。

試合直前練習

翌日の午後1時。試合直前練習が行われている。ナックルズから練習する。会場にはたくさんのお客が集まっていた。

サムス「弁当いかがですかー？もしくはプリキュアのフィギュアいかがですかー？」

客「キュアドリーム1つ！」客「私はリズム！」サムス「まいどあり！」

売り子のバイトをするサムス。サムス「賞金稼ぎも大変ね。」

なぎさ「タァー！」打撃練習で飛ばしまくるなぎさ。投手陣も練習中。

いつき「咲のあの球ならピッキーさんでも打てないわ。」咲「全力で勝つよ！舞真剣勝負よ！」

それをベンチで見るドリームズ。かれん「紫色ね。嫌いじゃないけど。」

舞「いよいよですね。頑張りましょうピッキーさん！」舞が隣の作者に話しかける。

舞「ピッキーさん？」ピッキー「アッ！すみません考え事してて。」

舞「咲の方見てましたけどどうしました？」ピッキー「いや、何でもないです……」

そう言いベンチ裏に下がる作者。響「大丈夫！絶対勝つわ！」舞「そうね。」

ドリームズの練習がスタート。のぞみとつぼみも的確に当てる。

のぞみ「昨日より上手くなってるよ。」つばみ「ピッキーさんのアドバイスで助かりました！」

作者は響の球を受ける。響「オリヤー！」球を取りながら作者はこんな事を思っていた。

ピッキー（いいところ135キロか。今の響さんの球では咲さんには勝てないな。頼みの綱はせつなさんだな。結局響さんの能力を引き出せなかったか。これはキツイな……）

響「ピッキーさん！最後は全力でいきますよ。」

ピッキー（ん？本気じゃなかったのか？でも今の響さんの球じゃ……）響が全力で投げ込む。

響「オリヤー！」ピッキー「エッ！？」

バコツ！！剛速球がグラブを弾いて壁に命中。響「ピッキーさん大丈夫！？」

ピッキー「うっ、大丈夫です……取り損ねただけです。」

響「良かった！ケガさせたと思った！」響を見ながら作者が思った。ピッキー（今の球はまさか！？こんな近くに？）しばらく手が震えていた。

午後2時いよいよ試合が始まる。タルト「皆さん！ドリームカップ第1戦がここピーチガーデンで行われるで！今回のゲストはこの人やー！」

デイジー「どうも！デイジー姫よ。」タルト「デイジーはんよろし

く頼みまっせ！」

デイジー「任せて！野球の解説なんて簡単よ！」

タルト「スタメンが今届いたで。今回はこれや！」

ドリームズ	
1	舞 ライト
ナックルズ	
ラブ ファ	
リスト	
2	うらら ショート
ひかり ショ	
ート	
3	ゆり サード
りん セン	
ター	
4	作者 レフト
なぎさ サード	
5	響 センター
いつき レフト	
6	のぞみ ファースト
美希 ライト	
7	つぼみ セカンド
こまち キャ	
ツチャー	
8	ほのか キャッチャー
えりか セカ	
ンド	
9	かれん ピッチャー
奏 ピッ	
チャー	
控え 祈里 せつな	
咲 くるみ	

タルト「次回いよいよスタートや！」

試合直前練習（後書き）

スタメンを考えるのかなり苦労しました。（激汗）

次回からスタートですが更新は遅くなると思いますが真剣勝負をお届けします。アニメでは見られない彼女たちの勝負をお楽しみ下さい。

激戦開幕！！（前書き）

遂に試合が始まる。これから長くなります。

激戦開幕！！

全員が整列し挨拶をする。カオル「お互いフェアプレイをするように！」

全員「お願いします！」ジャンケンをするなぎさとほのか。勝ったほのかは後攻を取る。

1 墨ベンチ

えりか「先発はかれんさんか。」ひかり「この前と同じですね。」こまち「チャンスはあるわ。頑張りましょう。」

3 墨ベンチ

のぞみ「ピッキーさん。背低いけど何でうまいんですか？」作者はえりか、ひかり、うらの次に背が低い設定です。ピッキー「背が高い低いは関係ないです。努力して練習すれば上達していきます。でも自分は4番の器じゃないと思うけど。」

響「4番はピッキーさんしかいないです！これは間違ってるんです。」

のぞみ「そうだよ！ピッキーさんを信じてます。」

かれん「先発としてゲームを作らないと！」守備に就く。

マリオ「姫！飲み物を買ってきました。」ピーチ「ありがとう。」ルイーザ「どっちが勝つかな？」マリオ「ナックルズじゃねえか？戦力見ても上だろ。」

ピーチ「やってみないとわからないわ。言葉を選びなさい。」VI

P席で観戦する3人のやり取りだった。

1回表ナツクルズの攻撃は1番ラブから。ラブ「幸せゲットだよ！」「かれんの初球は……」

バシッ！ストレートでストライク。ラブ（今日も速いな。でも打てるわ！）

かれん（初球は見送ったわ。次は……）スライダーを投げる。ラブ「ヤアー！」カキン！

かれん「のぞみ！」のぞみ「キャー！！」飛び込むが抜けてライト前ヒット。

ラブ「よし出塁できた！」かれん「いきなり打たれたわ。まあいつか打たれるわ。」

落ち着くかれん。2番ひかりが打席へ。

ひかり「かれんさん！元チームメイトですが手加減しません！」かれん「そうでなきゃおもしろくないわ！」

140キロのストレートを投げる。ひかり「次に繋げる！」ひかりはバントする。

コン！サードに転がる。ゆり「セカンドは間に合わないわ。のぞみ！」

ゆりがのぞみへ送り1アウト。美希「ナイスバント！」くるみ「順調ね。」

ほのか「1アウト2塁で上位打線ね。」ほのかも慎重になる。

3番はりん。りん「かれんさん！本気で投げて下さいよ。あたし

が打ち砕いてあげます！」

かれん「上等よ！」まず135キロのカーブを見送りボール。次に137キロのスライダーをカットして1ボール1ストライク。ほのか（次にアウトコースのこれで……）かれんもうなずき3球目。かれん「ハアー！」143キロのストレート。りん「もらった！」カキン！

確かに当たったがかれんの球威が勝り打ち上げる。りん「くそ！打ち上げた！」

りんは悔しそうに走り始める。ボールはセンターへ。響「オーライ。オーライ。」

しかし思いがけない事が。

ガン！！ボールがブロックに当たり落下点が変わる。かれん「エッ！？」

響「ウソ！？後ろに落ちちゃうって！」

ボールが響の後ろに落ちヒットになりその間にラブがホームイン！ボールを送る間にりんもサードへ。ラブ「やったー！1点取ったー！」

りん「ラッキー！普通ならフライだったよ。（汗）」かれん「クッ！ついてないわ。」

響「うわー！ブロックに邪魔されたー！ブロック全部なくしてよ！」のぞみ「この球場怖いよ。ブロックでフライがスリーベースヒットになるんだもん。」

次は4番なぎさ。なぎさ「ここで点を取れば流れはこつちよ。絶対打つ！」

かれん「ここで止める！」130キロのカーブ。なぎさ「ヤアー！」当てるがファール。

次もファールで追い込む。ほのか（この球でなぎさを打ち取りましょう。）

サインを出しうなずく。かれん「勝負！」145キロのストレートを上に投げる。

なぎさ「タアー！」

カキン！かれん「クツ！ピッキーさん！」ボールはレフトへ。パシッ！

キャッチと同時にりんがタッチアップ。ピッキー「させない！」レ―ザービームを発動。

りん「来る前にホームを狙う！」ほぼ同時だ。パシッ！りんの足が勝利1点追加。

ほのか「間に合わなかったわ。」ピッキー「やっぱ速いなりんさん……」5番いつきが打席へ。

いつき（かれんさんも精神的に危なくなっているはず。そこを突ければ……）

かれん「これ以上点をやれないわ！」141キロのストレートを見送りストライク。

かれん「打ってみなさい！」スライダーを投げる。いつき「甘いですよ！」カキン！

かれん「あつ！」ボールがセンターへ……

つぼみ「とりゃー！」つぼみがジャンプしてセンターに抜けると
思われたボールを取って3アウト。つぼみ「やりました！」いつき
「うーん！まさかつぼみに取られるとは。なかなかやるね……」

響「ナイスつぼみ！2点で抑えたわ！」ベンチに戻るドリームズ。
つぼみ「自分でも取れるとは思わなかったですー！」かれん「でも
2点取られたか。」
のぞみ「大丈夫！まだ始まったばかりだよ。」祈里「そうだね。頑
張ろう。」

ナックルズベンチ

なぎさ「先制できたわね。」いつき「2点止まりか……もう2、3
点取りたかったわ。」
奏「私の出番ね。この変化球で抑えるわ。模擬戦と違う私の気合い
の投球見せて上げる！」

激戦開幕！！（後書き）

遂に始まりました！これからしばらく長くなりますが応援よろしく
お願いします！！変化球の勉強もしくちゃいけませんね。

奏の変化球（前書き）

奏の変化球が牙を向く。

奏の変化球

ドリームズ1回裏は1番舞から。舞（元チームメイトというけど戦いにくいな。でも勝ちたい！）

打席に立つ。奏「舞！悪いけど打たせないわ！」舞「いや、私が打ってピッキーさんに回すわ！」

奏の初球は、奏「ハアー！」130キロのストレートでストライク。舞（そんなに速くない。）

次はカーブでボール。スローボールも外れボール。

舞「ハアー！」ストレートをカットして2ボール2ストライク。奏（そろそろあの球を……）

奏が新しく覚えた変化球を投げる。奏「ハアー！」舞「ストレート！打て……」

しかしストレートと同じ投げ方でゆっくりのスピードでタイミン
グがずれ空振り三振。

舞「エッ！？ウソ！？」奏「よし！うまくいったわ。」舞がベンチへ戻る。

響「どうしたの？舞らしくないね。」

舞「ストレートかと思って振ったんだけどスピードが全然遅かったわ。多分チェンジアップね。」

せつな「チェンジアップか……厄介な球かもね。」

かれん「まあ私も投げれるわ。速球派の人が使えば効果は絶大ね。」

2番はうらら。うらら「私だって負ける訳にはいきません！」奏「悪いけど打たせないわ！」

初球はストレートを空振り。次も空振り。うらら「うつ、私には打てないんですか!？」

奏「そうよ!これで終わりよ!」奏はチェンジアップを投げる。

うらら「うわ!」タイミングが合わず三振。うらら「全くあたりませんでした。」

のぞみ「タイミングが合えばいいんがけど。」つばみ「頼みますゆりさん!」

ゆり「任せなさい。大体見切ったわ。」ゆりが向かう。

奏「ゆりさんか。簡単に打ち取れないかも……」こまち（気をつけないと。）

奏の初球は……ゆり「チェンジアップ!」いきなりチェンジアップを使うがボール。

ゆり「ゆっくり見ないと。」

2球目はストレートをカットする。次もスライダーをファールで追いつまれる。

奏「追い込んだ!次で決める!」ゆり（追い込まれた!多分チェンジアップね。）勝負の4球目。

奏「ハアー!」予想通りチェンジアップが来る。ゆり「見切ったわ!」

チェンジアップに合わせる。カキーン！奏「打たれた！？」「ボールはセンターへ。」

りん「やっぱり打った！結構飛ぶかも……」りんがボールを追うが……

ガン！またしてもブロックに当たって飛距離が伸びない。りん「今日は運がいいね。」

りんが落点に入りキャッチして3アウト。奏「危なかったー！」
ゆり「くそ！狙いは完璧だったのに！」ベンチに戻るゆり。つばみ「運が悪いですね。」

ピッキー「チャンスが作れるかどうかですね。」舞「タイミングがわかれば打てますよ。」

ナックルズでは……奏「フー、何とか1安打も打たせなかったわ。」
奏「ゆりさんも惜しかったけどね。」

ラブ「次はピッキーさんからか。油断しないようにしないと。」

2回表ナックルズは6番美希から。美希「完璧に打つわ！」

かれん「もうこれ以上点をやれないわ！」気合いを入れるかれん。

初球はスライダーから入りストライク。かれん「ハアー！」

142キロのカーブを投げ2ストライク。ほのか（よし！追い込んだ。次で決めるわ！）

かれんもつなずき3球目。美希「またストレートか。打てますよ！」
ストレートと思い振るが……

バシ！美希「ウソ！？チェンジアップ！」

かれん「さっきは様子を見たけど本気で抑えにいくわ！」

かれんもチェンジアップを投げ美希を三振。美希「くっ！油断したか。」ベンチに戻る美希。

次は7番こまち。かれん「勝負よこまち！」こまち「そうね。仲間だけど手加減しないわ！」

タルト「デイジーはん！この対決どう見ますか？」

デイジー「チェンジアップを持っているみたいね。ストレートとどう組み合わせるかで決まるかもね。あの緑の子、意外と粘るかもね。」

初球は……かれん「ハアー！」137キロのチェンジアップ。バシッ！

こまち「速いしストレートと同じ動作でわからなかった。」

いつき「いきなりチェンジアップね。」えりか「本気で抑えにきた感じがあるね。」

2球目はカーブでボール。次はストレートをファールで追い込む。

こまち「追い込まれた！でも諦めないわ！」かれん「勝負球はこれね！」勝負球は？

かれん「タアー！」144キロのストレートを投げる。こまち「ヤアー！」

こまちのバットがストレートを当てる。かれん「舞！」

ライトの舞が追うが、舞「くっ！フェンスに当たった！」

ボールがフェンスに当たり送球が遅れその間にこまちは2塁へ。

かれん「こまちにも打たれたわ。」祈里「今日のかれんさん調子悪いみたいね。」

せつな「そうね。いつもならこんなに打たれないはずね。」

なぎさ「こないだの試合で球の速さは見切ってるわ。しかもバックの守備もあり失点が抑えられてたけど今回はそうはいかないわ!」

奏の変化球（後書き）

久しぶりの更新です。試合内容考えるのも大変です。
うらら「頑張ってくださいピッキーさん！」
祈里「そうです。いい作品作れるって私信じてる！」

崩れゆくかれん（前書き）

かれん「くっ！私とした事が！」かれんに「一体何が？」

崩れゆくかれん

2回表1アウト2塁で8番えりかと勝負。えりか「今日は8番でも打てば問題ないっしょ！」

かれん「えりかに打たれる訳ないわ！」そう言うが3ボールと苦しい状態。

かれん（どうしたのかれん！？こんなはずじゃないわ！）

ピッキー「かれんさん今日は調子悪いかもな。早めに交代した方がいいな。」

のぞみ「かれんさん……」次の球も、カオル「ボール、フォアボール！」

ストライクが入らずフォアボール。えりか「アウトよりはいつか。」

9番奏が向かう。奏「どこかで王子先輩も見てるはず！」気合いを入れる奏。

かれん「ダブルプレーで切り抜けるしかないわ。ほのか（下位だけで油断したらやられるわ！）」

かれんの初球は、奏「フォークだ！」フォークを打つがファール。かれん「大丈夫私ならやれる！」気合いを入れほのかも声を出す。

ほのか「かれんさん！全力で投げて奏さんを抑えましょう！」

かれんの勝負は……かれん「タァー！」145キロのストレート。奏「負けない！」

カキーン！バットが捉えた。舞の方向にボールが向かう。
舞「大丈夫……追いつけるわ。必ず取る！」落地点に入り待つ。つ
ぼみ「これで2アウト……」

しかしまたしても運命のイタズラが……

ガン！舞「エッ！？」舞が取ると思われたボールが隠しブロックに
当たった。しかもジャンプブロックだったのでボールが弾む。舞「
マズイ！」必死に追う舞。パシッ！ボールを拾ったのは……

王子「すごいな南野さん。僕の所にホームランボールが飛んでき
たよ。」フェンスを越え客席で見ていた王子が拾った。かれん「ウ
ソ？……」つぼみ「スリーラン……」

奏「やった……やったわー！しかも王子先輩が私のボールを！」奏
が喜んでホームイン！

えりか「やったね奏！」こまち「ナイスバッティング！」奏「凄く
嬉しいわ！」内野陣が集まる。

かれん「ごめん……私が発でありながら。」うらら「大丈夫です。
気にしないで下さい。」

のぞみ「私達が追いつくから。絶対かれんさんを負け投手にさせな
いから！」

ゆり「この回は責任持って投げきりなさい。」励まされマウンドを
離れる一同。

VIP席では……マリオ「ほら見る！やっぱり打たれまくってるじゃないか！」

ルイージ「5失点は大きいな。」ピーチ「重いわねこの5点は……」
一巡して1番ラブ。

ラブ「かれんさんも限界が近い。この回でKOしてやる！」かれん「これ以上やれないわ！」

かれんがストレートを投げる。ラブ「タァー！」カキン！かれん「また打たれた！」

ボールがレフトへ。ピッキー（これ以上は厳しい！体を張って止める！）ピッキージャンプする。ピッキー「ぐわ！」フェンスに激突して起き上がれない。響「ピッキーさん！」響が向かう。

作者は倒れながら右手をゆっくり上げた。ボールが入っていた。ココ「アウト！」

ラブ「惜しかったな！さすがピッキーさん。」ヘルメットを外してラブが言う。

なぎさ「アレはピッキーさんの守備のおかげね。」ひかりが向かう。

かれん「もうやれない！ハァー！」ストレートを投げる。ひかり「速い！」

2球ストレートで追い込む。かれん「遊び玉なしよ！」146キロのストレート。

ひかり「うつ！」アウトコースのストレートに手が出ず三振。

かれん「ヨッシャー！」気合いの雄叫びをするかれん。ひかり「打

てませんでした速かったです。」ベンチに戻りヘルメットを取るひかり。美希「気にする事ないわ。こっちが勝っているのよ。」
咲「そうそう！絶対調なりー！」

ドリームズでは……かれん「2回で5失点か。ますます厳しいわ。」

つぼみ「5点は重いですね。」

ピッキー「かれんさんがさっきの投球出したらまだわかりませんよ。次は俺からです。フォアボールでもいいから出ます。」

響「出塁して少しでも進めれば奏は慌てるわ。頑張ろう！」

のぞみ「よーし！次の回反撃だよ！けってーい！」

崩れゆくかれん（後書き）

かれん「私も後輩のピッキーさん達に助けられてばかりね。何と
しても抑えるわ！」

ノーヒットで（前書き）

奏「この回は何とか抑えたいわ！」
響「このまま終わらせないよ」！

ノーヒットで

2回裏ドリームズは4番作者から。ピッキー「何としても塁に出ないと……」

こまち（一番気をつけないといけない人ね……）こまちも警戒する。奏（ピッキーさん……元バッテリーだけど勝ちます！）

奏の初球は135キロのカーブでストライク。ピッキー（カーブか。次は何で……）慎重に読む作者。奏「負けられない！」140キロのフォークだが外れてボール。その後も攻防が続く。

カキン！バシッ！カキン！バシッ！ボールとファールを選んでいく。奏「ハアハア……さすがピッキーさん。慎重に選んでいるわ。」勝負の11球目。奏「ハアー！」バシッ！

カオル「ボール、フォアボール！」奏「クッ！外れてフォアボールか。」

こまち（フォークを見送ったわ。さすがピッキーさん。）1塁へ向かう作者。

ピッキー（4番が必要なのは長打かもしれない……でも点差が開いた今は確実に繋ぐ事だ。）

響「奏！あなたを超える！」奏「やってみなさい！」

タルト「スィート対決ですがどう見ますか？」デイジー「響はパワーがあり奏はコントロール重視。好勝負かもね。」

奏「必ず打ち取る！」奏が1球目を投げた。その時作者が盗塁を仕掛ける。

ラブ「あっ！」なぎさ「盗塁!?」完全に隙を突かれるバッテリー。ボールは外れこまちがえりかへボールを送る。こまち「えりかさん!」ピッキー「ハアー!」

ザアー!パシッ!シロップ「セーフ!」えりか「速いですよピッキーさん!」

ピッキー「悪いですね。負けてるんですけどもしないと勝てないんです。」

奏(不意を突かれたか。でも後をアウトにすれば……)響「必ず打つ!」

奏「ヤアー!」スライダーが襲う。響「もらったー!」

スライダーを打つ。バウンドしてえりかの元へ。

えりか「サードは……ムリね。ファースト!」えりかはファーストへ送り1アウト。

響(打てなかった。でも最低限の仕事はできた!)6番のぞみが打席へ。

のぞみ(最低でも外野に飛ばさないと!)のぞみが気合いを入れる。

奏(大丈夫!のぞみには打たれないわ。)のぞみ「絶対打ってやる!」奏「ハアー!」

143キロのカーブ。のぞみ「ハアー!」バシッ!

空振りだがのぞみは笑みを浮かべる。のぞみ「負けない!」

奏(打てないのに強がっちゃって。)うらら「のぞみさんなら打ちます。」

祈里「うん。私も信じてる。」ベンチでも思いは一つだ。

奏「勝負よのぞみ!」のぞみ「上等!」勝負の球は……

奏「ヤアー！」138キロのチェンジアップ。のぞみ「タアー！」
カキン！奏「何！？」ボールはセンターへ。りん「あののぞみが！
？しかも変身してないのに？」

りんが落地点に入る。パシッ！キャッチと同時にピッキータッチアップ。

りん「犠牲フライになるか……」送球の間にピッキーホームイン！
のぞみ「やったー！私打てたー！」ベンチで喜ぶのぞみ。

舞「ナイスのぞみさん！よく打てましたね。」のぞみ「私もチェンジアップを打てるとは思わなかった！でも絶対にピッキーさんを返さないと思って打ったんだ。

それを横で作者が聞いていた。

ピッキー（のぞみさんのあの力、どこから出てくるんだ？俺には分からない……）

のぞみの能力に作者が驚く。

つぼみ「このまま押し通します！」奏「絶対抑える。ハアー！」
しかしボールが高めに浮く。つぼみ「もらいました！」

カキン！奏「あっ！」ボールはショートへ。ひかり「ヤアー！」
ひかりが滑り込んでキャッチ！ひかり「ラブさん！」ラブ「あいよ！」

つぼみ「くっ！全力でセーフに！」つぼみも全力で走る。ひかり・

つぼみ「ハァー！」
どちらが先だ？

ナッツ「……アウトー！」ひかりの送球が勝ちチェンジ。奏「ナイスひかり！」

ひかり「いえ、当たり前的事をやっただけです。」

ドリームズベンチ……つぼみ「あー！残念です！」ゆり「でもノーヒットで1点取ったわ。」

舞「ピッキーさん盗塁が点に繋がったわ。」

ピッキー「走る4番も悪くないと思って。プレッシャーはありました。」

かれん「次も抑えてやる！チャンスはあるわ。」

ノーヒットで（後書き）

かれんは立ち直る事が出来るか!？

屈辱（前書き）

かれん「私もこれまでのようね。」
のぞみ「かれんさんしっかり！」

屈辱

3回表ナックルズは3番りんから。かれん（この回上位打線ね。絶対抑えなきゃ！）

りん（この回でかれんさんをKOすれば有利になるな。）

かれんの初球はストレートが外れボール。次もボール。かれん「慎重ねりん！」

りん「そうですね。この回でKOするつもりですから！」

かれん「言ってくれるわね！やってみなさい！」かれんはスライダ―を投げるが……

ほのか（高い！打たれるわ！）ほのかの予想通り狙われていた。

りん「甘いです！」

かれん「なっ！？」ボールはレフト前に落ちる。

うらら「やっぱりかれんさん調子悪いです……」

舞「このままだと崩れるのは時間の問題ね。」なぎさ「かれんもこの回で終わりね。」

かれん「くっ！負けるかー！」かれんが投げるがその隙を突いてりんが盗塁！

ほのか「つばみさん！」ストライクでほのかがつばみへ送球。パシッ！

シロップ「セーフ！」りん「遅いよつばみ。あたしの足をナメち

やダメだよ。」

つぼみ（くっ！りんさん速いです。）かれん「こんな所で終われない！」

カーブを投げるがまたも甘く入る。なぎさ「オリヤー！」カキン！のぞみ「うわ！抜かれた！」ファーストベースの横を抜けヒット！りんはサードでストップ。

なぎさ「ヨッシャー！」ピッキー「マズイな。甘い球ばかり打たれてる。」

5番いつきはフォアボールで満塁になりピンチが広がる。

美希（かれんさん。もう楽にしてあげますよ。）

かれん「ハアー！」美希「もらいました！」またもストレートが甘く入る。かれん「響！」

響「うわ！センターを越えフェンスに当たる。」

りんが余裕でホームイン！りん「6点目！」美希（そろそろ交代したほうがいいですよ。）

こまちを向かえる所で内野陣が集まる。

かれん「ごめん、役に立てなくて。私の力不足だったわ……」

のぞみ「お疲れ様！後はゆりさんに任せて！」ゆり「次の試合では頼むわよ。」

2番手はゆり。守備はサードにほのか、ライトにかれん、キャッチャーに舞が入る。

タルト「かれんはん3回途中でKO！2番手はゆりさんやー！」

デージー「ナックルズ打線は強いわね。」こまち「勝負！」

ゆり「元チームメイトだけど手加減しない！ハアー！」バシッ！
144キロのスライダーが決まる。ラブ「速！」えりか「確かに速
いなー！」

次もストライクで追い込む。ゆり「ハアー！」こまち「カーブ！？」
バシッ！カオル「ストライク！バッターアウト！」こまち三振。
こまち「速かったわ。気をつけたほうがいいわ。」えりかに助言す
るこまち。

えりか「ゆりさんかかってこーい！」ゆり「私もナメられてるわね。
でも負けない！ハアー！」

えりか「うわ！」142キロのスライダーでストライク。舞（次
はインコース低めで……）

ゆりの次の球は……ゆり「ハアー！」フォークが迫る。

えりか（フォーク！でもボールだ！）バシッ！
カオル「ストライク！」

えりか（エエーッ！？今のでストライク！？厳しすぎだつて！）

ゆり「終わりよ！」決め球は……

えりか「うわ遅！」約100キロのスローボールでバットが回り三
振。

えりか「ゆりさんも意地悪だなー。球のスピードが違いすぎるよ！」

奏「私は負けない！王子先輩が見てるんだもん！」打席に立つ奏
ゆり（点差は5点……これ以上はやれないわ！）

初球は142キロのスライダー。奏「ウツ、速い！」速すぎて空振り。

2、3球目はストレートが外れてボール。

舞（落ち着いてゆりさん。低めを突きましよう！）サインを出しゆりもつなずく。

ゆり「ハアー！」ストレートを投げる。

ゆり「しまった！高めに浮いたわ！」奏「甘い！」

カキーン！ボールはライトに。かれん「うわ！」

かれんが必死でダイビングキャッチをするが取れなかった。なぎさ「よっしゃ7点目！」

いつきもホームに返り8点目を奪われる。奏「サードまで行ける！」

かれんの動きを見てサードを狙う。

かれん「調子に乗らないで！」素早くボールを取りレーザービームを発動！

奏「間に合えー！」

パシ！ココ「アウト！」僅かの差でほのかの手に渡りタッチアウト。

ほのか「あまり調子に乗らない方がいいわ奏さん！」

奏「あー悔しい！でも2点追加ね。」

ドリームズベンチ……ゆり「代わっても2点取られたか。」

かれん「くっ！私のせいだわ！」

つぼみ「落ち着いて下さい！まだ3回です。反撃は可能です！」

ピッキー「とはいえまだノーヒットなんですよね……」

ほのか「とにかく出塁しないと！」

屈辱（後書き）

かれんが降板しゆりにスイッチしたが点差は7点差。奏の前に未だ無安打。

この流れをほのかは打開できるか！？

止められない流れ（前書き）

ドリームズにこの回も試練が襲う。

止められない流れ

3 回裏ドリームズは8 番ほのかから。ほのか「まずはヒットを打たないと！」

奏（ほのかさん珍しく焦ってるみたい。ここはあれで……）奏の投げたのは……

ほのか「ストレート！これなら打てる！」バットを出し当てる。えりか「うわ抜かれた！」セカンドを抜け初ヒット。ほのか「よしここからよ！」

しかし奏は慌てた様子が見えない。その様子を作者が見ていた。ピッキー「何だろう？何か嫌な予感がするんだけど。」ベンチに座りながら作者が一言。

のぞみ「心配しすぎですよ。やっと初ヒットが出たんですから。」響「そうそう。ピッキーさんは慎重になりすぎですよ。かれんさんも打ちますって！」

作者と同じ前列の響、のぞみが言う。
ドリームズのベンチ前列は舞、のぞみ、作者、響、つぼみ、せつなが座っている。

かれん「悔しい思いはたくさんよ！この回少しでも縮めるわ！」奏（ヒットが出て喜んでいらいけど甘いですね。一瞬で絶望に落ちますよ。）

奏の投げた初球は……

かれん「シュート！？」今作初めてのシュートでストライク。
かれん「シュートまで投げるとはね。」奏「ハアー！」スライダー

を投げる。

かれん「見切ったわ！」スライダーを打つ。カキン！
つばみ「当てましたスゴイです！」

しかしボールはバウンドしてひかりが取ってセカンドへ送られアウト。かれんも必死で走るがアウトになり2アウトランナーなしに変わる。

奏（よし！狙い通りね。）かれん「くそ！簡単に打たされた！」
かれんがバットを叩きつけベンチに戻る。

せつな「やっぱりダブルプレーを狙っていたのね。」
ほのか「ヒットが出て喜んでいる所でのダブルプレー。これほどの悔しさは無いわね。」

1巡して1番の舞から。舞（慎重にコースを見ないと！）
舞は慎重にボールを見極めフルカウントまで持ち込む。
舞（ハアハア、何としても！）奏（抑える！）舞（打つ！）
2人の真剣勝負勝つのは！？舞・奏「ハアー！」

奏の勝負球はカーブ。舞（低い、ボールだ！）バシッ！舞（よし、フォアボール……）

カオル「ストライク！バッターアウト！」舞「エッ！？ストライクなの！？」

奏「よし決まったわ！」ベンチに戻る舞。

かれん「アウトコースギリギリのストライクね。」

舞「ボールだと思ったけどやられました。」ヘルメットを外しながら舞が話す。

つぼみ「次の回1番からですね。」

ピッキー「ゆりさん。これ以上失点したら追いつくのは難しいです。球数に関係なく打ち込まれたら交代です。これは覚えておいて下さい。下手をすれば次の試合投げられるかわかりません。」

ゆり「分かりました。全力で抑えにいきます。」

ゆりは背水の陣でマウンドへ。

4回表ナックルズは1番ラブから。ラブ「ゆりさん速いからな……」ゆり「行くわよ！」スライダーが決まりストライク。

ラブ（ベントで見るより速い……追い込まれる前に！）ゆり「ヤアー！」シュートを投げる。

ラブ「ウリヤー！」カキン！ラブ「くそ！ゴロじゃん！」うららのぞみさん！

うららがのぞみへ送球！のぞみ「ああ！しまったー！」

のぞみがボールを落としエラー。ラブ「フー、助かった。」

のぞみ「ゴメンゆりさん！」ゆり「気にしないでいいわ。エラーは付き物よ。」

ひかり「2番のする事は決まっています。」コン！

ストレートをバントする。のぞみを取りに行きゆりがファーストカバーに入り1アウト2塁。

ひかり（後は上位に頼みます！）

りん「ゆりさん。この前のように振り返り打ちですよ！」ゆり「させないわ！」

138キロのカーブをファール。ゆり「カーブは嫌いか……」

2球目は135キロのチェンジアップをインコースに投げストライク！

舞（よし追い込んだ！次はコレで！）勝負の3球目はストレート！ゆり「ハアー！」

りん「そう来ると思いましたよ！」カキン！

響「ストレートを狙っていた！？」「ボールはレフトへ。」

ピッキー「うわ！」ガツン！

作者が必死に追ってジャンプしたがボールはフェンスに当たり勢い余ってピッキー激突！

響「ピッキーさん！」センターの響がカバーするがその間にラブがホームイン。

りんはセカンドへ。りん「フー、あたしフットサルよりこつちが向いてるかもね。」

ゆり「くっ！ストレートを狙ってたのね。」悔しさが残るゆり。

なぎさ「よし！4番が一発打たないなんてありえない！」

くるみ「いけーなぎさ！この回でゆりもKOよ！」

ゆり「そんな事させないわ！絶対抑える！」なぎさ「上等ですよ！」

ゆり「勝負！ハアー！」ゆり渾身のストレート！なぎさ「タアー！」

カキン！当てたがファール。なぎさ「くっ！ゆりさん強いな！あつ！ヒビが！」
バットにヒビが入っていた。ゆり「ハアー！」ストライクで追い込む。
舞（この球で勝負です！）ゆり（わかったわ！）勝負の行方は！？
ゆり・なぎさ「ウオー！」バキッ！なぎさ「あっ！」
ひかり「なぎささんが！」ゆり「ピッキーさん！」ボールはレフトへ。
ピッキー「ゆりさんの努力を無駄にしない！」なぎさ「いけー！」
ピッキー「ヤアー！」
ボールは……

ポン！

ゆり「あっ……」作者のジャンプも届かず2ランホームラン！
なぎさ（ゆりさん！あなたの実力は本物です……）内野陣が集まる。
ゆり「私も全然ね……」ほのか「ゆりさんは頑張ったわ！」
つぼみ「11対1……これほどの差が……」
のぞみ（私のエラーのせいだ！あれからリズムが狂った……）心の中でそう思うのぞみ。
守備交代をする事になったドリームズ。一体どうなる！？

現在のスコア

ド
リ
ー
ム
ズ

ナ
ッ
ク
ル
ズ

0

2 1

1

3 2

0

3 3

3 4

5

6

7

8

9

1

1 1 合計

止められない流れ（後書き）

ますます追い込まれるドリームズ！次回も目が離せません！
携帯で見ている方も感想お待ちしています。また今回からスコアを
簡単ですが作ってみました。分かりやすく見れると思います。

せつな登板！（前書き）

せつな「いよいよ私の登場ね。全力で頑張るわ！」

せつな登板！

4回表1アウトから2ランを打たれたゆりが降板して3番手はせつな。

守備はピッキーがキャッチャー、レフトに舞、ライトにつぼみ、セカンドに祈里が入り、ゆり、かれんはベンチへ下がる。ナックルズでは……なぎさ「3番手にせつな……そしてキャッチャーにピッキーさんか。」くるみ「ここからが本当の勝負ね！」マウンド上にはせつなと作者が。

せつな「まさか4回で登板とは。」ピッキー「この点差は予想外でした。何とか抑えましょう。」

響「頼むよせつな！」つぼみ「このまま終われません！」5番いきから再開。

タルト「3番手はせつなはんや！デイジーはんはどう見ます？」

デイジー「この前は好投したらしいわね。今回も期待できるんじゃない？」

いつき「勝負よせつな！」せつな「上等！全力でいくわ。ハアー！バシ！」

カオル「ストライク！」いつき（速いな、あの時ピッキーさんがいなかったら勝っていたかもわからない。でも今回その2人を敵にしているからキツイわ。）

ピッキー（いいですよ。今日のせつなさんの球は速い！ここで抑え

れば何とかなるかもな。」

せつなの球に手応えを感じる作者。せつな「ハアー！」2球続けてストライク。

せつな（よし追い込んだ！）ピッキー（最後はスライダーを……）
せつな（わかりました！）サイン通りスライダーを投げる。いつき
「ウリヤー！」

カキン！せつな「ブッキー！」祈里「うわ！」

祈里が飛び込むが抜けてヒット。

せつな（いつきもなかなかね。次は……）

美希（せつな！あなたとは長い付き合いね。敵としてはイースの時以来か……）

せつな「必ず打ち取る！ハアー！」バシ！

美希「ストレート！打てなくはないわね。」せつな「ヤアー！」
チェンジアップを投げる。ピッキー（ヤバイ！甘いコースに！）

美希「もらったわ！」カキン！せつな「あっ！？」ボールがセنت
ーへ……

いつき「よし抜けた……」いつきがセカンドへスタートする。

うらら「ハアー！」センターへ抜けるボールをジャンプキャッチ
！美希「なっ！？」

いつき「くそ！戻らないと！」うらら「のぞみさん！」

いつきが急いで戻ろうとするが間に合わずダブルプレー。
せつな「フー、うららに助けられるとは……」

ナックルズベンチ……いつき「あー、まさか取られるとはね。」
こまち「惜しかったわね。」美希「そんなに落ち込む事ではないですよ。」

なぎさ「えっどうして？」

美希「見た所今日のせつなは調子がいいようには見えなかったですね。」

いつき「そうだね。速かったけど決して打てない球じゃないわ。攻略できますよ。」

ドリームズベンチ……のぞみ「ナイスうらら！」響「よく取ったね。」

うらら「私だってやる時はやります！（ドヤ顔）」

祈里「ドヤ顔で言わなくてもいいのよ。（困）」

ベンチ裏では作者とせつなが話していた。

ピッキー「どうしました？せつなさんらしくないですね。」

せつな「ごめんなさい私とした事が。私も調子が悪いんですかね？」

ピッキー「まだ大丈夫ですよ。ちゃんとリードしますんで。」

せつな「ピッキーさんお願いがあります。打ち込まれたら交代させて下さい。」

ピッキー「なっ！？」

せつな「私がこんな事言うのも変な話ですが取り返しのつかない事になる前をお願いします。」

頭を下げるせつな。

ピッキー「……わかりました。せつなさんに頼まれたら断れません。」
せつな「ありがとうございます。全力で投げます！」これを聞いていた人が……
舞（せつなさんも調子が悪いみたい。これはマズイ展開ね……）

せつな登板！（後書き）

せつなも本調子ではない様子。ピンチを切り抜けたドリームズだ
が暗雲が立ち込める。次回もご期待ください。

せつなVS奏（前書き）

せつな「この回何としても！」 奏「絶対抑える！」

せつなVS奏

4回裏2番うららから始まる。のぞみ「いけーうららー!」「うらら
「ハイ!」

奏「うららには打たれないわ。」ベンチでは……

響「4回になれば奏の体力も限界に近いはずね。」

ピッキー「この回粘って多く球を投げさせて反撃しましょう。」

つぼみ「わかりました!」舞「ピッキーさんちよつと……」

舞と作者がベンチ裏へ。のぞみ（ピッキーさん?）

ベンチ裏では……ピッキー「えっ!?なぜそれを!」

舞「ごめんなさい……さっきせつなさんと話しているのを聞いたんです。」

ピッキー「舞さん、どうかこの事は……」

舞「わかっています。他の人には黙っておきます。動揺を与えないけないので。」

のぞみ「そうだよピッキーさん!」ピッキー「のぞみさん!?!」

のぞみ「大丈夫!私も黙ってますから。ピッキーさんを信じてます
!」

うらら「ハアー!」カキン!カオル「ファール!」

奏「ハアハア、うららの割には粘るわね。」うらら「ハアハア、何
としても!」

粘って15球目。奏「ハアー！」バシッ！

うらら「うつ！」スライダーで空振り三振。

うらら「打てなかったけど役目は果たせました。」

奏「ハアハア、手こずったけど次からが勝負ね……」

3番せつなが向かう。せつな（私も本調子ではない。次の回で降板かもしれない。響に迷惑を掛けられない！）奏「雲が出てきて雨が降りそうね。早めに片づけないと。」

なぎさ「雨が降りそうね。」奏「ハアー！」せつな「ハッ！」カキン！奏「あっ！」

サード横を切れファール。

かれん「本当ね。奏も体力の限界に近いみたいね。」祈里「この回が勝負かも……」

奏「ハアー！」スライダーが外れフルカウントに。奏「粘るわねせつな。」

せつな「当たり前よ！こっちは全員諦めてないんだから！」

奏（ウソ？10点差もつけられて……でもこちらが有利よ。）勝負の10球目。

奏「ヤアー！」せつな「見切った！」カキン！

せつな「クッ、しまった。ゴロか！」ボールはセカンドへ。えりか「ラブ！」

えりかが送るが……ラブ「うわ！」えりかが悪送球でセーフ！
えりか「うわー、あたしエラーしたよ。」奏（えりかったら足引っ張って！）

4番ピッキーが打席へ。ピッキー「雨が降ってきたか。恵みの雨になればいいけど。」

奏「絶対抑える！」ストレートを投げるが甘く入る。ピッキー「ハッ！」カキン！

ボールはセンター前に落ちる。奏「ピッキーさんならしょうがないか。」

雨が降ってきてグラウンドが濡れはじめる。

つぼみ「本格的に降ってきましたね。」

響を向かえた所で内野陣が集まる。えりか「1アウト1、2塁で響か。」

ラブ「ホームランあるね。」

なぎさ「大量リードだけど響は敬遠よ。次のぞみでダブルプレイね。」

奏「……わかりました。」響が打席へ。

響「ここで打たなきゃ女がすたる！」しかしこまちが立ち上がる。

響「なっ！？」

つぼみ「敬遠です！」響「ちょっと！勝負しなさいよ奏！」

奏「悪いわね。響は危険だからのぞみと勝負するわ。」パシッ！

響は敬遠され満塁に。響「くそ！覚えてなさい奏！」

奏「これでよかったのかな……」

のぞみ「よし！チャンス到来！」その時雨が強くなる。

カオル「タイム！これ以上は無理だな。一時中断だ！」

のぞみの打席で一時中断。全員ベンチに引き上げる。1塁ベンチでは……

えりか「うわー！降ってるね。」りん「奏疲れてきてますね。」

なぎさ「そうだね。そろそろ交代だね。」

奏「私はまだ投げれます！」

こまち「無理しちゃだめよ。そろそろ交代した方がいいわ。」

3塁ベンチでは……響「せっかくのチャンスだったのに。」

つぼみ「この雨がどう出るかですね。」

ピッキー「舞さん何してるんですか？」

舞「ちよつと髪型を変えてみました。どうですか？」

のぞみ「ポニーテールか。似合ってるよ。」ピッキー「そうですね。」

舞「ありがとうございます。」

40分後雨が上がりマウンドには奏が。奏（まだ投げるわ！絶対抑える。）

のぞみ（このチャンス逃さない！）奏「ハアー！」バシッ！スライダーが決まる。

のぞみ「球威が戻った!?」奏「ハアー!」ストレートで追い込む。
祈里「調子が戻ったみたい。」ゆり「マズイわね。」

くるみ「この雨で頭が冷やされたのよ奏。」奏「ウリヤー!」フォークが迫る。

のぞみ「当てないと!」バットを出す。カキン!のぞみ「くっ!」ゴロか。」

ボールはワンバウンドで奏の元へ。

奏「よし!」ズリッ!奏「うわ!」雨で濡れていた為足を滑らせ悪送球。

その間にせつながホームイン。ラブ「くっ!急がないと!」

その隙にピッキーもホームを狙う。ラブ「させない!」シュッ!

ピッキー「オリヤー!」こまち「ハアー!」パシッ!クロスプレーになる。

カオル「セーフ!セーフ!」こまち「くっ!」作者のスライディングが勝利2点追加。

ピッキー「ヨッシャー!」くるみがマウンドに行き内野陣も集まる。
ラブ「お疲れ奏!」なぎさ「ここで交代ね。」くるみ「全く!11点も取ったのに!」

奏「くっ！」くるみ「まあ運に見放されたとはいえこんな結果じゃしょうがないわね。さつさとボールを渡しなさい。」ボールを渡す奏。

くるみ「何でのぞみに打たれるかわからないわね。」なぎさ「くるみ言い過ぎよ！」

奏で「いいんです。私の実力はこんなんです。」マウンドを降りる奏。

なぎさ（まさか奏が4回途中でKOとは。イヤな展開ね……）

せつなVS奏（後書き）

先発奏をKOしたドリームズ。このまま流れに乗れるか!？

くるみの新魔球（前書き）

くるみの新たな変化球がドリームズに襲いかかる！

くるみの新魔球

4回裏で先発奏がKOされ2番手はくるみ。守備もサードに奏、キャッチャーに美希、ライトになぎさが入りこまちが下がる。

美希「油断しない方がいいわ。流れは向こうに傾いているわ。」

くるみ「私が下位打線に打たれる訳ないでしょ。」

ドリームズベンチに作者が帰ってくる。祈里「ナイスですピッキーさん！」

ピッキー「雨でグラウンドが濡れて足を滑らせたんですね。」

かれん「流れは来てるわ！」

つぼみ「この流れを止める訳にはいきません！」

くるみ「フン！つぼみに打たれるつもりはないわ。ハアー！」

136キロのカーブを投げる。つぼみ「ヤアー！」

くるみ「何！？」ボールはライト前に落ちる。セカンドから響がホームへ。

響「ウオー！ここで決めなきや女がすたる！」なぎさ「させない！」

なぎさがレーザービームを発動する。響「トリヤー！」

スライディングで1点追加。

奏「くるみったら初球から打たれてるじゃない！」

くるみ「い、今のはまぐれよ。次こそは。」

1アウト2、3塁で8番ほか。ほか（初球から狙うか……）
くるみ「ハアー！」140キロのスライダー！ほか「ハアー！」
カキン！くるみ「りん！」パシッ！

りんが取るがのぞみの足でも犠牲フライには十分の距離。

のぞみ「5点目！」のぞみがホームイン！11対5で6点差になり
つぼみはサードへ。

うらら「ほかさんナイス！」ほか「何とか外野に飛ばせてよかったわ。」

せつな「あと6点よ続けブッキー！」祈里「打てるって私信じてる
！」

くるみ（奏が打たれたのもまぐれじゃないみたいね。それならあの
球を使おうかしら？）

響「くるみも大口叩いた割には大した事ないじゃん！」

かれん「このままいけるわ。」

ピッキー「まだ判断するのは早いですよ皆さん。」舞「えっどうし
てです!？」

ピッキー「まだ2球しか投げてないですから。」9番祈里が向かう。

くるみ「あなたにこの前の借りを返してやるわ！」

祈里「いや、私が繋いで上位に回す！」くるみ「上等！」

ストレートを投げストライク。響「いけるよ祈里！バット出してー
！」

くるみ「ハアー！」バシッ！フォークで追い込まれる。

美希（追い込んだわ！次はアレよ……）

くるみ（OK！私の魔球を披露してやるわ！）

せつな「振らなきゃ当たらないわブッキー！」

かれん「いや、決して2球とも甘い球じゃなかったわ。」ゆり「どう見ますか？」

ピッキー「奏さん同様何か決め球を持っているのは間違いないと思います。」

くるみ「いくわよ、ハアー！」くるみが投げたのは……

祈里「何！？」「ブン！パシッ！祈里「あ……」

見た事ない球にバットがかすりもせず三振。

くるみ「よし！何とか抑えたわ。」3塁ベンチに戻る祈里。

祈里「何あの球！？見えなかったわ！」のぞみ「スライダーじゃないよね！？」

ピッキー「いや！あれは……ナックルボールです。」舞「ナックルボール！？」

ゆり「指先だけで弾きだす事によりボールの回転をほとんどなくしてランダムに落ちたり曲がったりする球よ。」

かれん「まさに現代の魔球って感じね。」

ピッキー「しかもあんなに変化するナックルを投げる人はプロでもなかなかいないですね。」

ゆり「そもそもナックルを投げる人はプロでも珍しいわ！」

ほのか「ナックルボール……厄介ね。」

1 塁ベンチ……くるみ「やれやれ、まさか6点差になるとは。でもナツクルを投げてればもう大丈夫よ！また点取っていいこう！」
奏「甘いわよくるみ。ピッキーさんがナツクルを打てないとても？」
くるみ「KOされた人に言われるつもりはないわ！」
咲「やめてよ2人とも！」なぎさ「そうよ！仲間同士なんだから！」
くるみ「フン！」奏（くるみ口が悪すぎよ！）

くるみの新魔球（後書き）

驚異のナックルボールにドリームズはどう攻略する！？

限界（前書き）

せつな「私は……こんなところで終われない!!」

限界

5 回表ナツクルズは7 番くるみから。くるみ「必ずこの回点をとってやる！」

せつな「ヤアー！」バシ！カオル「ストライク！」

くるみ（速いな、でも打ってやるわ。）

パシ！パシ！2 ボール1 ストライクで4 球目。くるみ「ハアー！」カキン！

せつな「うっ！」レフトポールを僅かに切れファール。ひかり「あー惜しい。」

美希「いけるわ！」ピッキー（くるみを打ち取るにはフォークだな。）

サインを出す。せつな「ハアー！」しかし甘いフォークが。くるみ「もらったー！」

カキン！せつな「くっ！」ボールはレフト前に。

せつな（ハアハア、フォークが落ちなかった。）

8 番えりかはバントの構えだ。せつな「送らせないわ！」スライダーを投げる。

えりか「うりゃー！」コン！せつな「くっ！ファースト！」

作者がのぞみに送り1 アウト2 塁で9 番奏。

せつな（ハアハア、まだ少しか投げてないのに……）奏「勝負！」せつな「ヤアー！」

ドカツ！奏「うっ！」せつな「あっ！」奏にデッドボール。

ピッキー「大丈夫ですか!？」奏「ええ、大丈夫です。」
1、2塁で1番ラブ。せつな「くっ! 打たれる訳には……」マウン
ドに作者が向かう。

ピッキー「どうしましたせつなさん? 少し乱してますよ。」

せつな「ええ、でもラブは必ず……」せつなの顔を見て作者は……

ピッキー「そうですか。ならひかりと勝負しましょう。」せつな「
えっ!?! でも!」

ピッキー「せつなさんが望まない勝負ならそれに従うだけですよ。」

せつな「ピッキーさん……」

ピッキー「大丈夫! せつなさんの球ならそう外野へは飛ばないです
よ。頼みますよ!」

そう言ってせつなにボールを渡し下がる。

せつな「ピッキーさん、私を信じてくれている!」

ひかり「何とか打たないと!」せつな「ハアー!」ひかり「うっ
!」カキン!

ひかり「しまった!」速球にスイングが遅れ打ち上げる。ピッキー
「ハアー!」

作者が追う。ピッキー「うわ!」フェンスにぶつかりながらもキ
ヤッチ成功。

せつな「大丈夫ですか!？」せつなが手を貸す。

ピッキー「う、大丈夫です。このくらい何ともないですよ。」3番
りんが打席へ。

りん「ここで1点も取れなかったらマズイ!打ってやる!」

せつな「ハアー!」バシッ!147キロのストレートを空振り。
ピッキー（大丈夫です。今の球で抑えられる。）せつな「負けられ
ない!」

りん「ボールだ!」カーブを見送る。

カオル「ストライク!」りん（えっ今ので!?マズいな……）

ピッキー（追い込んだ。最後は……）サインを出しうなずく。

せつな「勝負!」勝負球はスライダー!りん「ハアー!」カキン!

りん「くそ叩きつけた!」ワンバウンドでせつなが取りに行く。

せつな「OK!これで……」りん「まだよ!最後まで諦めない!」

せつな「無駄よ!」りんが全力で走る。パシッ!

ナッツ「セーフ!」

りんのヘッドスライディングで内野安打。その間にくるみがホーム
イン!

くるみ「ナイスりん!」りん「ハアハア、どんなもんよ!」

せつな「くそ!打ち取ったと思ったのに!」次は4番なぎさ。

なぎさ「今日はチャンスで回ってくるね。」

せつな「くっ！これ以上はやれない！」スライダーを投げるが、なぎさ「ハッ！」

カキン！せつな「あっ！？」サード横を切れファール。

せつな「今度こそ！」フォークを投げる。しかし、

せつな「マズイ外れた！」ボールが大きく抜ける。奏「チャンス！」
ピッキー「ハアー！」

ワイルドピッチになると思われたボールを作者が取る。なぎさ「バツクバツク！」

奏「危なかったさすがですね。」作者がせつなの元へ。

せつな「ごめんなさい私はもう……」せつなの顔を見て作者が話す。
ピッキー「大丈夫！今の球なら十分です。なぎささんを抑えましょう。」

せつな「でも……」

ピッキー「さつきも言いました。今のスピードなら大丈夫です。強気で攻めましょう。」

そう助言して離れる。せつな（そうよこのまま終われない！）

なぎさ「打つ！」せつな「ハアー！」フォークで追い込む。

せつな「ヤアー！なぎさ「ボールだ。」なぎさも粘りフルカウントに。」

ピッキー（粘ってフルカウント、コレで……）

作者はフォークを要求するが首を振るせつな。

せつな（お願いピッキーさん！ストレートで勝負させて！）

ピッキー（わかりました！ストレートで勝負です！）なぎさ（絶対

負けられない！)

勝負の11球目。なぎさ・せつな「勝負！」せつなのストレートは150キロ。

せつな「ハアー！」なぎさ「ウオリヤー！」勝負の行方は!?

カキン！なぎさ「抜けるー！」ボールはライトに。つぼみ「気合いです！トリヤー！」

つぼみがジャンプキャッチを試みる。つぼみ「うわー！」

しかしフェンスに激突して取れない。つぼみ「くっ、急いで取らないと。」

つぼみがセカンドに送るがこの間に奏、ラブがホームイン！りんはサードでストップ。

なぎさ「そろそろせつなも交代ね。」点差は14対5になり内野陣が集まる。

せつな「ごめんなさい！私のストレートが通じなかった……」

のぞみ「自分を責めないでせつな！」

ほのか「そうよ！後悔したくないから勝負したんだから誰も文句を言わないわ。」

ピッキー「せつなさんは良くやったよ。後はゆっくり休んで下さい。」

せつな「次回は必ず抑えます……」せつなもKOされ響に後を託す。

限界（後書き）

響「抑えなきや女がすたる！」 響はこのピンチを切り抜けられるか？

せつなVSくるみ追加戦士の戦い（前書き）

せつなとくるみ！追加戦士同士の戦いに注目！

せつなVSくるみ追加戦士の戦い

5回表2アウト2、3塁でせつなが降板して響がマウンドへ。

響「私に抑えられるの?……」のぞみ「もう響が最後の砦よ。」

ほのか「大丈夫!私達を守るわ。響さんを信じてるわ。」

響「分かりました!ここで抑えなきゃ女がすたる!」

タルト「せつなはんもKOされ響はんが登板やー!」

デイジー「今回が初登板みたいだけだあの子じゃ抑えられないでしようね……」

マリオ「あいつか。打ち込まれるだろうな。」ルイージ「大差がついたね。」

ピーチ「ピッキーさんも4番としては寂しい成績ね。」

いつき「そろそろギブアップしてもいいんじゃない?」

響「誰が!最後まで諦めないよ!」

ピッキー（来い響さん!試合前の球を見せて下さい……）

響の初球!響「ハアー!」133キロのカーブを見送りストライク。

いつき（速くないな……）次もスライダーでストライク。

なぎさ（響も大した事なさそうね。これは勝ったな……）

響（ピッキーさんストレートで三振を狙う!）ピッキー（わかりました!）

勝負の3球目!響「ハアー!」

150キロのストレートが迫る。いつき「何!？」

ブン!バシ!いつき「あ……」いつきかすりもせず三振。

響「よし!」ピッキー「ナイス響さん!」いつきがベンチへ戻る。

美希「どうしたの?打てないなんてあなたらしくないわね?」

いつき「僕も打ちたかったよ。でもストレートに手が出なかった…」

…」

えりか「大丈夫だって!9点もリードしてるんだから楽勝だって!」

3塁ベンチ……つばみ「スミマセン!追加点をゆるして!」

せつな「つばみは悪くないわ。打たれた私に責任があるわ。」

のぞみ「あと5回で何とか追いつこう。私達ならできるよ!」

ピッキー「そうですね。皆さん頑張りましょう。」全員「ハイ!」

5回裏ドリームズは1番舞から。舞「これ以上点差をつけられる訳にはいかないわ!」

くるみ「上等!ならナックルを打ってみなさい!」舞「キャー!」

ナックルを3球使われ舞三振に倒れる。舞「くそ!全然打てないわ!」

…」

うらら「ヤアー!」くるみ「うららにもムリよ!」うららも三振。

うらら「ダメでした!私にはナックルじゃなくストレートで三振でした。」

せつな(なるほど、ナックルを見せておけば別にそれを使わなくても三振を取れる訳か。それなら多く投げさせ少しでもピッキーさんを楽にさせるのみ!)

せつなは作戦通り球を投げさせる事にした。くるみ「ハアー!」

フォークをカットしてファール。次も、その次もカットして10球
粘りフルカウント。

くるみ（くっ！さっさとナックル使えばよかったわ。）

せつな（ハアハア、そろそろ来る……）くるみ「終わりよ！」

ナックルを使う。せつな「うつ、やっぱりムリだ！」バシ！

粘ったが三振に終わる。くるみ「ヨッシャー！」ラブ「ナイスくる
み！」

ベンチへ戻るナックルズとせつな。

せつな「ごめん、出塁できなかった。」

つぼみ「ナックルはやっぱりどこに来るかわかりませんね。」せつ
なが作者の隣に座る。

せつな「ごめんなさい、繋げませんでした。」

ピッキー「せつなさんがやろうとした事分かってますよ。ナックル
をたくさん投げさせてくるみのスタミナを減らそうとしましたね。」

せつな「さすが……分かってましたか。でも私には無理でした。」

ピッキー「落ち込まないで下さい。自分が何とか粘って打てればい
いですけど。」

せつなVSくるみ追加戦士の戦い（後書き）

くるみの前に3人で終わったドリームズ！くるみをどう攻略する！？次回は休憩タイム。

ブレイクタイム（前書き）

今回はグラウンド整備中の話です。試合中のこんな話もいいものです。

ブレイクタイム

5回が終了しグラウンド整備が行われ各自休憩中に。1塁ベンチでは……

こまち「5回が終わったわね。」えりか「いやー14点もあれば楽勝でしょ!」

くるみ「そうそう!もう楽勝ね!」

3塁ベンチでは……ゆり「5回で14失点……」かれん「情けないわ……」

つぼみ「落ち込まないで下さい!まだ5回です頑張りましょう!」のぞみ「そうだよ。ねえピッキーさん?」そう言い作者を見る。

作者は目を閉じていた。うらら「何をしてるんですか?」

舞「ピッキーさんは精神力を高めているわ。前も5回が終わってたいたの。」

つぼみ「そうでしたね。」作者が目を開ける。

ピッキー「フー、4回で9点はキツイな。」

響「私が気合いで抑えます!」ピッキー「皆さんの飲み物買ってきますね。」

のぞみ「あー、私も行きます!」響「私も!」そう言ってベンチを後にする。

球場内では……ピーチ「フー、ピッキーさんに期待してるけど1安打かー!」

そう言いながらピーチが歩いていった。その時！ピーチ「キャー！」
ピーチが躓いて転びかける。???「危ない！」

誰かがピーチの手を取り転ばずに済んだ。

ピーチ「あ、ありがとう！」王子「どういたしまして。」

ピーチ（あら！この人マリオよりイケメンじゃない！）

王子「僕はこれで……」ピーチ「待って！お礼がしたいの！付いてきて。」

ピーチは王子の手を取りVIP席へ行く。これを見ていた人が……

のぞみ「ど、どうしよう！？王子さん連れて行かれたー！」

ピッキー「これは奏さんには内緒にしましょう……（激汗）」

響「そうだね。聞いたら多分寝込むよ。」3人はベンチへ戻る。

ほのか「戻ってきたわ。」つばみ「アクエリアスですー！」

3人は飲み物を渡してベンチに座り込む。

舞「どうしました？すごく疲れてるように見えますが……」

のぞみ「あー、それは……」

響「わー！5回だし疲れるよ。そりゃー！」ピッキー「そうそう！」

つばみ「何かあったんですか？」響「まあ少しね……ピッキーさん？」

ピッキー「ええ、リアルにこれは言えないですね。ちょっとアクシ

デントが……」

祈里「気になりますー！」

響「奏には内緒にするならいいんじゃないですかピッキーさん？」

ピッキー「そうですね。奏さんには言わないで下さい。」

全員に話す。ほか「確かに言えないわねそれは……」
かれん「多分倒れるわね。」響「みんな！これは絶対内緒だよ！」
つぼみ「わかりました！絶対に話しません。」

VIP席では……「マリオ」姫！何ですかコイツは！？」ピーチ「
アラー！私の王子よ。」

王子「イヤ、僕は通りすがりで……」マリオ「おのれー！ファイア
……」

ピーチ「ピーチボンバー！ハッチャー！」ピーチのお尻がマリオに直
撃！

マリオ「グエー！これはこれで幸せ……」マリオ気絶。
ルイージ「兄さんもついてないね。」

ブレイクタイム（後書き）

試合中にこんな話を作ってみました。試合ばかりだと飽きるの
でどうだったでしょうか？次回はまた試合に戻ります。

作者VSくるみ ナツクル攻防戦！（前書き）

作者にナツクル対策はあるのか？

エリカ（ポケモン）「あると思いますわ。」

えりか「ちよつと！何であんたなのよ！紛らわしいわ！」

エリカ（ポケモン）「えりかさん。口が悪いですよホホ。」

作者VSくるみ ナックル攻防戦！

6回表6番美希から。響「ヤアー！」フォークで2ストライクと追い込む。

美希「気楽に打ってやるわ！」ピッキー（ストレートで！）響「ハアー！」

美希「ストレートね！ハアー！」

バシッ！美希「えっ！？」打ったと思ったが空振り三振。

美希「今のは何！？ストレートのはず……」くるみ「勝負よ！ホームラン打ってやる！」

響「させない！」ストレートを投げる。くるみ「ストレートか。」ブン！

くるみ「えっ！？」振るが空振り。くるみ（振り遅ね……）

響「ヤアー！」くるみ「またか！」しかしまた空振り。くるみ（変化もしているの？）

響「ハアー！」投げたのはストレート！くるみ「甘いもらったー！」

ズバッ！カオル「ストライク！バッターアウト！」響「やったー！」

くるみ（3球ストレートで三振！？）くるみが倒れ2アウト。

えりか「よっしゃーこーい！」響「ハアー！」

えりか「うわっ！速い！」ストレートに空振り。響「オリヤー！」ストレートで追い込む。

えりか「あんなの打てないよ！」響「ハアー！」えりか「ヒッツ！」バットが空回りして3球三振。

響「よっしゃー！」響の前に3人で終了。1塁ベンチでは……

美希「響も少しはやるみたいね。」ひかり「1球も当たりませんでしたね。」

なぎさ「なーに！上位打線で決めてやるわ！エースの咲もいるしね。」

「
3塁ベンチ……響「よっしゃー！絶好調！」ゆり「やるじゃない響
！」
のぞみ「何とか反撃しないとイケないね。」

6回裏作者から始まる。くるみ（ピッキーさんか！まあナツクルは打てないわ。）

初球はカーブでストライク。美希（見てきたか。何を考えているかしら？）

くるみ「ハアー！」ピッキー「速い！」147キロのスライダーで追い込まれる。

くるみ（追い込んだわ！）つばみ「追い込まれました！」

のぞみ「ど、ど、ど、どうしよう！？」ゆり「騒がないで！」ゆりが注意する。

祈里「でも！」ゆり「ピッキーさんが何も考えないで立つてる訳がないわ！黙って見てなさい！」

ピッキー（打てなくはないが……）くるみ「終わりです！」フォークを投げる。

カキン！ファールで粘る。

ピッキー（例え出てもナツクルを使われたら得点できない。だとしたら……）

カキン！くるみ「クッ！またか。」ピッキー（ナツクルを封じない

限り逆転はない！)

美希(そろそろ使いなさい！)くるみ(OK!)サイン通りナツクルを投げる。

ピッキー「クッ！」カキン！当てたがファール。

舞「ピッキーさんがあんなにフォームを崩すなんて……」祈里「やっぱ無理なのかな……」

くるみ「ハアー！」ピッキー「ウッ！」カキン！ナツクルをカットする。

せつな「そうか！ピッキーさんの狙いはそれが。」うらら「えっ！？どついう事ですか？」

せつな「フォームを崩されたんじゃない！ピッキーさんはナツクルの落ち際をカットしたのよ！」

つぼみ「それはどついう事ですか？」

ゆり「そんな事もわからないの？」舞「ゆりさん。」

ゆり「ナツクルほど握力を使う球はないわ。普通は何十球も投げれる球じゃないわ。」

のぞみ「じゃあピッキーさんの狙いは……」

ゆり「そう！あの打ち方ならヒットは難しいけどカットは可能よ。例えばアウトになってもナツクルを封じようとしているのよ。」

くるみ「ハアー！」ピッキー「ハッ！」ナックルを30球使わせフルカウントに。

くるみ・ピッキー「ハアハア……」お互い体力を削る。

奏「くるみ！いつまでもナックルだけ投げないでよ！」

くるみ「うるさいわね！ピッキーさんはナックルで三振を取りたいのよ！」

奏（全く！くるみはどうしようもないわね。）

ピッキー（ハアハア、そろそろ体力の限界に近いと思うが……）

くるみ「絶対に三振に……」次の瞬間くるみは目を疑う。

くるみ「なっ！？」ほのか「えっ！？」美希が立ち上がり敬遠の指示をする。

美希（もういい、敬遠よ！）その行動を見たくるみは頭に血を上らせる。

くるみ「冗談じゃない！あなた達に私の気持ちはわからないわー！」くるみはナックルを投げる。しかしナックルではない甘いボールが。美希（マズイ！打たれるわ！）ピッキー（これだ！）バットを出す。カキン！

くるみ「あっ!？」ボールはレフト方向に。いつき「あっ……」
いつきが追うがフェンスを越えてホームラン。くるみ「くっ!」崩
れるくるみ。

美希（あのバカ、あんなの打たれるわ!ましてやピッキーさんが外
す訳ないわ。）

作者がベンチに戻る。のぞみ「やったー!ピッキーさんスゴいです
ー!」のぞみが抱き付く。

ピッキー「ちよっ!?!のぞみさん胸が当たってます!（汗）」

のぞみ「いいじゃないですかー!喜んでるんですから。」作者が
ベンチに座る。

舞「さすがですね。これを!」ポカリを手渡す。」

ピッキー「すいませんね……まあでも糸口は掴めたと思いますよ。」
せつな「どういう事ですか?」

ピッキー「くるみはおそらくナックルはもう投げられませんよ。ああ
なったら他の球も甘くなるでしょう。」ほのか「さすがですね。こ
こから反撃よ!」

作者VSくるみ ナツクル攻防戦！（後書き）

遂にくるみを捉えた。次回ドリームズの反撃が始まる！！

崩れるくるみ（前書き）

ホームランを打たれたくるみが乱れる。そんなくるみにつぼみが切れる。

崩れるくるみ

6 回表ノーアウトで5 番響が向かう。

響（くるみを倒すにはこの回しかない！ピッキーさんの努力をムダにしない！）

くるみ「ハアハア、まだまだー！」ストレートを投げるが威力がない。響「ハアー！」

カキン！くるみ「クツ！」ボールはフェンスに当たる。りん「この！」

りんはえりかへ送る。えりか「調子に乗り過ぎよ！」

響「セカンドまで行かなきゃ女がすたるー！」

パシ！シロップ「セーフ！」えりか「くそー！」響「よし！」

かれん「いけーのぞみ！まだまだ取れるわ！」のぞみ（流れは来ている。私も続く！）

くるみ「ハアー！」カーブを投げるがボール。美希（外れた。くるみも限界が近いわ。）

その後もボールが続く3ボール。くるみ「ハアハア……」

のぞみ（本当だ！ピッキーさんの言う通りくるみはスタミナ切れね。）

くるみ「のぞみに打たれるほど落ちぶれてないわー！」135キロのスライダー！

のぞみ「負けない！ヤアー！」カキン！くるみ「ライト！」

なぎさが落地点に入るが……

ポン！なぎさ「なっ！？」

ボールがジャンプブロックにぶつかかりフェンスを越える。えりか「あー！」

のぞみ「ウソ？……ホームラン……」祈里「やったわのぞみちゃん！」

のぞみのホームランで6点差に。内野陣が集まる。

ラブ「そろそろ限界じゃない？」えりか「そうだよ。バテてるじゃん！」

くるみ「ふざけないで！まだ降板する訳にはいかないのよ！恥かかせるつもり？あっちへ行つて！」

美希（全く困ったわね……）全員戻っていく。りん「あーあ、こりや時間の問題ね。」

ピッキー「くるみも限界ですね。つばみさん後をお願いします。」

つばみ「わかりました！必ず打ちます。」

くるみ「私はチームのエースなのよ！こんな所で！」

つばみ「チームのエースはそんなに短気じゃダメです！さつきからチームの人に対する悪行に私、堪忍袋の緒が切れましたー！」くる

み「つぼみに分らないわー！」

ストレートが迫る。つぼみ「見切りました！ハアー！」カキン！くるみ「ウツ！」ボールはレフト方向に。しかしいつきは追わなかった。

くるみ「いつき！」いつき「ムダだよ……」くるみ「えっ？……」

ボン！フェンスを越え2者連続ホームラン！

つぼみがホームインしてくるみに一言。

つぼみ「あなたみたいに仲間を大切にしない人に私達は絶対負けません！」

そう言いベンチへ戻る。くるみ「くっ！つぼみにあそこまで言われるとは……」

それを客席で見る人が。

「……くるみ相変わらず口が悪いね。」

「……まあしょうがないわ。あの時もいろんな人に暴言を吐いたからね。」

「……それにしてもあのピッキーさんて人、噂通りすごい人だね。さすがFIEROのチャンピオンの事だけあるわ。」

「……それにイケメンでチームのみんなを思ってたのあの行動。ああいう人が欲しいな。」

「……うん。ああいう人好きだな……」

「……」も気になるって言ってたしね。」

ノーアウトで8番ほか。ほか(悪いけど本気でいくわ!)
くるみ「くっ! 負けるかー!」カーブを投げるが甘いカーブ。ほか
か「甘いわ!」

カキン! くるみ「くそ!」ボールがレフトに……

奏「ハアー!」パシッ! レフトに抜けると思われたボールを奏がキ
ヤッチで1アウト。

ほか「あー、惜しい!」えりか「ナイス奏!」くるみ「奏……」

奏「全く! 打たせて取っていきなさいよ。守備は任せなさい!」

くるみ「言ってくれるわね! わかったわよ!」くるみの表情に少し
笑みが。

くるみ「ハアー!」祈里「ヤアー!」カキン! くるみ「ひかり!」
スライダーを打ち損じてバウンドしてひかりが1塁へ送り2アウト。
舞(必ず打つ!) くるみ「ハアー!」スライダーが甘く入る。舞「
ヤアー!」カキン!

ボールはライトに。なぎさ「くっ! フェンスか。」舞はセカンドを
蹴りサードを狙う。

なぎさ「させないよ!」ライトからレーザービーム!

のぞみ「舞ちゃん! スライディング!」舞「えっ?」

パシ! 奏「ご苦労様!」舞「なっ!?!」舞サードでタッチアウト。

えりか「ナイスライト！」なぎさ「へっへー！どんなもんよ！」

くるみ「みんな……ありがとう！」

奏「後で謝れば許すわ。次も頼むわよ。」

3 塁ベンチ……つばみ「惜しかったですね。」舞「タッチアウトか。」

「

ピッキー「ナイスファイトです！」

かれん「14対9……追いつけるかもしれないわ。」

のぞみ「みんな流れは来てるよ頑張ろう！」

崩れるくるみ（後書き）

点差は5点差になり勢いづくドリームズ。果たしてどうなる!？

くるみを打ち崩せ！！（前書き）

のぞみ「もう3回しかない。何としてもこの回点を取らないと！」
くるみ「絶対抑えてやるわ！」

くるみを打ち崩せ！！

タルト「7回に入りいよいよ終盤やー！」

デイジー「点差は5点、まだ分らないわね。」

7回表ナツクルズは9番奏から。響「奏！さっきの借りを返してやるわ！」奏「上等！」

ピッキー（奏さんも危険だ。ここは様子を……）カーブを要求するが……

響（いや、奏とはストレートで勝負したい！私を信じて下さい……）
ピッキー（わかりました！とことん付き合いますよ。）

響「ハアー！」宣言通りストレート！奏「速い！」見逃してストライク。

ピッキー（インコース低めで！）サイン通り低めに決まり追い込む。
奏（何この速さは！？）響「勝負よ奏！」152キロのストレート！奏「ヤアー！」

カオル「ストライク！バッターアウト！」奏「クッ！」座り込む奏。

カオル（響ちゃんの球速い、これは間違いないな……）

ラブ「よし、打つぞー！」響（打たせていくか……）

投げたのはカーブ。ラブ「よっしゃもらったー！」カキン！

響「つぼみ！」つぼみが落地点に入る。つぼみ「取りました！」ラ

ブが戻る。

ラブ「あー打たされた！」えりか「でも当たったね。」

なぎさ「ストレートは速いけど変化球は打てるかもしれないね。」

ひかり「打てるかわかりませんが頑張ります！」響（ひかりは大丈夫だね。）

ピッキー（スライダーで……）140キロのスライダー。ひかり「当てる！」

カキン！当てるがファール。響（ひかりも悔れなさそう……）

ピッキー（ここはストレートで！）響「ハアー！」148キロのストレート。

ひかり「速いです！」ストレートに空振り。

せつな「すごいわね。響になったらほとんど打たれていないわ。」

響「ハアー！」

ひかり「うっ！」ストレートに見逃し三振。ベンチに戻るひかり。

ひかり「すいません手が出ませんでした。」

りん「気にするなって！フルスイングで飛ばしてやるって。」

いつき「まだ5点差だし大丈夫よ！」

7回裏2番うららから。うらら（ピツキーさんにいい流れで繋げる！）

うららも気合いが入る。くるみ「ここは譲れない！」

スライダーでストライク。うらら（キレはあるけどスピードは落ちている……）

美希（甘い所は禁物よ！）くるみ「ヤアー！」フォークを投げるが落ちなかった。

うらら「これなら！」カキン！ラブ「うわー！」

ラブが飛び込むが抜けてヒット。うらら「やりました！」

くるみ「落ちないスピードも遅いわ……」

せつな「何としてもうららは返さないと！」くるみ「ハアー！」

145キロのストレート。せつな（得意じゃないけどピツキーさんに繋げないと！）

せつなはバントの構え。ラブ「バント！？」くるみ「くっ！不意をつかれたか！」

セカンドには送れずファーストへ送りアウト。

ラブ「まさかせつながバントとは……」せつな「いいのよ。うららを進めれば。」

次は4番作者。美希（どうする？敬遠する手もあるけど……）

くるみ（勝負よ！ナックルなしで抑えるわ！）バッテリーは勝負するようだ。

ピッキー「何としても1点は取らないと！」くるみ「ハアー！」フオークでストライク。

なぎさ「何とか抑えてよ。」くるみ「オリヤー！」カーブで追い込む。

美希「よし！」くるみ（ハアハア、次で勝負よ！）

ピッキー（そろそろ勝負時だな！）勝負球は？

くるみ「ハアー！」150キロのストレート！

美希「イける！インコース低めの完璧なコース！」ピッキー「ハアー！」

低めのボールを当てる。えりか「うわ！抜かれた。」セカンドを抜けセンターへ。

のぞみ「走れーうらら！」うららがホームを狙う。りん「させないよ！」

りんが素早く取りホームへ送る。

うらら「ヤアー！」美希「ハアー！」ズザーー！！クロスプレーの結果は……

カオル「セーフ！」ボールがこぼれセーフに。美希「完璧なあたしが！」

その間に作者はセカンドへ。ピッキー「あと4点差！」つぼみ「いい流れです！」

舞「まだ取れるわ！」客席では……

????「低めのあの球を打ち返した！」????「すごいね！私には

無理ね。」

「???」「ピッキーさんは勝負強いね。」

響「くるみもう交代したほうがいいよ。」

くるみ「後に迷惑は掛けられないのよ！ハアー！」スライダーを投げる。

響「もらった！」カキン！美希「りん！」

りん「ハアハア、うりゃー！」りんがジャンプするが……

りん「うわー！」フェンスに激突する。

いつき「ヤバい！急いでカバーしないと！」

いつきがカバーするがその間に作者がホームイン。響もセカンドへ。

響「あと3点よ！」内野陣が集まる。ラブ「3点差か。」

美希「ここで交代ね。」奏「まあ頑張ったわね。」

くるみ「後は頼んだわひかり！」ひかり「ハイ！何とか抑えます。」

くるみを打ち崩せ！！（後書き）

くるみが降りひかりに託す。この試合どうなる！？

響VS上位打線（前書き）

響対ナツクルズ上位打線！！この対決の後に響の球の正体が明らかになる！？

響VS上位打線

7回裏1アウトでくるみがベンチに下がりひかりが3番手で登板。咲が入りサード、奏がショートに移る。咲「頑張つてよ。あと2回ちよつとで勝てるよ。」

ひかり「わかりました!」

こまち「大丈夫ミルクさん?」

ミルク「フー、ナックルは疲れるミル。みんなにも後で謝るミル…」

つぼみの言葉に反省するミルクだった。

祈里「どんな球投げるかな?」

かれん「見てみないとわからないわ。」ひかりの實力は?

のぞみ(この回で逆転よ!)ひかり「いきます!ヤアー!」

130キロのスライダーでストライク。つぼみ「あまり早くないですな。」

その後カウントは2ストライク2ボールになり5球目。

ひかり「ハアー!」のぞみ「ストレートが甘い!」カキン!

のぞみ「よし!」しかし飛距離が伸びない。

パシッ!いつき「よし取った。」レフトフライに終わった。

のぞみ「あれー?確かに当たったけどな。」

つぼみ「この回もホームランです!」ひかり「それはできません!

ハアー!」

つぼみ「もらいました!」スライダーを打つ。

つぼみ「あー、セカンドゴロですー!」えりかが軽々と捌き3アウト

ト。

ラブ「ナイスひかり！」ひかり「ありがとうございます。」
なぎさ「次の回引き離すよ！」

ドリームズ側では……つばみ「打てなかったですー。」

うらら「ドンマイです。でもあれなら打てます。」

のぞみ「そうそう。逆転できるって！」

ひかりの投球を見ていた作者は舞と話す。

ピッキー「マズイですね。一番厄介かもしれないですね。」

舞「えっ！？どういう事ですか？」

ピッキー「スピードや球の威力はそんなにないですけどコントロールは抜群ですね。打たせて取るタイプで簡単に打ちにいたらゴロの山ですね。」

舞「早めに何とかしないとマズイですね。」

8 回表3番りんから始まる上位打線。りん「簡単に打ってやるわ！」

作者と響がマウンドで話す。

ピッキー「この回は上位打線だけどうします？」

響「私はこの回ストレートのみ投げます。」

ピッキー「ストレートだけですか!？」

響「ホントは変化球も使いたいけど今のスピードじゃ多分打たれる。でもストレートの速さならそんなに飛ばされないと思います。」
ピッキー「でも3点差で8回です。次取られたら致命傷です。」
響「絶対取らせません！私がねじ伏せます。私を信じて下さい！」
ピッキー「……わかりました。ストレートで抑えましょう！」
響「ありがとうございます！」

りん「絶対打ってやる！」ピッキー（危険だけどストレートしかない！）

ミットを低めに構える。響「いくわよ！」

149キロのストレートを送りストライク。

りん「速いな。でも慎重に……」響「ハアー！」

バシッ！追い込まれる。りん（大体見切ったわ。次で勝負ね。）

ピッキー（勝負です！）響「勝負！」りん「上等！打ってやるー！」

152キロのストレート！りん「ハアー！」

バシッ！りん「ウツ！」りんバットが出ず三振。

のぞみ「スゴイ！りんちゃんを見逃し三振！」りんがベンチに戻る。
美希「どういう事！？何も三振しなくていいじゃない？」

えりか「何だった？スライダー？」

りん「……分らないわ。多分ストレートだと思うけど途中で消えたのよ。」

こまち「消えた？」

りん「もちろん消えた訳じゃないけど一瞬球が見えなくなつて気づいたらミットにボールが入っていたのよ。」なぎさ「ヨッシャー！ やつてやるわよ！」

ピッキー（一番危ない人だな……）1球様子を見る。バシッ！

ピッキー（振つてこないか……）響「なぎささん！あなたを超える！」

なぎさ「ストレートだけで越えられないよ！」響「ハアー！」バシッ！

なぎさ「速いね。でも目は慣れてきてるわ。」響「ハアー！」

なぎさ「ヤアー！」カキン！響「あっ！？」ストレートが初めて当てられた。

なぎさ「くそ、ファールか！」響「ヤアー！なぎさ！なんの！」

2人の攻防が続いて25球も使う。かれん「2人とも凄い……」

響「ハアハア。さすがですね。」なぎさ「ハアハア、響もね！」

響「そろそろ終わりにしましょうか！」なぎさ「そうね！打つてやるわ！」

フルカウントで26球目。響「ウォー！」なぎさ「ハアー！」

バシッ！なぎさ「何！？」155キロのストレートが決まり三振。

なぎさが崩れる。

なぎさ（今の球はまさか！？……）なぎさが戻る。

りん「なぎささんでも無理か。」

なぎさ「三振はしたけど球は見切ったわ！もし次回つてきたら打つ

てやるわ！」

いつき「さっきの借りを返してやるわ！」響「上等！」

150キロのストレートを投げる。カキン！つぼみ「打った!？」
しかしファール。

いつき「少しだけど見切ってきたよ。」

響「やるじゃない！でも譲れない！」

なぎさ同様いつきも粘りフルカウントで16球目。

ピッキー（インコース低めのストレートで勝負です！）

響「ハアー！」いつき「もらった！」

バシッ！いつき「あつ……」バットを振るが低めを突かれこの回を抑える。

ピッキー（間違いない……師匠が言っていた球に違いない！）

いつきが戻りヘルメットを取る。

なぎさ「たた三振したただけじゃによね？」なぎさが話しかける。

なぎさ「三振と引き換えに響の球の正体わかったんじゃないの？」

いつき「そうですね。途中でそんな気はしたけど間違いないです。」

響が投げているのは咲と同じジャイロボールです。」

なぎさ「やっぱりね。途中で咲のボールに似ている感じはしたんだよ。」

りん「響もジャイロボールを投げてるのが不思議ですよ。」

なぎさ「でも変化球はそんなに速くないからもし打順が回ってきたら捉えてやるわ。」

それを横で咲が聞いていた。

咲（そうか。響も私と同じジャイロボールを投げるのか……）

響VS上位打線（後書き）

ナックルズが語るジャイロボールとは！？後に明らかになります。

ひかりから点を取れ（前書き）

ほのか「あと3点！何としても差を詰めないと！」
ドリームズに策はあるか？

ひかりから点を取れ

8回裏ドリームズは8番ほのかから。ひかり「ほのかさん、本気でいきます！」

ほのか「そうこなきや！」ひかり「ヤアー！」

137キロのスライダーでストライク。

ほのか（簡単に打ちにいくとゴロになるわね。慎重にいかないと……）

ひかり「ハアー！」ストレートが外れボール。美希「慎重ですね。」

ほのか「ピッキーさん達に迷惑は掛けられないのよ。」

美希（打たせませんよ。）フォークを要求する。ひかり「タアー！」ほのか「引きつけて打つ！」カキン！

ほのか「くそ！打たされたわ！」ボールはサードへ転がり咲が送って1アウト。

ほのか「悔しい！わかったのに。」

かれん「あれだと打つ事はできるけど連打は難しいかもね。」

祈里「ひかりちゃん！あなたから打つわ！」ひかりも慎重になる。

ひかり「ハアー！」スライダーが外れボール。祈里（見極めないと……）

その後も粘り12球目。バシ！

カオル「ボール、フォアボール！」祈里「やった、粘り勝ちだ！」

ひかり（うゝん、ストレートが外れました。）舞「絶対に打つ！」

美希（カーブよ！）サインを出しひかりもうなずく。ひかり「ハアー！」

舞「打てるわ！」カーブに合わせて打つ。しかし……

舞「くっ！打たされた！」ボールは奏の元へ。奏「えりか！」えりか「あいよ！」

奏からえりかへ送られ2アウト。舞（何としても！）全力で走る舞。えりか「ラブ！」舞「ヤアー！」パシ！

舞が全力で走りダブルプレーは免れた。舞「ハアハア、危なかった

……」

ラブ「あー、惜しい。」かれん「ダブルプレーは回避したわね。」

ほのか「勝負所ね！ゆりさん代打でいいかしら？」

ゆり「任せて、ひかりの特徴は大体わかったわ。」

2番つららの打席で代打ゆりが登場。ラブ「うわっ、ゆりさんかい。」

奏「代打の切り札って感じね。」美希（大丈夫よ。打たせていくわよ。）

初球はスライダー。バシッ！見送ってボール。美希（次はカーブ……）

カーブを投げるもまた見送りボール。ゆりが美希に話す。

ゆり「美希、緩い変化球でゴロを打たせようとしてるわね？」

美希「バレてましたか？」ゆり「慎重に狙い球を絞るだけよ。」

美希「まあ大丈夫ね。」その後モコースを見極めて13球粘る。

ゆり（そろそろ失投が来る。ひかりはスタミナがないから。）

美希（低めのスライダーよ！）ひかり（わかりました！）14球目。

ひかり「ヤアー！」しかしボールが甘く入る。

ゆり「来たわ！これなら打てる！」カキン！美希「レフト！」いつき「ハアハア……」

いつきが追うがボールは客席に入り2ランホームラン。

ひかり「今のは失投でした。勝負所ですいません。」

美希「あと1点か。せつなは出しちゃダメよ。」せつな（この回で同点よ！）

せつなが同点にするのか？

ひかり「ハアー！」せつなに投げたのはストレート。せつな「甘い！カキン！」

せつな「くそ！打ちあげた！」ストレートに詰まらされキャッチ
ヤーフライでチェンジ。

それぞれベンチに戻る。ひかり「勝負所ですいません。甘くなりま
した。」

ラブ「あと１点か。」なぎさ「みんな、あと１回全力でいくよ！」
ドリームズベンチ……せつな「うまく打たされたわ……」「つばみ「
あと１点です！」

のぞみ「頑張ろう！あと１回で何とかしてやろう！ドリームズの底
力見せてやろう！」

ひかりから点を取れ（後書き）

ゆりのホームランで1点差に！次回は9回に移ります。

勝負の分かれ目（前書き）

いよいよ最終回に突入！この回で勝負が決するのか！？
余談ですがこの小説のアクセス数が5万を超えました！
皆さんありがとうございます！！

勝負の分かれ目

タルト「14対13で9回に突入やー！」デイジー「もう6時を過ぎてるわね。」

夕方になりライトが付けられる。この回からゆりがサード、ほのかがファースト、のぞみがショートに移り、6番美希から。美希（ジャイロは打ちにくいわ。早めに打たないと！）

響「この回抑えて裏に繋げる！ハアー！」スライダーを投げる。

美希「見切った！」カキン！響「あっ！」初ヒットを許す。

響「打たれたか。ここから集中！」

咲「ここで打ってやる！」響「ハアー！」140キロのストレート！咲「タアー！」

カキン！ほのか「あっ！」ファースト横を切れファール。咲（打ち損じか。）

ピッキー（低めのストレートで……）サインを出しうなずく。

響「ハアー！」咲「もらった！」カキン！

響「マズイ！抜かれる！」ショートを抜けると思われたその時！

のぞみ「タアー！」のぞみが横っ飛びでワンバウンドキャッチ！

のぞみ「祈里ちゃん！」祈里に素早く送りアウト。ファーストにも送られダブルプレー！

咲「あー！悔しいなりー！」ほのか「のぞみさんナイス！」

のぞみ「私も少しは活躍しないとね。」

えりか「このまま終われないっしょー！」気合いを入れるが……

えりか「ギャー！やられた！」3球三振に終わる。

響「ヒットは許したけどのぞみのおかげで助かったよ。」

のぞみ「この勝負勝ちたいからね！取れて良かったよ。」

ほのか「次の回で何としても1点取りましょう！」

ナックルズベンチ……ラブ「5回途中から響が出るけど……」

いつき「響の前に10奪三振……」美希「ヒット1本、ほぼ完ペきに抑えられてるわね。」

なぎさ「しょうがないでしょ。響も咲と同じジャイロボールを使うんだから。」

こまち「あと1回よ。ひかりさんも頑張つて！」ひかり「わかりました！」

9回裏ドリームズの攻撃は4番作者から。ドリームズベンチでは

……

うらら「ピッキーさんなら……」かれん「でも敬遠されるかもしれないわね。」

せつな「そうね。ともに勝負するとは思えないわ。」

ほのか「敬遠ならこっちの思うつボね。ピッキーさんにはもう伝えてあるわ。」

ほのかの作戦とは？

作者が打席に行くと美希が立ち敬遠の構えをする。つぼみ「敬遠です！」

のぞみ「勝負しないか。」

美希「悪いですね。あなたとは勝負できないんです。」

ピッキー「まあそれもわかります。別に気にしてませんから。」
作者は敬遠されファーストへ。ラブ「ピッキーさんごめんね。負けられないんです。」

ピッキー「いいですよ。それに何もなくて出塁できたのでラッキーです。」響が打席へ。

響（ほのかさんの策は危険だけどそれに賭けるしかしかない！）
ひかり「ハアー！」スライダーを投げる。しかしその隙を突き作者が盗塁。

美希「しまった！」美希が気づくが投げられない。

ピッキー（よし！後は響さんが……）響（あとは私が……）1スト
ライクで2球目。

ひかり「エッ！？」ストレートを投げるが……響「確実に！」

響はバントの構え。コン！美希「くっ！ひかりファーストへ！」

サードには間に合わずファーストへ送り1アウト3塁。

ほのか「よし！予定通り！」響（頼むよのぞみ！）

なぎさ「1アウトで3塁か。」りん「でもものぞみならマシね。」

えりか「同点にはさせない！」

のぞみ（あとは私がうまくやれば……）響「うまくいきますかね
ほのかさん？」

ほのか「うまくいけばいいけど……」

ひかり「ハアー！」130キロのカープ。のぞみ「うわ！」空振り。
次もスライダーに空振りで追い込まれる。

美希（よし！追い込んだわ。のぞみならヒットは難しいわね。打つ
てもゴロでピッキーさんは動けない。）奏（次のつぼみもゴロで打
ち取って終了ね。）いつき（長かったわ……）

ひかり「勝負です！」135キロのストレート！

のぞみ「来た！」それと同時に作者がスタート！咲「なっ！？」ひ
かり「エッ！？」

誰もが目を疑う。のぞみはバントの構えだ。のぞみ（ピッキーさん
を返せば！）

コン！ひかり「しまった！」ひかりがボールを取りに行くが……
ピッキー「オリヤー！」作者がホームイン！ひかりはファーストに
送り2アウト。

美希「アタシとした事が……スクイズを読んでいなかったわ。」

のぞみ「良かったー！スクイズ成功して！」

のぞみと作者がハイタッチでベンチに戻る。

響「ほのかさんの策が成功しましたね。」

ほのか「ピッキーさんが塁に出て盗塁、響さんが送ってサードに。

そしてのぞみさんが意表を突くスクイズ。成功してよかった！」

せつな「一気にサヨナラよ！」つぼみ「わかりました！」内野陣が

集まる。

えりか「つばみか、ホームラン打ってるからね。」

ラブ「ここで交代ね。」奏「お疲れ！後はゆっくり休んで。」

ひかり「すいません後を任せます。」

咲「OK！私が出るからには必ず押さえてやる！」

勝負の分かれ目（後書き）

遂に同点に追いついた！このままサヨナラか！？
しかし待ち受けるのは難敵咲！果たしてどうなる！？

変わる流れ（前書き）

遂に同点になり咲が登板します。咲の登場で流れが変わる！！

変わる流れ

9回裏、ドリームズの奇襲により14対14の同点になり4番手咲が登板。ひかりがベンチに下がりこまちがショートに入る。

タルト「9点の差をチーム一丸で追いついたで！」

デイジー「おもしろい勝負になったわね。」

響「遂にエースの登場ね。」せつな「流れは来てるわ。絶対に勝てるわ！」

ピッキー（だが簡単に勝てると思えないな……）

浮かない表情の作者に隣のものぞみが心配そうに見る。のぞみ（ピッキーさん？）

咲「さて！簡単に終わっちゃったら読者の皆さんに失礼だからね。」
つぼみ「咲さん！あなたから打ちます！」

咲「上等！打てるものなら打ってみな！」咲の初球！

咲「ハアー！」つぼみ「何ですか！？」あまりの速さにバットが出ない。

せつな「あのスピードは何！？」

ほのか「変身してないのにあのスピード！？」

響（これだ！咲のストレートに追いつきたくて私は練習してきた。でも咲も力をつけている！）

咲「タアー！」つぼみ「キャー！」つぼみ手が出ず3球三振。

つぼみ「何ですかあのストレートは！？」つぼみが戻る。

かれん「何あの速さ？……」ゆり「速すぎよ……」
のぞみ「大丈夫！こっちにはピッキーさんがいるからね。負けないよ！ね？ピッキーさん。」
ピッキー「え？ああ、そうですね。」響（ピッキーさん、さっきから様子が変だな……）
咲「いやー、まさか9点差を追いつかれて私が登板するとは。」
なぎさ「まあよく抑えたわ！」
いつき「延長か。そろそろ響も疲れてくるはずね。」りん「次の回が勝負所ね。」

10回表ナツクルズは9番奏から。奏（この回で決着を！）
響「せっかく追いついたのよ！絶対に負けない！」
140キロのストレートを見送りストライク。
奏（さっきに比べてスピードが落ちている。これなら……）
響「ヤアー！」138キロのストレート。奏「もらった！」カキン！
祈里「キヤー！」セカンドを抜けヒット。奏「よし！」
響「くそ！打たれたか。」ラブ「よっしゃー！奏に続く！」
ピッキー（勝負所だな……）

響「ハアー！フォークが甘く入る。ラブ「ハアー！」カキン！

センター前に落ちノーアウト1、2塁。響「ハアハア、マズいな。」
こまち「何としても！」こまちはバントの構えだ。

響「絶対送らせない！」141キロのストレート。こまち「ヤー！」
ガキン！

こまち「あつ！」バットの上に当たり打ち上がる。ピッキー「落とすかー！」

必死にボールを追う作者。ピッキー「うわ！」フェンスに衝突！

カオル「大丈夫か！？」作者に近づくとは手にはボールが。

響「大丈夫ですか！？血が出てます！」

ピッキー「大丈夫です、響さん次は上位です。しっかり抑えましょう！」

響（出血しながらも必死で……絶対抑えてやる！）

りん「あれなら打てるわ！」気合いを入れるりん。響「ハアー！」
スライダーでストライク。りん「ゴロを打たせるつもりね。」

りんも集中するがフォークで追い込まれる。りん「必ず失投は来る

……」

りんはファールで粘り失投を狙う。りん「ハアー！カキン！カキン！
ファールで粘りフルカウント。りん・響「負けられない！」勝負の
10球目。

響「ハアー！」ストレートが迫る。りん「打つ！」カキン！響「舞！」

舞が追うがフェンスにボールがぶつかる。奏「チャンス！」
ボールを見て奏はサードを回る。舞「させない！」

素早くボールを取りホームへ送る。奏「ヤバッ！戻ろう。」

奏は慌てて戻りタッチアウトは回避し満塁に。

のぞみ「マズイよ、次はなぎささんだ。」つばみ「ここで取られたら……」

せつな「確実に終わる……」

響（くそ！結局私は打ち込まれて負けるの！？咲に勝てないまま終わるの！？）

マウンドで立ちつくす響の前に……

なぎさ「正直驚いたよ。でも限界が近いみたいね。ここで打って終わりよ！」

響「うつ……」響が覚悟を決めた次の瞬間！

???「響ー！しっかりしなさい！」客席から声が……

響「えっ！？あれは……」

変わる流れ（後書き）

客席から響に声援を送る謎の声の人物とは！？
次回意外すぎる人が登場！！

意外な救世主（前書き）

響を応援する声援は意外過ぎる人物だった！？

意外な救世主

10回表1アウト満塁で響がピンチに追い込まれたその時客席から響を呼ぶ声が。

つぼみ「あの人は……」

全員が声のする方を向くとそこには意外すぎる人が。

まりあ「響ー！あなたはまだやれるわ！ピッキーさんや他のみんなを信じて投げなさい！」

響「ママ！？何でここに……」

北条まりあ。響の母親で世界的バイオリニスト。今は何故か試合観戦中。

響「ママ……」ピッキー「タイムお願いします！」

タイムをかけて内野陣が集まる。

ほのか「響さんあの人は……」響「北条まりあ、私のママです。」

のぞみ「世界的バイオリニストなんだよね。すごいなー！」

響「まさかママが来るとは……」

ほのか「でもここで負ける訳にはいかないわね。」祈里「そうだよ。」

響「でもなぎささんを抑えるなんて今の私には……」

ピッキー「らしくないですよ響さん。」響「ピッキーさん……」

ピッキー「打たれたらその時はその時です。誰も責めないですよ。こっちは響さんの投球に賭けたんです。全力でジャイロボールを投げれば抑えれます。」

作者以外「ジャイロボール？」

ピッキー「あっ！違いますよ。ストレートと言い間違えた。頼みますよ。」

そう言つてボールを響に手渡す。

響「わかりました！ここで抑えなきゃ女がすたる！」響も気合を入れ直す。

ピッキー（危ねえー、うつかりジャイロを口にしたよ。まあ咲さんが出てるから約束は守ったからいいか……）

なぎさ「私を抑えられるかしら？」響「絶対抑える！ウォー！」

152キロのストレート。なぎさ「ハアー！」バキッ！

バットが折れ打ちあがる。ゆり「取ってやる！」ゆりが追うがファール。

なぎさ「へー、開き直ったのかな？」響「ハアー！」なぎさ「ヤアー！」

カキン！またもファール。なぎさ「くっ！しぶといわね。」

響「絶対に負けられないんです！」その後も攻防が続いた。

なぎさ「タアー！」カキン！

なぎさ（ハアハア、おかしいわ。響はもう疲れているはず……なのにスピードが上がった。どういう事！？）響「ハアー！」なぎさ「

速い！」見送るが僅かに外れボール。

響「ヤアー！」なぎさ「くそ！」カキン！ファールになる。

えりか「ねえ、芯からどんどん外れてない？」

ミルク「確かに振り遅れているミル！」

美希「打てないわなぎささんは。」咲「えっ！？」粘って12球目。

響「ハアー！」なぎさ「ウオー！」

バシッ！なぎさ「あっ！」バットを振るが155キロのストレートに三振。

美希「響のボールはただのジャイロじゃない。ピンチになればなるほどそれまで以上の力を発揮するみたいね。」

なぎさ「速すぎたわ。いつも気を付けて。」いつも「わかりました。」

響「絶対に負けられない戦いがここにあるのよ！」いつも「上等！」バシ！

響「ヤアー！」いつも「ウオー！」2ストライクと追い込む。

響「ヤアー！」いつも「もらった！」カキン！

いつも「あっ！」当てたが打ち上げる。舞「OK！」

舞が追いついて3アウト。満塁のピンチを防いだ。いつも「くそ！」悔しさのあまりヘルメットを叩きつけるいつも。

えりか「いつでもなぎささんでも打てないとは。」

なぎさ「悔しいわ。でも相当体力を削ったはず。」

美希「まだ咲も投げられるし勝負はこれからよ！」

いつき「次こそは打ってやるわ。」

ほのか「必ず打つ！」ほのかが向かうが……咲「タァー！」ほのか「くっ！」

咲の前に3球三振。祈里「キャー！」祈里も3球三振。

舞「咲！あなたと真剣勝負ができそうね。」

咲「そうだね。でも負けられない！」舞「こっちも同じよ！」

咲「ウオー！」バシ！153キロのストレート！舞「速い！」

咲「ハァー！」バシ！追い込まれる。

舞（何この速さ！？響さんの球に似ている！！）

咲「悪いけど終わりね。ハァー！」

舞「ストレート！もう慣れた……」バットを振る。

ビュン！舞「何！？」150キロのフォークで三振。

咲「よっしゃー！絶好調なりー！」

舞（ストレートと同じくらい速いフォーク！？打てないわ。）舞が戻る。

かれん「流れが止まったわね。」

ピッキー「響さんも限界に近いですからね。」

ゆり「ピッキーさん、1つ聞いていい？」

ほのか「あの時少し言った「ジャイロボール」って何ですか？」

ピッキー「いや、その……」

のぞみ「何か知っているんですね!？」

つぼみ「話してくださいお願いします!」全員が集まる。

ピッキー「フー、まあ咲さんも出たからいいか。わかりました。知
ってる範囲を話します。」

意外な救世主（後書き）

次回響と咲の速球の秘密が明らかに……

そろそろ試合が終わります。球場の投票も締切が近いです。まだ3
回投票をしていない方はお早めをお願いします。

ジャイロボールの秘密（前書き）

作者から明かされる響と咲の投球の秘密とは？

ジャイロボールの秘密

遂に明かされる咲と響の速球の秘密。

ピッキー「知ったのは昨日の夜、師匠から電話が来た時ですね。」
うらら「あの時ですね。」話は昨日の夜に戻る。

ピッキー「師匠お疲れ様です。明日は頑張りますんで。」

カオル「オウ、頑張れよ。実は話があつてな。」ピッキー「何ですか？」

カオル「ジャイロボールって知ってるか？」

ピッキー「えーと、確か前に師匠から聞いた事がありますね。それがどうしました？」

カオル「それがな、それを咲ちゃんが投げているんだ。」

ピッキー「エエーッ!？」

カオル「札幌で投げた時にそう感じたんだ。この事はナックルズには教えてある。これを知らないのはドリームズの10人だ。」

ピッキー「でも何で自分だけ？」

カオル「俺はお前の能力を高く評価している。お前なら咲ちゃんよりいいパートナーを見つけておもしろい勝負をしてくれるってな。

でもこれはまだ言わないでほしいんだ。余計な心配をかけたなら悪いからな。咲ちゃんが出たら教えてやってくれ。」

ピッキー「わかりました。必ず守ります!」

カオル「じゃーな！明日は頼むぜ。」

ピッキー「……っていう話がありました。響さんと咲さんが投げているのはおそらくジャイロボールと呼ばれるストレートです。」
ゆり「そのジャイロボールの特徴は何なんですか？」

ほのか「初めて聞く名前ね。」

ピッキー「無理もないです。プロの世界でもなかなか見れない幻の速球と呼ばれています。」

舞「幻の速球……」

ピッキー「普通ストレートは縦回転です。でもジャイロボールはドリルのような回転をするため球が受ける空気抵抗が少なく威力を失わないままミットに辿り着く事ができます。打者にとっては球が手で浮き上がるように見えて普通のストレートより打ちにくいらしいです。」

響（マジで……ピッキーさんに指摘されてキレを意識して練習して投げていたらそんな球に……）

ピッキー「響さんのジャイロも速いですが咲さんのジャイロは響さんのジャイロと同じもしくはそれ以上の速さですね。変化球のキレも響さんより上です。」

つぼみ「さすがソフトボール部のエースですね。」

ピッキー「わかる範囲はここまでですね。皆さん頑張りましょう！」
つぼみ「わかりました！」

響（この勝負、絶対負けられない！）

ジャイロボールの秘密（後書き）

ジャイロボールの秘密が明らかになりこれが両チームにどう影響するか？

この試合もそろそろ終わります。終わったら新たな展開を予定しています。

作者VS咲 元バッテリー対決（前書き）

そろそろこの試合も決着が着きそうですが今回で付くのか!？

作者VS咲 元バッテリー対決

11回表6番美希から。響「ハアー！」バシッ！149キロのス
トレートで空振り。

美希「まだスピードが落ちないわ。とにかく打たないと！」

響「ヤアー！」スライダーが迫る。美希「ハアー！」カキン！

美希「打ち上げたわ！」ほのかがキャッチして1アウト。

咲「打ってやるわ！」響「負けられない！」フォークを投げる。咲
「ヤアー！」

カキン！客席に入りファール。その後もファールで粘る。

響（ハアハア、少し疲れてきたよ。でも抑えないと……）勝負の7
球目。

響「ハアー！」咲「もらった！」カキン！バキッ！咲「くっ！」

バットが折れボールはレフトに。パシ！舞がキャッチして2アウト。

咲「くー、バットを折られたよ。疲れているはずなのに。」

えりか「うわー、速すぎだつて！」えりかは3球三振でチェンジ。

響が座り込む。かれん「何とかこの回で決着を付けたいわね。」

響「まだまだ投げれますって！心配しないでください！」

響はそう言うが顔には疲れが見える。ゆりが打席に向かう。

うらら「響さんはこの回までで112球投げています。」

ピッキー「112球か、響さんの体を考えたらこれ以上は危険です
ね。かれんさん次から投げられますか？」

響「待ってください！私はまだ投げれますよ。疲れだつて……」

ピッキー「いや、疲れない訳ないですよ。5回途中から投げて11回まで投げたんです。次で交代ですね。無理はさせられないです。」

のぞみ「じゃあ響はここで交代か。」せつな「でも負けるわ。」

響「ピッキーさん！私を信じて下さい！」

ゆり「ハアー！」バシ！ゆり「ウツ……」咲の前に3球三振。

ピッキー「いや、響さんの体を考えたらこれ以上投げたらマズイですね。体を壊したら元もないですよ。」

せつな「ハアー！」バシッ！

カオル「ストライク！バッターアウト！」せつなも3球三振。

せつな「打てなかった……」せつなが戻る。

その間作者の説得によりようやく降りる事を約束した。

響「わかりました。この回で降ります。ほらピッキーさんの打席ですよ。」

作者がヘルメットをつけ打席に行く時……

響「ピッキーさん、一つ私の頼みを聞いてもらえませんか？」ピッキー「エッ？」

響「この回で決めて下さい。咲から打てるのはピッキーさんしかいません！」

つぼみ「私からもお願いします！」バットを手渡すつぼみ。

舞「信じていますから。」

のぞみ「頼みますピッキーさん！みんなの笑顔の為に！」

ピッキー「わかりました！」リストバンドをつけて打席に。
咲「ピッキーさん！やっとな勝負できますね。」
ピッキー「そうですね。でも遠慮はしませんよ。」
咲「こっちもです。ハアー！」

150キロのストレートでストライク。

ピッキー「速いな、これじゃ他の人は打てないな。」

咲「ヤアー！」ピッキー「クッ！」149キロのストレートで空振り。

つぼみ「やっぱり速いです！」祈里「ピッキーさんでも無理なの？」

ゆり「それはどうかしら？」ゆりが反論する。

ゆり「ピッキーさんは咲と響の球を今まで100球以上取ってきたのよ。目は私達より慣れているはず。」

ほのか「なるほど。特徴は掴んでいるかもね。」

のぞみ「ピッキーさんを信じよう！」

美希（さすがに打てないですね。この1球で終わりですよ！）

サインを確認し投げる。咲「オリヤー！」ピッキー「ハッ！」

カキン！ファールで粘る。咲「ピッキーさんでも当てるのがやっとなですね。」

尚もジャイロを投げる。ピッキー「クッ！」

バキッ！バットを折りながらも粘る。

咲「打てませんよ！」ピッキー「負けない！」カキン！カキン！2

人の攻防が続く。

なぎさ「凄いな……ジャイロをあんなに打つなんて。」

奏「私ならすぐに三振ね。」

咲「オリヤー！」ピッキー「ハアー！」カキン！咲「あつ！」ポール横を切れファール。

咲（クツ！どうして？追い込んでいるのにどうして三振にできないの？）

ベンチでは……せつな「2人ともすごいわね。」のぞみ「私には無理だよ……」

舞（気のせいじゃない！だんだん合ってきている……）

咲・ピッキー「ハアハア……」2人とも息が上がっている。

ピッキー（咲さん、あなたは確かに速いジャイロを持っています。変化球のキレもある。でも球の速さなら響さんも負けていない！）

咲「三振にしてあげますよ！」155キロのストレートを投げる。

美希「もらったわね。」ピッキー（みんなが信じているからこそ負けられない……）

目を開けボールを待つ。ピッキー「これで終わりです！」

バットの芯に当たる。カキン！咲「ウツ！」

ボールはライトに。なぎさ「ハアハア、オリヤー！」なぎさがジャンプする。

ポン！ジャンプも届かず飛び込むホームランだった。咲「なっ！？」

のぞみ「やったー！！サヨナラ勝ちだよー！」つばみ「すごいです！」

ゆっくりホームベースを走る作者。

咲「はあ。私もまだまだなり。次は打たれないようにしなきゃね。」
咲の顔には満足感があつた。

作者VS咲 元バッテリー対決（後書き）

1か月近くの試合もようやく終わりました。でもまだまだ続きます。この試合をもって投票期間は終了です。後で結果を発表します。次回はいろんなキャラクターが登場します。意外なキャラクターが出るかも！？

試合後（前書き）

試合後各チームの表情、客席で見ていたいろんなキャラクター、
また、？で表わされていたキャラの正体が明らかに……

試合後

作者がゆっくり走ってくるとメンバーが待っていた。作者が帰ってベースを踏み歓迎を受けた。

のぞみ「やったよピッキーさん！サヨナラホームランだよ！」

つぼみ「すごかったです！」せつな「あなたのおかげです！」

ピッキー「自分でも打てると思わなかったよ。」

響「よし！ピッキーさんを胴上げだー！」

ピッキー「ちょー！？いいですって！自分はこういうのは……」

うらら「遠慮しないで下さいー！（笑）」

ほのか「ヒーローは祝福しなきゃ！」

その後作者は宙を3回舞った。

祈里「あつ！花火が上がってるよ。」ゆり「綺麗ね……」

ナツクルズベンチ……いつき「まさか咲が打たれるとはね。」

美希「こっちの完敗ね。」なぎさ「まあ楽しかったじゃん！」

咲「課題も見つかったし次回も楽しみなりー！」

奏「次回こそ勝ちたいわ！」そんな中……

ミルク「ピッキーさん一人に負けたようなものミル。けど逆を考えれば……」

このミルクの思惑は？

VIP席では……

王子「じゃあ僕はこれで失礼します。ありがとうございました。」

ピーチ「助けてくれてありがとね。また来てね。」

マリオ「フー、やっと帰ってくれたぜ。姫！今度は僕とデートしましょう！」

ピーチ「今日は疲れたからまた今度ね？」

マリオ「そんな〜！！（号泣）」ルイーダ「兄さん、泣かなくても……」

客席では……まりあ「すごい試合だったわ。世界ツアー中にいい物が見れたわ。後で響に会つとかなきゃね。」

作者のホームランボールはある女子5人組の元に渡っていた。その5人とは……

トモカネ「うわ！ピッキーさんのホームランボールゲットしたぜー

！サイン書いてもらいてー！」

ノダ「わあーいいなー！アタシもほしー！」

キサラギ「まああ二人とも。」

ナミコ「運が良いよなー。まさかボールが飛んでくるとはな。」

キョージユ「ウム、あの方達の大半は年下だがまた会う機会があると思う。私もあの方のサインが欲しい……」

ナミコ「マサもサイン欲しいんかい！」

アニメ「GA」からやって来ていた5人だが後に5人がプリキュア達と会う事なるとは思っていなかった。一方この試合を見ていたある2人も帰り支度をしていた。その正体とは……

なのは「すごい勝負だったねフェイトちゃん！」

フェイト「そうね。はやても来ればよかったのに……」

なのは「まあ試合は世界中にOAされてたから見てたと思うよ。今度みんな来ようね！」

フェイト「そうね。ところでなのは、スバルに連絡してあげなさい。スバルが一番見に来たがってたじゃない。」

なのは「そうだね。多分見てたと思うけどね。」なのはは電話をかける。

機動六課では……はやて「うわー、すごい勝負やったなー！ピッキーさんはさすがやね。何でもできるんちゃうか？」

ティアナ「そうですね。スバル何してんの？」

スバル「やったー！さすがドリームズ！私も気合いが入ったよー！ピッキーさん待ってて下さい！今度は絶対行きますから。」

プルルル……スバル「もしもし、あ、なのはさん！お疲れ様です。」

なのは「スバル試合見てた？」

スバル「見てました！9点差をつけられた時はどうなるかと思いましたがあのチームワークには驚かされました。」

なのは「ピッキーさんはすごい人だね。年下だけど頼りになる人だよ。スバルが気になるってわかるな。」

スバル「FEEZERの時もライバルの私を助けてくれました。助けてもらえなかったら私は無事に帰れませんでした。」

なのは「しかも20万円くれて機動六課の為に使ってほしいなんていい人だね。今度招待しなきゃね。」スバル「そうですね。」

なのは「今から戻るからね。」スバル「わかりました。お疲れさま

でした。」

電話を切るスバル。

スバル（ピッキーさんとプリキュア一同か。そのうち行くからね…）

試合後（後書き）

意外なキャラが登場した試合後の話はとうとうたてですか？これを作るのは結構時間が掛かりましたがその分よかったです。この先も意外なキャラが登場予定です。お楽しみに！

試合後の夜（前書き）

今回は試合後の夜についての話です。

試合後の夜

試合は15対14でドリームズの勝利に終わった。その夜ピーチ城内で打ち上げが行われていた。全員「カンパーイ！」ジュースで乾杯する一同。

なぎさ「カーツ！試合後に飲むコーラはオイシーイ！」
えりか「本当ですね！コーラウマァーイ！」

のぞみ「カオルちゃんも人が悪いよ！ジャイロボール早く教えてよ。」

カオル「イヤー悪い悪い、余計な心配かけたくなくてな。」

咲「次こそ打ってやるなりー！」

ピーチ「ハァーイ！みんなー！注目ー！」ピーチが中央に立つ。

ピーチ「試合に勝ったドリームズにプレゼントがあります。マリオ持ってきて！」

マリオが布に隠して何かを持ってくる。マリオ「持ってきました。」

つぼみ「ピーチさんこれは？」ピーチ「勝利チームにはこれを差し上げます！」

布を取るとそこには……

のぞみ「ワァー！何ですかこれ！？」

出てきたのはクリスタルでできたドリームズメンバーのフィギュアだった。

つぼみ「すごい光ってますー！」ピーチ「1体100万円はするわね。」

えりか「100万円!?!」こまち「高すぎる賞品ね。」
ドリームズメンバーに商品が渡された。こうして打ち上げは終了した。

響「ママ!」ピーチ城内で再会した北条親子。響「どうしてここに!?!」

まりあ「世界ツアー中でキノコ王国に来てたのよ。3日後にはまたツアーに戻るわ。」

響「そつか。」まりあ「響、ピッキーさんや他の人を家に呼んであげなさい。パーティーでもしましょう。」響「うん、2日間は完全オフだから聞いてみるよ。」

明日から2日間は完全オフで実家に帰って休んでもいいという作者の提案により久しぶりに家に帰るのでメンバーはゆっくり休むようだ。別に実家に帰らなくてもいいので自由にしているのである。

ピッキー「イテっ!!」作者は部屋でテーピングをしていた。

せつな「大丈夫ですか?私と響の球を取っていたからボロボロじゃないですか。」

ピッキー「まあ響さんのジャイロは速かったですから。」

せつな「ごめんなさい、今日は役に立てなくて……」

ピッキー「気にしなくていいって。調子がいい時もあれば悪い時も
ありますって……」

せつな「ピッキーさん？」ピッキー疲れて寝てしまう。

せつな「疲れてるから休ませてあげましょう。」

せつなは作者を自分の膝の上に寝かせる。

せつな「この人に負担はかけられないわ。もっと強くないと。」

そこへ……

響「あっ！ピッキーさんいた！」つぼみ「ピッキーさん！あれ？」

せるな「シー！起きちゃうわ！」のぞみ「えー！？もう寝ちゃった
んですか！？」

舞「仕方ないわ。あれだけ頑張ってくれたから休ませてあげましょ
う。」

せつな「ところで何の用？」

響「ピッキーさんに家に来てもらおうと思って！」

のぞみ「あーズルイ！私も頼もうとしたのに！」

つぼみ「私もですー！」舞「まあまあ。明日聞いてみましょう。」

響「ピッキーさんの寝顔はいつ見ても癒されるわ。」

つぼみ「ホントですー！私にも抱かせて下さいー！」のぞみ「私に
もー！」

せつな「ちよつと！起きちゃうって！」作者の取り合いで終わった
夜だった。

試合後の夜（後書き）

完全オフでメンバーはどんな休みをとるのか？次回明らかになる。

それぞれの休日（前書き）

皆さん！今日からまた更新します。これからも頑張りますので応援をお願いします！！

それぞれの休日

翌日キノコ王国から帰ろうとしていた。かれん「みんないるわね。」

なぎさ「全員いるよ。」

奏「ピッキーさんどうしたんですか？ 疲れてるように見えますけど。」

ピッキー「自分でもわからないけど何か首が痛いんですよ。早く寝たんだけど。」

つぼみ「ど、どうしたんでしょうね？」のぞみ「そ、そうだねーアハハー！」

響（私達を取り合いして何度も動かしたからね。）

こうしてワープ土管を通って帰っていった。マリオ「帰りましたね。」

ピーチ「ええ、また来てもらいたいわね。」

タワー前に到着した一同は各自行きたい場所に向かった。

響「ピッキーさん！ ママが是非来てほしいって言ってるんですけど！」

ピッキー「ちょっと待ってくださいね。今確認するんで。」

そう言うとスケジュール帳を確認する。

ピッキー「この後はのぞみさん家で遊んでその後だと舞さん家、つぼみさんの家になってますね。」

響「なっ！？みんないつの間に！？」

のぞみ「こういうのは早くしないとね！」つばみ「そうです！」

ピッキー「じゃあこうしましょう。みんなで遊んで泊まるという事で。」

のぞみ「いいね！2日でお泊り会か。楽しみだなー！」

舞「今日の夜は私の家に泊まってください。家に連絡しますんで。」

響「じゃあ明日はウチで決まり！」

せつな「楽しそうね。私も混ぜて！」ほのか「私も行っていいかしら？」

舞「大丈夫です。」

祈里「私は明日行っていいかな？今日はラブちゃん家でラブちゃん、美希ちゃん、りんちゃん、奏ちゃんとパジャマパーティーで来れないけど。」

つばみ「いいですよ。ってことは8人ですか。」

せつな「楽しくなりそうね。」

のぞみ「よーしさっそく出発するぞー！行ってーい！」

なぎさ、咲、いつきは実家で休みえりかとゆりはえりかの家に泊まるようだ。こまちとひかりはこまちの家に行くようだ。くるみ「かれんはどうするの？」

かれん「特にないわね。」

くるみ「じゃあ2人で残らない？悪くないでしょ？」

かれん「いいわよ。夕方にはうららも仕事終わりで戻るし。」
こうしてそれぞれ行き先が決まった。

「のぞみの家……のぞみ「ついたよ！」のぞみ以外「お邪魔します。」

響「わあ！Wiiがあるよ。」ピッキー「ゲームはスマブラがありますね。」

舞「こっちはゲームキューブね。」

のぞみ「よしゲーム大会だー！けってーい！」

なぎさ達は……なぎさ「ここでお別れだね。2日後に！」

咲「ハイ！」いつき「なぎささんも遅刻しないように。」

ラブ達……ラブ「今夜はパジャマパーティ！映画以来かな？」

美希「そうね。」りん「あたしと奏は初めてだけどヨロシクね。」

祈里「別に緊張する事はないわ。」

奏「王子先輩がいたら……キヤー！」

ラブ「また妄想してるよ。（汗）」

こまちの家……こまち「どうぞひかりさん。」ひかり「2日間お世話になります。」

えりかの家……えりか「さあゆりさん！上がってください！もも姉も待ってます！」

ももか「ゆりー！勉強教えてー！」

ゆり（もしかしてその為に呼ばれた？）

タワー内……くるみ「2人で過ごすのは寂しいわね。」

かれん「誰か来てくれればいいけどね。」

くるみ「まあ2人で練習しましょう。」のぞみの家では……

つぼみ「速いですよ響さん〜！（激泣）」

響「オラオラー！1位を取らなきゃ女がすたるー！」

つぼみ、響、のぞみ、せつながマリオカートをやっていた。こんな
感じで午前は終わった。

それぞれの休日（後書き）

久しぶりに更新しました。しばらくは2日間の休み話がメインです。ほとんどのぞみ達の話になります。またこれからですが、ゆり除きの10人であるイベントを予定しています。今までにないゲーム展開を予定しています。皆さんは誰を応援するかは自由にしてください。イベントは3回の予定です。好評だったらまたやるかもしれません。

ぷよぷよバトル（前書き）

今回はプリキュアがもしもぷよぷよをやったらという話です。意外な一面が見れるかも？

ぶよぶよバトル

午後になりのぞみの家を後にする一行。

せつな「マリオカートで午前中終わったわね。」

のぞみ「ゲーム機は持ってきたからまたできるね!」

一同は舞の家へ向かった。タワーでは……

くるみ「ねえかれん、ピッキーさんでどんな人?」

かれん「そうね。あの人は練習熱心でしてる時は絶対手を抜かない人ね。あと適切なアドバイスをしてくれて助かるわ。」

くるみ「あの人そんなにいい人なのね。あまり見てないからなー。」

かれん「一緒に練習してて楽しいわ。」

なぎさ「ただいま。」くるみ「なぎさ!?!家に帰ったんじゃないの!?!」

なぎさ「帰ったけど誰もいなくて寂しいから戻ってきたよ。」

かれん「あらら、しょうがないわね。」くるみ「3人で練習しようか?」

なぎさ「うん。結局ここが落ち着くなー!」

のぞみ達は舞の家に到着した。舞「着きましたどうぞ。」

一同は家に上がると舞の両親がいた。

弘一郎「いつも舞がお世話になっています。」可南子「ゆっくりしてって下さいね。」

ピッキー「すいません。今日お世話になります。」

作者は両親に丁寧に挨拶をする。可南子「聞いた通り礼儀正しい人ね。」

弘一郎「そうだな。なかなかいいな。」舞の両親は作者に好印象のようだ。

一同は舞の部屋に行く。つぼみ「キレイな部屋ですね。」

ピッキー「あつ！64がある。」

舞「ぶよぶよSUNで遊びましょう。トーナメントをやれば盛り上がるわ。」

一同はぶよぶよで遊ぶ事に。組み合わせは以下に決まった。

第1試合 つぼみVSのぞみ

第2試合 ほのかVS響

第3試合 作者VSせつな

舞はシードされつぼみVSのぞみの勝者と対戦する。

舞（ピッキーさんとは決勝までできないか。）

せつな（運がいいわ。いきなりできるんだから。）

さっそく試合が始まった。

つぼみ「のぞみさん勝負です！」のぞみ「負けないよー！」

お互い作者と対戦したいので負けられない一戦だ。つぼみ「えいつ

「やー！」

のぞみ「何の！」お互い消していくが……

響「一個ずつ消してる……」せつな「時間掛かりそうね。」

5分間もこのような状態が続いた。だが……

のぞみ「あつ！ミスった！」のぞみが置き場所を間違える。

つぼみ「スキありですー！」この間につぼみが連鎖してつぼみの勝利。

のぞみ「あゝん負けたー！」つぼみ「ヨッシャー！やりました！」

初心者同士の対戦が終わり次の試合へ。

響「ここで負けたら女がすたる！」ほのか「フェアでやりましょう。」

響「オリヤー！」舞「響さんも一個ずつ消してる……（汗）」

つぼみ「ほのかさんは消してないですね。」のぞみ「響の勝ちかな？」

ほのか「いくわよ！」一つ消したら次々と連鎖が決まり6連鎖で追い込む。

響「ギヤー！負けたー！」ほのか「勝ったわ！」

舞「さすがほのかさん、隙がなかったわ。」

ほのか「頭を使わないと勝てないからね。」

せつな「精一杯頑張るわ。」せつなVS作者の対戦が始まった。

せつな「一個ずつ消していくわ。」ピッキー「俺はまだ……」作者は左から並べていく。

のぞみ「ピッキーさん負けちゃうよ！」

ピッキー「大丈夫です。これは作戦なので。」せつな「もらったわ。」

余裕を見せるせつな。しかしここから余裕がなくなる。

ピッキー「紫来たー！これで完成です！せつなさん覚悟！」

せつな「えっ！？うわー！いっぱい落ちてきたー！」6連鎖でせつな撃沈！

せつな「勝てなかったわ。」舞「一個ずつ消すんじゃ効率は上がらないわ。」

のぞみ「えっ！？どういう事？」舞「私のやり方見ればわかると思うわ。」

準決勝は舞VSつぼみ ほのかVS作者の対戦になった。

つぼみ「この勝負負けられません！」

舞「私もよ！上級者として負けられない！」舞の実力は……

つぼみ「あー！落ちてきました！ヤバいですー！」

舞の前につぼみ敗退。響「すごい圧倒的だったわ！」

せつな「やり方はピッキーさんとほのかさんのやり方に似てたわ。」

つぼみ「どうやって勝ったんですか！？」ほのか「連鎖よ。」

つぼみ 響 のぞみ せつな「連鎖？」

ピッキー「ぶよぶよの極意は連鎖です。一個ずつ消していつちゃ効率が上がりにくいんです。最初にタメて後で連鎖できる状態を作っておいて連鎖する。これが勝利の近道です。」

のぞみ「連鎖か。」響「難しそだな。」
ほのか「慣れれば簡単にできるわ。ピッキーさんやりましようか。」
ピッキー「負けませんよ！」

実力者同士のもう一試合は激しい攻防に。ピッキー「よし4連鎖！」

ほのか「何の！ブロックよ！」つぼみ「レベルが高いですー！」
のぞみ「私達にはついていけないよー！（泣）」

2人の「対戦は3分を超えスピードもハイスピード。

ピッキー「ヤバイ、置き場所間違えた！」このミスで一気に崩された。

ピッキー「あー、後半はミス一つで負けるんだよねー！」

響「ピッキーさんでも負けるか。ぶよぶよは奥が深いなー！」

ほのか「私も危なかったわ。焦るとやられちゃうのよね。」

舞「でも極めていくとおもしろいんですね。」

その後の決勝戦は激しい攻防を制したほのかの勝利で終わった。

舞「ほのかさんは強いわ。もうちよつとだったけどな。」

響「もう一回だー！」つぼみ「今度は負けないですー！」

こうして夕方になっていった。

ぶよぶよバトル（後書き）

ぶよぶよは奥が深いです。12月には新しいのが出るみたいなので買ってやりたいです。

それぞれの夜（前書き）

今回は各自が過ごした夜の話です。

それぞれの夜

夕方になり夕食の準備をする。こまちの家では……

ひかり「暗くなってきましたね。」

こまち「夕食の準備でもしましょうか。」ひかり「夕食は何にするんですか？」

こまち「ピザの中に羊羹ようかんを……」

ひかり「羊羹ようかんは入れないで下さいー！（滝汗）」

タワーではうらがが合流し夕食を食べていた。

うらら「仕事終わりのカツ丼は最高ですー！」

なぎさ「家にいなくてよかった！寂しい夕食になるとこだったよ。」

かれん「さつき咲といつきから連絡が来て明日には来るって。」

くるみ「やっぱり1人はキツイみたいね。」

ラブの家……ラブ「そーれ！」りん「やったなー！」夕食を食べ終わり枕投げをしていた。

美希「完璧な私が負けるはずないわ。」

奏「ブッキー何してるの？」

枕投げに参加していない祈里に話しかける奏。

祈里「ちよっとこれを作ってたんだ。」作っていたのはうさぎの枕だ。

美希「それどうするの？」

祈里「これはブッキーさんにあげようと思うんだ。普通の枕よりいいかなと思って。」

ラブ「悪くないよ。きつと喜んで使ってくれるよ。」

舞の家……一同「いただきまーす！」夕食はすき焼きだ。

響「お肉もらったー！」のぞみ「あー！ズルイー！」

せつな「人の家でみつともないわよ！」

可南子「まだまだあるんでたくさん食べて下さいね。」夕食後……

可南子「お風呂沸いたので入ってください。」

のぞみ「ピッキーさん一緒に入ろうよー！」

ピッキー「いいですよ自分は後で入るんで。」のぞみとつぼみが先に入る。

響「ピッキーさん！キャッチボールしません？」

ピッキー「いいですね。」外に向かう2人。

浴槽ではのぞみとつぼみが話していた。

のぞみ「残念だなー！ピッキーさんも入ればいいのにね。」

つぼみ「ピッキーさんもシャイな所があるんですよ。」

体を洗いながら話す。のぞみ「ねえつぼみ、ピッキーさんをどう思う？」

つぼみ「そうですね。優しくて頼れる人って感じですね。」

のぞみ「そうだよね……あの人はドリームズに希望を与えてくれる原動力になる人だよ。」

こんな話をするが2人の心の中はこんな事を思っていた。

つぼみ（多分だと思いますが私の他にもピッキーさんを好きな人はいると思います！絶対負けたくありません！）

のぞみ（ピッキーさんにもっとアピールして親しくなりたい！）

そんな事になっているとは知らない本人は……

ピッキー「ナイスです響さん！」響のジャイロを受けていた。

響「この間は何とか勝ったけど今度はもっと手強いから強化しないと！」

ピッキー「まあ焦らずに調整しましょう。響さんならできるよ。」
作者がアドバイスする。

響（ピッキーさんはいい人だな。もっと早く知り合いたかったよ。

明日は家に泊まるからパパにも紹介しなきゃね！）こうして休み1日目は終わった。

それぞれの夜（後書き）

作者に対してのぞみとつぼみ、響が想いを持っているみたいです
がこの後どうなるんでしょうか？この後も楽しみにしていて下さい。

うさぎ枕（前書き）

休みもあと1日。各自どのように過ごすのか？

うさぎ枕

翌日各自の朝を見てみよう。いつき「ヤアー！」いつきは実家で朝稽古をしていた。

こまちの家を見てみよう。こまち「ひかりさん朝食できたわ！」

ひかり「朝食は何ですか？」

こまち「トースターの上に羊羹ようかんを乗せてみたわ。」

ひかり「羊羹はヤメて下さい〜！（激泣）」えりかの家……

えりか「アー、よく寝たなー！」

ゆり（こっちはえりかの寝言でほとんど寝れなかったわ。）

えりか「ゆりさんどうしました元気ないように見えるけど？」

ゆり「……何でもないわ。」

えりか「朝食食べてタワーに戻りますか！」ゆり「元気なもんね……」

……

ラブの家……ラブ「さーて！朝食も食べたしタワーに行くかー！」
りん「1日休んでリフレッシュしたから元気になったわ。」

奏「ブッキーはほのかさん達と合流するんだよね？」

祈里「そろそろ来ると思うけど……」その時！

ピッキー「フー、お待たせしました。」ピッキー到着。

美希「ピッキーさんそのポケモンは？」

ピッキー「手持ちのフーデインです。テレポートで来ました。頼むぞフーデイン。」

フーディン「ハッ！マスター！」

ピッキー「そうだ。皆さんをタワーまで送っていきますよ。フーディン！」

フーディンのテレポートでラブ達はタワーに送られた。

祈里「他の人は？」

ピッキー「テレポートでつばみさんの家に送りました。さて行きま
すか。」

テレポートで祈里達もつばみの家へ。

タワーでは咲といつきが合流していた。いつき「昨日はよく休め
たわ。」

咲「絶好調なりー！」うらら「人が集まってきましたね。」

ラブ「うわ！一瞬で着いたよ！」美希「すごいわね……（汗）」

くるみ「うわー！ビックリしたわ！」

かれん「急に現れないでよ！」

奏「ピッキーさんに送ってもらったんですよ。」

りん「それですすぐ着きました。」

なぎさ「さーで、練習しよっか？」

つばみの家……ピッキー「到着！ありがとなフーディン！」フー
ディンをボールに戻す。

のぞみ「遅いですよピッキーさん！」

ピッキー「すいませんね。ラブさん達をタワーに送ってました。」
ほのか「祈里さん、その袋は？」

祈里「そうだ！ピッキーさんにこれを……」昨日作ったうさぎの枕を渡す。

ピッキー「すいませんね。何か逆に使いにくいですね。」

祈里「疲れた時に使うと疲れが取れると思います。」

ピッキー「わかりました。たまに使いますね。」

このやり取りを見ていた響達は……

響（うさぎ枕を使われたら膝枕でなくなるじゃん！）

舞（どうしよう膝枕してあげられなくなるかも！）

つぼみ「皆さんゆっくりしていつて下さいね。」

つぼみの家で夕方まで過ごした一行だった。

うさぎ枕（後書き）

うさぎ枕により作者に膝枕でなくなる可能性が発生して焦る響達。この後どうなるのか？次回は響の家でパーティーです。

響の家でパーティ（前書き）

今回は響の家でパーティです。アニメであつたようなシーンが登場します。

響の家でパーティ

夕方になりタワー内には響達以外の14人が集まっていた。

なぎさ「トリヤー！」 咲「まだまだー！」

咲となぎさが「マリオカート64」で激走中。

美希「奏何やってんのよー！」

奏「私得意じゃないのよー！」

りん「もらったー！」

えりか「いっけー！」

この4人はマリオパーティ2のミニゲーム「ケーキファクトリー」で遊ぶ。

ひかり「ほのかさん達はどうしてますかね？」

こまち「今頃響さんの家に行ってる頃ね。」

いつき「人数多いから楽しいだろうね。」

のぞみ達は響の家に到着していた。響「どうぞ中へ。」

一同「失礼しまーす！」 中へ入ると……

一同「ギヤー！」 部屋には大音量の音楽が流れていた。

響「すいません！ パパ！ うるさいからやめてよ！」

響がCDを止める。

団「響、帰ってきたか。」 響「ママは？」

団「ペラペラペラリン」……」

ドイツ語で話す響の父北条団。

響「パパ！ドイツ語で話さないでよ！みんな聞き取れないでしょ！」
ほのか「なるほど、パーティの買い出しですね。」

響「聞き取れたんですか！」

団「ゆっくりしてつてくれたまえ。今日はパーティだ！」

ピッキー「すいません急に。」

2階に上がる一同。

つぼみ「ビックリしましたー！」

せつな「大音量で迎えられたわね。」

響「すいません、ウチ音楽一家なんで日頃からこんななんです。」

夜になってまりあが帰ってくる。まりあ「ただいまー！」

響「お帰りママ！」舞「お邪魔してます。」

団「お帰りまりあ。」まりあ「パパただいま！」

団「ペラペラペーラ……」

まりあ「ペラペラペラリンコ……」

ドイツ語とイタリア語で話し始める。

響「もうこのくだりはいって！（怒）」

せつな「DSを買ってきたみたいよ。」

響「適当に訳すなー！」こうしてパーティが始まった。

団「さ、ピッキーさんどうぞ。」オレンジジュースを注がれる作者。

ピッキー「すいません。」

響「ママの料理はいつもおいしいなー！」

まりあ「ありがと。他の皆はどうかしら？」

つぼみ「おいしいですー！」のぞみ「おいしいですー！」

団「響をこれからもお願いしますね。たまに迷惑を掛けるかもしれませんが。」

ピッキー「いえいえ、こちらこそお願いします。」

響（パパとママにピッキーを紹介できてよかった。好印象みたいだ。）

作者の隣の響も横で見守る。

響の家でパーティ（後書き）

パーティが終わり休みも残すは夜のみ。次回よつとしたハプニングが！？

ピンクチーム大暴走（前書き）

ピンクチームの3人がある騒動を引き起こす！

ピンクチーム大暴走

夕食を食べ終わり後片づけをするまりあと作者、つぼみ、せつな、ほのか。後の4人は入浴中だ。まりあ「悪いわね手伝ってもらって。」

ほのか「いえ、楽しいパーティを開いてもらい楽しかったです。」片づけを終えくつろぐ5人。

まりあ「明日はフランスに出発ね。世界ツアーに戻らないと。」

ピッキー「それなら送っていきますよ。1分もかかりませんよ。」

まりあ「悪いわね。これでゆつくりできるわ。」

ピッキー「さて一眠りしよ。」

そう言っていると祈里からもらったうさぎ枕で眠る。

つぼみ（ピッキーさん寝ちゃいました。膝枕してあげたいですけど……）

せつな（あの枕を取ったら起こしちゃいそうね。）2人は見守る事に。

ほのかも寝てしまったようだ。

1時間後4人が入浴終わりで戻ってくる。祈里「フー、さっぱりしたわ。」

のぞみ「みんなー！お風呂入っちゃってー！」

そう言いリビングへ。そこには作者以外寝ていた。その作者も机に向かって小説の編集をしていた。その時……

「????「だーれだ?」目隠しをされる作者。ピッキー「えーと、響さん!」

響「当たり前ー!さすがですね。」

ピッキー「まあ当てる事なら……ってわー!」

作者は大声を出し他のメンバーも起きる。つぼみ「どうしました!」?

せつな「ちよつと!何なのその恰好は!」?

入浴終わりの4人はバスタオル姿だった。

舞「ピッキーさんに違う一面を見てもらいたくて。」

のぞみ「色っぽいですか?」

ピッキー「いやその、早く服着たほうがいいですよ。風邪ひきますよ。(滝汗)」

ほのか「そうよ、体調を崩すわ。」響「まあまあ、そう言わずに……」

そう言い響は作者を自分の胸に抱きしめる。

ピッキー「響さん!ちよつと!」?」のぞみ「ズルイよー!私だつて!」

つぼみ「私も抱きますー!」ピッキー「皆さん落ち着いて下さい!」ほのか「みんなピッキーさんを離して!」

ピッキー「フーデインテレポートだ!」

フーデインを呼びテレポートで脱出する。響「ピッキーさんが消えた!」?

のぞみ「どこ行つたの!」?」ほのか「その3人!暴走しすぎよ!」響「す、すいません!」のぞみ「テンション上がったって……」つぼみ「すいませんでした!」

祈里「どうしよう。ピッキーさん探さないと!」タワーでは……

かれん「寝る前に少し練習しよっかな？」

くるみ「私もしてこよっかな？」 2人が練習に向かう所だ。

ピッキー「あっ！かれんさんにくるみ。」

かれん「ピッキーさん！？どうしてここに！？」

ピッキー「かくかくしかじかで……」

くるみ「全く！休みでものぞみ達は迷惑を掛けるんだから。」

ピッキー「あっそうだ。かれんさん明日まりあさんをパリまで送っていく事になったから少し遅れると思うので練習してて下さい。」

かれん「わかりました。」

くるみ「ピッキーさん電話鳴ってるわ。」

ピッキー「ホントだ。もしもし、あっほのかさん。」

ほのか「ピッキーさん戻ってきてくれませんか？のぞみさん達も反省してますんで。」

ピッキー「今タワーにいるんで今から戻ります。」

ほのか「わかりました。待ってますんで。」

ピッキー「今から響さんの家に戻ります。かれんさん後は頼みます。」

「

そう言い残してレポートで戻っていった。

くるみ「あの人も大変ね。休みの日も全然休めないじゃない。」

かれん「少しは休ませてあげなさいよのぞみ達……」

響の家に戻った作者は……

つぼみ「すみませんでした！」

響「ちよつと暴走しすぎました。」

のぞみ「ごめんなさい反省してます！」 3人は正座で謝る。

せつな「全く3人はすぐ暴走するんだから。」

ピッキー「まあせつなさんも落ち着いて。いいですよ別に怒ってないですから。まさか抱きしめられるとは思ってなかったから。」

祈里「明日も早いんだし。」

ほのか「そうね今日は寝ましょう。」 全員「ハイ。」 全員寝る事に。

しかしこれをモニターで見る男が……

悪のび「次回こそスピアポケットを……」

ピンクチーム大暴走（後書き）

またしても悪のびの影が！次回悪のびが動く！

悪のび最後の逆襲（前書き）

悪のびがスぺアポケット奪還の為最後の総攻撃に出る！

悪のび最後の逆襲

翌日朝8時。タワー内では朝食を食べ終わり練習をしていた。

ゆり「ピッキーさん達は遅れて到着するみたいね。」

うらら「少し寂しいですね。」

かれん「まあすぐ来ると思うわ。」その時！

ドラえもん「みんなー！大変だー！」

えりか「ドラちゃん！朝早くからどうしたの？」

ドラえもん「朝起きたらこれが……」手渡したのは一枚の手紙だった。

なぎさ「何て書いてるの？」

こまち「プリキュアの諸君へ。2度も負けてウンザリだ。残りのメンバーはパリへ行っている。そのパリで次こそスペアポケットを取り戻す、覚悟している！」

いつき「予告みたいだね。」

ラブ「マズイよ！パリにはブッキー達が行ってるじゃん！」

ひかり「早く行きましょう！」

ドラえもん「わかった！」

そう言うところでもドアを出した。なぎさ「よし行くか！」ドアを開けようとするが……

なぎさ「ギャー！」うらら「なぎささん！」

美希「強力なバリアで防がれてるわ！」

ゆり「それだけじゃないわ！周りを見なさい。」

見るとタワー全体がバリアで囲まれていた。

えりか「悪のびの仕業よ。あたし達閉じ込められた!？」

くるみ「携帯も繋がらないわ。」

りん「くそ！どうしたらいいの！」その頃パリでは……

つぼみ「うるわしき都パリ……」

のぞみ「キレイだねー！」まりあをパリに送っていた一行。

まりあ「ありがとう楽に来れたわ。お礼としてこれをあげるわ。」

まりあがくれたのはカプセル8個だった。

せつな「中には何が入ってるんですか？」

まりあ「開けてみないとわからないわ。何が出るかはお楽しみね。」

つぼみ「ありがとうございます。」

まりあ「困った時に使ってみなさい。私はこれで！」

こうしてまりあは去っていった。

ほのか「何が出るか楽しみね。」

ピッキー「そろそろ日本に帰りますか。」

舞「そうですね。」

一行はどこでもドアで帰ろうとする。しかし……

のぞみ「うわ！何これ!？」

せつな「ドアにバリアが張られてる!？」
ほのか「どういう事!？」
????「それはこういう事なんだな!」

声のする方角を見ると悪のびが出現!

響「悪のび!何でここにいるのよ!？」

悪のび「昨日のやり取りを見ていてパリで待ち伏せしてたんだよ。
今日こそ決着を!」

つぼみ「隠し撮りとは最低です!」

響「アンタ本当に最低ね!今日こそ捕まえてやるわ!」

悪のび「大口叩くのも今のうちだ!これを見る!」

モニターが表示され画面には日本にいる14人だった。

ほのか「みんな!」

悪のび「タワーはバリアで防がれている。絶対に抜け出せないぞ。

ほのか、舞、響の3人はパートナーがいなけりや役に立たないしな。

「
舞「それをねらってたの!？」

祈里「卑怯よ!」

のぞみ「私達がまだいるよ。みんな変身だよ!」

せつな「あれ……?」

祈里「リンクルンがない!？」

のぞみ「私もキュアモがない!」

つぼみ「思い出しました!タワーに変身アイテムを置いてったじゃないですか!」

せつな「そうだわ!部屋に置いてったのを思い出したわ!」

つぼみ「どうしましょう、変身できません!」

悪のび「ハハハ!天然ばかり集まったな!もう手加減しないぞ!いけザケンナー!ウザイナー!」

周りに20体のザケンナー、ウザイナーが出現!

ほのか「くっ!ここは退却よ!」せつな「くそ!」全員撤退する。

悪のび「ハハハ!今までの借りを返してやるぞ!パリも破壊してる!」

悪のび最後の逆襲（後書き）

変身できないプリキュアにピンチが迫る！！このまま悪のびにやられるのか！？次回に続く。

奇跡の変身（前書き）

悪のびの攻撃に大ピンチの作者一行。だが今回一波乱が起こる！
果たしてどうなる！？

奇跡の変身

タワー内では映像が受信されプリキュアは苦虫を噛む思いでそれを見る事しかできなかった。

なぎさ「くそ！何もできないままこれを見てろっていうの!？」

かれん「屈辱だわ！ドラちゃん何とかならないの!？」

ドラえもん「ゴメン、僕にはどうしようもできないんだ。つぼみちゃん達に任せるしかないよ……」

えりか「つぼみ……」パリ市内では……

ザケンナー、ウザイナー、それにプリム軍200体の攻撃で作者一行は退却して隠れていた。

のぞみ「くそ！こんな時にキュアモを忘れるなんて!」

舞「咲がいれば……」

せつな「連絡も妨害電波で通じないわ。」

ほのか「ピッキーさんポケモンは出せます?」

ピッキー「ダメです！ハイパーボールも使えません。」

祈里「どうしよう、このままじゃパリが破壊されちゃう!」

響「このまま黙って見てる事しかできないの?」

するとこの人がある事を思い出す。

ピッキー「さっきまりあさんからもらったカプセルありましたよね?それで逆転できるかも!」

のぞみ「そうか!それで流れが変わるかも!」

8人はカプセルを出す。

ピッキー「皆さん先に使ってください。」

つぼみ「えっ！？ピッキーさんは？」

ピッキー「俺は皆さんみたいに变身できる訳じゃない。でもこの状況でも使える武器を持っています。このカプセルは切り札として残しておきたいです。」

ほのか「わかりました！みんなカプセル開けるわよ！」7人はカプセルを開ける。

仲にはマークが入った光るボールが7つだった。

つぼみ「全員同じですね。」

ピッキー「これはスマッシュボールですね。」

入っていたのはスマブラXで登場し取ると最後の切りふだが使えるスマッシュボールだった。

響「スマブラでは最後の切りふだが使えるんだよね？」

ほのか「私達が使ったらどうなるの？」

のぞみ「わかんないけど使うしかないよ！」

つぼみ「悪のびからパリを守るんです！」

7人はスマッシュボールを使った。その時7人が輝き始めた。

舞「何！？」つぼみ「体に力が溢れてくる……」

7人はそれぞれ変身していった。

ホワイト「ウソ!? なぎさがいないのに変身できた!?!」

ドリーム「キュアモがないのに!?!」

メロディ「でもこれで戦える!」

ピッキー「みんな先に行つて下さい! 武器の調整に時間が掛かる、その間に敵を片づけてくれ!」

イーグレット「わかりました!」7人は飛び出していった。

ピッキー「まさか変身できるとはね。おっと! 早く武器の調整しないと!」

そう言い何かを取り出す。

ピッキー「これを使うのも久しぶりだな頼むぞ!」タワー内では……ひかり「あれを見て下さい!」

りん「変身してる!?!」

いつき「キュアモがタワーにあるのに!?!」

なぎさ「私がないのに!?!」

こまち「でもこれで戦えるわ!」

うらら「皆さんを信じましょう!」

パリ市内……悪のび「どこだ! 早くスペアポケットを渡せ!」

ドリーム「待ちなさい!」

悪のび「何!?! なぜ変身しているんだ!?! 変身できないはずじゃ!?!」

メロディ「パートナーがいなくなつて……」

パッション「変身アイテムがなくても……」

7人「变身できるのよ!」

悪のび「フン!变身できても勝てる確率は0だ!やれポトロン!」
空中にポトロンが多数出現!

ホワイト「しまった不意を突かれた!」しかし……

ドカーン!ポトロンが撃ち落とされた。ブロッサム「あれは……」
全員がその方向を向くとそこには作者が。

ピッキー「待たせましたね。今から加勢しますよ!」

手にはスーパースコープとビームソードを持っていた。

メロディ「ヨッシャー!全員集まった!ここからだよ!」

悪のび「フン!今日こそ決着を!やれ!」

ここからは戦国無双風に書きます。

勝利条件 悪のびの確保

敗北条件 ピッキーの敗走

味方

ピッキー

ホワイト

イーグレット

ドリーム

敵

悪のび

ザケンナー 10体

ウザイナー 10体

プリムファミリー 200体

パイン
パッション
ブロッサム
メロディ

ポトロン20体

奇跡の変身（後書き）

スマッシュボールにより奇跡の変身！次回最終決戦の火ぶたが切られる！

ここでお知らせです。悪のび戦が終わったら野球より面白いかもしれない話を送る予定です。内容はまだ言えませんがドリームズのゆり以外のメンバーがある事で勝負をする内容です。どの人を応援するかは自由です。どんどん応援メッセージを送って下さい。面白かったらシリーズ化もあるかもしれません。

凱旋門の戦い！悪のび最終決戦（前書き）

遂に始まる悪のびとの最終決戦！今回も途中に戦国無双風の書き方ができます。

凱旋門の戦い！悪のび最終決戦

スマッシュボールで変身したプリキュア。悪のびとの最終決戦に挑む。

ホワイト「私とパインは空を片づけるわ！」

ピッキー「自分は後から行きます。みんなは先で待っていて下さい！」

ブロッサム「わかりました！」

作者が後ろに回りブロッサム、ドリーム、メロディ、イーグレット、パッションが先に進む。

ミッション１ ポトロンを全部倒せ！

ホワイト「ヤアー！」 ホワイトが回し蹴りでポトロンを倒していく。
パイン「アツイ！鉄の塊を落としてくるわ！」

ホワイト「回避しながら倒しましょう！」

ホワイトとパインはポトロンの攻撃を回避しながらポトロンを倒し
ミッションクリア！

パイン「全部倒したわ！」

ホワイト「ウザイナー達も倒しましょう！」 ドリーム達は……

ブロッサム「ウオリヤー！」ドリーム「ハァー！」プリム達を相手に戦闘中！

イーグレット「くっ！敵が多すぎる！」

メロディ「悪のびが遠すぎる！」

パッション「負けるもんですか！」

ミッション2 プリム軍団を全部倒せ！

悪のび「僕の所まで来れるもんか！」

ブロッサム「キヤー！」ドリーム「ブロッサム！」

ブロッサムがバズーカプリムに攻撃される。

ブロッサム「くっ！ザコにやられるもんですか……」

そこをソードプリムが攻撃しようとする。

ブロッサム（ダメです！やられます……）その時！

ピッキー「ハッ！」

ソードプリムをビームソードで倒していく。

ブロッサム「あ、ありがとうございます！」

ピッキー「礼はいいですよ。早くこいつらを倒して先に進みましょう。先行ってますよ。」

そう言い残してビームソードでプリム達を倒していく。

ピッキー「はっ！とりゃ！」

ドリーム「ピッキーさん強い、私も負けてられない！」

パッション「ピッキーさんに続けー！」

メロディ「負けられない！ピッキーさんは必ず守る！」

イーグレット（私があの人を守る！）

ブロッサムは少し立っていたが気合いを入れ直す。

ブロッサム「ピッキーさんに負担はかけられません！気合い負けしてられません！ハアー！」

5人が作者を追う。500m先で作者はそれを見ていた。

ピッキー「ドリーム達が追ってきてくれるか……」

背後をバズーカプリムを狙う。ピッキー「おっと！」スーパースコ
ープで倒すピッキー。

ピッキー「なら俺はもつと先で待つてないとな！あの人達が楽に進めるようにしないとな！」

そう言いまた戦い始める。

15分後プリム軍団を制圧しミッションクリア！

ザケンナー達もホワイトとパインにより倒され残りは悪のびのみ。

ドリーム「追いついたわ！」メロディ「悪のび覚悟！」

悪のび「くそ！変身できるとは予想外だったな！」8人全員が集結。
タワーでは……

えりか「頑張れみんな！」

なぎさ「ピッキーさんがあんなに強いとは思わなかった！」

その時映像が消えてしまっ
いつき「映像が消えた？」
奏「どうなってるの!？」
パリに戻る。

悪のび「もうここで映像はいいだろ。」

ピッキー「どうやらあのスイッチでバリアと映像をコントロールし
てるみたいですね。」

メロディ「あのスイッチを奪えばいいのよ!」

悪のび「仕方ない、切り札投入だ!出てこいメタルヘビーロブスタ
ー!」

登場したのはカービイシリーズのボスヘビーロブスターだった。

ホワイト「大きい!」

ピッキー「また厄介なのを連れてきたな。しかもメタル状態か。」

悪のび「凱旋門前にワープ装置がある。そこまで逃げて立て直す!」
そう言い悪のびはファウロンに乗り凱旋門を目指す。

メロディ「待てこの卑怯者!」

ピッキー「ここは俺が追う!みんなはヘビーロブスターを頼む!」

ブロッサム「一人じゃ危険です!私も行きます!」

作者の護衛に入るブロッサム。

ピッキー「ドリームこれを!」渡したのは作者のカプセル。

ピッキー「何かあったら使ってくれ!」

ドリーム「わかりました!私達も倒したらすぐ行きます!」

残りはロブスターと戦い始めた。

ピッキー「行くぞブロッサム！あいつを逃がしたら全てが台無しになる。絶対に捕まえる！」

ブロッサム「ハイ！」

敗北条件変更 ピッキーの敗走か悪のびのワープ装置到着

ピッキー「でもあいつは空を飛んで移動している。こっちも乗り物があれば……」

ブロッサム「ピッキーさん！あれを見て下さい！」

ブロッサムが指差す方向には……

ピッキー「あれは……追いつけるかもね！」

凱旋門の戦い！悪のび最終決戦（後書き）

次回遂に決着！どのような結末が！？

悪のびの最後（前書き）

悪のびとの対決も今回で決着する。どんな結末が！？

悪のびの最後

悪のびはファウロンに乗ってワープ装置に向けて移動中。

悪のび「くそー、変身できるのは予想外だったな。そこへ！

ブロッサム「待ちなさい！」

作者とブロッサムがマリオカートWiiで登場するバイク「ドルフィンキック」で追いかける。

悪のび「くそ！しつこいな！」

ピッキー「大丈夫だ！飛ばせば追いつける！」

ブロッサム「まさかパリでバイクがレンタルできるとは思わなかったです。」

ピッキー「100円で1日レンタルって赤字だと思うけど今の状況には助かるよ。」

ブロッサム「そうですね。」

残るメンバーはロブスターと戦っていた。パイン「ヤアー！」

ホワイト「ハアー！」攻撃するが苦戦している。

パッション「防御力が高くて攻撃が効かない！」

ドリーム「シューティングスターも効かないよ！」

メロディ「早く追いかけないと！」

イーグレット「ドリーム！ピッキーさんからもらったカプセルを！」

ドリーム「わかった！」

言われた通りカプセルを開けるドリーム。中に入っていたのは……ドリーム「何だろ？黒くて目があって足があって導火線のようなも

のがついてるけど……」

ホワイト「ドリーム！それボム兵よ！」

出てきたのは使い方ではダメージを負うボム兵だった。

ドリーム「ど、ど、ど、どうしよう！」

パイン「火がついたわ！」

パッション「ロブスターに当てちゃえ！」

パッションに言われドリームが投げる。

ドリーム「えーい！もう！」ドカッ！ロブスターにぶつかる。

ドカーン！ボム兵が爆発しロブスター爆発！しかし……

プリキュア達「ギャー！」爆発に巻き込まれ飛ばされる。

メロディ「ドリームのバカー！離れてから投げてよー！」

ドリーム「だってパッションが投げろって言うんだもん！」

パイン「私達はどこに飛ぶの？」

悪のびの方を見てみよう。悪のび「くそ！追いつかれた！」
作者たちは悪のびに追いつく。

ピッキー「飛ばしますよブロッサム！しっかり？まってる！」

ブロッサム「ハ、ハイ！」

作者の肩を抱きしめるブロッサム。悪のび「くそ！急げファウロン
！」

悪のびも追う。凱旋門前にワープ装置を発見する。

ピッキー「あれか！スーパースコープでフルパワーで壊す！ファイ
アー！」

最大パワーで発動！

ドカーン！ワープ装置は壊され凱旋門前にバイクを止める。悪の
びも地上に降りる。

悪のび「くそ！」

ピッキー「もう逃げられないぜ！悪のび！お前を日本へ戻してやる
！」

ブロッサム「降伏しなさい！」

その時！

プリキュア達「キャアー！」ドカーン！

悪のび「何だ！？」「ファウロンの上にボム兵により飛ばされたプリキュア達が合流！」

ホワイト「いたた、かなり飛ばされたわね。」

パッション「全く！ドリームは後先考えないんだから！」

ドリーム「ゴメン！謝ったじゃん！」

メロディ「悪のび覚悟！もう逃げられないわよ！」

悪のび「くそ！」

ピッキー「悪のび、お前お腹空いてないか？」

悪のび「まあ少しは空いてるかな。」

ピッキー「ここにケーキがあるんだ。お前の持つてるスイッチと交換しないか？」

ブロッサム「なっ！？ピッキーさん……」

ブロッサムが近づこうとするがパッションが止める。

パッション「ピッキーさんは何か策があるのよ。黙って見てましょう。」

ブロッサム「……わかりました。」

悪のび「くっ！でも……」

ピッキー「じゃあこのケーキはドリームに……」

ドリーム「えっ！？私にくれるんですか！」

悪のび「わかった！渡すから食べさせてくれー！」

空腹に負け交渉成立でスイッチを手に入れた。

悪のび「いただきまーす！ガツガツ……うめえー！ん？中に何か入って……」

ピッキー「言い忘れてた、そのケーキは前にこまちさんが作った羊羹入りケーキだ。日数も経過してるけどな。」

悪のび「ウツ！」バタツ！

衝撃のカミングアウトにより悪のび失神。

ホワイト「ピッキーさん、その時のケーキ持ってたんですか？」

ピッキー「ピンチに役立つかなと思って持ってたけどこんな形になるとは……」

パイン「でも無事でよかったです。」

イーグレット「パリの街も被害がなくてよかったわ。」

メロディ「さて！悪のびを連行しますか！」

ホワイト「乱暴に扱っちゃダメよ。」

どこでもドも使えるようになりドアを開ける。

ドリーム「大丈夫だね。タワーへ。」

ピッキー「ん？」

ドリーム「どうしました？」

ピッキー「いや、何でもない。」

ドリーム「早く戻りましょう！」

こうして一行は帰っていった。

悪のびの最後（後書き）

悪のびも無事？に捕獲し日本へ帰っていった一行。次回はドラえもんと再会です。

再会（前書き）

悪のびを捕まえた一行は日本に戻りドラえもんと再会します。しかし……

再会

のび太「うゝん、はっ！ここは？」

ピッキー「おっ！気が付いたか。ここはベースボールタワー。ドラえもん起きたぞー！」

ドラえもん「のび太くゝん！（激泣）」

のび太「ドラえもん！」

2人は抱き合う。

ひかり「感動の再会ってやつですね。」

えりか「あのゝ取り込み中悪いんだけど……」

のび太を囲むメンバー。

くるみ「今までの事謝ってもらおうかしら？」

のび太「ええー！？僕何かしたの！？」

ドラえもん「覚えてないの？」

のび太「ポケットを失ってからほとんど覚えてないんだ。」

事情をのび太に話す一同。

のび太「ええー！そんな事が！？すいませんでした！」

のび太は土下座で謝る。

ドラえもん「僕もこの通り！のび太君を許してくれないかな？」

ドラえもんも土下座する。

くるみ「どうする？」

祈里「謝ったから許してあげようよ。」

奏「どうしますピッキーさん？」

ピッキー「ドラえもんも土下座してるんだし許すか。」

こうしてのび太は許す事になった。

のぞみ「ドラちゃん、あれを渡してあげな。」

ドラえもんは箱を持つてくる。

ドラえもん「開けてみななのび太君！」箱を開けてみる。

のび太「これは！？」

中に入っていたのはスペアポケットだった。

なぎさ「ドラちゃんがアンタの為に買ったのよ。」

のび太「でも高いんじゃない？」

ドラえもん「この前作者さんからもらった10万円で買ったんだよ。

これでもう心配しなくても道具は使えるよ。でもイタズラに使っちゃダメだよ！」

のび太「ありがとうドラえもん！」

ドラえもん「あと今貸してるスペアポケットだけど君達にあげるよ。」

ラブ「ええー！？いいのドラちゃん！？」

ドラえもん「いいよ。今まで世話になったからね。のび太君戻ろう」

か。今度何かできるといいね。」
つぼみ「また来てくださいね。」
こうして2人は帰っていった。
響「のび太も元に戻ってよかったね。」
いつき「練習もようやくできるね。」
せつな「気合い入れていくわよ！」
メンバーは練習していった。

その夜ロビーで作者がイスに座って休んでいた。そこへ……
なぎさ「ピッキーさんどうしたの？」なぎさ達がやってくる。
ほのか「考え事ですか？」
ピッキー「ちよつと考えてたんです。のび太の事を……」
美希「それなら心配ないでしょ。元に戻ったんだし。」
かれん「そうですよ。」
ピッキー「自分もののび太は大丈夫だと思います。でも……」

奏「どうしました？」

ピッキー「これを見て下さい……」

机の上に何かを置き5人は注目する。なぎさ「これは？」

ピッキー「悪のびの体についていました。多分発信機です。」

美希「発信機！？」

ピッキー「その可能性が高いですね。おそらく黒幕がいますね。」
かれん「一体誰が……」

再会（後書き）

悪のび事件も解決したが悪のびについてた発信機。誰が黒幕なのか！？

次回は野球編に戻ります。

うららの提案（前書き）

悪のび事件から翌日。うららの提案が予想外の出来事に繋がる！
？

うららの提案

翌日メンバー全員に発信機の事が伝えられた。

つぼみ「それは本当ですか！」

なぎさ「多分間違いないよ。黒幕は必ずいるわ！」

ピッキー「皆さんもどこで狙われるかわからないから気をつけて下さい。」

ラブ「分かりました！」

せつな「誰がそんな事を？……」

りん「絶対犯人を捕まえてやる！」メンバーは各チームで練習する。
ゆり「ピッキーさん、私は午前中用事で留守にします。午後には戻ります。」

ピッキー「わかりました。」

ゆりは外出していった。

のぞみ「ピッキーさんがあの時気づいたのは発信機だったんだね。」

ピッキー「そうだね。光ったから気づいたんですよ。」

響「絶対犯人を捕まえてやる！」

なぎさ「ホント！犯人を捕まえたい！」

えりか「怒ってもしょうがないから練習しよう。」

こうして午前十時過ぎにいった。

お昼になり練習を中断する一行。

うらら「皆さんちよつといいですか？」

うららがドリームズのメンバーに話をする。

うらら「最近この近くにおいしいカレー屋ができたんですよ。今から行かないですか？」

のぞみ「いいね！みんな行こうよ！」

響「たまにはそういうのもいいね。ピッキーさんはどうします？」

ピッキー「カレーは好きですね。みんなで行きますか。」

ドリームズは全員で行く事になりお金を持って移動する。

ちなみに持ち金は1人1万円です。

のぞみ「その店はカレーの他に何があるの？」

うらら「カレーの他にラーメンや牛丼もあるみたいです。」

つぼみ「早く行きたいですー！」

ドリームズが行こうとしている店では……

????「よし！今日も頑張るぞ！もうすぐTV局の人も来るだろうし。」

うららの提案（後書き）

次回あの国民的パズルゲームからあのキャラが登場！ここから予想外の展開に！？ちなみに敵は出ません。

嵐を呼ぶカレー屋（前書き）

皆さんお待たせしました！！活動報告で告知していたお楽しみ企画の全貌が今回明らかになります。カレー屋を舞台にゆり以外のドリームズが大勝負！！

嵐を呼ぶカレー屋

10分後メンバーは目的の店に到着した。かれん「ここね。」

つぼみ「いい匂いがします。」中へ入る。

???「いらつしやいませー!」

響「あれ?アルルじゃん!」

アルル「あー響!久しぶりだね!」

店のマスターはぶよぶよの主人公アルルナジャだった。

のぞみ「響知ってるの?」

響「リリカルショーバイさんの逃走中では一緒に頑張ったもんね!」

アルル「あの時はキツかったよ。」

話しながらメンバーは席へ着く。

アルル「実はこの店に来た響達は1000人目なんだ。」

舞「えー!すごいわね!」

ピッキー「偶然すぎますね。」

アルル「それでこの後TV局の人が来て番組を作りたいんだって。」

ほのか「どういう番組?」

アルル「1000人越え記念であるゲームを用意してるんだ。お昼

後に説明するから注文してよ。」

メニューを渡すアルル。

せつな「ゲームって何をするのかな？」

祈里「まさか逃走中？」

ピッキー「それはないと思うけど……（汗）」

のぞみ「そうだよ」。この小説は野球がメインなんだから。」

ピッキー「アルル、おススメはどれ？」

アルル「そうですねー、辛さ2倍カレーかな？」

うらら「辛そうです。」

かれん「うららはカレー好きだから平気ですよ。」

全員決まったようだ。

ほのか「私はまるやかカレーで。」

舞「私も同じので。」

せつな「ピッキーさんは？」

ピッキー「自分はそうだな。ラーメン定食で。」

祈里「おススメを聞いてラーメンですかー！？」

ピッキー「笑いのフリがあった方がおもしろいかなって。」

つぼみ「笑いは取らなくていいです。」

ピッキー「じゃあ辛さ2倍カレーで。」

響「私もそれで！」

のぞみ「私も！」

祈里「私は牛丼の並で。」

つぼみ「私はカレーの並で。」

せつな「私はしょうゆラーメン！」

かれん「私はとんこつラーメンで！」

全員が注文しアルルが調理を始める。

のぞみ「アルルって料理得意なの？」

アルル「カレーはいつも作ってるしラーメンも問題ないよ。」

15分後昼食が完成する。

のぞみ「いただきまーす！」

かれん「おいしいわ。」

ピッキー「あー、辛いー！（滝汗）」

響「辛いけどおいしい!」
楽しい昼食を食べていると……

???「アルルはん来たでー!」

アルル「待ってたよスピッツ、ドリブル。」

やってきたのはメイドインワリオシリーズのキャラ、スピッツとドリブルだった。

スピッツ「おっ!ドリームズメンバーが来てるやないか!この番組は高視聴率が期待できるでー!」

ドリブル「そうやなスピッツはん、ダイヤモンドTVも日本進出やからな。」

つぼみ「この方達がTV局の人ですか?」

アルル「プロデューサーのスピッツとカメラマンのドリブルだよ。昼食も食べたしそろそろ説明するから。」

ほのか「どういう事をするの?」

スピッツ「ワイが説明するわ。ピッキーはんなら10人はこれから3つのゲームに参加して競ってもらうで。その名も運試しゲームや!」
10人「運試し?」

ドリブル「10個の中からセーフの物を選んで何もなければセーフ。」

10個の内2つがハズレや。ハズレを引いたら罰が待ってるで。」
祈里「罰って何ですか？」

スピッツ「心配あらへん。痛い罰ゲームではないから安心しなはれ。ゲーム中はCCDカメラを背負ってもらいまっせ！」

ドリブル「ほなさっそく外に出て収録開始といきましょか。」

スピッツとドリブルは外に行った。

アルル「ボクもこのゲームの司会進行を頼まれてるんだ。みんな盛り上げていってね！」

舞「なかなかおもしろそうね。」

のぞみ「よし頑張るぞー！」

つぼみ「おもしろくなってきました。」（楽）」

10人もテンションを上げて外へ向かうが10人はこの時運試しゲームの恐さをまだ知らなかった。

嵐を呼ぶカレー屋（後書き）

次回からいよいよ運試しゲームが始まる。しかし次回あの人に悲劇が襲う。皆さんも誰を応援するか自由にしてくださいね。

P K 運試し 前編（前書き）

いよいよ運試しゲームが始まる。ドリームズの真剣勝負に期待！

PK 運試し 前編

外へ出た一行は説明を受けスタンバイする。

スピッツ「本番5秒前！4、3、2、1……」

アルル「ダイヤモンドTV日本進出記念番組！運試しバトル！」

アルルが登場する。

アルル「司会はボク、ぶよぶよシリーズのアルルナジャが進行するよ！そしてこのゲームに参加してくれるのはあのチームドリームズのメンバーだよ！」

10人が登場する。

アルル「ゆりさんはどうしたの？」

つぼみ「諸事情で今日はいませんが今度の試合には出ますので安心してください。」

アルル「皆さんはもうすっかり人気者ですしね。特にピッキーさんは大人気みたいですね。」

ピッキー「いや、自分は他の人に比べたら素人ですし作者なだけですから……」

せつな「でもすごく頼りになります。」

ほのか「そうですね。」

アルル「これから3つのゲームに参加してもらって運を競ってもらいます。みんな頑張ってね。」

10人「オー！」

こうしてオープニングは終了。

スピッツ「OK！みんなバッチリやで！次はいよいよ第1ゲームや！」

のぞみ「はあー、緊張したよー!」

祈里「でも成功したね。」

かれん「このまま乗り切りましょう。」

いよいよゲームに移る。

アルル「最初のゲーム会場が見えてきたよ。」

C C D カメラを背負った10人が見た物は……

響「ボールが10個とゴール?」

つぼみ「どういうゲームでしょう?」

アルル「第1ゲームはこちら!ゴールできるかな?P K 運試しー!」

10人「ワァー!」一応拍手する10人。

ルール

10個の内2個が砂入りでゴールできないボール。これを選んだら罰を受ける。ボールには番号がついている。

うらら「見た目じゃわかりませんね。（汗）」

ピッキー「選んだ人はどうなるの？」

アルル「砂入りボールを選んだ人はさつき食べた昼食代合計8000円を分けて払ってもらいます。」

せつな「うわー、リアルにキツイなー！」

舞「負けられないわ。」

ルールを確認しいよいよスタート！

かれん「順番とかどうする？」

祈里「蹴りたいボールの所に行くとか？」

つぼみ「ジャンケンで決めて瞬間的に決めれば公平です！」

のぞみ「つぼみのやり方がいいと思う。」

つぼみ案採用！

ジャンケンをした結果順番は次のように決まった。

1 祈里 2 うらら 3 ピッキー 4 舞 5 ほのか

6 せつな 7 つぼみ 8 響 9 かれん 10 のぞみ

早い者勝ちか？それとも残り物に福があるのか？

まず最初は祈里。

祈里「どうしよう？全然わからないわ。」

せつな「ブッキーお願いだから砂入り蹴って！」

のぞみ「4000円払いたくない。」

祈里「みんなひどい。（泣）」

他の人は砂入りを求めている。

祈里「決めた！右から2番目の9番！」

かれん「あれ怪しいわ。」

アルル「祈里ちゃんGO！」

祈里「お願いします！」祈里がボールに向かって走る。
結果は？

ドカツ！ 祈里「やった！蹴れたわ！」

9人「ブーブー！」

祈里「成功したら大ブーイングされるの？（泣）」

ブッキークリアで残り9人。

うらら「私は右から4番の6番です。」

のぞみ「うらら、砂入り蹴って！」

うらら「のぞみさんの願いでも聞けません！いざ！」

響（お願いします！）

果たして……

ドカッ！うらら「やったー！ゴール！」

せつな「もう緊張しすぎて吐きそう……」

うららクリアで8分の2に。

アルル「次はピッキーさんです！」

ほのか「ピッキーさん、どれを蹴るんですか？」

ピッキー「もう右は危険です！左から2番目の2番行きます。」

舞「ピッキーさんは大丈夫よ。」

せつな「そうね。」

ピッキー「いくぞ！」

走っていくピッキー。結果は……

ドカツ！ ピッキー「アイタツ！」

砂入りボールを蹴ってしまい転倒！

のぞみ「ピッキーさん！」

響「大丈夫ですか！？」「全員が近づく。

ピッキー「アー！これマジで痛い！右足の親指が破壊されたー！」

つぼみ「失敗したらこうなるんですか！？（汗）」

ピッキー「4000円支払い決定！」

残る確率は7分の1。

舞「あと1人……」

のぞみ「ピッキーさんかわいそう……」

ほのか「負けたくないわ。」

残る7人は運試しの恐怖を味わう事になりそうだ。

P K 運試し 前編（後書き）

今回はここまでです。次回第1ゲーム終了！砂入りボールを蹴る
運のない人は誰か！？プリキュアの歴史が変わる！！

P K 運試し 後編（前書き）

P K 運試しも後半へ。砂入りボールの餌食になるのは誰だ！？

PK 運試し 後編

ドリームズが運試しをしている頃タワーでは……

ゆり「遅いわ。午後に来てみたけど何してるのかしら？」

なぎさ「のぞみ達なら昼食食べにいったけど？」

ゆり「でも遅すぎでしょ。」

奏「来るまで一緒に練習しますか？」

ゆり「頼むわ。」

そのドリームズは運試しゲームに参戦中だ。

アルル「残る確率は7分の1で次は舞ちゃん！」

舞「これはキツイわね。」

目の前で作者の失敗を見ている為失敗できない。

舞「左から3番の3番よ。」

かれん「危ないわね。」

せつな「お願い、砂入り蹴って……」

舞が向かっていく。結果は……

ドカツ！舞「やった！砂入りじゃない！」
のぞみ「あー、残念だなー。」

続くほかも1番を蹴りセーフで確率は5分の1。
ほか「よかったー！運はあったわね。」

うらら「誰が蹴るか楽しみですー！」

のぞみ「もういいって、早く誰か蹴ってよー！（泣）」
響「嫌だ、絶対負けたくない！」

6番手はせつな。

かれん「どれを蹴るの？」

せつな「ラッキーセブンよ。」

つぼみ「あー、取られました。」

せつなは7番を狙う。

せつな「勝負！」結果は……

ドカツ！せつな「ヨッシャー！セーフよ！」
のぞみ「せつな怖い……」

響「OAできない顔だよ……」

アルル「小説だから気にしない」。」

残る確率は4分の1。

アルル「ここからは2人で蹴りましょう。」

つぼみ「ええー！？そんなー！？」

響「ここで負けたら女がすたる！」

スタンバイする2人。

番号は4、5、8、10の4つだ。

つぼみ「響さん、どれを蹴りますか？」

響「私は4番を蹴るわ！」

つぼみ「うー、えーい！もうヤケですー！10番で勝負ですー！」

アルル「2人同時に蹴ってみよう！」

響・つぼみ「ウォー！」ここで終わるのか？

ドカツ！ アルル「ゴール！」

つぼみ「やりました！」

響「ヨッシャー！」

かれん「えー！？ちょっと待ってよ！」

のぞみ「絶対回ってこないと思ったのに！」

2人クリアで残るはかれんとのぞみ。プリキュア5対決だ。

ピッキー「おもしろい勝負ですね。」

祈里「どっちかが砂入りボールね。」

残る1枠を奪い合う2人。

かれん「のぞみ、あなたが砂入りならオイシイわよ。」

のぞみ「イヤイヤ、かれんさんの方がいいですよ。」

せつな「敬遠してるわね。」

負けられない戦いがここにある。

かれん「ちなみにどっち？」

のぞみ「私は右だと……」

かれん「私もよ。」

のぞみ「ジャンケンで決めましょう。」

かれん「いいわ。せーのジャンケン……」

かれん・のぞみ「ポン！」

勝ったのはのぞみ。

のぞみ「よし！」

かれん「でもまだ決まったわけじゃないわ。左でいいわ！」

のぞみ「右に賭けますよ！」

かれんは5、のぞみは8番で勝負する。

アルル「スタート！」

かれん・のぞみ「負けない！」2人が向かっていく。

つぼみ「どっちが……」

ドカツ！砂入りボールを蹴ったのは……

のぞみ「アー！イタイー！」のぞみだった。

かれん「ヨッシャー！」

響「大丈夫のぞみ！？」

のぞみ「これ本当に痛いって！」

ピッキー「ですよね。かなり痛いんだってこのボール。」

せつな「うわ！本当に重いわこれ。」

砂入りボールを持つせつな。

アルル「支払いはピッキーさんとのぞみに決定ー！」

2人は渋々お金を払う。

のぞみ「あゝん！もうくやしー！」

ピッキー「次はリベンジしたいー。」

アルル「じゃあ次の運試しに行きましょうー！」

P K 運試し 後編（後書き）

運試しゲーム第1ラウンドが終了！次のゲームでは意外なあの人の裏の顔が明かされる！？

ダンボールで運試し（前書き）

運試しは第2ラウンドに！のぞみと作者は連敗してしまうのか！
？今回はあの人が悪い行動に走る！

ダンボールで運試し

PK運試し後各自休んでいた。

舞「ピッキーさん大丈夫ですか足？」

ピッキー「親指は破壊されてないけど痛いですね。」

ほのか「無理もないわね。全力で蹴ったんですもの。」

響「こんなゲームがあと2つ続くの？」

かれん「キツイわね。」

休みが終わり収録が再開する。

アルル「2つめのゲームは持てるかな？ダンボールで運試しー！」
10人「ワアー！」

ルール

マリオ、ルイージ、ヨッシー、ピーチ、デ이지ーのマークが表示された箱が赤と青の2種類ずつ計10個ある。この中で2つは重くて持ち上げられないようになっている。重い箱を選んだらアウト！

アルル「負けた人はこのゲームの後に食べるうちの店のデザート料金を払ってもらいます。」

つぼみ「痛い罰ゲームよりはいいですけど……」

かれん「財布にはキツイ罰ゲームね。」

10人はさっそく始める。

響「見ただけじゃ全然わかんないね。（悩）」

ピッキー「どれだろう?」

アルル「ほのかはどれだと思う?」

ほのか「デージーさんの赤はセーフだと思うわ。」

せつな「私はルイージの箱は選びたくない!」

つぼみ「私もです!」

かれん「何で?」

つぼみ「悪いオーラがプンプンしてます。」

のぞみ「これ私とピッキーさんから選ばせてよ!」

祈里「ダメだよ。不公平よ。」

つぼみ「さっきのはリセットです。」

ピッキー「リセットって足の痛みは全然リセットされてないよ。」

作者も抵抗するがほのか達の説得で諦めた。

数分後並びはこうなった。

マリオ赤せつな マリオ青のぞみ ルイージ赤うらら ルイ
ジ青かれん ヨッシー赤ほのか

ヨッシー青ピッキー ピーチ赤つぼみ ピーチ青祈里 デイジー
赤 舞 デイジー青 響

ここであの人が発言する。

祈里「多分だけどハズレはゾロ目かもしれない。」
せつな「確かに否定できないわ。」

祈里の発言がこの後波乱を招く。

うらら「私やっぱりこの場所いやです！のぞみさん変わって下さい！」

のぞみ「えー？じゃあジャンケンで決めよ。」

ジャンケンの結果……

うらら「やった！のぞみさん交代ですー。」

のぞみ「えー！？何かイヤな予感がするなー。」

うららとのぞみが移動する。しかし……

舞「私もジャンケンしたいわ。せつなさんしましょう。」

せつな「わかったわ。ジャンケンポン！」

舞「やった！」舞が移動する。

しかしこの時とんでもない事が！

舞が興奮のあまりダンボールに接触！

その衝撃でダンボールがわずかに動いた。

それをあの人が見逃さなかった。

響（エッ！？エッ！？動いたよね？今動いたよ！ここで間違いない！）

何と舞がいた場所に響がこっそり移動。さらに……

つぼみ（ゾロ目理論ならあそこはセーフです！）

それを見ていたつぼみもなぜか響の元の場所へ。

せつな「舞の場所は……」

つぼみ「そこです。ピーチさんの赤です。」

せつな「そう。ありがとつぼみ。」

つぼみに踊らされ移動するせつな。

響「あれ？つぼみここだっけ？」

つぼみ「そうですよー。ここでしたよー。」さらに……

のぞみ「ピッキーさん！変わってください！この箱イヤです！」

ピッキー「ジャンケンで勝ったらいいですよ。」

その結果……

のぞみ「あー、負けたー！」

ピッキー「すいませんね。ここはどきたくないです。」

のぞみ「私もう終わったー！」

最終的にこうなった。

マリオ赤 舞 マリオ青うらら ルイージ赤のぞみ ルイージ青
かれん ヨッシー赤ほのか

ヨッシー青ピッキー ピーチ赤せつな ピーチ青祈里 デイジー
赤 響 デイジー青つぼみ

移動した人 舞 うらら のぞみ せつな 響 つぼみ

移動しなかった人 かれん ほのか ピッキー 祈里

移動した人、移動しなかった人、誰が罰を受けるのか？
のぞみ「2連敗はイヤだー！」

ピッキー「絶対負けたくない！」

響「絶対大丈夫！」

つぼみ（セーフです！）

せつな（やっぱりここじゃない気が……）

ほのか（自分を信じる！）

アルル「せーので持ち上げてね。」

かれん「みんないくわよ。」

10人「せーの！」

一斉に持ち上げる。

「???「あー！」

「???「最悪ですー！」

重いを選んだのは……

「うらら「最悪ですー！」

つばみ「あー！」動いた2人に天罰が下った。

のぞみ「やったー！この場所セーフだったんだ！」

ピッキー「よかった！」一方で……

「うらら「動かなきゃよかったですー！」つばみ「私もですー！」

かれん「つばみ！あなたこっそり移動したでしょ！見てたわよ！」

せつな「やっぱり！変だと思ったのよー！」

響「実は私もこっそり……」

祈里「でしょー！私もビックリしたからね。」

ほのか「ズルイ事したからそうなるのよ。反省してよつばみさん！」

つばみ「すいませんでした！もうズルイ事しません！」

アルル「じゃあ店に移動しようか。」

ダンボールで運試し（後書き）

つぼみと響がまさかのズルイ行動。これも負けたくない一心で行った行動なので皆さん2人の気持ちを察して下さい。次回運試しも最終戦！どんなゲームか？次はドリームズの心理が試される！

運試し最終戦（前書き）

今回で運試しも最終戦！しかしこの運試しは心理を試される。

運試し最終戦

店に戻り全員パフェを食べる。のぞみ「おいしい！幸せー！」
つぼみ「おいしいけど素直に喜べません」。

ほのか「反省してるからもう責めないわ。」

響「私も反省してます。」

デザートを食べ終わり料金4000円を払うつららとつぼみで支払う。

せつな「おいしかったー！」

つらら「運試しは辛いです」。

アルル「まだ早いけどもうすぐ舞ちゃんの誕生日だよね？」

舞「はい、そうだけど……」

アルル「そんな舞ちゃんにうちの店からのプレゼント！」

奥から持ってきたのはケーキだった。

祈里「大きい！」

アルル「運試しの間に用意したんだよ。」

舞「ウ……ありがとうございます……」

感動のあまり舞号泣。

つぼみ「泣かないで下さい舞さん。」

ほのか「サプライズね。」

響「クラッカーは？」

アルル「こつちにあるよ。」

クラッカーを持ってくるアルル。

アルル「ここで最後の運試しー！」

10人「エエーッ！？」

かれん「ちよつと！今は舞の早めのバースデーを祝いましょうよ。」

アルル「この運試しの後でもちゃんとやるからさ。」

舞「そうですね。皆さんは今は運試しをしましょう。」

ピッキー「は、はい。」

せつな「主役がそう言っちゃやるしかないか。」

うらら「そうですね。」

アルル「最後の運試しはちゃんと出るかな？クラッカー運試しー！」

ルール

10個のうち2個がひもを引いた瞬間に電流が流れるクラッカーでそれを引いたらアウト。しかもこのゲームには参加者の心理が試される。

アルル「クラッカーはこの10個ですー！」

布を取るアルルだが困惑する10人。

ほのか「えっ！？これ何？」

ピッキー「うわ、出たよこれ。」

響「2個だけ違う色だよ。」（汗）

クラッカーは10個のうち8個が緑で2個が紫色。これが10人を混乱させる。

アルル「好きなの取ってください。これで最後です。」

うらら「最後と言われても……」

せつな「今までにないパターンね。」

つばみ「どうやって決めましょう？」

響「こんな場合はパッと取りましょう！」

祈里「えっ！そんなにいいの？」

一斉に取る。しかし……

うらら「祈里さん！緑くださいー！」（泣）

祈里「ダメだよー！」

紫色を警戒する10人。

紫色に誰も手を付けず余る。

せつな「どうして誰も手をつけないの！」

ほのか「だって色が違うから。」

つぼみ「皆さん落ち着きましょう！」

のぞみ「もう一回取り直そうよ！」

かれん「そうね。」

ピッキー「じゃあとりあえず……」

またクワッカーを取る10人。しかし……

響「ほらー！また余ったじゃん！」

紫を全員拒絶する10人。

せつな「話が進まないわ！」

つぼみ「アルルさん、ちなみに罰ゲームは何ですか？」

アルル「罰はないよ。ハズレを引いたら電流が流れるからそれが罰だよ。」

祈里「最後に痛い罰ゲームね……」

せつな「でも紫がアウトとは限らないんだから！セーフかもしれないのよ。」

ピッキー「せつなさん強気ですね。」

のぞみ「じゃあフレッシュ組がやってよ！」

せつな「えっ？」

祈里「い、いや私はそんなに強く言っていないわ。せつなちゃんの意見だから。」

巻き込まれるピッキー。

つぼみ「でもここはまだ罰を受けてない人がやるべきです！」

かれん「えっ？」

うらら「そうですー！不公平ですよー！」

響「それはナシだよー！」（泣）

ほのか「でも誰かがやらなきゃいけないわ。」

かれん「そうね。責任持って6人から選びましょう。」

響「わかりました。ここで逃げたら女がすたる！」

ジャンケンの結果紫色は舞と祈里の手に。
舞「ちよつと怖いわね。」祈里「うん。」
しかしあの人が待ったをかける。

ピッキー「どっちかセーフだと思うんだよね。」

せつな「でもどっちもアウトかもしれないわ。」

ピッキー「多分どっちかがセーフだと思います！どっちか交換しましょう。」

祈里「いいんですか？」

舞「もし電流だったら……」

ピッキー「大丈夫ですよ。舞さんか祈里さんがやるより自分がやった方がおもしろいだろうし2人に危険な行為はさせませんよ。自分がやった方が笑いが取れるだろうし。」

ほのか「笑いは取らなくて大丈夫ですよ。」

ピッキー「えーと、どっちと変えようかなー？」

悩んだ結果……

ピッキー「はい！確かに交換しました。」

交換したのは舞だった。舞「ありがとうございます。」

ピッキー「でも逆に舞さんに電流クッカー渡したかもしれない。」

舞「そのときはしょうがないです。」

せつな「ピッキーさんカッコイイです。」

つばみ「男らしいです。」

響「祈里！交換しよう。」響が交換を申し出る。

祈里「エッ！？いいの？」

響「さっきのゲームでズルしたようなもんだからその罪滅ぼしにしたいんだ。」

響と祈里も交換成立。

のぞみ「最初は響からやってよ！」

響「わかった！ドキドキするなー！」手には疑惑の紫クッカー。

響「いくよ！」

うらら「緊張します。」響がひもを引いた。結果は……

響「あー！シビれるー！」ハズレを引いた。

祈里「えっ！？うそ！」

かれん「大丈夫！？」

せつな「さっきのバチが当たったわね。」

響「でも笑いは取れたでしょ？」

つぼみ「リアルに嫌です。」

響アウトで確率は9分の1。

アルル「ピッキーさんいつてください！」

ピッキー「俺か。緊張するな。」手には紫クラッカー。

ピッキー「もしこれでハズレだったら明日から人を信用できなくなりますよ！」

のぞみ「ダメですよ。私達はチームなんですから。」

ピッキー「多分暴れまくりですよ。」

つぼみ「暴れちゃダメです。」

ピッキー「フー、いきます！」結果は……

パンっ！クラッカーが鳴った。

ピッキー「ヨッシャー！セーフだったー！」

うらら「これでわからなくなりましたね。」（汗）

アルル「もう全員でやりましょう。」

のぞみ「そうだね。」

ほのか「みんな心の準備は大丈夫？」

舞「できました。」

かれん「私もよ。」

ほのか「せーの！」

パン！パン！　　？？？「アー！」電流クラッカーを引いたのは……

せつな「アー！電流がー！」ハズレはせつなだった。

舞「よかったわ！痛い思いしなくて！」

祈里「せつなちゃん大丈夫？」

せつな「私悪い事してないのに。」（泣）

アルル「皆さん楽しめたでしょうか？次回があつたらまたお会いし

ましょう！」

かれん「かんべんしてよー！」

運試し最終戦（後書き）

こんな感じで運試しゲームを書いてみました。リクエストがあればまたやりたいですね。

なぎさの提案（前書き）

運試しも終わりその後の話です。

なぎさの提案

スピッツ「カート！OK！すごく盛り上がったで！」

ドリブル「この番組は明日の夜に世界中で放送されるで！」

うらら「早いですね！」

スピッツ「後日ギャラを送るで！ほなサイナラー！」

スピッツとドリブルは去っていった。

この後店で舞の誕生パーティを行った。

夕方になり店を出ようとする一行。

アルル「これはお土産だよ。」

手渡したのは12人分のクッキーやケーキだった。

つばみ「ありがとうございます。」

アルル「みんなまた来てね。しばらくは日本にいるから。」

響「わかった。」

アルル「ピッキーさん、番号教えてよ。いろいろ話したいんですよ。」

「

ピッキー「いいよ。」

アルルは全員と番号交換した。

一行は店を後にする。

ほのか「何か疲れたわね。」

うらら「野球とは違う事をしましたからね。」

舞「でも楽しかったわ。」

ピッキー「でもゆりさん怒ってそう……」（汗）

のぞみ「事情を話せば納得してくれるよ！」
響「いざとなったら土下座で許してもらおう。」
祈里「うまくいくな？」

タワーに戻った10人は他のメンバーに事情を話した。
ゆる「それで遅かったのね。わかったわ。」

ゆりも納得して怒られずに済んだ。

祈里「はあー、怒られなくてよかった。」

えりか「放送は明日でしょ？どんな番組が楽しみだなー！」

なぎさ「今度はみんなで行きたいね。」

ほのか「あのゲームはキツかったわ。」（汗）

かれん「そうね。プリキュアで戦ってる時と違うプレッシャーがあったわ。」

のぞみ達がもらったクッキーとケーキを食べながら話をしていくとなぎさがこんな事を。

なぎさ「ピッキーさん、私達ナツクルズは今度どこかでお客さんに私達の練習を見せてあげたいんだけどいいでしょうか？」

ピッキー「自分達の野球を色んな人達に見てもらえるのはいい事です。場所は探しておきますよ。決まったらTVを通じて宣伝すればお客さんも来てくれますよ。」

ラブ「ありがとうございます。」

美希「ファンは大切だもんね。試合でもできたら盛り上がるわ。」

ナツクルズは近々公開練習をする事に決定した。

その後作者とメンバーの一部が室内練習場で練習していた。

ゆり「今日はあまり練習できなかったわね。」

せつな「昼食にああなるとはね。」

せつなは作者にフリーバッティングの相手になっていた。

カキーン！カキーン！

ピッキー「まあ自分達も近いうちにどこかで練習試合でもしますか。」

りん「それがいいですよ。」

響「相手は小学生か中学生がいいな。」

なぎさの提案（後書き）

まだ先ですが短めと長めの練習試合編が？

今回はメンバーのある二人がマンガみたいな設定に驚愕！！

ヒントはブルーチームのメンバーです。

マンガのような展開（前書き）

今回ブルーチームのある人が悲劇に見舞われます。決して敵が襲ってくる訳ではないので安心して見られます。

マンガのような展開

翌日ナツクルズの練習は休みでドリームズは練習をしていた。だがこの後とんでもない事が起ころうとしていた。

えりか「今日は休みだからゲームルームでゲームしまくろー！」

えりかがゲームルームに走って向かっていた。その近くを……

美希「今日は休みだけどゆりさん達と練習しようっと。」

美希がゆり達の元に向かっていた。

えりか・美希「あそこを曲がれば……」

その時！

ドン！ 2人「うわー！」 2人が激突して倒れ込む。

2人「アイタタ……」 2人が起き上がる。

えりか「イッター！……」 って何これ！？」

美希「イタタ……」 って何であたしえりかになつての！？」

2人はぶつかった時偶然に性格が入れ替わってしまった。

えりか「やったー！チビのあたしもめっちゃ背が高くなったー！」

美希「冗談じゃないわ！あたしはずっとこんな低いままは困るわ！」

えりか「えー？あたしは一生このままでいいような気がするー！」

美希「とにかく急いでピッキーさんの所に行くよー！」

2人は急いで作者の元へ急いだ。

同じ頃室内練習場ではドリームズが練習していた。

祈里「あー、打てないよー!」

響「私のジャイロ、もっと強化しないと!」
各自練習に汗を流す。

舞「でもすごいですね。ピッキーさんの電話一本でいろんな所から練習試合がくるんですもの。」

つぼみ「数日後大阪で練習試合ができるんで嬉しいです。」

ピッキー「まあ作者の権利ってやつかな。」そこへ……

美希「ピッキーさん!」

響「えりかじゃん!」

美希「違うわ!あたしは美希よ!」

つぼみ「どう見てもえりかですよ?」

えりか「やつほー!みんな元気ですかー!」

せつな「美希どうしたの?テンションがえりかみたいよ。」

美希「実はこれこれで……」

2人が事情を話す。

のぞみ「エエーッ!?美希とえりかの性格が入れ替わったの?」

美希「そうなのよ!何とかしてよ!」

祈里「その姿で言われても……」

ほのか「迫力がない気が……」

ピッキー「かれんさん、なぎささん達を全員召集してください。」
かれん「わかりました。」
えりか「背が大きいといろいろ見渡せるねー！」
美希「あんまり変な事しないでよ。」

なぎさ達も全員集まって対策会議が開かれた。
りん「マンガみたいな展開だね。」
奏「現実にあるんだね。」
すいません、これはいろいろ起こるおもしろ小説です。
ひかり「早く何とかしないと。」
咲「ピッキーさんとこまちさんは？」
ラブ「パソコンルームで解決策を調べているよ。」
10分後2人が戻ってくる。
こまち「戻ったわ。」
うらら「何か解決策がわかりましたか？」
ピッキー「大体ね。2人を元に戻す方法はわかったよ。」
美希「ホントですか！？どうやったら！」
こまち「焦らないで。今から言うから。」

ピッキー「元に戻すには性格通信ケーブルというものが必要みたいです。」

美希・えりか「性格通信ケーブル？」

こまち「性格を交換したい人とそのケーブルを持つ事で性格が交換できるらしいわ。」

のぞみ「すごい！私もそれで誰かと交換したい！」

いつき「通信ケーブルって懐かしい名前だね。」

通信ケーブルについて知りたい人は目上の人に聞いてみよう。

こまち「でも一つ問題があって……」

つぼみ「何ですか？」

ピッキー「それがあるのはポケモン世界のタマムシデパートにしか売ってないんだ。」

ゆり「それを買えないといけないってわけね。」

ピッキー「どこでもドアはポケモン世界に1回行かないと認識しないみたいだから実際に行かないと次回以降は使えないみたいです。」

こまち「それで今から買いに行く所なの。」

ラブ「なるほど！」

話し合った結果作者、ひかり、りん、響、奏の5人が行く事になった。

つぼみ「私達は留守番ですね。」

響「美希とえりかのパートナーのみんなはいてあげないとね。」

ひかり「新たな敵が来るかもしれません。気をつけてください。」

いつき「わかった。」

ピッキー「出発しますか。出番だカイリユー！」

ハイパーボールからカイリユー出現！

のぞみ「うわ！大きい！」

ピッキー「カイリユーは移動に優れている。すぐ着きますよ。」

5人はカイリユーに乗って飛び立った。

ほのか「敵が来なきゃいいけど……」

なぎさ「そのためのパートナー同士が残ったんでしょ。大丈夫よ！」

ゆり「それもピッキーさんが考えてこの編成なのよ。」

せつな「ちゃんと先を読んでいるのね。」

のぞみ「私達は待っていよう。」

マンガのような展開（後書き）

2人を元に戻す為タマムシデパートに向かった一行。次回あのア
ニメからあの人が登場！！ポケモンとは違うあの人が！！

意外な店員（前書き）

タムムシデパートに到着した一行は店内を搜索するがそこに意外なアニメのキャラが。ここから話は進展する。

意外な店員

美希とえりかの性格を元に戻すため作者、ひかり、りん、響、奏の5人はカイリユーに乗りタمامシデパートに移動中。

ひかり「速いですね。」

ピッキー「カイリユーは約16時間で世界を1周するほどのスピードです。30分ぐらいで着くでしょう。」

りん「速っ！」

30分後タمامシシティに到着した。響「すごい都会だね！」

奏「タمامシデパートはどこに？」

ひかり「多分あれです。人だからできてます。」

ひかりの指差す方向にタمامシデパート発見！

響「ヨッシャー！さっさと行ってくるかー！」

一行はデパート内へ。

客「キヤー！ピッキーさんよー！」

こないだの試合は世界で流れたので一行は有名人だ。

りん「ちよつと！押さないでよ！」

ひかり「すいません！ピッキーさんは大事な人なんです！」

ピッキー「イタタタ！」

もみくちやにされながらも進む一行。

奏「変装してくればよかったよー！」

5分後目的フロアへ到着。

りん「ハアハア、ここだねゲーム売り場。」

ひかり「あそこに店員さんがいます。聞いてみましょう。」
近づく5人。

奏「あのーすいません。」

???「はい何ですかー?」（関西弁で）

ひかり「あなたは!」

はやて「おっ! ひかりに響、奏も久しぶりやなー!」

店員はリリカルなのはシリーズの八神はやてだった。

りん「ひかり、この人は?」

ひかり「八神はやてさんです。機動六課の部隊長さんです。前に会ったスバルさんの上司です。」

はやてとひかり、響、奏はリリカルショーバイさんの逃走中で協力し合った仲間でもある。

はやて「あなたがピッキーさんか。初めましてやな。」

ピッキー「い、いえこちらこそ恐縮です!」敬礼する作者。

はやて「そんなになくてもかまへんわ。ひかり達は何でここにいるんや?」

事情を話すひかり。

はやて「なるほど、それなら案内するで。」

響「ありがとうございます。」はやてに案内される5人。

はやて「ほらあれやで。」

りん「これかー。」

奏「1個4000円……大丈夫買えるわ！」

ひかり「はやてさんはどうしてここに？」

はやて「バイトや。機動六課の仕事以外もやってみたくてな。」

りん「どんな隊長さんよ！」

レジで支払いケーブルを手に入れる。

はやて「あっ！そうや！ピッキーさん、電話番号教えてくれへんか？」

ピッキー「どうしてですか？」

はやて「なのはちゃんやスバルがピッキーさんの事を気に入ってしまつてな。もし会ったら話したいって言うてたんよ。頼むわー。」

ピッキー「わかりました。」

5人は番号を教える。

はやて「おおきに！ピッキーさん達明日暇やるか？」

奏「予定は練習くらいですかね？」

はやて「よかったら機動六課に来てくれへんやろか？みんなに案内したいんよー。」

ピッキー「戻つてから連絡もらえますか？全員の意見も聞きたいんで。」

はやて「かまへんよ。機動六課と中央管理局地上本部、協会本部は東京お台場に移転したんやで。近い距離でしょ！」

響「近づ！」

ピッキー「すいません後で連絡してください。」

5人ははやと別れ移動する。

はやて「ほんますごいなー！ピッキーさんの番号ゲットしたで！なのはちゃん喜ぶでー！」

ひかり「まさかはやてさんがいるとは……」

奏「ビックリしたわね。」

りん「ブツは手に入れたし帰りますか。」

ピッキー「あっ！」

響「どうしました？」

ピッキー「あれをみんなに買っていくか……」

作者は何を買うのか？

その後カイリユーに乗りタワーに戻る一行。

うらら「お帰りなさいですー！」

奏「敵は来なかった？」

ほのか「大丈夫よ。」

美希「ケーブルはありましたか？」

りん「ゲットしたよ。さっそくやりますか！」
えりか「あゝあ、背が高いのも終わりか。」

美希「やっと戻るー！」（喜）

ケーブルにより性格は戻された。

えりか「あー、元のチビに戻ったよ。」

美希「完璧なあたしに戻ったわ！」

こまち「やっと普通の生活に戻りそうね。」

ピッキー「あっそうだ！皆さんにお土産が……」

作者が買ったのは21人分の紫色のブローチ。

つぼみ「キレイですー！」

咲「響達はもう付けてんだね。」

響「似合うでしょー。ピッキーさんが買ったのよ。」

のぞみ「ありがとうございます。さっそくつけてみよー。」

全員付けてみる。

ピッキー「みんな似合ってますよ。」

くるみ「これいいですね。」

舞「大切にします！」

ピッキー「そうだ、あと1つ報告しなきゃいけない事があった。」

くるみ「何ですか？」

意外な店員（後書き）

はやての提案になぎさ達はどつするのか？

プリキュアと機動六課（前書き）

プリキュアと機動六課。異なる2つのアニメが競演するのか？

プリキュアと機動六課

作者はデパートでの出来事を話した。なぎさ「機動六課に来てほしい？」

のぞみ「いいね。みんな行こうよ。」

いつき「他のアニメの人と共演もいいね。」

くるみ「まあいいんじゃない。」

ゆり「くるみ！あなたはリリカルショーバイさんの小説では機動六課に対して暴言を言ったんだから今度は吐かないでよ。」

くるみ（ムツとした表情で）「わかってるわ！あの時はマリオが悪いのよ！」

全員一致で機動六課行きを決めた。

つぼみ「そろそろ昨日の運試しが放送されますー！」

なぎさ「みんなで見ようー！」

かれん「まあ私達は結果は知ってるけどね。」

同じ頃機動六課…… はやて「ただいまー！」

なのは「お帰りはやてちゃん！」

スバル「お疲れ様です！」

フェイト「バイトどうだった？」

はやて「それなりに頑張ったで。そうや！なのはちゃんとスバルに朗報や！ピッキーさんの番号ゲットしたで。」

スバル「ホントですか！？」

はやて「ホンマや。機動六課来てくれないかと頼んで後で返事をもらう予定や。」

ティアナ「すごいですね。機動六課に来るかもしれないですね。」

スバル「そろそろピッキーさん達が出る番組が放送されますよ。」

フェイト「みんなで見ようか。」

1時間後、運試し番組は終わりなぎさ達はくつろいでいた。

ひかり「おもしろかったです。」

りん「まさかつぼみにブラックな部分があるとは……」

奏「しかもこれ世界中に放送されたんでしょ？」

つぼみ「イメージダウンです。」（泣）

ラブ「ピッキーさん、あのボール痛かったですか？」

ピッキー「あれは本当に痛かったですよ！起き上がれなかったですから。」

のぞみ「そうそう！重すぎだってー！」

同じ頃機動六課……　なのは「すごいゲームだったねフェイトちゃん。」

フェイト「リアルに痛そうだったわ。」

スバル「クラッカーゲームはピッキーさん男らしくてカッコよかった

たです！」

はやて「そやなー！そろそろ電話して返事を聞くなー？」

ブルルルル…… ピッキー「きました。はやてさんからだ。もしも。」

はやて「ピッキーさんか。スバルがカッコイイって言ってたで。それで返事は？……」

わかりました。じゃあまた連絡しますわー。」

電話を切るはやて。

なのは「返事はどうだった？」

はやて「明日来てくれるみたいや。これは歓迎せなあかなー。」

スバル「やったよティア！来てくれるって！」

ティアナのお尻を触りまくるスバル。

ティアナ「コラスバル！またセクハラを！」

なのは「まあまあ2人とも。」

フェイト「明日は忙しくなりそうね。」

はやて「そやなー。野球について少し教わるかー。」

プリキュアと機動六課、次回遂に初対面。

プリキュアと機動六課（後書き）

プリキュアと機動六課、どんな事が起きるか？

機動六課（前書き）

今回いよいよ機動六課にプリキュアが入ります。どんなことになるのやら？

機動六課

翌日機動六課は朝から忙しかった。

はやて「そろそろ来る頃や。ゴミがないようにそうじ頼むでー。」
全員が忙しく動く。

スバル「まもなくだね。早く会いたいよー!」

ウ「イータ「コラスバル!少し落ち着け!」

ティアナ「はやてさん!到着したようです。」

はやて「じゃあ迎えに行きますか。」

同じ頃機動六課前ではタクシーから降りる一行が。

こまち「ここが機動六課ね。」

えりか「すごく広そうだね。」

タクシー6台で一行は到着した。

つぼみ「入口に誰かいます。」入り口前にいたのは……

シグナム「お待ちしてました。主はやて及び機動六課メンバーがお待ちです。」

ほのか「あなたは?」

シグナム「私はシグナムといいます。以後よろしく。」

うらら「キレイな人です。」

シグナム「では早速案内しましょう。」

シグナムに案内されはやての元へ。

5分後一行は六課メンバーの元へ到着。

はやて「みんなよう来てくれたわ。あたしが機動六課体調の八神はやてや。」

なのは「あたしは高町なのは、よろしくね。」

フェイト「私はフェイト・T・ハラウオン、よろしく。」

響「お久しぶりですなのはさん、フェイトさん。」

くるみ「偽善者01に偽善者02だけどね。」

せつな「くるみ！」さっそく毒を吐くくるみ。

ピッキー「スイマセンなのはさん！」

作者が土下座で謝罪。

フェイト「頭を上げて下さいピッキーさん。」

なのは「前にもあった事ですから。」

響「くるみ！そういう事は言わないでよ！」

くるみ「最後に言いたかっただけよ。もう言わないわ。」

はやて「立ち話も疲れるからフォワード部隊にも会つとくか。」

はやて達の案内で移動する一同。

なのは「こないだの試合、あたしとフェイトちゃんは会場で見てたよ。手に汗握る展開だったよ。」

なぎさ「ありがとうございます。」

フェイト「時間があれば今度はみんなで行きたいね。」

いつき「お待ちしていますよ。」

話をしながらスバル達の部屋へ。

はやて「みんないるな。ピッキーさん達来たで。」

ラブ「こんにちわー！」

スバル「ピッキーさん！」

スバルが走ってきて作者を抱きしめる。

しかしスバルの方が背が高いので作者はスバルの胸で圧迫される。

ピッキー「スバルさんギブギブ！胸で苦しいです！」

ティアナ「コラスバル！離しなさい！」

舞「ピッキーさんが窒息しちゃいます！」

4人掛かりでスバルを離す。

ひかり「大丈夫ですか？……」

ピッキー「ゲホ、ゲホ、びっくりしたー！」

スバル「すいません！久しぶりだったからつい……」

はやて「スバルは前に紹介したからティアナから頼むわ。」

ティアナ「ティアナランスターよ。スバルの親友ってところですね。」

「

エリオ「エリオモンティアルです。よろしくお願いします。」

キャロ「キャロ・ル・ルシエです。」

ウ「イータ「ウ」イータだよろしくな。」

えりか「あたしより小さいな。」

えりかはウ”イータ、エリオ、キャラを見て顔がニヤける。

はやて「他にもメンバーがいるけど今日は全員ではないから。いろいろ案内するわー。」

りん「すいません。」

機動六課メンバーとプリキュアメンバーも仲良くなったようだ。

なのは「ピッキーさん、よく来てくれましたね。」

ピッキー「まあせっかく誘われたんで断る理由はないですよ。」

フェイト「スカリエッティも釈放したんですよ。協会本部の指示でね。」

はやて「協会本部などをここに移転させるのと引き換えに協会はスカリエッティと戦闘機人4名を釈放したんよ。悪さをしない事を祈るけどな。」

のぞみ「スカリエッティって誰ですか？」

はやて達は「S事件の事を語った。」

祈里「ひどい事をする人ですね……」

なのは「残りの戦闘機人7名は機動六課や本部にいるわ。後で会えたらいいね。」

こまち「その人達は大丈夫なんですか？」

フェイト「心配ないわ。あの子達はもうスカリエッティの言う事は聞かないわ。もう悪さはしたくないと言ってたわ。」

うらら「そうですか。」

はやて「せつかく来てくれたんや。お昼食べてってや。」

つぼみ「いいんですか？」

のぞみ「じゃあお言葉に甘えて。」

ウ”イーダ「食い意地のはった奴らだな。」

はやて「ピッキーさん、お昼後に野球教えてくれんか？試合見ててしたくなつたんよ。」

ピッキー「いいですよ。場所があれば教えますよ。」

なのは「場所は六課の名かに球場もあるんだ。そこでみんなでやろうよ。」

スバル「やったー！」

機動六課（後書き）

はやての提案により野球をやる事になった一同。次回は機動六課とプリキュアが簡単練習をします。

機動六課と野球をしよう（前書き）

今日からいよいよクライマックスシリーズが始まりましたがこちらもそろそろ次の段階へ動きます。

機動六課と野球をしよう

昼食を食べ終えた一行は六課内のスタジアムへ移動する。そこへ

……

リイン「はやてちゃん！」

はやて「リインお帰りー！」

なぎさ「小さっ！」

リイン「リインフォースですー。初めましてー。」

響（どう見てもあの時の妖精さんのような……）

リインは自己紹介をして一行と仲良くなった。

フェイト「ここよ。」

くるみ「うわ！広いわー！」

客席は3万人を収容できる広さを持つスタジアムだった。

はやて「スカリエッティも悪さをしなけりや歴史に名を残す天才な
んやけどなー。」

ギンガ「お待たせしましたはやてさん！」

スバル「ギン姉遅いよ！」ギンガ・ナカジマ登場。

かれん「この人は？」

なのは「ギンガ・ナカジマ、スバルのお姉さんよ。」

ギンガ「あなたがピッキーさんですね。スバルを助けてくれてあり

がとうございます。」

ピッキー「いえ、スバルさんが無事でよかったです。」

はやて「さっそくやけどどちらは素人やから今日はみんなの練習見る
ので精一杯かもしれんがよろしく頼むわー。」

咲「気にしないでください。」

ほのか「私達は仲間です。いつでも来ていいんですよ。」

フェイト「ありがとうそうさせてもらっわ。」

ピッキー「キャッチボールからしますか。」

各自キャッチボールを開始する。

はやて「ウ」イータとシグナムはやらんのか？」
ウ「イータ「あたしははやてを守るのが役目だ。」
シグナム「私もだ。はやてとあの方を守るのが私達の役目だ。あな
たの好きにしたらいい。」
はやて「悪いな」。警備の方頼むで。」
ウ「イータ「任せとけ。」
そう言い二人はスタジアムを後にした。

スバルは作者、ティアナはなぎさ、なのはとフェイト、はやてと
ゆり、キャラとエリオ、
ギンガはせつなとキャッチボールをする。
フェイト「初めてキャッチボールをしたわ。」
なのは「野球では基本だからね。」
キャラ「えいつ！」
エリオ「ナイスキャラ！」
ティアナ「ヤアー！」
なぎさ「そんなに気合い入れなくていいですよ。」
ティアナ「手を抜きたくないのよ。全力でやりたいのよ。」

ギンガ「えいつ。」

せつな「そんな感じですよギンガさん。」

ギンガ「結構おもしろいね。」

せつな「キャッチボールはお互い気持ちが通じれば楽しいんですよ。」

「

ピッキー「いったよスバルさん。」

スバル「オリヤー！」

スバルと作者も楽しむ。」

はやて「体もあつたまつたな！」

フェイト「そうだね。次は何をやるの？」

ピッキー「そうですねー。なのはさん達にはバッティングをやってみてはどうですか？」

スバル「やったー！打てるわー！」

エリオ「誰が投げるんですか？」

ゆり「私達ピッチャー陣が投げるわ。」

ひかり「少し弱めに投げますね。」

キャロ「お願いします。」

ピッキー「キャッチャーは自分がやりますよ。」

機動六課の試し打ちが始まった。最初はエリオ。ピッチャーはひかり。

守備にはファーストほのか、セカンドつぼみ、サードなぎさ、ショートのみ、

レフト美希、センターりん、ライトに舞が入る。

エリオ「打ってみたいですね。」

ひかり「スローしか投げないので大丈夫。」

宣言通りスローボールを投げる。

エリオ「エイッ！」しかし空振り。

エリオ「空振りかー。」

キャロ「頑張れエリオくん！」

エリオ「わかった！」

ひかり「いきます。」

エリオ「見えた！」バットを出し当てる。

エリオ「あー、打ち上げた。」ボールは舞がキャッチ。

エリオ「惜しかったなー。」

ひかり「でもいいスイングでした。」

次はキャロでマウンドにはゆり。キャロ「お願いします。」

ゆり「手加減するから当ててよ。」

緩いボールを投げる。キャロ「えい！」

カキン！当てたがつぼみの前に転がる。

つぼみ「ほのかさん！」

ボールが送られアウト。

キャロ「当てれてよかった。次やる時は速いの当てたいな。」

次ははやて。ライン「はやてちゃんガンバレですー！」

はやて「咲ちゃん、本気で投げてくれや！」

咲「わかりました！」

えりか「本気ってあのジャイロ打てないって。」

予想通り3球三振だった。

はやて「うわー！速いなー、こんなレベルでやってんのかー。」

フェイト「今の私達じゃ打てないね。」

りん「そうでもないですよ。あたし達も練習してここまで成長したんです。」

ティアナ「あれを取るピッキーさんもすごいな。」

次はギンガVSかれん。

ギンガ「あなたも本気できなさい。今の自分を試したいの！」

かれん「わかりました！」

カーブから投げるかれん。バシッ！

ピッキー「ストライクですよギンガさん。」

ギンガ（思ったよりキレがある……）

かれん「ハアー！」

ストレートを投げる。

ギンガ「見えた！」

カキン！かれん「あっ！」

パシッ！りんがキャッチしてアウト。

ギンガ「捉えてはいたけどな。でもよかったわ。」

かれん「ストレートを狙われてたわ。あの人すごい人だわ……」

ピッキー（状況を読む能力はすごいな。）

スバル「惜しかったねギン姉。」

ギンガ「でも当てれてよかったわ。」

ティアナ「あたしが指名するのは……くるみ！あなたよ。」

くるみ「いいわよ。」

くるみはカーブを投げる。ティアナは空振り。

ティアナ「思ったより変化してるわね。実物と映像は違うわね。」

くるみ「タァー！」

ティアナ「ハァー！」

カキン！当てたがファール。エリオ「当たった！」

ティアナ「いけるわ！」

くるみ（これで三振よ！）投げたのは……

ティアナ「何！？」

投げたのはナツクルでティアナは三振に倒れる。

ティアナ「何なのあのボール！？」

くるみ「あなたにはまだ打てないわ。出直してきなさい。」

ティアナ「悔しいわ。」

フェイト「私はせつなの球と勝負したいわ。」

せつな「負けませんよ。」

せつなはスライダーを投げる。

フェイト「見切った！」

バットを出しレフト前に運ぶ。

せつな「さすがフェイトさんね。」

なのはは奏と対戦。奏「ハアー！」

しかしフォークが落ちない。

なのは「もらったよ！」

カキン！つぼみ「うわ！」

つぼみの間を抜けヒット。ティアナ「いけースバル！」

スバル「響勝負よ！」

響「上等！」

初球はカーブを投げる。

スバル「カーブ……でも負けない。」

続くスライダーも見逃し追い込む。

スバル「響！試合の時みたいに速球を投げてください！打ち返してやるわ！」

響「上等！打てるなら打ってみろー！トリヤー！」

ジャイロを投げる。スバル「ハアー！」

なのは「アッ！」

スバル「あー！打てなかった。
響「でもいいスイングしてたよ。
練習は夕方まで続いていた。」

機動六課と野球をしよう（後書き）

話を考えるのに時間が掛かりました。明日も更新できればいいですね。次回ある事である人物が動く。

宣伝（前書き）

機動六課を後にする一行。メンバーの一部が宣伝活動を行います。

宣伝

練習を終え一行は帰る準備をしていた。フェイト「おもしろかったわ。」

なのは「そうだね。またやりたいね。」

なぎさ「しかなかったら試合以外ならいつでもしますよ。こっちからも行きますんで。」

はやて「ピッキーさんはこの後どうするんや?」

ピッキー「自分はこの後ＴＶ局で舞さん、美希さん、奏さんと一緒に練習試合などの宣伝活動があるんでよければ見て下さい。」

ティアナ「絶対に見ます。」

スバル「ピッキーさんまた来て下さいね。あたしも行きますんで。」

こうして一行はＴＶ局とタワーに向かっていた。

はやて「見るよりやる方がおもしろいな!」

エリオ「そうですね。楽しかったですもん。」

なのは「はやてちゃん。ピッキーさんにスバルの事……」

はやて「ピッキーさんは知ってたみたいや。この事は後で他の子にも伝えなくちゃいけないけどな。」

スバル「でもピッキーさんは嫌な顔しなかったですよ。本当にいい人です。」

タワーに到着した4人以外の18人は……
ひかり「楽しかったですね。」
かれん「今度はこっちに招待しなきゃね。」
くるみ「今度も三振にしてやるわ。」
プリキュアと機動六課、後に不思議な絆で結ばれる事になると思
っていたなかった。

TV局に向かうタクシー内では……

美希「楽しい時間だったわ。」

奏「打たれちゃったわ。私も修行が足りないわ。」

ピッキー「見えてきましたよ。」

タクシーはお台場のダイヤモンドTVへ到着して4人は楽屋へ向かう。
う。

楽屋に入り打ち合わせを終え休んでいるとこの人が。

ロイ「みんな今日はよろしくな。」
ファイアーエムブレムのロイが登場。

美希「よろしく頼むわ。」

ロイ「みんなが俺の番組に出てくれるとは光栄だな。」

ピッキー「30分番組だけどおもしろいからな。」

ロイが挨拶して出ていく。

奏「今日は忙しいわね。」

美希「今6時、本番まで30分ね。今頃みんなは何してるかな?」

作者は舞の膝枕で熟睡中。

舞「ピッキーさんもキャッチャーやって疲れてるみたいだから休ませてあげましょう。」

美希「そうね。あと10分は寝かせてあげましょう。」

10分後舞が起こす。

舞「ピッキーさん起きてください。行きますよ。」

ピッキー「にゃくよく寝たー。さて行きますか。」

楽屋を出てスタジオに向かう一行。

六課では…… スバル「そろそろ始まりますね。」

なのは「さっきまでいた人が生でTVに出るって忙しいね。」

タワーでも…… ゆり「そろそろ始まるわね。」

えりか「楽しみだね。」

6時30分になり番組が始まる。

ロイのファイアースポーツゲームズ！

ロイ「みんな今週も始まったぜ。今日のゲストはあのドリームズからピッキーさんと舞ちゃん、

ナックルズから美希ちゃん、奏ちゃんだー。」

奏「どうもー。」

ロイ「今日は楽しいトークをしてってくれよー。」

この番組はスポーツやゲームについて語る番組だ。

ロイ「最初のテーマはこちら。自分のハマったゲームは？というテーマだ。まずはピッキーさんから。」

ピッキー「俺がハマったのはポケモンですね。緑をやり始めてからおもしろくてハマりました。今もプラチナで育成中です。」

舞「私がハマったのはぶよぶよです。頭を使うゲームですが連鎖が決まれば爽快感が出ますね。」

美希「あたしはマリオカートシリーズです。いろんなルールで楽しめるんで全シリーズやっています。」

奏「私は少し古いんですがスーファミのパロディウスというゲームです。シューティングゲームですがおもしろいですよ。みなさんも一度やってみてください。」

その後もいろんなトークで盛り上がって終了の時間が近づく。

ロイ「今日はお知らせがあるんだよね？」

舞「はい。明後日それぞれ別の場所でイベントをやるのでその宣伝です。」

美希「ドリームズは京セラドーム大阪で練習試合、ナックルズは福岡ヤフージャパンドームでファン感謝イベントを行います。」

奏「皆さんどちらにも来てくださいね。」

番組が終わって楽屋に戻り帰り支度をする4人。

美希「来てくれるといいわね。」

奏「たくさん来てくれるわ。」

楽屋を出てTV局を出る一行。

ピッキー「タクシー！」タクシーを止め乗り込む一同。

4人は疲れてタクシー内で寝てしまふ。そのままタワーに帰っていた。

タクシーから降りた一行はなぎさ達に出迎えられる。かれん「お疲れ様。」

美希「しっかり宣伝してきたわ。」

咲「いっぱい来てくれるといいなりー！」

ピッキー「今日は忙しくて疲れたなー。」

のぞみ「ピッキーさん膝枕してあげますよー。」

つぼみ「私がしますー！」

せつな「私がするわ！」

ラブ「私もしたいー！」

ほのか「まあまあ。」

ピッキー「すいませんのぞみさん頼めますか？」

のぞみ「わかりましたー！」

そのまま疲れて寝てしまった作者。

祈里「毛布をかけてあげよう。」

そのまま終わった一行の1日だった。

この放送を見ていた1人の人物がいた。

???「福岡か……あの人達と試合して見たいな。みんなに連絡して集めてみるか。」

宣伝（後書き）

最後に出た謎の人物は果たして何者か！？次回あのアニメからあの人達が登場する。

G A 5 人組登場（前書き）

あの G A 5 人組が登場します。そしてドリームズが大阪に出發する。

G A 5 人組登場

翌日は午前中から各自明日の為に練習していた。いつき「ハアー！」

カキーン！せつな「打たれたわ。」

ひかり「ハアー！」バシッ！

ほのか「ナイスひかりさん。昨日より良くなってるわ。」

午前の練習を終え昼食を食べ終えたなぎさに作者が話しかける。

ピッキー「なぎささん。スベアポケットを預かってもらえますか？」

なぎさ「えっ！？どうしてです？」

ピッキー「感謝イベントで何かに使用できたらいいと思って。自分達は午後から大阪に出発しますんで明日まで留守番頼みます。」

なぎさ「わかりました。気をつけて下さいね。」

午後になりドリームズメンバーは品川駅に向かった。

品川駅に到着した一行は新幹線ホームで新幹線を待つ。
せつな「こういう新幹線移動もいいものね。」

ゆり「ピッキーさん、なぜなぎさにスベアポケットを預けたんですか？」

ピッキー「なぎささんならちゃんと活用してくれると思って。」
ほのか「でも今までピッキーさんが持つててちゃんと管理してました。」

祈里「それに今回大阪に移動するのどこでもドアがあればすぐ着くのにわざわざ新幹線で……」

ピッキー「皆さんは覚えてますか？ピーチガーデンでの試合を。」

響「もちろんです。負けそうな試合をピッキーさんのホームランで勝ったのを忘れてないですよ。」

うらら「それがどうしました？」

ピッキー「あの時ほとんどの人がナックルズが勝つと思っていました。でも今でも自分はあれはたまたま勝ったんじゃないかって……」
かれん「えっ？」

ピッキー「世間の人も同じ事を思ってるんじゃないかと思って自分達はなぎささん達より弱いんじゃないかって。」

そんな中のぞみは作者を抱きしめる。

ピッキー「のぞみさん……」

のぞみ「そんな事ないよ。それはピッキーさんの思い込みだよ。ドリームズもナックルズもどっちも強くて真剣勝負をしているってみんな思ってくれてますよ。」

舞「そうです。こないだの試合も模擬戦もみんな楽しんで見てくれました。」

つばみ「世間の人はちゃんと見てくれます！」

響「そうですよ。今度の試合もみんなで頑張って勝ちましょう。」

ピッキー「すいませんね。変な事言っ……」

ほのか「誰だっ て不安になる時はあります。私達が支えますよ。」
ゆり「ええ。」

ピッキー「わかりました。自分もみなさんと一緒に頑張っ て勝ちに
いきます。」

のぞみ「ピッキーさんはそうでなくっちゃ。」

作者の不安も少し和らいで新幹線を待つ一行。

そこにあのアニメからの5人組が……

キサラギ「本当にいるんでしょうか？ドリームズの人達が……」

ノダ「間違いないよ。昨日の放送で大阪で試合やるっ て言っ たんだ
から絶対に新幹線移動だよ！」

アニメ「GA」から登場した5人の女子がある目的の為待っ ていた。
トモカネ「俺は絶対にピッキーさんにこないだのボールにサインを
書いてもらっ う！」

キョージユ「ウム、私もあの方のサインは欲しいな。」

ナミコ「しっかし見っ つけられるか心配だなー。どうせ見っ からない
んじゃ……」

ノダ「ナミコさん！ピッキーさん達発見！」

キサラギ「向こっ うのホームで新幹線待ちです。」

ナミコ「見っ けるの早ー！」

トモカネ「みんな急げー！このチャンス逃したらもうないぞー！」

つぼみ「あと5分ですね。」

かれん「着いたらホテルに直行ね。」

そこへあの5人が。

ナミコ「ハアハア、その人達待つてー！」

祈里「大丈夫ですか？」

キサラギ「すいません呼び止めて！あなた達はドリームズの人達で間違いないですか？」

ゆり「そうだけどあなた達は？」

ノダ「あたし達はアニメGAからやってきた女子5人組だー！ちなみに全員16歳だ。」

舞「GAってあのアニメの？」

せつな「いろんな人達が出てくるわね。」

トモカネ「ピッキーさんですか！？こないだの試合楽しかったです！これはサヨナラホームラン打った時のボールです。サイン書いてもらえませんか！？」

響「あの時のボールだつて！すごいですね。」

一行はボールに11人分のサインを書く。

ゆり「これでいいかしら？」

キョージュ「私もこの色紙に……」

キサラギ「あ、私もいいですか？」

ナミコ「どこにサイン色紙持つてたんだ？……つてノダー！お前何やってんだー！」

ノダ「ピッキーさんよかつたら番号を教えてください！」

ピッキー「え？まあいいですよ。」

ノダ「ヤッター！ナミコさんももらえば？」

ナミコ「ウ……いいんですか？」

ピッキー「別に構わないですよ。」

ナミコも番号を入手。

ノダ「今度の試合も頑張ってください。応援してます。ほのか「ありがとうございます。」

つぼみ「今度暇なら皆さんもタワーに来て下さい。」

キサラギ「いいんですか!？」

ピッキー「大歓迎ですよ。」

響「新幹線来たよ。」

一行は新幹線に乗り込み大阪に向かった。

トモカネ「ヤッター!サインボールゲットしたぜー!」

ノダ「しかもベースボールタワーに来ていいってさ。」

ナミコ「夢か?……」

キョージュ「夢ではないな……」

キサラギ「また会えるといいですね。」

新幹線に乗った一行は…… つぼみ「いろんな人がいますね。」

ほのか「悪い人達じゃなさそうね。」

響「ピッキーさん!応援してくれる人達はいます。その人達のため

に私達は努力するだけです!」

ピッキー「そうですね。」

一行は大阪に向かった。

G A 5 人組登場（後書き）

メンバーに励まされ大阪に向かった作者一行。次回謎の人物が再び！？

イベント前夜（前書き）

2週間の間休業していましたが今日から更新再開です。今回はそれぞれのイベント前夜の話ですがその裏で謎の人物が動き出す！！

イベント前夜

ドリームズが出発したその日の夕方ナックルズメンバーは夕食を食べていた。

えりか「カレーうまい！何杯でも食べれるよ！」

くるみ「明日の事も考えなさいよ。」

ひかり「明日9時に福岡にどこでもドアで行って……」

奏「12時にイベント開始ね。」

こまち「かれん達に連絡してみたら？」

美希「そうね。」

大阪では明日の練習試合のスタメン決めが行われていた。

舞「対戦するのはタコヤキーズの人ですね。」

ピッキー「大阪では強豪と知られているチームで中学生のトップ選手が多くいるチームですね。」

つぼみ「強そうですね。」

ピッキー「大丈夫！自分達は始めた頃より強くなっています。全員一丸でやれば負けません。」

のぞみ「そうですね。こないだみたいに頑張ろう！」

かれん「アラ、電話だわ。もしもし…… あっ、なぎさ、どうしたの？うん、うん、わかったわ。あなた達も頑張rinaさい。じゃあ。うらら「何でした？」

かれん「明日の試合頑張れって。」

ほか「なぎさらしいわね。」

ピッキー「今度の試合のいい練習になるといいですね。ゴホ、ゴホ……」

せつな「どうしましたピッキーさん？」

ピッキー「何でもありません。ちよつと咳をただけです。」

響「そうですか？ よっしゃー！ 明日は勝つぞー！」

その頃東京のとある場所……

????「みんな来たね。」

????「まあね。」

????「ところで福岡でナックルズがイベントをやるみたいよ。」

????「私達はあの人達と勝負するために福岡に行くのよ。」

????「ドリームズでしょ。あなたが勝負したいのは。」

????「うん。でもあの人達は大阪……福岡に来てくれればいいけど……」

????「ナックルズに頼めばきつと来てくれるよ。」

????「そうロモ。」

????「そうだね。頼めばわかってくれるよね。」

イベント前夜（後書き）

最後に登場した謎の人物達の正体とは？後に明らかになります。
そして次回ドリームズが試合をします。ですがメインは福岡ですの
でスピードを早めます。

ドリームズ京セラ戦（前書き）

ドリームズが試合をしますがこれはメインではないのでスムーズに終わらせます。

ドリームズ京セラ戦

翌日9時30分京セラドームにはドリームズとタコヤキーズが練習していた。

つぼみ「あと30分ですね。」

ほのか「向こうは20人くらいか。」

せつな「大丈夫！絶対勝ちましょう。」

タコヤキーズベンチ…… 本田「あれがドリームズかー、あんま強そうやないなー。」

黒羽「ワイが簡単に抑えてやるわ。」

徳本「相手は女子ばかり。1人は女子高生で1人の男子である作者を除けば楽勝やー！」

沢口「軽くコールドでやっつけてやるうや。」

石口	5	本田	4	夏井	3	青田	2	沢口	1
	ファースト		レフト		センター		セカンド		ショート
	のぞみ		響		ピッキー		うらら		つぼみ
	5		4		3		2		1
	ファースト		サード		レフト		キャッチャー		ショート
									タコヤキーズ

6	ライト	舞	6	センター
徳本				
7	キャッチャー	ほのか	7	セカンド
湯本				
8	サード	祈里	8	ライト
谷口				
9	ピッチャー	ゆり	9	ピッチャー
黒羽				

試合は9回コールド制で5回までに10点差がつけば終了する。

1回タコヤキーズの攻撃。沢口「軽くやっつけてやるわー。」
 本田「向こうは女子高生が先発か。」
 寺口「大した事ないわ。いったれや沢口ー！」
 ゆり「私もナメられたものね。この前とは違うわ。」
 初球は……
 沢口「何!?」ビュッ!スライダーは145キロだった。
 井上「結構速いな。」
 沢口「くそ、次こそは……」

ゆり「ハアー！」

143キロのストレートを見逃し2ストライク。

沢口「追い込まれた？俺が！？」

ほのか（最後はこれよ！）

ゆりもうなずく。ゆり「ハアー！」

沢口「ストレート！これなら！」

バシッ！沢口「ウッ！」

フォークが決まり三振。

沢口「何やあれ！？女子であんな速いフォークありえんやろ！」

続く青田…… 青田「うわ！当たらへん！」

3番夏井…… 夏井「くそ！打ち上げた！」

パシ！ほのかがキャッチしてこの回は10球で抑えた。

沢口「思ったよりやるな。」

本田「女子がほとんどだから簡単だと思ったが……」

石口「どうなってるんだ？……」

ドリームズベンチ…… のぞみ「ナイスですゆりさん！」

つぼみ「3人で抑えました。」

ゆり「私の予想だけどこの試合5回コールドで終わりそうね。」

ほのか「どうしてです？」

ゆり「なぎさやりんも私の球は打っていたけど向こうは打てなかった。

それほど私達は始めた頃より強くなってる、そう確信したわ。」

せつな「なら打つほうで相手の戦意を減らしてやりましょう！」

響「そうそう。これもナツクルズに負けない特訓よ！」

1回裏の攻撃はつぼみから。

黒羽「1番はあのピンクの女子か。まあ打てんやろ。」

黒羽はストレートを投げる。バシッ！

黒羽「どうした！3球三振になるで！」

つぼみ「……」

ベンチでは…… 舞「どうです向こうの球速は？」

ピッキー「MAXで140くらいですかね？」

かれん「ならつぼみは目が慣れてるわ。」

祈里「私達は成長してるって私信じてる！」

黒羽「オラー！」2球目のスライダー！

つぼみ「ハァー！」

カキン！黒羽「何！？」

ショート横を抜けヒット。

本田「打たれた！？エースの黒羽が？」

うらら「確実に！」

コン！うららは送って1アウト2塁。

ゆり「予定通り。」続く3番は作者。

のぞみ「ピッキーさんホームランだよー！」

黒羽「ワイからホームランは打てんわー！」フォークを投げる。

ピッキー「ハッ！」カキン！黒羽「ウッ！」

ボールはライト頭上を越えフェンスに激突！その間につばみがホームイン。

ピッキーも2塁でストップ。

せつな「1点取ったわ！」

黒羽「アホな！ワイが4球で先制されるなんて!？」

どうようする黒羽に4番響が……

響「悪いけどもう見切ったわ。ホームランを予告するわ！」

黒羽「あんなのハッターや！絶対に抑えたる！」

投げたのは135キロのストレート！

響「もらった！」

カキン！黒羽「谷口！」しかし谷口は追わなかった。

バコッ！ボールはボールに当たってホームランになった。

黒羽「アホな……」

響「ヨッシャー！」響がホームインで作者とハイタッチする。

ピッキー「ナイス響さん！」

響「ありがとうございます！」

2人を見て本田が……

本田「この人達何者だ!？大阪では強い俺達が簡単に点を取られて
いる。しかも女子が10人もいるのに……」

その後もドリームズの猛攻は止まらない。

舞「ハアー！」ほのか「ヤアー！」祈里「よし！」ゆり「甘い！」
打者一巡で6点を奪って終了。

黒羽「ハアハア、何やあのチーム？俺が6失点なんて夢じゃないんか？」

本田「現実だ黒羽。テレビで見た事あるがこんなに打つチームじゃなかったぞ。」

石口「強すぎるあのチーム！」

ドリームズベンチでは……かれん「ドンマイつぼみ。」

つぼみ「当たりはよかったですが好守備に阻まれました。」

ほのか「この調子で頑張りましょう。」

のぞみ「次は打って活躍したいな。」

ドリームズ京セラ戦（後書き）

手応えを感じるドリームズ。この調子でいけるか？

感謝イベント（前書き）

福岡でナックルズがイベントを開催！！その対決に注目です。

感謝イベント

その後もドリームズは全員攻撃でタコヤキーズを圧倒していった。2回には作者の2ラン、のぞみのタイムリーで3点を奪い、3回にはゆりのホームランなどで5点を奪う。ゆり「ハアー！」

ゆりも3回ヒット3本1失点で降り2番手かれんが4回から登板して3人で抑える。

4回も集中打で4点を奪う。

ゆり「すごいわね。4回で18点ね。」

かれん「私も打ててよかったわ。」

ほのか「この回抑えれば勝ちよ。頼んだわせつなさん。」

せつな「全力で頑張るわ。」

5回表も2アウトを取り最後の打者を2ストライクで追い込む。

ピッキー（最後はストレートで……）

サインを出しせつなもうなずく。

せつな「ハアー！」バシッ！

151キロのストレートで見逃し三振でゲームセット！

本田「何てこった。女子ばかりのチームに負けてもったわ。」

夏井「何ちゅうチームや。強すぎやって！」

タコヤキーズも脱帽の完敗だった。

ドリームズベンチでは……

祈里「やったね。一般チームに勝

ったね！」

のぞみ「私も3安打できたよー！」

舞「ピッキーさんはさすがですね。2本もホームラン打つとは。」

ピッキー「甘い所に来たからよかったんですよ。」

ほのか「みんな、近くの店で昼食にしましょう。」

響「ヤッホー！昼食だー！」

現在の時刻12時。2時間の試合で18対1の圧勝劇だった。

同じ頃福岡ヤフージャパンドーム……

なぎさ「みんなー！今日は楽しんで見ていてねー！」

観客「イエーイ！」

ドームには満員の人でにぎわっていた。

こまち「すごい人ね……」

ひかり「こんなに見に来てくれるなんて嬉しいです。」

奏「まずはこちら！ナックルズ100m走！」

ルール

5人と6人に分けて100m走予選を行い上位3人が決勝に進める。組み合わせは次の通り。

第1レース いつき りん なぎさ 美希 咲

第2レース 奏 ひかり えりか ラブ くるみ こまち

速い人と普通速度の人に分けられた。優勝候補はいつき、りん、對抗には美希、なぎさか？大穴でラブ、こまち？

予選1のスタートラインにつく5人。りん「1位で突破だよ！」
咲「負けないなりー！」

なぎさ「ここで負けるなんてありえない！」

こまち「ヨイ……ドン！」

りん「オリヤーー！」りんがロケットスタート！

2番手はいつき、3番手はなぎさと美希が争い咲は少し遅れた。

ゴール！りん「よし！1位だ！」

いつき「あー負けた！決勝ではリベンジね。」

3位争いは美希が制した。4位なぎさ、5位咲の順になった。

なぎさ「くそー、負けたー！」

美希「ギリギリね。決勝では完璧に勝つわ！」

第2レースは誰が勝つかわからない波乱のレース。

くるみ「私が勝つわ！」

えりか「いいや！あたしだね！」

ひかり「頑張ります。」

なぎさ「ヨイ……ドン！」最初に抜けたのは……

奏「ハアー！」以外にも奏。2位はえりか、くるみ、ラブの3人の争いに。

こまち、ひかりは5位争いに。

奏「やったー！1位よ！」

2位は……ラブ「やったー！運動苦手だけど次も頑張るよ！」

えりか「ヨッシャー！滑り込み3位だ！まだ狙えるよ！」

くるみ「あー！予選敗退かー！」

ひかり「私は5位でした。」

こまち「走るの苦手だわ。」

30分の休みを挟んで決勝のスタートラインにつく6人。

りん「完全優勝！」

えりか「目立ってやる！」

いつき「りんのリベンジ……」

奏「王子先輩……」

美希「完璧に勝つ！」

ラブ「幸せゲット！」1人だけ変な事を考えている人がいますが……

なぎさ「ヨイ……ドン！」

いつきとりんが激しく争う。3位は美希だ。

りん「負けない！」

いつき「リベンジしたい！」

そのまま競ってゴール！

3位は美希、4位からは奏、えりか、ラブの順になった。勝ったのは……

なぎさ「1位はいつきー！」

りん「くそー！最速女王持ってかれたー！」

いつき「やったー！お兄様やったよー！」

えりか「この後は5対6の紅白試合だよ！みんなー！楽しんでってねー！」

しかしこれを客席で見っていた人達が……

「次紅白試合だつてさ。」

「5対6じゃだめだよ。私達が出る時だよ！」

「そのために来たんだから。」

「ナックルズは準備に入ってるわ。この間に私達も……」

感謝イベント（後書き）

客席で見る謎の人物達とは？次回遂に登場しプリキュア達に衝撃の展開が！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6226t/>

プリキュアオールスターズ 野球で真剣勝負！！ プリキュアドリームカップ

2011年11月17日19時44分発行